1.　基礎科目

≪教養基礎科目≫

授業科目名	導入演習 Seminar of Introduction				担当教員	各担任
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

導入演習は大学生活をうまくスタートさせるための授業であり、学習や生活面で少しでも早く新しい環境に慣れるよう支援していきます。学生相互の交流を促し、授業の仕組み学習の仕方を説明し、仙台大生になっていくための意識化を図っていきます。

授業の一般目標

修学生活の設計を立て、コミュニケーションや学習スキルを身につけ、「高校生」から「大学生」へそして「仙台大生」としての意識を高めていくことができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	テーマに合った内容を理解し、具体的内容を説明できる。
■	情意的領域	積極的に参加し、仲間と協力して行うことができる。
■	技能表現的領域	修学生活の計画を作成でき、テーマごとの発表等の技術を身につけ、表現できる。

授業計画（全体）

実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態で行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容]導入演習のねらい、本授業の流れ、時間割の作り方について説明する。 [授業外学習]自らの大学生活について考えてみる。履修登録表を作成する。	⑨	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(1) [内容]「いまどきの大学・いまどきの大学生―ユニヴァーサル化」のテーマで、大学生であることの意味について考える。 [授業外学習]テキストに出てくる漢字や用語について事前に調べておくこと
②	[テーマ] 親睦 [内容] やや詳しい自己紹介、あるいはペアの相手をクラス全員に紹介するなど、新しい仲間とのコミュニケーションを図る。 [授業外学習]新しい仲間と情報交換し、履修登録表を互いに確認してみる。	⑩	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(2) [内容]「大学で身につけるべきこと―学士力」についてグループで話し合うなど、グループ活動を行う。 [授業外学習]テキスト等に出てくる漢字や用語について調べておくこと
③	[テーマ] 仙台大学の英語カリキュラムについて [内容] 平成29年度後期より始まる英語関連科目の新カリキュラムについて、説明を行う。これからの大学での英語の学習について考える。 [授業外学習]大学でどのように英語を学習するかについて自分で考えてみる。	⑪	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(3) [内容]「教員と学生が共に作る大学」について、グループで話し合う。 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 英語プレイスメントテスト [内容] 後期科目「総合英語A」のクラス分けのためのプレイスメントテストを行う.。 [授業外学習]自分の英語力について自己評価してみる	⑫	[テーマ] 体育大生とモラル(1) [内容] 体育大生とその他の学生との違い、体育大生のモラルについて考える。 [授業外学習]事前に資料を読んでおくこと
⑤	[テーマ] 修学と生活の設計(1) [内容] 学習方法、生活の仕方などについて先輩の体験談を聞き、または話し合いながら、大学生活の見通しを立てる。 [授業外学習]卒業までの計画や目標について考えてみること	⑬	[テーマ] 体育大生とモラル(2) [内容] 資料に基づきグループ内で意見を出し合いディスカッションする。 [授業外学習]発表資料の作成など、発表準備をする。
⑥	[テーマ] 修学と生活の設計(2) [内容] 卒業までの計画・目標、前期の計画・目標を設計する。 [授業外学習]これまでの生活を振り返り、目標の確認をしてみること	⑭	[テーマ] 体育大生とモラル(3) [内容] プレゼンテーションの仕方、レジュメの作り方を説明し、グループで発表用資料を作成する。 [授業外学習]発表資料の作成など、発表準備をする。
⑦	[テーマ] 大学と大学生Ⅰ [内容] 学科長の講話。仙台大学の歴史も紹介する。 [授業外学習]仙台大学の歴史について自分でも調べておくこと	⑮	[テーマ] 体育大生とモラル(4) [内容] クラス内の発表会を行い、相互に評価する。 [授業外学習]発表資料の作成など、発表準備をする。
⑧	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(0) [内容] 自学・自習支援システムの活用とスポーツテストの実施。 ※ スポーツテストは4週の期間のいずれかで実施 [授業外学習]大学での学習に必要な基礎的事項について確認しておくこと	⑯	[テーマ] まとめ及び後期に向けて [内容] これまでの演習内容をまとめ、必要に応じて内容を補足する。 前期を振り返り、夏休みの過ごし方について各自作成する。 [授業外学習]これまでの資料などに目を通しておくこと

成績評価方法（方針）

出席を重視する。授業の受講態度、授業内レポート、宿題・授業外レポート、作業への取り組みや発表などを参考にして、総合的に成績評価を行う。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要である。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				実施しない
授業内レポート	○	○	○	25%
授業外レポート	○	○	○	25%
演習・実技	○	○	○	25%
授業態度	○	○	○	25%
出席	◎	◎	◎	欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。シラバスを参考に、積極的に予習・復習を行うこと
・自己学習（時間外学習、ボランティア活動等）の成果や授業中のテーマに関する自らの考えについても積極的に発表することを期待する
・クラスの合同発表の場合は、実施教室等は掲示により周知する
・実施上の都合により、進行順や教材を変更する場合がある

関連科目	キャリアプランニングⅠ、情報処理、学習基礎演習		
教科書	オリエンテーション時に資料を配布	参考書	オリエンテーション時に資料を配布
連絡先	各担任の研究室		

授業科目名	情報処理 Data Processing (L.)				担当教員	内野秀哲・相場徹
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	NSCA認定パーソナルトレーナー（体育学科） ストレングス&コンディショニングスペシャリスト（体育学科）
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

コンピュータの基礎的利用方法に関する知識は、必須の素養として養成されるところであり、様々な課題や問題の解決手段としてITを活用することは、広い範囲で効果的となる。本講では、基礎知識の学習と基本操作の実習を通じて、意義と効用について解説する。

授業の一般目標

ICT関連の代表的ツールを活用し、適切に情報の受発信、保存、加工が行えるようになる、また、効率的な処理判断・手段の選択ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	1.ICTに関する基本的な事柄が説明できる。2.状況や対象に応じて処理機能を選択できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	適切な手段で情報の獲得、保存・加工ができる。

授業計画（全体）

本講では主に「インターネット関連ツール」と、「日本語処理ツール」、「表計算ツール」、「プレゼンテーションツール」などのアプリケーションの操作実習と平行して、ICTの基礎理論についての概説を行なう。また、課題への取り組み時にはグループワークを採り入れ、対話力の向上とあわせて問題解決力の獲得を目指す。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 情報倫理について [内容] 情報倫理について説明 [授業外学習] オリエンテーション資料を事前によく読んでおくこと	⑨	[テーマ] 講義3：論理式と論理回路① [内容] データ処理の仕組みについて、音声データの処理を例（論理数学）に取り上げて解説を行う [授業外学習]
②	[テーマ] 情報処理の学習について [内容] 授業の進め方と履修方法等や、大学で情報処理と情報化を学ぶことについて概説する [授業外学習] 事前に学内情報端末利用者講習を受けておくこと	⑩	[テーマ] 実習3：表計算アプリケーション2 [内容] 教材アプリケーションにて、グラフ作成や表示の工夫などの応用操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
③	[テーマ] タイピング1 [内容] 前半でホームポジションとタッチタイピングについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること	⑪	[テーマ] 講義4：論理式と論理回路② [内容] 論理回路を用いたクイズを検討課題として提示し、論理演算と論理回路について解説する [授業外学習]
④	[テーマ] 講義1：情報処理を考える [内容] 情報と情報伝達についての検討課題を提示し、「情報」について説明する [授業外学習]	⑫	[テーマ] 実習4：プレゼンテーションツール [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によってプレゼンテーションツールの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
⑤	[テーマ] 実習1：ワードプロセッサ [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によって、ワードプロセッサの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと	⑬	[テーマ] タイピングのまとめ [内容] 前半で大学生と関係の深いICT関連の社会的事象を紹介（展望を試みる）し、後半で最終の擬似タイピング試験を実施する [授業外学習]
⑥	[テーマ] 講義2：情報について [内容] 情報処理」の根幹領域にある「サイバネティクス」について紹介し、「情報」についてその量と単位を中心に説明する [授業外学習]	⑭	[テーマ] 講義のまとめ [内容] 講義部門のまとめとして、筆記課題を実施する [授業外学習]
⑦	[テーマ] 実習2：表計算アプリケーション1 [内容] 教材アプリケーションにて、情報入力や計算処理などの基本操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと	⑮	[テーマ] 実習のまとめ [内容] 操作実習部門のまとめとして実技課題を実施する [授業外学習]
⑧	[テーマ] タイピング2 [内容] 前半でキーボード・マウスなどの入力デバイスについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること	⑯	[テーマ] テスト（課題提出） [内容] 全ての課題の期限日として提出を受け付ける [授業外学習]

成績評価方法（方針）

講義部門と実習部門の最終課題（テスト）によって成績を評価する。授業内外のレポートや出席状況などは単位認定のための必要条件とする（不足がある場合には評価対象としない）。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				対象としない
授業内レポート	◎		◎	100%
授業外レポート			○	欠格条件
演習・実技				加減点要素
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

- 初回の情報倫理の受講は施設の利用条件となるので必須
- 講義と実習はクラスごとに交互実施する（座席指定あり）
- 講義、実習どちらか一方でも2回以上の欠席で欠格となるので要注意
- 期限内に課題が提出できない場合は欠格となるので要注意
- 欠席などの各種届出は所定の用紙で授業時間内に提出する（厳守）
- いかなる事情があっても、欠席分の不足は指定された手段で補うこと
- 単位認定には、講義/実習/タイピングの全てに出席し、課題に合格する必要がある
- 履修期間中のメールチェック、USBメモリの用意等を怠らないこと
- 本講義は、2名の担当教員の2クラス同時開講（交互実施）である

関連科目			
教科書	使用しない（プリント教材を使用）	参考書	必要に応じて授業内で提示
連絡先	4体1F　内野研究室　オフィスアワー　火曜14:20-15:50		

授業科目名	学習基礎教養演習 Introduction to Academic Writing				担当教員	各教員
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

学習において母語の能力はもっとも重要な要素である。その能力は、大学入学以前にすでに形成されており、大学ではそれを前提として教育が行われるはずであるが、多くの学生にこの能力のさらなる醸成が求められていることは、否定できない事実である。そこで、この授業では、大学教育で日本語を使用する際、もっとも重要な枠組みであるパラグラフの考え方を学び、パラグラフを構成できるようにする。

授業の一般目標

1.語彙の増大(日本語力と語彙は強い相関がある)。2. 格の正しい文を書けるようになること。3. ひとつのパラグラフを構成できるようになること。4. パラグラフを積み重ねて、ひとつの主題あるいは主張に収れんする文章(小論文やレポートなど)を書けるようになる。5. その際同時に、文献検索、引用についても学ぶ。6. 完成したレポートをプレゼンテーションし、相互にディスカッションする。

授業の到達目標

■	認知的領域	パラグラフ構造を理解する。ある主題について分節化の重要性を理解する。
■	情意的領域	課題に熱心に取り組む。
■	技能表現的領域	適切なパラグラフが書けるようになる。

授業計画(全体)

1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. 自分以外の学生の解答を、学生同士で閲覧して気づいたこと(評価、コメント)を書く。3. 他の学生が自分の解答について記述した点を参考にしながら、当該の授業で学んだこと、あるいは気づいたことを改めて記入する。4.教員はそれを回収し、添削、評価を加えた上で、次回の授業の際に返却する。5. 語彙の訓練は随時行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] この授業の目的の説明、日本語能力試験および破格の文の添削 [内容] 自分の日本語能力を知るために試験を行う(40分)。後半では、破格の文章を添削し、格の正しさにたいする意識を養う。 [授業外学習] 配布されたプリントを読む	⑨	[テーマ] 800字程度の小論文を完成する(3)小論文の完成と評価 [内容] 小論文を完成させ、学生同士で評価する。 [授業外学習] 次回の目標規定文を考えてくる。
②	[テーマ] パラグラフの構造(1)。ひらがな文の漢字かな混じり文への変換 [内容] パラグラフの基本構造を理解し、パラグラフを書く。句読点、段落抜きのすべてひらがなで書かれた文を漢字かな混じり文にする。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑩	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(1)目標規定文 [内容] 学生個人の関心にしたがって目標規定文を考える(教員が適切と認めるもの)。それに至るための展開を構想する(パラグラフ7つか8つ)。 [授業外学習]
③	[テーマ] パラグラフの構造(2) [内容] パラグラフにおけるtopic sentence, support sentence, concluding sentenceの再確認。paragraph outline の作成方法およびパラグラフへの展開。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑪	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(2)パラグラフアウトライン [内容] 各パラグラフのトピック・センテンスを考え、パラグラフ・アウトラインを構想する。参考資料(文献検索)とその引用について、教員の助言が必要。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす
④	[テーマ] 分類のパラグラフを書く [内容] パラグラフの代表的なタイプについて以下3回にわたって学習する。今回は、パラグラフの基本である分類について。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑫	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(3)パラグラフ展開(1) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。その際、アウトラインの変更を余儀なくされる場合もありうる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす
⑤	[テーマ] 比較・対照のパラグラフを書く [内容] 比較・対照のパラグラフのどちらかを書く。その際、特にトピック・センテンスを何にするかが重要となる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑬	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(4)パラグラフ展開(2) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 原因・結果のパラグラフを書く [内容] このタイプのパラグラフは、かなり使用頻度が高いので、とくに習熟する必要がある。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑭	[テーマ] 2000字程度のレポートの完成(5)完成し文集を作る [内容] 最終的にレポートを完成し、それを文集としてまとめる。 [授業外学習] 他の学生のレポートを読んでくる。
⑦	[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(1)目標規定文の理解とその展開 [内容] 全学生が同じ主題について目標規定文を作成し、それに到達するための3つか4つのパラグラフ展開を考え、パラグラフアウトラインを書く。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑮	[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して著者も応答する。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(2)パラグラフを書く [内容] 前回の構成にしたがって、パラグラフ完成させる。その際、書く途上で、目標規定文、アウトラインの修正はありうる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

毎回練習を反復する授業なので、授業態度も評価対象となる。その上で、課題にたいする取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題にたいする解答、レポートの出来不出来がもっとも成績に関係する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○	○	◎	20%
授業外レポート	○		○	30%
演習・実技				
授業態度	◎			50%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない(欠席の場合は必ず「欠席届」を提出すること)。
2. パラグラフ・ライティングは、授業のレポート、卒論等を書くとき必要となるので、積極的にこの授業に臨んでほしい。

関連科目	特定の関連科目はないが、ここで学ぶことは、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言える。		
教科書	プリントを配布する	参考書	授業中に指示する
連絡先	各授業担当者		

授業科目名	総合英語A（含む外国語コミュニケーション） All-Round English A (including Foreign Language Communication)				担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・（志子田）
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用コンピュータに各自で入力する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。

授業の一般目標

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。②すべてのクラスに，英会話の時間を設ける（各クラス期間中2・3回程度は英会話中心の授業を実施）。③英語の歌やスポーツに関する映画ドラマなどを教材として取り入れる。④アクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。

授業テーマとその内容

プレイスメント・テストを実施し、その結果に基づいて5段階の能力別クラス（6クラス）に編成する。各クラスは約20～25名の少人数で構成され、それぞれクラスの目標に応じた内容の授業を行う。「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う。以下に各レベルの目標と授業の事例を挙げる。

レベル1　日常生活の基礎的英単語を修得する
　★アルファベットをA～Zまで順に全て書きましょう
　★数字の1～10、50、百、千、1万、10万、百万を書きましょう
　★1月～12月、月曜日～日曜日を書きましょう
レベル2　スポーツに用いられる英単語を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英単語を修得する　〈コマ数相当のスポーツ競技数〉→（毎回確認テスト）
　　ex　次の英単語の日本語訳は?　この単語が使われるスポーツ競技を列挙してください　全て同じ意味で使われていますか?　→　アクティブラーニング
　★スポーツを題材とした日本語記事から英単語を修得する　〈コマ数相当のスポーツ競技数〉→（毎回確認テスト）
　　ex　次の日本の言葉の英訳は?　この英単語が使われるスポーツ競技を列挙してください　全て同じ単語が使われていますか?　→　アクティブラーニング
　★スポーツのルールを表す単語の物語
　　ex　「オフサイド」を英語で書きましょう　その意味は？　スポーツ以外の場面での意味は?　その語源は?
　　この言葉を使わない他のスポーツでの類似語は?　→　アクティブラーニング
レベル3　英検4級レベルの基礎的英文法を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する　（毎回確認テスト）
レベル4　英検3級レベルの基礎的英文法を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する　（毎回確認テスト）
レベル5　英検準2級レベルの英文法を修得する（TOEFL iBT 40～56）
　★スポーツを題材とした英語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
レベル6　英検2級レベルの英文法を修得する　（TOEFL iBT 57～86）
　★スポーツを題材とした英語記事から英検2級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検2級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
レベル7　英検準1級レベルの英文法を修得する　（TOEFL iBT 87～109）
　★スポーツを題材とした英語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
レベル8　教員採用試験レベルの英文法を修得する（TOEFL iBT 110以上）
　★スポーツを題材とした英語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）

なお、「総合英語B」ではレベル2～6、「総合英語C」ではレベル3～7、「総合英語D」ではレベル4～8の授業を行う予定である。

［授業外学習の指示等］「語学学習システム」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。

成績評価方法（方針）

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎			
授業外レポート	○			
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1．授業には必ず英語辞書を持ってくること。
2．授業の内容について予習・復習を必ず行うこと。
3．「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
4．獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、入力にはくれぐれも注意すること。

関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語B、総合英語C、総合英語D		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511		

授業科目名	英語A（含む外国語コミュニケーション） English A (including Foreign Language Communication)				担当教員	鎌田・Parangi・（志子田）・菊地博
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。

授業の一般目標

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
TOEIC400点を到達目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。

授業テーマとその内容

1. この科目の単位を修得するためには複数の技能にわたる教材に取り組まなければならない。
2. この科目は「Grammar（文法）」・「Intensive Reading（精読）」・「Speed Reading（速読）」・「Extensive Reading（内容把握）」・「Writing（作文）」・「Listening（聞き取り）」・「Speaking（会話）」・「Translation（翻訳）」・「Basic English（基礎英語）」の9分野で構成される。
3. それぞれの分野では習熟度に応じた教材ないしはクラス編成が行われている。学生は自分の能力に合せて教材やクラスを選択することになる。なお、「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。
4. 取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。ただし、一回の授業で同じ分野を2度受講することや、同じ分野の同じ課題で重複してポイントを得ることはできない。
5. 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar（文法）」・「Intensive Reading（精読）」・「Speed Reading（速読）」・「Listening（聞き取り）」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、この科目の単位を修得できる。
6. 出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。

16回目　ポイント確認日

［授業外学習の指示等］「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。

成績評価方法（方針）

授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上：「秀」、599～400ポイント：「優」、300～399ポイント：「良」、200～299ポイント：「可」、200ポイント未満：「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎			
授業外レポート	○			
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになるので、学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。
2. 学生一人ひとりには、どのように授業を受けるかについて100%の自由が与えられている。一方、その結果については100%自分で責任を取ることが求められている。計画的に授業を受けるようにしてもらいたい。
3. 取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。
4. 獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、入力にはくれぐれも注意すること。

関連科目	英語B（含む外国語コミュニケーション）		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511		

授業科目名	英語B（含む外国語コミュニケーション） English B (including Foreign Language Communication)				担当教員	鎌田・Parangi・（志子田）・菊地博
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

英語Aと同様に、英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。

授業の一般目標

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
TOEIC450点を到達目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。

授業テーマとその内容

1. この科目の単位を修得するためには複数の技能にわたる教材に取り組まなければならない。
2. この科目は「Grammar（文法）」・「Intensive Reading（精読）」・「Speed Reading（速読）」・「Extensive Reading（内容把握）」・「Writing（作文）」・「Listening（聞き取り）」・「Speaking（会話）」・「Translation（翻訳）」・「Basic English（基礎英語）」の9分野で構成される。
3. それぞれの分野では習熟度に応じた教材ないしはクラス編成が行われている。学生は自分の能力に合せて教材やクラスを選択することになる。なお、「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。
4. 取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。ただし、一回の授業で同じ分野を2度受講することや、同じ分野の同じ課題で重複してポイントを得ることはできない。
5. 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar（文法）」・「Intensive Reading（精読）」・「Speed Reading（速読）」・「Listening（聞き取り）」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、この科目の単位を修得できる。
6. 出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。

16回目　ポイント確認日

［授業外学習の指示等］「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。

成績評価方法（方針）

授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上：「秀」、599～400ポイント：「優」、300～399ポイント：「良」、200～299ポイント：「可」、200ポイント未満：「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎			
授業外レポート	○			
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになるので、学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。
2. 学生一人ひとりには、どのように授業を受けるかについて100%の自由が与えられている。一方、その結果については100%自分で責任を取ることが求められている。計画的に授業を受けるようにしてもらいたい。
3. 取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。
4. 獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、入力にはくれぐれも注意すること。

関連科目	英語A（含む外国語コミュニケーション）		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511		

≪教養展開科目≫

（人文分野）

授業科目名	哲学入門 Introduction to Philosophy				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

現代に生きる人間が考えるべきテーマが扱われる。日常的に遭遇する諸問題に対処する際に、役に立つであろう道具を提供したい。だから、現実にある具体的な問題を取り上げて、まず始めに、何が問題なのか、つまり問題の意味を理解する。さらにそれを前提として、さまざまな考え方の筋道が可能であることをみずから発見できるようにしたい。

授業の一般目標

1. 考えるということに慣れ、それが実はおもしろいものなのだということを発見する。2. 陳腐な常識に囚われず、自由な発想でものを考える。3. いろいろな考え方の可能性があることを見出す。4. そのさまざまな考え方を見比べたうえで、自らの考え方の方向を見出す。5. 以上の前提として、日本語でものを考える、概念的な思考ができるように訓練する。

授業の到達目標

■	認知的領域	さまざまな考え方を理解できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	自分の考えを表現できる。

授業計画（全体）

考える際に概念を用いるが、概念の使用に慣れるために、哲学的発想についてまず説明し、その後、とくに人間と人間の関係をめぐる問題（たとえば、社会に生きることと個人、大人であることの意味、権威主義の問題、コミュニケーションの構造）、さらに、その応用として、体罰をめぐる問題、インフォームド・コンセントという概念の重要性、日本社会とこれからの人間のあり方などを扱う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 哲学とは何か [内容] 問題を考えるとはどういうことなのか。概念と概念の関係を問うことによって、それを確認する。 [授業外学習]シラバスをよく読む。(1h)	⑨	[テーマ] 社会の中の権威主義 [内容] 縦社会、同調（圧力）などの日本社会を特徴づけるとされる概念を説明し、それらが有意味であるかどうかを考える。 [授業外学習]授業外レポートを書く。(5h)
②	[テーマ] 問いと答えの論理---理解するということ [内容] 「理解」というあり方は、どのような構造を持つのかを、「問いと答え」の論理から学ぶ。 [授業外学習] 自分で考えた問いと答えについて、その前提を抜き出す(1h)	⑩	[テーマ] インフォームド・コンセント1 [内容] パターナリズムの問題点、インフォームド・コンセントという考え方の由来。もともとは医療の概念である。 [授業外学習]この概念の市民社会における重要性を整理する(1h)
③	[テーマ] 「自己」、「私」とは何者か [内容] 「私」や「自己」は関係としてはじめて存在しうることを理解する。 [授業外学習]返却された授業内レポートを振り返る。(1h)	⑪	[テーマ] インフォームド・コンセント2 [内容] しかし、この概念は、市民社会においても基本的である。political correctnessと posttruthについても言及する。 [授業外学習]返却された授業外レポートを振り返る。(1h)
④	[テーマ] 「言葉」、「言語」のあり方とコミュニケーション [内容] ことばの機能、ことばの意味について、ヴィットゲンシュタインの考え方を説明する。そこからコミュニケーションについて、その身体性を理解する。 [授業外学習]具体的コミュニケーションを構造化してみる。(1h)	⑫	[テーマ] 人間集団の類型 [内容] 人間が作るさまざまな規模の集団が形成される根拠により、集団を類型化する [授業外学習]具体的な集団について、どの類型に当てはまるか考える(1h)
⑤	[テーマ] コミュニケーションの前提条件 [内容] コミュニケーションが成立するための前提条件を、アーレントとハーバーマスを参考に取り出す。理想的対話状況と非対等的な人間関係。 [授業外学習]返却された授業内レポートを振り返る。(1h)	⑬	[テーマ] 国家という集団 [内容] 国家という人間集団形成の理由とその構造について。さまざまな国家の成り立ちから考える。 [授業外学習]日本の場合、それはどのような集団であるか予習する(1h)
⑥	[テーマ] 「子供」と「大人」 [内容] 「大人」であることの意味について、カントの考え方を紹介する。 [授業外学習]生活の場面で大人であるような行為の例を考える(1h)	⑭	[テーマ] 国家と個人の関係 [内容] この関係について、二三の学説を紹介する。とくに、問題としての日本という国家の場合、この関係はどうなっているか。 [授業外学習]自分の身の回りから発想して、国家との結びつきを見出す(1h)
⑦	[テーマ] 権威主義的人間と大衆社会 [内容] アドルノらによる権威主義的人間の研究を解説する。Fスケールを紹介する。 [授業外学習]自分のなかにある権威主義を検討してみる(1h)	⑮	[テーマ] 国家と国家の関係とナショナリズム [内容] 国家は別の国家と関係する。近年はグローバル化の動向が不可避的であるが、それと同時にナショナリズムも勃興している。 [授業外学習]試験の準備をする(5h)
⑧	[テーマ] 権威主義の権力関係 [内容] 前回と関係させて、近代社会における権力のあり方をフーコーに基づいて解説する。 [授業外学習]具体例を挙げ、その構造を取り出す(1h)	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

最後の筆記試験、40%。授業内レポート、30%。授業外レポート、30%とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	40%
授業内レポート	◎		◎	30%
授業外レポート	◎		◎	30%
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

授業に出席すること。

関連科目			
教科書	教科書はとくにない。	参考書	参考書は授業内で指示する。
連絡先	小松恵一研究室A棟506、オフィスアワー水曜日4限		

授業科目名	現代の思想 Introduction to Modern Thoughts				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツ哲学という分野で取り上げられているトピックを紹介する。そもそもスポーツとは何か、スポーツのルールの位置、ルールと身体のパフォーマンスとの関係、スポーツにおけるコミュニケーション、スポーツへの欲求などを扱う。その際、多くの仙台大学の学生は、スポーツが生活と関心の中心にある人が多いので、自分のスポーツ経験から出発して、それを概念的に一般化することができるようにしたい。

授業の一般目標

ある程度抽象的な概念を使って「考える」ということの意味を理解する。その際、各自のスポーツ体験、発想が概念的思考と無縁ではなく、かえって、それが基盤になってはじめて、各自の体験の意味が明らかとなることを理解する。より具体的には、自分に関係ある問題として、自分の言葉で問題のありかを表現し、スポーツの諸問題について自分の意見を表明できるようになることが目標である。

授業の到達目標

■	認知的領域	ある程度哲学的な言説を理解できるようになる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	自分の問題として取り扱われる諸問題を自分の言葉で表現できる。

授業計画（全体）

1回目から5回目までは、スポーツの構造にかんする説明。6回目から8回目は、スポーツへの欲求の源泉を扱う。9回目から11回目までは、オリンピック問題を考え、それ以降は、ドーピング問題を現代社会の根本的動向にかかわるものとして把握する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 「遊び」、「ゲーム」そして「スポーツ」 [内容] 一見して類似した概念間の異同、それらの間の構造的区別、ならびに関係を問う。 [授業外学習]シラバスをよく読む。(1h)	⑨	[テーマ] 古代ギリシャにおけるオリンピック [内容] エリアスの前記著作と対比して、古代ギリシャにおけるオリンピックの特徴を考察する。 [授業外学習]現代のオリンピックとの違いを整理する(1h)
②	[テーマ] 人間の活動におけるスポーツの位置 [内容] スポーツが人間の活動全体のなかでどのような位置を占め、他の活動とどのような関係にあるかを考える。sport-related complexという概念の提示。 [授業外学習]自分の諸活動とスポーツの関係を考える(1h)	⑩	[テーマ] クーベルタンのオリンピックの理念 [内容] 近代においてオリンピックを再興させたクーベルタンの思想を概括する。その思想は、問題点を含むと同時に現代のオリンピックに問題を提起する。 [授業外学習]クーベルタンについて調べる(1h)
③	[テーマ] スポーツのルールが決めていること [内容] ルール（規則）のあり方をヴィットゲンシュタインの言語ゲームという概念を参考に説明する。 [授業外学習]ヴィットゲンシュタインについて調べる(1h)	⑪	[テーマ] 巨大化したオリンピックの問題点 [内容] ナショナリズム、商業主義、経費などオリンピックはさまざまな問題を抱えている。ここではとくに、ナショナリズムの問題を取り上げる。 [授業外学習]自らのうちにあるナショナリズムについて考える(1h)
④	[テーマ] ルールと身体動作（パフォーマンス） [内容] 前回に引き続いて、ヴィットゲンシュタインからルールの理解と身体動作の関係について説明する。 [授業外学習]自分の身体動作とルールの関係を考える(1h)	⑫	[テーマ] ドーピングと現代社会 [内容] ドーピングは、スポーツに限った問題ではない。身体の改変という大きな流れのなかでドーピング問題を位置づける [授業外学習]身体の改変の事例を考える(1h)
⑤	[テーマ] スポーツとコミュニケーション [内容] コミュニケーションとはたんに言語によるだけではない。そこには、身体が重要な要素としてかかわってくる。それをスポーツを例に説明する。 [授業外学習]スポーツと言語の関係を自分の場合を例に考える(1h)	⑬	[テーマ] ドーピング禁止の理由への批判 [内容] フェアネス、健康、社会通念というドーピング禁止の一般的理由ならびにWADAの考え方を批判的に紹介する。 [授業外学習]ドーピング禁止の一般的理由を整理する(1h)
⑥	[テーマ] 欲求の一般理論 [内容] はじめに欲求の一般理論をミメーシスという概念から説明する。その際準拠するのは、ジラールの欲求理論である。 [授業外学習]自分のスポーツへの欲求の起源を考える(1h)	⑭	[テーマ] ドーピング禁止の真の理由 [内容] ドーピングは禁止されるべきである。それは上記の理由によるというよりも、スポーツの成立条件にかかわっているからこそ禁止されるべきなのである。 [授業外学習]一般的理由と今回の理由とを対比してみる(1h)
⑦	[テーマ] アスリートの欲求 [内容] 上記の理論をアスリートに応用して考えてみる。欲求の源泉とその展開の具体化を試みる。 [授業外学習]自分のスポーツへの欲求の展開を考える(1h)	⑮	[テーマ] スポーツの将来 [内容] これまでの授業全体を振り返り、現代におけるスポーツの限界を見定める。 [授業外学習]試験の準備をする(5h)
⑧	[テーマ] 興奮の探求としてのスポーツ [内容] ノルベルト・エリアスの『文明化の過程』およびダニングとの共著『興奮の探求』を解説する。 [授業外学習]現代において興奮が求められる諸事例を挙げる(1h)	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

最後の筆記試験、60%。授業のなかで書いてもらう授業内レポート、40%。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	60%
授業内レポート	◎		◎	40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

出席する。
ノートをとる。
質問する。
私語はダメ。

関連科目			
教科書	教科書はない。	参考書	参考書はその都度指示する
連絡先	小松恵一研究室B506(オフィス・アワー、水曜日4限)		

授業科目名	心理学概論 Introduction to Psychology (L.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉主事任用資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

心理学は人の行動について研究する学問です。心理学では、なぜ人はある行動をするのか、どのような条件の下でどのような行動をするのかなど、人の行動の法則性について調べます。この科目では、現代心理学の主な領域をとりあげ、それぞれの領域で人間の行動にはどのような法則性や特徴があるのかについて解説をします。

授業の一般目標

授業で紹介される、いろいろな種類の人の行動について、どのような法則性があるのかについて理解を深めるとともに、それを基礎として、自分自身の行動について、また自分の周りにいる人々の行動について、さらに自分と周りの人との関係について分析的客観的に考える態度を身につけることが目標です。

授業の到達目標

■	認知的領域	さまざまな人の行動の法則性を理解する。
■	情意的領域	人の行動を客観的に考える態度を身につける。
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。

授業計画（全体）

心理学の中の五つの領域－感覚・知覚、学習・記憶、動機づけ、人格、社会心理－をとりあげます。これまでの各領域における研究で人の行動についてどのようなことが分かっているのかについて解説します。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容、進め方についての説明、心理学とはどのような学問か [授業外学習]心理学では何を研究するのかを考えてみる（1時間程度）	⑨	[テーマ] 動機づけ② [内容] 私たちの社会性と関わりを持つ、行動の原因について考える [授業外学習]自分の行動を振り返り、その理由を考えてみる（1時間程度）
②	[テーマ]感覚と知覚① [内容] 自分自身と周囲の世界について知る働きとその仕組みについて考える [授業外学習]各感覚をなくしたら、どの程度を想像してみる（1時間程度）	⑩	[テーマ] 動機づけ③ [内容] 葛藤（複数の動機の競合）と葛藤状態における反応について考える [授業外学習]過去の葛藤場面を考えてみる （1時間程度）
③	[テーマ] 感覚と知覚② [内容] 物理世界と知覚世界の違いを通して、私たちの知覚の特徴について考える [授業外学習]身の回りで経験する錯覚について考えてみる（1時間程度）	⑪	[テーマ] 人格① [内容] 個性とは何か、その人らしさとは何かについて考える [授業外学習]自分の性格的特徴は何かを考えてみる（1時間程度）
④	[テーマ] 感覚と知覚③ [内容] 文字や顔を例にして、いろいろな刺激をまとまりとしてとらえるという知覚の特徴ついて考える [授業外学習]「犬を見て、犬だとわかる」ことを考えてみる（1時間程度）	⑫	[テーマ] 人格② [内容] 人格はどのように形成されるのか（遺伝の要因と環境の要因）について考える [授業外学習]自分と両親兄弟の性格を比較してみる（1時間程度）
⑤	[テーマ] 学習と記憶① [内容] 学習とはどのような働きか、そしてそれが私たちの生活にどのように関わっているかを考える [授業外学習]出生後の行動の変化について考えてみる（1時間程度）	⑬	[テーマ] 人格③ [内容] 精神的な面での個人差を調べる方法（心理検査）について紹介する [授業外学習]精神的特徴の測定について考えてみる（1時間程度）
⑥	[テーマ] 学習と記憶② [内容] 代表的な学習－条件づけ、記銘学習、観察学習－について考える [授業外学習]条件づけの例を身の回りで探してみる（1時間程度）	⑭	[テーマ] 社会心理① [内容] 他の人についての印象はどのように形成されるかについて考える [授業外学習]周囲の人に対する自分の印象を整理してみる （1時間程度）
⑦	[テーマ] 学習と記憶③ [内容] 学習を支える記憶の仕組みとその働きについて考える [授業外学習]完全な記憶喪失の状態について想像してみる（1時間程度）	⑮	[テーマ] 社会心理② [内容] 私たちはどのような人を好きになり、どのような人を友だちとして選ぶのかについて考える [授業外学習]友人との出会いから現在までを考えてみる（1時間程度）
⑧	[テーマ] 動機づけ① [内容] 私たちが生命を維持するために必要な、行動の原因について考える [授業外学習]死なないために必要なことを考えてみる（1時間程度）	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

レポートを3回課し、その評価（評価割合30％×3）と授業態度（評価割合10%）によって成績を決定します。
レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明します。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	90%
演習・実技				
授業態度		◎		10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましょう。
・授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。（減点の対象）
・授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。（減点の対象）

関連科目	なし		
教科書	使用しません	参考書	授業の中で指示します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです		

授業科目名	人の心と行動 Human Mind and Behavior(L.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

私たちが毎日している行動にはいろいろなものがありますが、この授業では「衣」に関わる行動をとりあげます。私たちは日常いろいろなものを身につけて生活しています。いつ、どこで、どのようなものを身につけるかの選択と決定をわたしたちはどのように行っているのでしょうか。そこにはどのような意図や動機が関係しているのでしょうか。このような「衣」にかかわるさまざまなことについて考えてもらいます。

授業の一般目標

「衣」に関わる選択と決定、動機と意図について理解するするともに、「衣」を通して自分自身の精神的な特徴と行動の傾向、同時に自分の周囲にいる他の人たちの精神的な特徴と行動傾向について意識して考える態度を身につけることが目標になります。

授業の到達目標

■	認知的領域	「衣」に関わる人の行動の法則性を理解する
■	情意的領域	人の行動を客観的分析的に考える態度を身につける
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。

授業計画（全体）

「衣」に関わるさまざまな話題（装い、化粧、流行、身体イメージなど）について解説をします。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容と進め方についての説明、「衣」を考える視点について [授業外学習]自分の「衣」をよく観察してみよう（1時間程度）	⑨	[テーマ] 流行② [内容] 私たちはなぜ流行を追うのかについて考える [授業外学習]流行に対する自分の態度を振り返ってみる（1時間程度）
②	[テーマ] 着衣の動機 [内容] 人はなぜ服を着るのか、また人はいつ頃から服を着るようになったかについて考える [授業外学習]服を着ることの意味について考えてみる（1時間程度）	⑩	[テーマ] 流行③ [内容] 流行における個人差、流行採用と人格との関係について考える [授業外学習]自分の性格と流行との関係について考えてみる（1時間程度）
③	[テーマ] 装い① [内容] 装いが持つ情報伝達という機能について考える [授業外学習]装いで自分が伝えたいことについて考えてみる（1時間程度）	⑪	テーマ] 化粧① [内容] 顔の働きと顔の管理について考える [授業外学習]顔に注目することについて考えてみる（1時間程度）
④	[テーマ] 装い② [内容] 装いによって私たちの対人関係と対人行動はどのように変わるかについて考える [授業外学習]なぜ私たちは着飾るのかを考えてみる（1時間程度）	⑫	テーマ] 化粧② [内容]髪型を含む化粧の機能と精神的な効果について考える [授業外学習]自分の性格と化粧・髪型との関係を考えてみる（1時間程度）
⑤	[テーマ]「衣」の購買① [内容] 数え切れない選択肢の中から、私たちはどのようにして特定の商品を選ぶのか、その過程について考える [授業外学習]自分の購入の決断過程を考えてみる（1時間程度）	⑬	[テーマ] 身体と被服① [内容] 三種類の身体（客観的な身体特徴、主観的イメージ、理想とするイメージ）の関係について考える [授業外学習]自分の身体についての好き嫌いを考えてみる（1時間程度）
⑥	[テーマ]「衣」の購買② [内容] 個人の購買に関する態度を合理性と情緒性という二つの面から考える [授業外学習]商品のどのような特性を重視するかを考えてみる（1時間程度）	⑭	[テーマ] 身体と被服② [内容]被服による身体イメージの操作について考える [授業外学習]被服によるイメージ操作の工夫を考えてみる（1時間程度）
⑦	[テーマ]「衣」の購買③ [内容] 購買に伴う危険性とブランドの影響について考える [授業外学習]買った後の後悔経験を振り返ってみる（1時間程度）	⑮	[テーマ] 被服における逸脱 意図的に、標準的なもの、社会的に望ましい形とは異なる装いを選ぶことについて考える [授業外学習]講義の内容を総合して自分の装いを考えてみる（1時間程度）
⑧	[テーマ] 流行① [内容] 流行とはどのような現象なのかについて考える [授業外学習]今年流行したこと・ものを思い出してみる（1時間程度）	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

レポートを3回課し、その評価（評価割合30％×3）と授業態度（評価割合10%）によって成績を決定します。
レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明します。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	90%
演習・実技				
授業態度		◎		10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましょう。
・授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。（減点の対象）
・授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。（減点の対象）

関連科目	なし		
教科書	使用しません	参考書	授業の中で指示します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです		

授業科目名	ことばと人間A Language and Human Being A				担当教員	青沼一民
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

この授業では、「私たちにとってことばとは何か」を主題とし、ことばの成立、その理解について解説する。

授業の一般目標

ことばについて理解することにより、日常的な言語表現に気をくばり、より的確な表現ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	表現に対する意識を高める。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本授業は、毎回一つのトッピックについて考察し、回を重ねるたびにことばについての多面的な理解ができるよう構成されている。なお、毎回授業の初めに前回の授業内容のふり返りを行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑨	[テーマ]「比喩的表現について(2)」 [内容] 比喩的表現の有効性について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
②	[テーマ]「ことばとは人間にとってなにか」 [内容] 我々にとってことばとは何かを考える。 [授業外学習] 配布資料のより次週の予習を行う	⑩	[テーマ]「比喩的表現について(3)」 [内容] 具体例をもとに比喩的表現の有効性について再度考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する
③	[テーマ]「ことばが意味をもつためには(1)」 [内容] ある表現が成立するための条件について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑪	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
④	[テーマ]「ことばが意味をもつためには(2)」 [内容] ある表現が成立するための条件について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑫	[テーマ]「わかるとは(1)」 [内容]「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
⑤	[テーマ]「概念について(1)」 [内容] ことばと概念の関係について考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する	⑬	[テーマ]「わかるとは(2)」 [内容] 前回に続き「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
⑥	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑭	[テーマ]「わかるとは(3)」 [内容]前回に続き「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する
⑦	[テーマ]「概念について(2)」 [内容] 概念の形成について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑮	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習]
⑧	[テーマ]「比喩的表現について(1)」 [内容] 比喩的表現の構造について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

授業内レポートおよびテストの結果で評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・学則通り全授業の2/3以上の出席が必要。
・授業環境を著しく乱す行為が再度に亘った場合は受講停止とする。

関連科目			
教科書	特に使わない	参考書	必要に応じて指示する
連絡先	A棟3階研究室(313)		

授業科目名	ことばと人間 B Language and Human Being B				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

人間にとって「ことば」とは如何なるものであるのかについて、言語学的観点からの概説を試みる。言語学にはその研究目標により様々な立場があるが、本講義では、特に一つの立場に偏ることなく、言語学全般に関する基本的概念をわかりやすく解説する。言語が誰にとっても身近で重要なものであることを認識する機会としたい。

授業の一般目標

言語学全般に関する基本的概念を理解する。
身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	言語学全般に関する基本的概念を理解する。
■	情意的領域	身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

特定のテキストは使用せず、毎回テーマに沿ったプリントを配布する。講義全体の流れを説明すると、前半では「ことば」の内部構造について「音声」・「語」・「文」・「意味」の4つの側面に分けて考察する。後半では、「ことば」と「社会」との関係について様々な観点から検討する。最後にそれまでの講義内容を前提とし、日本語の歴史について概観する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ことばの様々な研究法 [内容] ことばを研究する際の代表的な研究方法について概説する。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑨	[テーマ] ことばと社会(2)言語の多様性 [内容] 言語接触、ピジンとクリオール、多言語社会とその類型、多言語社会とその歴史的起源、単一言語社会等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
②	[テーマ] ことばの構造(1) 言語音の構造 [内容] ことばの音声的構造を概説する。音声器官、音素、異音、音声学と音韻論の立場の違い等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑩	[テーマ] ことばと社会(3)公用語とは何か [内容] 書きことばと話しことば、方言と標準語、国家と標準語、言語教育、国際語等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
③	[テーマ] ことばの構造(2)語の構造 [内容] ことばの重要な単位である「語」について、形態論的分析法を概説する。語類、形態素、語形成、語形変化、文法範疇等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑪	[テーマ] ことばと社会(4)英語史概観 [内容] 被征服言語／征服言語としての英語、英国の階級社会と英語、米国フェミニズム運動と英語等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する
④	[テーマ] ことばの構造(3)文の構造 [内容] 文の構造の分析法について概説する。階層構造、直接構成素、句構造、語順、類型論等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑫	[テーマ] ことばの不思議 [内容] 同名のドキュメンタリーを鑑賞し、その感想を提出する。 [授業外学習] ことばとは何かを考える
⑤	[テーマ] ことばの構造(4)意味の構造 [内容] ことばの意味的側面についてその分析法を概説する。意味の意味、意味の場、意味の関係等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑬	[テーマ] 日本語の歴史(1)日本語の起源・系統 [内容] 日本語の起源・系統についての諸説を概観する。同祖論と重層論等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
⑥	[テーマ] ことばとその外部(1)固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。人名：人名の多様性、英米人の人名等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑭	[テーマ] 日本語の歴史(2)上代から近世まで [内容] 上代から近世までの日本語の歴史を概観する。日本語の表記の歴史、借用語・翻訳語等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
⑦	[テーマ] ことばとその外部(2)固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。地名：地名の命名法、英米の地名等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑮	[テーマ] 日本語の歴史(3)明治維新以降 [内容] 明治維新以降の日本語の歴史を概観する。言文一致運動、植民地の言語政策、戦後の言語政策等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
⑧	[テーマ] ことばと社会(1)言語の社会的機能 [内容] 文化としての言語、言語の恣意性、サピア・ウォーフの仮説、アイディンティティーとしての言語、言語と民族等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑯	[テーマ] 期　末　試　験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

期末試験（80%）と出席を含む積極的授業参加（20%）にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	◎		80%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		20%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

この講義の目的は、普段何気なく無意識的に使用している「ことば」について、一歩下がった位置から客観的・意識的に考察することによって、「ことば」の重要性や奥の深さについて考える機会を与えることにあります。この講義を受講することによってある特定の言語（例えば英語や日本語）の技能が向上するものと誤解しないようにしてください。

関連科目	ことばと人間 A		
教科書	特に指定しない	参考書	講義の際にその都度紹介します
連絡先	鎌田研究室A棟512		

授業科目名	ことばと人間B Language and Human Being B				担当教員	菊地　博/ジェリー　バランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

In this class, students think about what is language for human being. For this purpose, this class will examine basic topics of linguistics to lead students to the deeper understanding of language. All lessons are given in English.

授業の一般目標

Students can acquire basic knowledges of linguistics and, based on them, think about familiar expressions from the linguistic point of view. In addition, students can make a brief summary of their opinions in English.

授業の到達目標

■	認知的領域	To acquire basic knowledges of linguistics.
■	情意的領域	To attend the class steadily and talk about topics voluntarily.
■	技能表現的領域	To talk and explain about topics and make a brief summary of them in English.

授業計画（全体）

One topic is treated per class. Students discuss it each other and make a summary of, and give a presentation of it. Through this learning, students are expected to deepen their understanding of language.

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Orientation [内容] Explanation of the classes. [授業外学習]Preparation	⑨	[テーマ] Sign language [内容] Popular fallacies about sigh language; the development and use of signs by the deaf. [授業外学習]]Preparation.
②	[テーマ]The prescriptive tradition [内容]Popular notions of linguistic authority and correctness; purism and language change; the role of linguistic description. [授業外学習]Preparation.	⑩	[テーマ]Sign language structure [内容]The ways signs are used to convey grammatical contrasts; American Sign Language. [授業外学習]Preparation.
③	[テーマ] The equality of language [内容] Myths about primitive languages and language superiority. [授業外学習]Preparation.	⑪	[テーマ] Types of sign language [内容]The range of contrived sign languages; finger spelling, cued speech, and other systems [授業外学習]Preparation.
④	[テーマ] The magic of language [内容]Linguistic superstitions and verbal taboos; the mystical power of proper names. [授業外学習]Preparation.	⑫	[テーマ] The first year [内容]The development of infant vocalization; early speech perception and interaction. [授業外学習]Preparation.
⑤	[テーマ] Physical identity [内容] The relationship between language and age, sex, physical type and physical condition; voiceprints; male vs female speech. [授業外学習]Preparation.	⑬	[テーマ] How many languages? [内容] Identifying, counting, and classifying the languages of the world. [授業外学習]Preparation.
⑥	[テーマ] Ethnic and national identity [内容]Language, ethnicity, and nationalism; the problem of minority languages and dialects. [授業外学習]Preparation.	⑭	[テーマ]The origins of language [内容] Myths and experiments about the origins of language; wolf children; humans and primates; the evidence of paleontology. [授業外学習]Preparation.
⑦	[テーマ] Social identity [内容] Language and social stratification, class, status, role, solidarity, and distance; the problem of sexism; borrowings. [授業外学習]Preparation.	⑮	[テーマ] Reflection [内容] Review of the classes. Write the summary of the classes. [授業外学習]
⑧	[テーマ]Grammar [内容] Syntax and morphology; the structure of words, phrases, clauses, and sentences. [授業外学習]Preparation.	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

participation/attitude 50%　presentation 30%　report 20%

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎		◎	20%
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	40%
授業態度		◎		40%
出席		◎		

履修上の注意（受講学生に望むこと）

Students must attend more than 2/3 of all classes and must score at least 60% of their total marks(140 points). The maximum number of students is 10.

関連科目	Language and Human Being A		
教科書		参考書	English-English dictionary
連絡先	菊地研究室　A515		

（社会分野）

授業科目名	社会学概論 Introduction to Sociology (L.)				担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士・社会福祉士
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。

授業の一般目標

社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する
■	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]社会問題にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む（90分）	⑨	[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する（300分）
②	[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑩	[テーマ] ジェンダーとスポーツ文化 [内容] ジェンダーとセクシュアリティ概念について解説し、スポーツ文化とのかかわりについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
③	[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑪	[テーマ] 家族と社会学 [内容] 近代家族の特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
④	[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑫	[テーマ] 学校と社会学 [内容] 学校という空間の持つ特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
⑤	[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑬	[テーマ] スポーツと社会学 [内容] スポーツ社会学の知見について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
⑥	[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料（映画）を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑭	[テーマ] メディアと社会学 [内容] メディアとコミュニケーションについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
⑦	[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑮	[テーマ] 現代と社会学 [内容] 現代社会（後期近代社会）がもつ問題性や特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
⑧	[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑯	[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する（600分）

成績評価方法（方針）

中間試験（50%）＋期末レポート（50%）で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン（50点中30点）に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情（部活の試合、忌引き、電車の遅延等）があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○	○		50%
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	○	50%
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、本講義の成績は「不可」となる。
熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為（私語など）は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。
「分からない」ということは恥でも何でもなく、むしろよく分からないことを「分かった」ふりをすることのほうが恥ずかしいと思うように。そのため些細な質問でも大歓迎なので、オフィスアワーに気軽に質問に来るように。

関連科目	社会構造と人間関係、社会調査法Ⅰ		
教科書	特に指定しない	参考書	倉沢進他［編著］『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 奥村隆［編著］『社会学になにができるか』八千代出版、1997
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	社会構造と人間関係 Social Structure and Human Relationship (L.)				担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。後半は、ほぼ全ての人が経験する学校という社会的空間に焦点を当てる。

授業の一般目標

社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する
■	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]学校にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む(90分)	⑨	[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する(300分)
②	[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑩	[テーマ] 学校の社会学① [内容] 学校の持つ集中性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
③	[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑪	[テーマ] 学校の社会学② [内容] 学校の持つ秩序性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
④	[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑫	[テーマ] 学校の社会学③ [内容] 学校の持つ文化性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
⑤	[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑬	[テーマ] 学校の社会学④ [内容] 教員の部活動負担問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
⑥	[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑭	[テーマ] 学校の社会学⑤ [内容] 学校におけるリスクについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
⑦	[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑮	[テーマ] 学校の社会学⑥ [内容] 運動部活動における「体罰」、「事故」、それへの対策について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
⑧	[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑯	[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する(600分)

成績評価方法（方針）

中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○	○		50%
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	○	50%
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、本講義の成績は「不可」となる。
熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。
「分からない」ということは恥でも何でもなく、むしろよく分からないことを「分かった」ふりをすることのほうが恥ずかしいと思うように。そのため些細な質問でも大歓迎なので、オフィスアワーに気軽に質問に来るように。

関連科目	社会学概論、社会調査法Ⅰ		
教科書	特に指定しない	参考書	倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 内田良『教育という病』光文社、2015
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	消費経済とスポーツ Economy of Consuming and Sport				担当教員	高成田享、遠藤保雄
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

消費の視点からみた経済及びスポーツを学ぶ。

授業の一般目標

消費と経済及びスポーツを学ぶことで、体育系大学で学んだ人間が社会に参画する際に役立つ知識や考え方を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	消費あるいは消費者とは何か、それがスポーツとどうかかわるかを理解する
■	情意的領域	自分が消費する意味や楽しみをほかの人に伝える方法や工夫を学ぶ。
■	技能表現的領域	作文及び自分の意見のプレゼンテーションする能力を高める。

授業計画（全体）

消費の視点から経済の歴史やスポーツの歴史を学び、現代社会における消費の意味を理解する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業の概要 [内容] 消費経済とは何かを学ぶ。 [授業外学習]自分の生活のなかで、どんな分野に消費しているか調べる	⑨	[テーマ] クレジット社会 [内容] 消費の欲望を拡大させるための道具としてのクレジットの歴史と意味。。 [授業外学習]クレジットで購入したことがあるか考える
②	[テーマ]消費の歴史 [内容] 生きるための消費から楽しむための消費が拡大する人類の歴史。 [授業外学習]自分nそれぞれの消費についてその目的を考える	⑩	[テーマ] 貯蓄と投資 [内容] 貯蓄にはどんな種類があるのか、投資はどう違うのか。個人貯蓄や投資の経済的な意味を学ぶ [授業外学習]どんな貯蓄や投資があるか調べる
③	[テーマ] 万国博からショッピングモールへ [内容] 消費の欲望をかきたてるための場の意味を、万国博、デパート、ショッピングモールなどの歴史をたどりながら考える。 [授業外学習]万国博について調べる	⑪	[テーマ] 消費税 [内容] 消費税の仕組みと財政及び国際比較。 [授業外学習]日本の財政を調べる
④	[テーマ] 大衆消費社会とは [内容] 大量生産・大量消費社会の成立とその意味 [授業外学習]自分の購入したものが大量製品されたものかどうか考える	⑫	[テーマ] 消費経済と国家経済 [内容] 消費のマクロ経済的な意味 [授業外学習]マクロ経済の意味を調べる
⑤	[テーマ] 広告の功罪 [内容] 広告は消費に役立つが、不要なものを買ってしまうこともある。広告の功罪を考える。 [授業外学習]自分の生活で広告で購入したものがあるかどうか考える	⑬	[テーマ] 消費社会を超えて [内容]消費が環境に与える影響、物質的な幸せと精神的な幸せなど、消費社会がもたらした課題を考える。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 記号としての消費 [内容] ステータスシンボルとしてのブランド商品の歴史と現在。 [授業外学習]ブランドとは何かを考える	⑭	[テーマ] まとめと小論文の書き方 [内容] これまでの授業のまとめと小論文の書き方。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 消費するスポーツ（上） [内容] スポーツが消費社会に組み込まれる歴史をたどる。 [授業外学習]自分の生活の中でスポーツに関係する消費がどれだけあるか考える	⑮	[テーマ] 小論文 [内容] これまでの授業を踏まえて小論文書く。 [授業外学習]
⑧	[テーマ]消費するスポーツ（下） [内容] スポーツが消費社会に組み込まれた現状を考察 [授業外学習]同上	⑯	[テーマ] 予備 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

出席状況と授業の終わりに書くレポート、最後の授業で書く小論文などで判定

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○	○	10%
出席	○	○	○	30%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

私語厳禁。私語で退席を命じた学生には単位を与えません。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	高成田研究室（to-takanarita@sendai-u.ac.jp）		

授業科目名	世界経済・日本経済とスポーツ World & Japanese Economy and Sports				担当教員	遠藤保雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツビジネスは年々拡大している。そのビジネスは世界経済・日本経済の動向と深く結びついている。世界や日本のスポーツ経済を概観しつつスポーツビジネスや経済が世界経済・日本経済とどう結びついているかを学び、これを通じ世界経済・日本経済の見方やその経済のシステム、経済理論などを学ぶ。

授業の一般目標

スポーツビジネス、スポーツ経済という場合に、先ず、ビジネスとは、経済とは何かを学び、スポーツが世界経済や日本経済とどう結びついているかを考察し、それを通じ、スポーツを先行する本学の学生に取り、世界経済、日本経済の味方について理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツについては、これを行う上での基礎的な技術・ルールを学ぶだけでなく、競技として観客に楽しんでもらうビジネスとなっていること、そこから金銭のやり取りが行われ経済活動に発展していることの認識を深める。
■	情意的領域	スポーツは、やるもの、見るものなど多様な形で国民の生活に結びついており、これにより国民生活を豊かにするという価値を持っていることに理解を深める。
■	技能表現的領域	スポーツ経済を考える上での基本的な用語・理論について、基礎的な経済学的な基礎的面についての理解を深める。

授業計画（全体）

本授業は、毎回、指定のテーマについて考察し、講義ノートを活用し理解を深めさせる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 国際経済・日本経済の現状とスポーツ [内容]国際経済・日本経済の現状とその中におけるスポーツの位置づけを考察する。 [授業外学習]GDPに着目し国際経済・日本経済の規模を調べる（90分）	⑨	[テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟 [内容]第二次大戦後の国際経済の発展と、するスポーツ、見せるスポーツ、スポーツ支援産業に着目しスポーツ経済の動向を考察する [授業外学習]第二次大戦後の現代史を予習しておくこと（90分）
②	[テーマ]資本主義の成立と近代スポーツ [内容]英国における産業革命とこれに続く欧米での工業化による資本主義の成立の下での近代スポーツの確立を概観し近代スポーツとは何かを考察する。 [授業外学習]欧米で生まれた近代スポーツの種目を調べる（90分）	⑩	[テーマ] 日本での資本主義の成立・発展と近代スポーツの移入・定着・発展 [内容]我が国資本主義の成立と近代スポーツの欧米から移入以降、戦後の経済復興、高度経済成長、安定経済成長を経た日本経済とスポーツの動向を概観する。 [授業外学習]明治期から現代までの経済史を学習すること（90分）
③	[テーマ]資本主義経済の考察① [内容]資本主義経済成立前の経済と比較しつつ資本主義経済の特徴を概説し、その経済を学ぶ上でのミクロ経済学とマクロ経済学の2つについて概説する。 [授業外学習]資本主義経済とは何かをあらかじめ調べてく（90分）	⑪	[テーマ] 日本経済の発展とスポーツ [内容]90年代初めの日本経済のバブル崩壊とその後の失われた20年を経てアベノミックスの登場までの経済動向とこれに伴い変化するスポーツ経済の動向を概観する。 [授業外学習]失われた20年とは何を意味するか調べること（90分）
④	[テーマ]資本主義経済の考察② [内容]ミクロ経済学①モノ・サービスの生産・交換・消費、それに伴う需要・供給関係の形成と価格・数量の決定、企業の生産・コスト・利潤最大化の追求と生産投資行動 [授業外学習]生活の中でモノ・サービス、その取引につき観察しておくこと（90分）	⑫	[テーマ] .直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割① [内容]経済のソフト化とスポーツの雇用効果、情報化社会におけるスポーツ経済の効果、経済のグローバル化の下でのスポーツの発展について考察する。 [授業外学習]経済のソフト化、情報化、グローバル化を調べてる（90分）
⑤	[テーマ]資本主義経済の考察③ [内容]ミクロ経済学②市場機能と価格メカニズム、資源配分の効率性、所得分配、市場の失敗、独占と寡占 [授業外学習]需要曲線と供給曲線はどのように決まるか予習しておくこと（90分）	⑬	[テーマ] 直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割② [内容]少子高齢化社会におけるスポーツの役割、地方活性化に果たすスポーツの経済効果、食品経済とスポーツにつき考察する [授業外学習]高齢化、地方経済の低迷、食と健康に関し調べておくこと（90分）
⑥	[テーマ] 資本主義経済の考察④ [内容]マクロ経済学① GDPとその3面等価、経済のフローとストック、有効需要、財市場と貨幣市場の関係、マクロ経済を構成する家計・企業・政府の行動、 [授業外学習]GDPを構成する要素を調べておくこと（90分）	⑭	[テーマ] 世界経済の発展とオリンピック① [内容]近代オリンピック誕生から第二次大戦を経て、第二次大戦後の世界経済の発展・変化を概観し、合わせて平和の祭典オリンピックの各時代における経済的意義を考察する [授業外学習]近代オリンピックの歴史を予習すること（90分）
⑦	[テーマ] 資本主義経済の考察⑤ [内容]マクロ経済学②経済成長と景気変動、完全雇用と失業、インフレとデフレ、財政政策、金融政策、国際経済（貿易、比較優位、国際収支と円高・円安） [授業外学習]マクロ経済学の構成要素を予習しておくこと（90分）	⑮	[テーマ] 2020年東京オリンピック・パラリンピックの政治経済学 [内容]2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催を巡る政治経済学について論じる。 [授業外学習]東京オリンピック・パラリンピックの招致の理由を調べておくこと（90分）
⑧	[テーマ] 産業革命以降の国際経済の発展とスポーツ [内容]英国での産業革命以降、第二次大戦に至る国際経済の動向と近代スポーツの発展・変化を考察する [授業外学習]英国の産業革命以降の近代史を予習しておくこと（90分）	⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] クラスでの講義ノートをベースに出題する。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験結果に基づき評価する。暗記ではなく、思考力を重視した評価を行う。特に、①起承転結の論理構造、②実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	○	90%
授業内レポート	◎	○	○	10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎	○	○	
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

学則通り全授業の三分の二以上の出席が必要

関連科目			
教科書		参考書	スポーツの経済学（マイケル・A・リーズ）　スポーツ産業論（原田宗彦）
連絡先	遠藤　ys-endo@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	法学 Jurisprudence				担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	CSCS
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

テキストを用いて、特に、民法総則、親族・相続、不法行為法等を、そして、行政に関する基本的な事項を扱う。日本国憲法は別途科目が設けられているので、この科目では扱わない。

授業の一般目標

日常生活での行為がもつ法的意味を理解し、社会的事象を法学的な観点から考えることができるようになる。そして、法学の自己学習ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本的な法律用語の意味と使用法を理解し、適切に応用できるようになる。
■	情意的領域	法的観点から社会問題を考え、意見を述べることができるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

シラバスで挙げた項目についてテキストの内容を理解することを中心に講義を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業の進め方、成績の評価方法について説明する。 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑨	[テーマ] 使用者責任と国家賠償責任 [内容] 使用者責任と国家賠償責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 親族関係と法 [内容] 親等図、戸籍の今昔から見る親族関係 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑩	[テーマ] 土地工作物責任、営造物責任、動物占有者責任 [内容] 各事項の概説と、特に、土地工作物責任と映像物責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 婚姻と離婚(1) [内容] 婚姻の成立、無効・取消、 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑪	[テーマ] 契約を結ぶことができるのは [内容] 権利能力、意思能力、行為能力の基本的な事項・ [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 婚姻と離婚(2) [内容] 夫婦の権利義務、 離婚、財産分与等 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑫	[テーマ] 制限行為能力者 [内容] 未成年者、成年後見制度 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘、または、テストの予告
⑤	[テーマ] 親子関係、私的扶養 [内容] 親子関係で現れる法的諸事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑬	[テーマ] 予備、または、中間考査 [内容] 進捗が遅れているときは講義を行う。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 遺言と法定相続 [内容] 遺言と相続の基本的な事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑭	[テーマ] お役所とお役所の仕事 [内容] 行政主体と行政庁、行政処分と行政指導の基本的事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 損害の賠償 [内容] 不法行為と債務不履行による損害の賠償請求の基本事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑮	[テーマ] お役所の処分を争う [内容] 行政救済の基本的事項 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 不法行為 [内容] 不法行為概念の概説と事例、責任能力 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

成績の評価は、基本的に、筆記試験で行う。中間考査を行った場合には評価の際に考慮する。欠席日数については学生便覧「試験細則」による。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

授業には必ずテキストを携行すること。

関連科目			
教科書	谷口・松原編著、基礎からわかる法学（成文堂）	参考書	
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。		

授業科目名	歴史学入門 Introduction to History				担当教員	伊達 宗弘
開講内容	学年・学期	1・2・3前期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

それぞれの時代に大きな役割を果たした先人の「生き様」を紹介し、困難や危機に直面した時のヒントになる講座とする。聖徳太子、中大兄皇子、菅原道真、平清盛、足利尊氏、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、伊達政宗、宮本武蔵、吉田松陰、大久保利通、板垣退助らの果たした歴史的な役割を分かりやすく解説する。

授業の一般目標

国際化や情報化が進めば進むほど次代を担う人たちにとって最も大切なのは、日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。それがあって初めて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことが出来るのではないだろうか。日本人として知っておきたい教養としての歴史と文化を、先人の「生き様」から学び、力強く生きていく上においてのヒントになる情報を提供する。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語ることが出来るようにする。
■	情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い志を持って生きることが実践出来るようにする。
■	技能表現的領域	言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になることを目指す。

授業計画（全体）

歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得また興味が持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元において役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]私の履歴書 [内容] 大学受験に失敗し父が交通事故に遭遇するなど、失敗と挫折の連続の中で自分の目標を実現するために歩んだ半生を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説。	⑨	[テーマ] 豊臣秀吉の天下統一 [内容] 一介の農民から天下統一をした秀吉の人心収攬術と、人々に夢を与えた秀吉のエピソードを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
②	[テーマ]旧石器時代から飛鳥時代 [内容] 旧石器時代から縄文・弥生・古墳・飛鳥時代を紹介し、特に日本の国のかたちを整えた聖徳太子の果たした歴史的な役割を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑩	[テーマ]道を起こし教を布く・徳川家康 [内容] 今の日本のかたちを整えた江戸時代の礎を築いた徳川家康、隣国の強敵武田信玄を生涯私淑した覇者の哲学を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
③	[テーマ] 大化の改新と大宝律令の制定 [内容]聖徳太子の意思を継承した中大兄皇子らによって行われた大化の改新や大宝律令制定など日本の国のかたちが整っていく過程を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑪	[テーマ] 伊達政宗と仙台藩の国づくり [内容] 秀吉からは領地を取り上げられ、家康からは約束を反故にされても挫けず、大穀倉地帯の礎を築いた政宗の夢と国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
④	[テーマ] 奈良の都と京の都 [内容] 天平文化を花開かせた奈良時代、遣唐使が廃止されたことによって創り出された国風文化、武家の勃興してきた平安時代を紹介。 [授業外学習]四字熟語の解説	⑫	[テーマ]『五輪書』に見る宮本武蔵の生き様 [内容] 宮本武蔵の『五輪書』や『独行吟』を紹介し、社会人として生きていくうえにおいてのヒントを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑤	[テーマ] 平安時代の光と影 [内容] 武士が勃興し平清盛が初めて武家政権を打ち立て、貿易によって巨利を得ようとした清盛の壮大な構想と平家没落までを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑬	多彩な人材を育てた吉田松陰 [内容] 新しい時代を築く有為な人材を短期間のうちに多数育てた吉田松陰の生き様について紹介し，生きていく上でのヒントを提供。 [授業外学習]四字熟語の解説
⑥	[テーマ]鎌倉幕府の成立と南北朝の騒乱 [内容] 鎌倉幕府の成立から滅亡、建武の中興、武士の信望に応えて立ち上がった足利尊氏、乱世におけるリーダーの条件を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑭	[テーマ] 日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 国づくりのため西郷隆盛と決別し、日本の近代化のため危機を顧みず奔走した大久保利通の政治家としての見識を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑦	[テーマ] 応仁の乱と戦国乱世 [内容]100年にわたる戦国乱世を生きた武将の名言を紹介し、その中で地を拓き水を治めるのに腐心した武田信玄の国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑮	[テーマ] 自由民権運動の旗手・板垣退助 国民中心の国家を創るため全国各地で自由民権運動を展開し、国会開設、政党政治実現に奔走した板垣退助の治績を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑧	[テーマ] 織田信長，天下統一への道 [内容] 卓抜な発想と精悍な行動力で、古い因習を打破し新しい時代を創り上げようと天下統一を目指した織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回提出するレポート、出席日数、テスト等から総合的に判断する。出席日数2/3以下は対象外。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				40%
授業内レポート	○	○	○	40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席		○		20%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1 生きていくうえでの必要な常識や、危機に直面した時の対処などについて役立つ情報を提供するので可能な限り受講すること。
2 就職活動を念頭に役立つ具体の情報も提供するのでしっかりと受講し、講座の内容を簡潔に取りまとめるレポートを毎回提出してもらうので、この機会を最大限活用し文章を書く実践の場にして欲しい。

関連科目			
教科書	手作り教科書（34ページ）と四字熟語集（20ページ）を配布	参考書	必要に応じて授業で指示する。
連絡先	図書館専用電話 0224－55－2052		

授業科目名	歴史と人間 Individual Elements in History				担当教員	伊達 宗弘
開講内容	学年・学期	1・2・3後期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

通史としての日本史と、時代を大きくかえて行くために大きな役割を果たした先人の生き様、また名言や四字熟語等を通して、これからの激動の時代、先行き不透明な時代を逞しく生きていく上でのヒントになる情報を提供する。

授業の一般目標

日本は世界に冠たる歴史や文化を築いてきた国である。次代を担う人たちにとって一番大切なのは、そのような日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。これがあってはじめて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことができるのではないだろうか。社会に出て実際に役立つ実学としての歴史を学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本の歴史や文化の素晴らしさを、ごく自然に語れるようにする。
■	情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い目標をもって生きることを実践できる人材となることを目指す。
■	技能表現的領域	言葉の使い方、身のこなし方にも教養が感じられるような人材になることを目指す。

授業計画（全体）

歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得、また興味が持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元に置いて役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結された物語風に構成する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 私の履歴書 [内容] 自分自身の失敗と挫折の半生を振り返り、生きて行くうえで何が大切であるかを考えるヒントを提供。 [授業外学習]四字熟語とことわざの解説	⑨	[テーマ] 豊臣秀吉、賤ヶ岳合戦の秘策 [内容] 短期間で天下統一を果たした秀吉の智謀と策略、秀吉の人心収攬術などを通して、今に通じる人心掌握術の妙に迫る。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
②	[テーマ]聖徳太子，理想国家実現の夢 [内容] 天皇を中心とした中央集権国家建設づくりに腐心した、聖徳太子の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑩	[テーマ] 失敗を糧とした覇者の哲学 [内容] 我慢に我慢を重ね天下人となった徳川家康、覇者の哲学を通して今を生きる人にとって何が大切かを考える。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
③	聖徳太子の意思を敬称，大化の改新 [内容] 複雑な権力闘争の中、聖徳太子の意思を継承した天智天皇らが国のかたちを整えていく過程を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑪	[テーマ] 伊達政宗の国づくり 年齢差を乗り越え、秀吉や家康と堂々と渡り合い、領地没収・約束反故の苦境の中で大穀倉地帯の礎を築いた政宗の国づくりを紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
④	[テーマ] 天平文化、国風文化花開く [内容] 聖武天皇によって花開いた天平文化、菅原道真の遣唐使廃止建言によって花開いた国風文化を紹介する。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑫	[テーマ] 兵法の道は人の道 [内容] 剣一筋に生きてきた武蔵が、剣の道を通して会得した人の道の哲学書『五輪書』等を通して生きていくうえで何が大切かを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑤	[テーマ] 初めての武家政権を築いた平清盛 [内容] 貴族の衰退、武士の勃興の中で貿易立国で豊かな国づくりをしようと壮大な夢の実現に腐心した平清盛と、その生きた時代を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑬	[テーマ] 志のある者よ、立ち上がれ－吉田松陰－ [内容] 幕末から明治にかけて新しい時代を築く多彩な人材を育てた吉田松陰を紹介し、自ら考え実践する大切さを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑥	[テーマ] 乱世を制するリーダーの条件 [内容] 尊敬する後醍醐天皇と決別し、武士中心の幕府を創るため腐心した足利尊氏の苦悩の決断、歴史に果たした役割を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑭	[テーマ]日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 盟友西郷隆盛と決別し郷里鹿児島の人々の怨嗟にもめげず、命がけで新しい国づくりに命を捧げた大久保利通の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑦	[テーマ] 水を治め地を開く [内容] 戦国時代末期、人の力を信じ、金山開発、河川改修などで甲斐の国を強国に変えていった武田信玄の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑮	[テーマ] 板垣死すとも、自由は死せず [内容] 身の危険を顧みず自由民権運動の旗手として、命がけで全国遊説し議会開設の原動力となった板垣退助の考え方を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑧	[テーマ] 肉を切らせ骨を絶つ [内容] 卓抜な人物鑑定能力と斬新な発想で新しい時代を築くため力を注いだ織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語ことわざ解説	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

受講生が毎回提出するレポートと出席日数、テスト結果から総合的に判断する。出席回数は2/3以下は対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				40%
授業内レポート	○	○	○	40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席		○		20%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1　生きていく上での参考・ヒントになる情報を提供するので可能な限り講義を受講すること。
2　毎回レポートを提出させるので、講義内容を簡潔にまとめる訓練の場にして欲しい。

関連科目			
教科書	手作り教科書（34ページ）と四字熟語集（20ページ）を配布	参考書	必要に応じて授業で指示する。
連絡先	図書館専用電話0224－55－2052		

（自然分野）

授業科目名	生物科学 Biological Science (L.)				担当教員	宍戸 勇
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

医学や体育学の基礎領域のひとつとして、生物科学の知識を修得することは必須条件である。生物学から生命科学へと学問領域が展開されていく中で，体育科学や健康科学の科学的内容把握への一助となるよう細胞学や生理学などの基礎知識を学ぶ。

授業の一般目標

高等学校では選択科目として位置づけられていることから、履修してこない学生も多く、専門領域への取組みが円滑に出来るようにしたい。

授業の到達目標

■	認知的領域	細胞の構造や機能、細胞内小器官の連携形態と生理学や栄養学の基本となる呼吸、タンパク質の構造・機能について理解する。
■	情意的領域	構造や機能の連携などについてじっくり理解する。
■	技能表現的領域	暗記の学問ではなく、しっかり理解し、表現できる習慣を養う。

授業計画(全体)

選択科目ではあるが、最大80人規模のクラスとなるため、パワーポイントやビデオなどの映像も活用しながら、生物の体内で起こる自然現象をしっかりとらえ、理解できるようにする。最後は論述試験を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 生物学から生物科学までの成り立ちに関する歴史的展開 [授業外学習] 配布資料と内容の照合確認	⑨	[テーマ] タンパク質の分解と酵素の働き [内容] 生体内でのタンパク質分解過程とそれに関わる酵素について展開する。 [授業外学習] 総合理解
②	[テーマ] 生命の起源と歴史的研究 [内容] 地球の誕生と地球型生命の起源について展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料からの総合理解	⑩	[テーマ] エネルギー産生機構とATPの役割 [内容] 呼吸とATPの関わりについて展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料の照合と総合理解
③	[テーマ] 原核細胞と真核細胞 [内容] 細胞内に存在する小器官の形態・機能について展開する。 [授業外学習] パワーポイントによる映像と資料からの総合理解	⑪	[テーマ] 呼吸とエネルギー獲得 [内容] 栄養素の分解とエネルギー生産構造について理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解
④	[テーマ] 細胞とその内部構造 [内容] 真核細胞内の小器官の構造と働きについて展開する [授業外学習] 映像内容と配布資料の確認	⑫	[テーマ] 生体における神経伝達機構 [内容] 神経細胞(ニューロン)と神経伝達機構の仕組みについて展開する [授業外学習] 映像内容の理解と配布資料の内容把握
⑤	[テーマ] 細胞内小器官の生理的機能とそれらの連携 [内容] タンパク質合成のからくり、分泌物生産の過程と小器官の連携について展開する。 [授業外学習] 配布資料の総合理解	⑬	[テーマ] ヒトの発生 [内容] ヒトの発生過程と生理機構について展開する。 [授業外学習] 映像内容の理解
⑥	[テーマ] 遺伝子とその働き [内容] 遺伝子の構造と遺伝子本体の核酸について紹介する。 [授業外学習] 配布資料と映像の照合と総合理解	⑭	[テーマ] ヒトの酵素変異と代謝異常 [内容] 酵素の構造変異とそれに伴う生体異常と代謝異常について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解
⑦	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(1) [内容] DNA・RNAとタンパク質合成のからくりについて展開する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総合理解	⑮	[テーマ] ヒトの染色体異常 [内容] 染色体が起こす遺伝的疾患、突然変異による異状疾患について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解
⑧	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(2) [内容] タンパク質合成のからくりとそれに関与する遺伝子の働きについて展開する。 [授業外学習] 総合理解	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

定期試験の評価を50%、出席は30%、授業内レポートを15%とし、授業態度は5%で評価したい。しっかり出席し、レポートも確実に提出すること。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	◎	50%
授業内レポート	○	○	○	15%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度			△	5%
出席	○	○	○	30%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業態度は良好であること。難解なところもあると思うので、しっかり理解を深めて欲しい。

関連科目			
教科書	特になし。配布資料提供。	参考書	生物学、生物科学、といったタイトルの教科書は参考になる。
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	エコロジー概論 Guidance of Ecology(L.)				担当教員	宍戸 勇
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

自然の中で起こる諸々の現象に対して、どのような理解力が必要となるであろうか。例えば生物個体と環境との関係や、群れを形成したときの環境との関係、生物相互の関係などを理解することにより、生態学的な考え方、研究方法を身につけていく。特に、体育系大学生は自然と触れ合う機会が多いので、最近頻出する環境破壊などの問題や、環境利用に係る分析力を醸成する。

授業の一般目標

この講義を受けることにより、生態学的思考方法が身につく。幅の広い学問であるので自然に対する分析力が養われる。

授業の到達目標

■	認知的領域	Ecologicalな研究方法とはどんなものか。個々の生物か、群れを成す生物か、それぞれに環境とのかかわりや生物相互の関係を理解する。
■	情意的領域	映像による理解を深める。
■	技能表現的領域	映像を利用しながら自然を理解し、幅広い見方、解釈方法を身につけ、分析できる能力を養う。

授業計画(全体)

選択科目であるが、アウトドアでの活動の機会が多い学生諸君に、自然界で起こる現象や生物同士の相互関係などを映像を通じて理解し、生態学的な考え方を身につけたい。特に、講義内容として扱う観察内容の違いや研究対象の違いを理解しながら、多面的に適切な分析ができるようにしたい。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]ガイダンス [内容] エコロジーとはどんな学問か。体育大学学生にとってなぜ必要か。 [授業外学習]配布資料ににより内容の確認をする。	⑨	[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(2) [内容] 個体群としての環境との関わりについて分析し、理解する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総合理解。
②	[テーマ]環境要因と生物の関係 [内容] 無機的環境と生物の関係を理解する。 [授業外学習]パワーポイントと資料の照合	⑩	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(1) [内容] 同種個体群や異種個体群が地域で群れるときの環境との関わりについて理解する。 [授業外学習] 前回の資料に基づき、個体や個体群との比較
③	[テーマ] 有機的環境とは何か。 [内容] 生物相互の関係について理解する。 [授業外学習]パワーポイント・ビデオからテーマとの関係を把握。	⑪	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(2) [内容] 生物群集における種間関係、特に食物連鎖関係について理解する。 [授業外学習] パワーポイントやビデオ映像と照合する。
④	[テーマ] 生物の世界における制限要因 [内容] 生物の生活に影響する環境とその反応 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との照合	⑫	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(3) [内容] 生物群集における種間関係、特に共生関係について理解する。 [授業外学習] 個体や個体群における環境との関係を比較する。
⑤	[テーマ] 生理的最適域と生態的最適域 [内容] 制限要因と生物の条件選択能力について理解する [授業外学習]パワーポイントと配布資料の確認作業。	⑬	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(4) [内容] 生態系における生物群集の働きと作用・反作用・相互作用の理解をする。 [授業外学習] 配布資料の内容理解。
⑥	[テーマ] 個生態学という研究領域について [内容] ビデオ映像から生物個体の環境に対する反応を理解する。 [授業外学習]映像と配布資料との照合と総合理解。	⑭	[テーマ] 栄養段階とエネルギーの流れ 生態系の中での生態的地位とエネルギーの流れについて理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解
⑦	[テーマ] 適応現象とは [内容] 環境に対する個々の生物の反応と適応能力について理解する。 [授業外学習] パワーポイントと映像内容からの総合理解。	⑮	[テーマ] 生態系と人間について [内容] 生物群集の構造変化と人間との関わり、環境破壊、環境保全と人間の関わりについて理解する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との総合理解。
⑧	[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(1) [内容] 個体の集まりと環境への対応について理解する。 [授業外学習] 個体との比較を前回配布資料等から比較する。	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

定期試験内容45%、出席30%、授業態度10%、授業内レポート15%として評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	◎	45%
授業内レポート	○	○	○	15%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	△		△	10%
出席	○	○	○	30%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

出席は30%、授業態度10%、提出物15%とし、定期試験は45%合わせて100%としている。ポイントをしっかり理解し、真面目に出席していれば合格のラインに届くことになる。しっかり問題点を理解すれば合格するであろう。

関連科目			
教科書	特になし。配布資料とパワーポイントをしっかり理解すること。	参考書	高等学校時代の教科書は参考になる。
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。		

授業科目名	教養数学 Basic Mathematics				担当教員	大内悦夫
開講内容	学年・学期	1・2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

算数・中学数学の基礎・応用事項及び高校の数学の既習事項の確認・演習を行う。また卒論等に応用できる統計学の基礎を学習する。

授業の一般目標

問題の解法をとおして、数学的な考え方を学び、また解法を発表することにより自分の考えをしっかりしたものにする。小学校、中学校の学習支援をする学生の育成、また、卒論等に応用できる統計学の基礎を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	特徴的な数学的な考え方を体得する。
■	情意的領域	他の人の意見を自分のものと対比しながら聞き、自分の考えをまとめる。
■	技能表現的領域	自分の考えが発表できる。

授業計画（全体）

講義及び演習形式で様々な問題の解法を研究する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容]授業の進め方、成績評価の方法等の説明 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 整式・因数分解 [授業外学習]
②	[テーマ]小学校算数の指導内容の研究 [内容] 整数の計算ができる。分数、小数の計算で、おちいりやすい間違いを研究する [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑩	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式・関数 [授業外学習]本日の講義内容の復習
③	[テーマ]小学校算数の指導内容の研究 [内容] 図形・割合 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑪	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 順列 [授業外学習]本日の講義内容の復習
④	[テーマ]小学校算数の指導内容の研究 [内容]文章題 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑫	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 組み合わせ [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑤	[テーマ]中学校数学の指導内容の研究 [内容] 正負の数、文字式 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑬	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 正規分布・偏差値 [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑥	[テーマ]中学校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑭	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 相関係数 [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑦	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 関数 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑮	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 検定 [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑧	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 図形 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 既習内容の確認 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

講義時数の2/3以上の出席を要する。下記の割合で評価をする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			60%
授業内レポート	○			10%
授業外レポート	△			5%
演習・実技	○			20%
授業態度			△	5%
出席				欠格事項

履修上の注意（受講学生に望むこと）

柔軟な思考ができるように努力する。出席については規定通りとする。

関連科目	特になし		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	大内研究室（A303）		

（教養演習）

授業科目名	体育系大学の基礎教養 Liberal Arts for Sport-oriented Students				担当教員	全専任教員
開講内容	学年・学期	1年・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

体育系大学とは何を学ぶ大学かについて、仙台大学の場合を取り上げ、仙台大学の「Admission」、「Curriculum」、「Diploma」の3つの方針を踏まえ、教育課程編成の考え方、教育内容、保健体育教員免許およびその他の取得資格と社会的実践との関係を俯瞰しながら、講義する。

授業の一般目標

体育系大学としての仙台大学の教育分野・内容、所属する学科領域の位置付け等を俯瞰することにより、その後の各専門課程における履修科目の設置目的・相互関係等が理解できるようになるため、個々の科目の学習が全体―他の科目―との関わりの中で行えるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	所属する学科のみならず、他学科の専門領域に関する知識をも習得する。
■	情意的領域	所属する学科における専門領域の学習に対する意欲を高める。
■	技能表現的領域	卒業後、所属する学科・コースで学んだ専門知識をどのように社会に還元するかを学ぶ。

授業計画（全体）

全専任教員が本授業の趣旨について共通理解と認識を持ち、各学科・コースの責任者によって作成された教材を用いて、「授業の概要」に掲げた目的に沿って各回の授業を行う。各回の担当者は、その回の授業内容に適した教員が行う（そのため、回毎に担当教員が変わることになる）。

授業テーマとその内容

＊ 第1回 オリエンテーション、カリキュラムの体系：本科目設定の狙い、授業の展開、仙台大学のカリキュラムの理念・特徴等について説明する。
＊ 第2～4回 「学士力」養成と本学カリキュラムの関連について説明する。各回の内容は以下のとおり。
　第2回 学士力（1）：導入演習、情報処理、スポーツ心理学、スポーツ社会学
　第3回 学士力（2）：学習基礎教養演習、運動生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ指導の基礎、トレーニングの基礎
　第4回 学士力（3）：英語、基盤科目の活きた事例
＊ 第5回 教員養成
＊ 第6～13回 各学科・コースについて説明する。各回の内容は以下のとおり。
　第6回 コーチング・コース
　第7回 トレーナー・コース
　第8回 マネジメント・コース
　第9回 健康福祉学科
　第10回 運動栄養学科
　第11回 スポーツ情報マスメディア学科
　第12回 現代武道学科
　第13回 子ども運動教育学科
＊ 第14回 英語の必要性
＊ 第15回 レポート作成・総評

成績評価方法（方針）

授業態度（70%）、およびレポート（30%）で評価する。レポートのフィードバックを希望する学生は、各クラス担任に相談すること。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○	○	◎	30%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎	○	○	70%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

＊ 2/3以上の出席が必要（欠席した場合は必ず「欠席届」を出すこと）。
＊ 学部・学科・コース等の教育方針・内容を学ぶ貴重な授業であるので、積極的に授業に参加することを望む。

関連科目	導入演習、学習基礎演習、仙台大学の専門基礎演習、全学教養演習、キャリアプランニングⅡ、各種専門科目、卒業論文		
教科書	とくに指定しない	参考書	必要に応じて指示する
連絡先	クラス担任、各授業担当者		

授業科目名	仙台大学の専門教養演習Ⅰ Sports ＆ Cultural Context Ⅰ				担当教員	全教員
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学各面のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学領域の各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。

授業の一般目標

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された新設科目である。ポートフォリオ学習等を取り入れ、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果について、基本的な教養に裏打ちされたものとして、卒業後に実践できる力を付与する。

授業の到達目標

■	認知的領域	各受講クラスに於いて、3科学領域の関連性を知覚する、または活動等を通して新しい、そしてより実践的な教養が得られる
■	情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について、認識を深めさせる。
■	技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を身につけさせる。

授業計画（全体）

全教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。

授業テーマとその内容

第1回　　オリエンテーション
第2回から第15回　　各受講クラスの活動等によって得られた知識教養についての知覚とポートフォリオの作成

成績評価方法（方針）

出席及びポートフォリオ作成をもって認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート	○	○	○	20%
演習・実技	○	○	○	20%
授業態度				
出席				欠格事項

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	各担当者		

授業科目名	仙台大学の専門教養演習Ⅱ Sports ＆ Cultural Context Ⅱ				担当教員	全教員
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。この受講クラスに於いて、Ⅰの習得領域に加えて、より広い人文・社会・自然科学各面のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学領域の各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。

授業の一般目標

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された新設科目である。ポートフォリオ学習等を取り入れ、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果について、基本的な教養に裏打ちされたものとして、卒業後に実践できる力を付与する。

授業の到達目標

■	認知的領域	各受講クラスに於いて、3科学領域の関連性を知覚する、または活動等を通して新しい、そしてより実践的な教養が得られる
■	情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について、認識を深めさせる。
■	技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を身につけさせる。

授業計画（全体）

全教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。

授業テーマとその内容

第1回　オリエンテーション
第2回から第15回　各受講クラスの活動等によって得られた知識教養についての知覚とポートフォリオの作成する。

成績評価方法（方針）

出席及びポートフォリオ作成をもって認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート	○	○	○	20%
演習・実技	○	○	○	20%
授業態度				
出席				欠格事項

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	各担当者		

授業科目名	仙台大学の専門教養演習Ⅲ Sports ＆ Cultural Context Ⅲ				担当教員	全教員
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。Ⅰ、Ⅱで体得した知識、体験を基盤として、より高い実践的な教養知識を身につける。

授業の一般目標

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された新設科目である。ポートフォリオ学習等を取り入れ、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果について、基本的な教養に裏打ちされたものとして、卒業後に実践できる力を付与する。

授業の到達目標

■	認知的領域	各受講クラスに於いて、3科学領域の関連性を知覚する、または活動等を通して新しい、そしてより実践的な教養が得られる。
■	情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について、認識を深めさせる。
■	技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を身につけさせる。

授業計画（全体）

全教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。

授業テーマとその内容

第1回　オリエンテーション
第2回から第15回　各受講クラスの活動等によって得られた知識教養についての知覚とポートフォリオの作成する。

成績評価方法（方針）

出席及びポートフォリオ作成をもって認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート	○			
演習・実技	○	○	○	20%
授業態度	○	○	○	20%
出席				欠格事項

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	各担当者		

授業科目名	全学教養演習 Sophomore　Seminar				担当教員	全教員
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

仙台大学の全教員が前期と後期に分かれ、各教員の提案するテーマに沿った演習を行います。上限人数は原則として、12名となります。少人数で「演習」を体験することができることが、この授業の特徴となります。学生の皆さんは、各教員の提示した主題の中から自分の興味関心のあるテーマを選んでいただきます。

授業の一般目標

学生の皆さんは、教員の提示する、あるテーマに沿った課題について、ディスカッション、体験、ロールプレイング、レポート作成等を通して、ある具体的なテーマについて考えを深め、レポート作成、プレゼンテーション等の方法で自己の考えをまとめていきます。

授業の到達目標

■	認知的領域	あるテーマについての知識を深め、理解する。
■	情意的領域	課題に熱心に取り組む。
■	技能表現的領域	あるテーマについてのレポートが作成でき、発表ができる。

授業計画（全体）

1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. あるテーマに沿った体験実習やロールプレイング等を行う。3. 2の学びについて、学生同士のディスカッション、レポート作成、プレゼンテーション等を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] この授業の目的の説明、授業内容オリエンテーション [内容] 授業テーマの説明、授業の進め方についてオリエンテーションを行う。 [授業外学習] 授業の目的、テーマについて復習しておくこと。	⑨	[テーマ] 演習⑥ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
②	[テーマ] 主題の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、自分の主題を設定する。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑩	[テーマ] 演習⑦ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
③	[テーマ] 授業計画の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、授業計画を設定する。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑪	[テーマ] 演習⑧ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
④	[テーマ] 演習① [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑫	[テーマ] 演習⑨ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑤	[テーマ] 演習② [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑬	[テーマ] 演習⑩ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑥	[テーマ] 演習③ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑭	[テーマ] 演習⑪ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑦	[テーマ] 演習④ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑮	[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して教員がコメントする。 [授業外学習] 自分のレポート内容、プレゼン内容の振り返りを行うこと。
⑧	[テーマ] 演習⑤ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回演習を行う授業なので、出席も評価対象となる。その上で、課題に対する取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題に対する取り組み方やレポートの出来不出来、プレゼンテーション等がもっとも成績に関係する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	100%
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 上にも述べたように出来るだけ休まないこと。出席を重視する科目である。
2. 3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない。
3. この科目は卒業必修科目のため、単位修得できなければ、卒業することができない。特に4年生は、この科目の成績が「放棄」の場合は即、留年確定のため、くれぐれも注意すること。
4. この科目は各担当教員にクラス分け後、履修登録することになるので、履修登録だけでは、授業に参加することができない。クラス分けの方法について4月配布のオリエンテーション資料に書いてあるので、よく読んでおくこと。

関連科目	特定の関連科目はないが、ここで学ぶことは、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言いうる。		
教科書	プリント・資料を配布する	参考書	授業中に指示する
連絡先			

≪海外文化科目≫

授業科目名	イングリッシュ・トランスレーション English Translation				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学術論文・レポート・発表等で要求されるアカデミック・ライティングについて、その基礎となるパラグラフ・ライティングを中心に授業を行う。

授業の一般目標

アカデミック・ライティングを習得することにより、論理的で明快な文章（英文）が書けるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	論理的文章とそれ以外の文章（情緒的/文学的文章など）との違いがわかる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	パラグラフ・ライティング形式で文章（英文）を書く。

授業計画（全体）

本授業は以下の3部から成る。
1）英語の基本事項（文法）の確認　2）英文読解　3）パラグラフ・ライティングの説明、およびその形式に従っての英作。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明、およびパラグラフ・ライティングの解説 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑨	[テーマ] 強調構文、パラグラフ・ライティング [内容] 英語における強調構文の確認、および最終レポート（英文）のテーマ、パラグラフ構成案の作成 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
②	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング（I） [内容] 英語における形容詞句の確認 パラグラフ・ライティングの解説 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑩	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
③	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング（II） [内容] 前回に続き、英語における形容詞句およびパラグラフ・ライティングの確認を行う。 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑪	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
④	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング（I） [内容] 関係代名詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（日本語で） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑫	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑤	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング（II） [内容] 前回に続き関係代名詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（日本語で） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑬	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑥	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング（III） [内容] 関係代名詞節の確認（関係代名詞を用いた文の作成）、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（英文） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑭	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑦	[テーマ] 関係副詞節、パラグラフ・ライティング [内容] 関係副詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（英文） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑮	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 担当教員により最終チェックを受ける [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑧	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング [内容] 現在分詞による名詞修飾の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（英文） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑯	[テーマ] 最終レポート提出

成績評価方法（方針）

出席状況、課題の提出状況および最終レポートの出来具合で評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート			○	40%
授業外レポート			◎	60%
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・学則通り全授業の2/3以上の出席が単位取得には必要となるが、正当な理由なく欠席が重なるときは受講を止めてもらう場合がある。
・卒業単位を埋めるためとの理由で履修することは厳に慎んでもらいたい。

関連科目			
教科書	特に使わない	参考書	必要に応じて指示する
連絡先	A棟5階研究室（512）　オフィスアワー：火曜日10：20～11：50		

授業科目名	イングリッシュ・リーディング A English Reading A				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

今日、様々な場面で膨大な量の英語情報が流通しており、それに対応する能力が要請されている。この科目はそれらの英語情報の中から各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことが出来るための基本的事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。

授業の一般目標

英語辞書の正しい使用法を身につける。
英文読解に必要な基本的知識を習得する。
ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

特定のテキストは使用せず、毎回プリントを配布する。教材はなるべく興味深く、楽しいものを選ぶ予定である（受講生側からの提案も歓迎します）。授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。

授業テーマとその内容

1回目　授業の進め方についての説明
2回目～15回目　次の事柄に注意しながら実際に英文を読んでいく

① 英語辞書の使用法
② 指示表現 (reference)：指示代名詞、人称代名詞、冠詞等の指示表現
③ 代用表現 (substitution)：既出項目を簡略した他の表現
④ 省略 (ellipsis)：前の文章から容易に復元できるものの省略
⑤ 語彙的連結 (lexical cohesion)：既出の語句と何らかの関連のある表現
⑥ つなぎの表現 (logical connectives)：前後の文章の論理関係を示す表現

随時、次のような読解の練習も行う予定である
① パラグラフ・リーディング：パラグラフ（段落）単位の内容理解の練習
② スピード・リーディング：一定時間内で一定量の文章の内容を把握する練習

16回目　期末試験

[授業外学習の指示等] 教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくこと。

成績評価方法（方針）

期末試験（70%）、出席を含む積極的な授業参加（30%）にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎			30%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。
2. 英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。
3. 辞書は必ず持参すること。
4. 定員20名以下。

なお、使用する教材は「イングリッシュ・リーディングB」とは異なります。

関連科目	イングリッシュ・リーディング B		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定はしないが、 簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる
連絡先	鎌田研究室A棟512		

授業科目名	イングリッシュ・リーディング B English Reading B				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

この科目は、「イングリッシュ・リーディングA」と同様に、様々な場面で流通している英語情報の中から、各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことが出来るための基本的事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。

授業の一般目標

英語辞書の正しい使用法を身につける。
英文読解に必要な基本的知識を習得する。
ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

特定のテキストは使用せず、毎回プリントを配布する。教材はなるべく興味深く、楽しいものを選ぶ予定である（受講生側からの提案も歓迎します）。授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。

授業テーマとその内容

1回目　授業の進め方についての説明
2回目～15回目　次の事柄に注意しながら実際に英文を読んでいく

① 英語辞書の使用法
② 指示表現 (reference)：指示代名詞、人称代名詞、冠詞等の指示表現
③ 代用表現 (substitution)：既出項目を簡略した他の表現
④ 省略 (ellipsis)：前の文章から容易に復元できるものの省略
⑤ 語彙的連結 (lexical cohesion)：既出の語句と何らかの関連のある表現
⑥ つなぎの表現 (logical connectives)：前後の文章の論理関係を示す表現

随時、次のような読解の練習も行う予定である
① パラグラフ・リーディング：パラグラフ（段落）単位の内容理解の練習
② スピード・リーディング：一定時間内で一定量の文章の内容を把握する練習

16回目　期末試験

［授業外学習の指示等］ 教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくこと。

成績評価方法（方針）

期末試験（70%）、出席を含む積極的な授業参加（30%）にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎			30%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。
2. 英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。
3. 辞書は必ず持参すること。
4. 定員20名以下。

なお、使用する教材は「イングリッシュ・リーディングA」とは異なります。

関連科目	イングリッシュ・リーディング A		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定はしないが、 簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる
連絡先	鎌田研究室A棟512		

授業科目名	スポーツに何故英語が必要か				担当教員	山口貴久　他
開講内容	学年・学期	1年後期	授業方法	講義	関連資格	英語検定　TOEIC　TOEFL
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

日本で愛好されているスポーツのほとんどは、そのルールが英語で定められている。スポーツの国際化は必然的な流れとなっており、スポーツを通じて次代の日本を支える若者にとって、英語は国際化の前提として必須の素養となる。この観点から、英語圏での就学経験等を有するスポーツに係わる教員等から、スポーツ科学を専攻する学生にとって如何に英語が必要なものかについて、それぞれの体験等を交えて伝達する。

授業の一般目標

スポーツ科学を専攻する学生にとって、如何に英語が必要なものかを知覚させることにより、大学教育として必修科目に位置付けている英語教育科目への学生の取組みを真摯化することを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	各講義担当者の英語に係る体験談の聴講を通じて、自己が目標としているスポーツ分野とのかかわりにおける英語の必要性を、具体的な適用場面の知識として理解させる
■	情意的領域	英語という国際的共通言語が、各国の固有言語の相違というものを乗り越えて、スポーツ面で国際的連携をもたらしていることを理解させる。
■	技能表現的領域	ルールとして用いられている共通の英単語が、スポーツ種目の違いによって、様々な用いられ方をしていることを知覚させることにより、自己が目標としているスポーツ分野での英語の用い方の幅を広げさせる

授業計画（全体）

本授業の全体像のオリエンテーションを経て、米国の大学・大学院を卒業・修了した教員、日本国代表として、あるいは日本のマスメディア企業の駐在員として米国勤務経験を有する教員、英語を第一言語とする外国籍教員から、順に、自らの体験談を交え、スポーツにおける英語の必要性について講義を実施し、一般目標に掲げた目的を達成する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　本講義の目的と方法 [内容] 本講義の目的と方法について説明する。アクティブラーニング手法により、効果的な講義方法について討議する [授業外学習]自己のスポーツが英語とどう関わっているかについて情報を収集	⑨	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
②	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 米国大学就学経験者、米国勤務経験者、第一言語が英語の外国人が、体験談を通じた英語の必要性について講義し、ポートフォリオを作成 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑩	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
③	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑪	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
④	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑫	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
⑤	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑬	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
⑥	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑭	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
⑦	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑮	前6回の講義内容のまとめ レポート作成とポートフォリオの振り返り [授業外学習]レポート作成のための準備
⑧	前6回の講義内容のまとめ レポート作成とポートフォリオの振り返り [授業外学習]レポート作成のための準備	⑯	[テーマ] 大学教育としての必修英語科目とのつながり [内容] 大学教育としての必修英語科目とのつながりを講義し、各ポートフォリオから各自の必修科目に対する学習取組みを整理させる [授業外学習]必修科目との関わりについて予習復習

成績評価方法（方針）

ポートフォリオ作成内容を40％、2回のレポートを各30％で評価し、大学教育としての必修英語科目への取組み意欲の度合いを基準として成績を評価する

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○	○	○	60%
授業外レポート	○	○	○	40%
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

ポートフォリオ作成を授業外レポートと位置づける

関連科目	総合英語A～D　就職のための英語		
教科書	特になし	参考書	スポーツと英語に関する文献
連絡先	山口研究室		

授業科目名	英会話A English Conversation A				担当教員	ジェリー・パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable.

授業の一般目標

This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various langauge skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.

授業の到達目標

■	認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.
■	情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.
■	技能表現的領域	Speaking, Reading Comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate

授業計画(全体)

Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course will be the required text with a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive in attitude and communicative activities.

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Introduction: Explanation of Class, Grading [内容] Description of class and outline for the semester. If there is time, students will be asked to give their self-introductions. [授業外学習] Memorize key English phrases for class	⑨	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Report news about relationships [授業外学習] Memorize key vocabulary
②	[テーマ]Unit 1 Getting Acquainted [内容] Meeting someone for the first time [授業外学習] Conversation model presentation	⑩	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Describe extended families [授業外学習] Introduce your family
③	[テーマ] Unit 1 Getting Acquainted [内容] Identify and describe people [授業外学習] Conversation model presentation	⑪	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Compare people [授業外学習]MyEnglishLab online study
④	[テーマ] Unit 1 Getting Acquainted [内容] Provide personal information, and introduce someone to the group [授業外学習] Grammar / conversation model presentation	⑫	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Discuss family cultural traditions [授業外学習]Textbook assignment + MyEnglishLab online study
⑤	[テーマ] Unit 2 Going Out [内容] Accept or decline and invitation [授業外学習] Conversation model presentation	⑬	[テーマ] Unit 4 Foods and Restaurants [内容] Ask for a restaurant recommendation [授業外学習]Memorize key vocabulary
⑥	[テーマ] Unit 2 Going Out [内容] Express locations and give directions [授業外学習] Unit review / MyEnglishLab online study	⑭	[テーマ] Unit 4 Foods and Restaurants [内容] Order from a menu + speak to a server [授業外学習] Memorize key phrases and vocabulary
⑦	[テーマ] Unit 2 Going Out [内容] Make plans to see an event + Talk about musical tastes [授業外学習]Study for unit test	⑮	[テーマ] Unit 4 Foods and Restaurants [内容] Discuss food and health [授業外学習]Unit review / study for test
⑧	[テーマ] Test [内容] Unit 1 & 2 Test [授業外学習] None	⑯	[テーマ] Test [内容] Unit 3 & 4 Test [授業外学習] Start an English diary

成績評価方法(方針)

Homework/online study 10%, Participation/ Attitude 30%, Presentations 30%, Test 30%

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				30%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				30%
授業態度				30%
出席				10%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

This is best suited for students serious about improving their English level. Students selecting this course must be commited for the 1st & 2nd semester. New students will NOT be accepted in the 2nd semester. Students must attend 2/3 of all classes for 1st & 2nd semester, and must score at least 60% in their final marks to be awarded credit for this course. There will be periodic oral presentations in pairs or individually as well as online study that should be ongoing.

関連科目			
教科書	Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab	参考書	English-Japanese dictionary
連絡先	A棟5階 511研究室		

授業科目名	英会話B English Conversation B				担当教員	ジェリー・パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable.

授業の一般目標

This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various langauge skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.

授業の到達目標

■	認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.
■	情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.
■	技能表現的領域	Speaking, Reading Comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate

授業計画(全体)

Top Notch 1 (3rd Edition) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive in attitude and communicative activities.

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Introduction: Explanation of Class, Grading. [内容] Description of class and outline for the semester. If there is time, students will be asked to give their self-introductions. [授業外学習] Complete diary and prepare debate	⑨	[テーマ] Unit 9 - Taking transport [内容] Discuss schedules and buy tickets. [授業外学習] Conversation model presentation
②	[テーマ]Debate preparations [内容] Preparation for the debate. [授業外学習]Preparation for the debate	⑩	[テーマ] Unit 9 - Buying, and reserving tickets [内容] Discuss schedules and buying tickets [授業外学習] Memorize key vocabulary
③	[テーマ] Debate + constructive critism [内容]Students will debate. There will be constructive critism after. [授業外学習]None	⑪	[テーマ] Unit 9 - Understand airport annoucements. [内容] Understand airport annoucements. Describe transportatation problems. [授業外学習] Complete the review + MyEngLab
④	[テーマ] Unit 6 - Plan an activity with someone [内容] Learn about the different types of exercises there are and expressions when organizing an activity. [授業外学習] Conversation model + MyEngLab	⑫	[テーマ] Complete/ review Unit 9. Give study guide. [内容] Complete Unit 9 and review in MyEngLab [授業外学習] Study for test
⑤	[テーマ] Unit 6 - Discuss fitness and eating habbits [内容] Plan an activity with someone. Talk about habitual activities. [授業外学習]Conversation model presentation	⑬	[テーマ] Final test study guide [内容] Final Test [授業外学習] None
⑥	[テーマ]Complete Unit 6 + review for unit test [内容] Complete this unit then give a study guide [授業外学習]Study for unit test	⑭	[テーマ] Test handback +英会話 course evaluation [内容] Test handback with explanation + Evaluation of 英会話 course with future recommendations - class discussion. Start the culturally related media [授業外学習] Media comprehension questions
⑦	[テーマ] Unit 6 short test [内容]Short test on Unit 6. Introduce "media study," - sports related [授業外学習] Complete comprehension questions from the movie.	⑮	[テーマ] Media studies [内容]Continue the media study [授業外学習] Complete comprehension questions
⑧	[テーマ] Short test handback [内容] Short test to be handed back with explanations of the marking criteria. Complete the "media study." [授業外学習]Complete the comprehension questions	⑯	[テーマ] Farewell ceremony [内容] Farewell ceremony in class [授業外学習] None

成績評価方法(方針)

Homework/online study 10%, Participation/ attitude 30%, Presentations 30%, Tests 30%

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				30%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				30%
授業態度				30%
出席				10%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

This is a continuation course from the first semester. New students will not be admitted into the 2nd semester. Students must attend 2/3 of all classes for 1st and 2nd semester. To achieve full credit in the course students must achieve an average of at least 60% on their test.

関連科目			
教科書	Top Notch 1 (2nd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab	参考書	English-Japanese dictionary
連絡先	A棟5階 511研究室		

授業科目名	スポーツ&イングリッシュ (S) Sports & English				担当教員	マーティ・キーナート / Marty Kuehnert
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

全世界におけるスポーツビジネスで生み出される金額の三分の二以上が、北米で生産されている。そして他のどの国よりも多くのスポーツ映画がアメリカで製作されている。スポーツを学ぶのであれば、英語は不可欠なツールである。この講義ではスポーツ映画を題材にとりあげ、スポーツに関連した言葉が日常慣用句となっている多くの例を多々紹介し、より高い英語学習へのモチベーションを促す。

授業の一般目標

学生は英語の知識、読解、聴解力を高め上達することを目的とする。特に英語の各スポーツの中における用語法、そしてそれがいかに日常の慣用句にはいりこんだかを学習し会得する。又、自分の興味あるスポーツに関するより多くの情報を、インターネット、雑誌、本や映画からどのように得るかを学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツの中で使われる英語の語句がどのように日常の英語慣用句に使われているかを理解し、教材の内容を原語で理解できるようになる。
■	情意的領域	スポーツ映画から、北米のスポーツ文化と背景をより理解し、知識を深める。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

"REMEMBER THE TITANS"「タイタンズを忘れない」という映画を使用。これは、2009年、44代目に初の黒人大統領のバラク・オバマを選出したアメリカで、38年前に実際に起こった話です。1971年に当時人種統合したばかりのぎくしゃくした高校のアメフトチームを無敗で州大会優勝へ導いた初の黒人ヘッドコーチの実話であり、それを基本の題材にしながら、各テーマの英語フレーズと用法、そしてスポーツとその背景についても講義する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容、目的と進め方。北米のスポーツ文化の背景の紹介。 [授業外学習]映画の全体的なあらすじを原語で理解してくる事。	⑨	[テーマ] チャプター 20,21,22 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
②	[テーマ] ハイライト20で映画の内容紹介と理解 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑩	[テーマ] チャプター 23,24 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
③	[テーマ] 映画とその教材よりチャプター 1,2,3 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑪	[テーマ] チャプター 25,26 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
④	[テーマ] チャプター 4,5,6 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑫	[テーマ] チャプター 27,28,29,30,31 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑤	[テーマ] チャプター 7,8,9,10 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑬	[テーマ] Making Documentory 1 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑥	[テーマ] チャプター 11,12,13 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑭	[テーマ] Making Documentory 2 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑦	[テーマ] チャプター 14,15,16 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑮	[テーマ] 全体総括 [内容]　半期の講義内容をまとめて質疑応答。 [授業外学習]　期末テストへむけて復習
⑧	[テーマ] チャプター 17,18,19 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑯	[テーマ] 期末テストとまとめ [内容] 講義内で学習した内容の理解度とその到達度を確かめる期末テストおよびその説明 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席率30%、講義中の参加態度、発言、課題、小クイズで30%、期末テストで40%

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○		10%
出席	○			40%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・講義受講人数は80人に限定。
・この講義は、英語の教材を使用。講義中の説明は日本語で行いますが、英語とその文化への興味と学習熱意がある学生に受講して頂きたい。
・16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、単位習得不可。・ミニテストも常時有り。
・20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠り/携帯使用厳禁 3回目注意者は退室。
・講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。

関連科目			
教科書	教科書なし。その都度プリント配布。	参考書	
連絡先	mpk@gol.com		

授業科目名	ドイツ語 I Introduction to German I				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

ドイツ語の初等文法を学ぶ。まずは、文法を一歩一歩急がず解説してゆく。その際、教科書として〈Themen Aktuell I〉を用いる。この教科書は、外国人向けのドイツ語学校あるいはドイツ語コースで一般的に用いられており、すべてドイツ語で書かれている。練習問題も豊富で、記述問題、会話訓練、聞き取りなど、さまざまな仕方でドイツ語に接近してゆくことができる。

授業の一般目標

文法がわからないと、ドイツ語は辞書も引けません。そこで、まず文法の初歩を理解できるようにすることが目標です。冠詞および名詞の格変化、人称代名詞、動詞の人称変化です。

授業の到達目標

■	認知的領域	ドイツ語の初等文法を理解する。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	学習したドイツ語で積極的に話してみる。

授業計画（全体）

毎回、はじめの40分は、文法の解説をする。その後、文法の暗記を20分、皆で声を合わせて朗誦して覚えるようにする。その後20分は、書き取りの練習に当てる。最期の10分は、学内レポートあるいは小テストに当てる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ドイツおよびドイツ語への導入 [内容] Allgemeine erklärung über deutsche Kultur, Politik und Wirtschaft und auch natürlich Aussprache [授業外学習] シラバスをよく読む。ドイツに関して興味のあることを調べる。(1S)	⑨	[テーマ] 約束する、情報を求める [内容] Wann fährst Du morgen vom Bahnhof ab? Halb elf. Dann können wir uns gegen zehn Uhr vor dem Bahnhof treffen? Mein Freund kommt mit. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
②	[テーマ] ドイツ語による挨拶 [内容] Guten Morgen. Wie geht es Ihnen, Professor? Danke, gut. Und Ihnen? Sehr Gut, Ausgezeichnet. Bis bald. Auf Wiedersehen! [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑩	[テーマ] 報告する（はがきを書く） [内容] Am Morgen früh gehe ich am Strand spazeiren. Danach esse ich schönes und reichhaltiges Frühstuck. Dann lese ich den ganzen Tag einen Roman. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
③	[テーマ] 人称の概要 [内容] Du bist so schön! Sie sind so schön! Ich bin Student. Du bist auch Student. Sie ist Studentin. Wir sind Studenten! [授業外学習] 小テストの復習	⑪	[テーマ] 一日の出来事を記録する [内容] Um sieben stehe ich auf. Gegen elf gehe ich zur Uni. In der Mensa esse ich Nudeln. Am Nachmittag besuche ich die Vorlesung von Prof. K. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
④	[テーマ] 一般動詞の人称変化 [内容] Ich geht heute zur Uni. Du gehst nicht. Er geht auch. Wir gehen zusammen. [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑫	[テーマ] 予定の言い方 [内容] Ich habe vor, morgen nachmittag nach Sendai zu fahren, um meine Freundin zu sehen. Dann kann ich nicht mit Dir mitfahren. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑤	[テーマ] ものを名指して記述する [内容] Das ist mein Buch. Das ist nicht dein Buch. Das Buch ist weiß. Das Buch ist dick. [授業外学習] 小テストの復習	⑬	[テーマ] 住む家を探す [内容] Man sucht nach einer schönen Wohnung. Aber es ist schwer, so eine zu finden. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑥	[テーマ] 値段の言い方 [内容] Das Buch kostet 24 Euro. Ist das nicht so teuer? Für seine Dicke ist es preiswert, glaube ich. [授業外学習] 小テストの復習 (1S)	⑭	[テーマ] 映画を見る [内容] Einen Deutschen Film sehen wir in der Klasse, ohne ins Kino zu gehen. Welcher Film soll gewählt werden, weiß niemand noch jetzt. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑦	[テーマ] レストランでの注文 [内容] Ich möchte Schweinebraten mit Salat essen. Ich möchte auch Bier trinken. Was möchtest Du noch etwas haben? [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑮	[テーマ] これまで全体の復習 [内容] Fassen wir zusammen, was wir bisher lernen, um uns für das Examen von nächster Woche vorzubereiten. [授業外学習] 試験の準備(3S)
⑧	[テーマ] レストランでの会話と勘定 [内容] Das Essen ist sehr gut. Ja, das schmeckt gut. Dann zahlen bitte! Zusammen oder getrennt? Zusammen. 38 Euro bitte. 40 Euro, stimmt so. [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑯	[テーマ] 筆記・口頭試験 [内容] Schriftliche und mündliche Prüfung. [授業外学習]

成績評価方法（方針）

出席及び授業態度が重要。授業内での作業が多いので、それに対する取り組みも評価の対象となる。随時、小テストを行う（50点分）。最後の試験は50点分。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	◎	50%
授業内レポート	◎		◎	50%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

積極的関与を求める。予習復習を課す。

関連科目			
教科書	教科書はない。テクストはプリントして配布する。	参考書	
連絡先	小松恵一研究室（A506）オフィス・アワー水曜日午後2時20分～3時50分		

授業科目名	ドイツ語Ⅱ Introduction to German Ⅱ				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

ドイツ語Ⅰを履修していることが前提となる。前期で初等文法は終わっていないので、前半はその続き。さらに、後半では自分史(これまでの来歴とこれからの展望)を書いて、発表する。

授業の一般目標

ドイツ語の初等文法を終えることが目標である。さらに、ドイツ語で自分を語る。

授業の到達目標

■	認知的領域	ドイツ語の初等文法を理解する。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	学習したドイツ語を使って表現できる。

授業計画(全体)

前期に引き続き次のようにする。毎回、はじめの40分は、文法の解説をする。その後、文法の暗記を20分、皆で声を合わせて朗誦して覚えるようにする。その後20分は、書き取りの練習に当てる。最期の10分は、学内レポートあるいは小テストに当てる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] タバコを呑むべきではない(sollen) [内容] Du sollst nicht so viel rauchen. Vielmehr möchte ich sagen, du sollst aufhören, zu rachen. Aber das ist meine Freiheit, nicht wahr? [授業外学習] シラバスをよく読む(1S)	⑨	[テーマ] 願望を言う、評価する、非難する(比較級) [内容] Lieber möchte ich einen Kaffee trinken. Am besten trinkt man einen Kaffee ohne von anderen angesprochen zu werden und stumm alleine. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)
②	[テーマ] 仲間を激励する [内容] Ich kann nicht mitspielen. Du mußt aber unbedingt mitspielen. Ich möchte ja gern, aber ich kann wirklich nicht. Bald geht es Dir bestimmt besser. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑩	[テーマ] 自分史を書く(1) [内容] Zuerst schreibt man die Erreignisse im Leben, die man bisher erfahren hat, in Japanisch. [授業外学習] 自分史を推敲する
③	[テーマ] 出来事や行動を報告する(現在完了) [内容] Ich habe gestern Fußball gespielt. Dabei bin ich plötzlich gefallen und Schmerzen im Fuß gehabt. Mein Freund hat den Arzt geholt. [授業外学習]	⑪	[テーマ] 自分史を書く(2) [内容] Dann versucht man mit eigener Kraft, es ins Deutsche zu übersetzen. [授業外学習] ドイツ語に直す(1S)
④	[テーマ] 報告を読む、確認する(現在完了) [内容] Ich bin eine Woche in Berlin. Gestern habe ich zum erstenmal hier Sushi-Bar besucht, weil ich erst vom deutschen Essen müde geworden bin. [授業外学習] 小テストの復習をする (1S)	⑫	[テーマ] 自分史を書く(3) [内容] Den Versuch fortsetzen. [授業外学習] さらにドイツに直す(1S)
⑤	[テーマ] リライトした新聞記事を読む(1) [内容] Ich bin einfach froh, dass ich die Chance habe, ein weiteres Halbfinale bei einem Grand-Slam-Turnier zu spielen", sagte die Russin nach ihrem Sieg. [授業外学習]	⑬	[テーマ] 自分史を書く(4) [内容] Die Übersetzungen werden von mir korrigiert oder umgeschrieben. [授業外学習] さらにドイツ語に直す(1S)
⑥	[テーマ] リライトした新聞記事を読む(2) [内容] „Es ist ein Wunder, dass ich das Spiel noch gewonnen habe", sagte Ferrer nach dem Kraftakt über 3:44 Stunden. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑭	[テーマ] 自分史を完成する。 [内容] Die Biographien werden so viel wie die Zahl der Studenten kopiert und je in einem Heft gebunden. [授業外学習] 発表の練習をする(3S)
⑦	[テーマ] ベルリン紹介(1) [内容] Berlin ist die größeste Stadt in Deutschland. Man sagt manchmal, sie ist keine deutsche Stadt. Mit DVD die Szenen in Berlin vorstellen. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑮	[テーマ] ドイツ語で自分史を発表する [内容] Jede Studenten/-innen präsentieren eigene Biographie und seine zu- künftige Hoffnung auf deutsch. [授業外学習]
⑧	[テーマ] ベルリン紹介(2) [内容] Berlin kennenlernen heißt in die deutsche Geschichte hineingehen. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

成果として、皆の自分史と将来展望をドイツ語でまとめたものを文集にまとめる。それが50%。毎回の小テストが50%。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎		◎	50%
授業外レポート				
演習・実技	◎	—	◎	50%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

熱心に参加すること。予習復習をすること。

関連科目			
教科書	教科書はない。テクストはプリントして配布する。	参考書	
連絡先	小松恵一研究室(A506)オフィス・アワー水曜日午後2時20分～3時50分		

授業科目名	スペイン語 I Introduction to Spanish I (S.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	なし
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

この授業では、スペイン語による読み書きの基礎について解説します。また、比較的形が決まっている簡単な日常会話の練習もします。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介します。

授業の一般目標

以下のようなことを目標としてください：①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②挨拶などの簡単な表現を覚えて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。

授業の到達目標

■	認知的領域	読み書きの基礎的なルールを理解する。
■	情意的領域	異なる文化を理解しようとする態度を持つ。
■	技能表現的領域	スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。

授業計画（全体）

スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説します。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いての表現の練習と挨拶などのとても簡単な会話の練習をします。また、前回習った内容についてのテストを毎回行います。その他に、スペイン語文化（音楽、祭り、スポーツ、テレビなど）の紹介をします。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] スペイン語の特徴(どのような国で使われているか、日本語との類似点・相違点、身の回りのスペイン語など)について知る [授業外学習]身のまわりのスペイン語の商品名を探してみよう（1時間程度）	⑨	[テーマ] 動詞の規則活用④ [内容] -erで終わる動詞（主語が複数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
②	[テーマ]発音① [内容] 母音字と子音字の読み方 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする（1時間）	⑩	[テーマ] 動詞の規則活用⑤ [内容] -irで終わる動詞（主語が単数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
③	[テーマ] 発音② [内容] 前回の復習、アクセントなど [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑪	[テーマ] 動詞の規則活用⑥ [内容] -irで終わる動詞（主語が複数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
④	[テーマ] 名詞、冠詞、形容詞① [内容] 名詞の性別と複数形、冠詞の種類と形、-oで終わる形容詞の形 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑫	[テーマ] 動詞tener① [内容] 活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑤	[テーマ] 形容詞② [内容] -o以外で終わる 形容詞の形 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑬	[テーマ] 数詞 [内容] 数を表わす言葉 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑥	[テーマ] 文の形、動詞の規則活用① [内容] スペイン語の文の形、主語になる人称代名詞、-arで終わる動詞（主語が単数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑭	[テーマ] 動詞tener② [内容] tenerを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑦	[テーマ] 動詞の規則活用② [内容] -arで終わる動詞（主語が複数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑮	[テーマ] 復習 [内容] これまでの学習内容を復習する [授業外学習]最終回のテストに備えて復習をする （2時間）
⑧	[テーマ] 動詞の規則活用③ [内容] -erで終わる動詞（主語が単数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回の授業でテストを行ないます。その成績（90%）と授業での態度(10%)を総合して成績を決定します。
テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をします。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	小テスト◎	小テスト◎	小テスト◎	90%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎	◎	10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・この授業では声を出してください。質問にはっきりと答える、大きな声で読むことを心がけてください。
・欠席した回小テストは0点です。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなります。できる限り授業に出席しましょう。
・毎回のテストのために復習が必要です。
・配布するプリントを保存するために、ファイルを持参してください。

関連科目	スペイン語 II		
教科書	教科書は使用しません。 プリントを配布します。	参考書	関心と興味に応じて参考書あるいは辞書を紹介します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです。		

授業科目名	スペイン語Ⅱ Introduction to Spanish II (S.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	なし
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

この授業では、スペイン語Ⅰに引き続き、スペイン語による読み書きの基礎について解説します。また、簡単な日常会話の練習もします。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介します。

授業の一般目標

以下のようなことを目標としてください：①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②簡単な会話を覚え、場面に応じて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。

授業の到達目標

■	認知的領域	読み書きの基礎的なルールを理解する。
■	情意的領域	異なる文化を理解しようとする態度を持つ。
■	技能表現的領域	スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。

授業計画（全体）

スペイン語Ⅰに引き続いてスペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説します。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いての表現の練習と簡単な会話の練習をします。また、前回習った内容についてのテストを毎回行います。その他に、スペイン語文化（音楽、祭り、スポーツ、テレビなど）の紹介をします。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]動詞ser① [内容]serの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑨	[テーマ]動詞querer① [内容]quererの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
②	[テーマ]動詞ser② [内容]serを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑩	[テーマ]動詞querer② [内容]quererを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
③	[テーマ]動詞estar① [内容]estarの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑪	[テーマ]動詞poder① [内容]poderの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
④	[テーマ]前置詞 [内容]主な前置詞の用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑫	[テーマ]動詞poder② [内容]poderを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑤	[テーマ]動詞estar② [内容]estarを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑬	[テーマ]代名詞 [内容]目的語になる代名詞 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑥	[テーマ]動詞ir① [内容]irの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑭	[テーマ]再帰動詞① [内容]再帰動詞の活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑦	[テーマ]所有形容詞と指示形容詞 [内容]所有を表わす言葉、指し示す言葉 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑮	[テーマ]再帰動詞② [内容]再帰動詞を用いた表現 [授業外学習]最終回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑧	[テーマ]動詞ir① [内容]irを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回の授業でテストを行ないます。その成績（90%）と授業での態度(10%)を総合して成績を決定します。
テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をします。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	小テスト◎	小テスト◎	小テスト◎	90%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎	◎	10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・この科目を受講するためには、「スペイン語Ⅰ」の単位取得が必要です。
・この授業では声を出してください。質問にはっきりと答える、大きな声で読むことを心がけてください。
・欠席した回小テストは0点です。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなります。できる限り授業に出席しましょう。
・毎回のテストのために復習が必要です。
・配布するプリントを保存するために、ファイルを持参してください。

関連科目	スペイン語Ⅰ		
教科書	教科書は使用しません。 プリントを配布します。	参考書	関心と興味に応じて参考書あるいは辞書を紹介します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです。		

授業科目名	中国語Ⅰ Chinese Ⅰ				担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。中国語のピンインの発音から文法の説明と共に会話の練習まで進めていく。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。

授業の一般目標

中国語の発音体系、特に声調をしっかり理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。
■	情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。
■	技能表現的領域	ピンインを正確に発音できる。中国語で簡単な挨拶やコミュニケーションができるようになる。

授業計画(全体)

基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、中国の文化、中国語の特徴などを紹介する [授業外学習] シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 第6課 何がありますか [内容] 動詞、助数詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
②	[テーマ] ピンインの学習 [内容] 単母音の発音練習、声調の発音特徴、声調の発音練習 [授業外学習]声調の抑揚に富む早口を正しく発音できる	⑩	[テーマ] 第7課 ホテルにチェックイン [内容] 完了を表す語、選択疑問文、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
③	[テーマ] ピンインの学習 [内容] 子音の発音練習、簡単な挨拶文を勉強する [授業外学習] 中国語での挨拶を身につける	⑪	[テーマ] 第8課 何時に行きますか [内容] 経験を表す語、時をあらわす語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
④	[テーマ] 第1課 自己紹介 [内容] 自己紹介の言い方、人称代名詞 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑫	[テーマ] 第9課 タクシーに乗る [内容] 前置詞、時間の長さを表す語、目的語をもつ動詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑤	[テーマ] 第2課 これは何ですか [内容] 指示代名詞(1)、否定表現、疑問詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑬	[テーマ] 第10課 試着と支払い [内容] 助動詞、前置詞、動詞の重ね用法、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑥	[テーマ] 第3課 これはいかがですか [内容] 指示代名詞(2)、形容詞述語文、疑問詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑭	[テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリング [授業外学習] テストに備えて復習する
⑦	[テーマ] 第4課 買い物 [内容]数詞、助詞、数量を表す語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習] テストに備えて復習する
⑧	[テーマ] 第5課 どこにありますか [内容] 場所指示代名詞、動詞、助動詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○		◎	60%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○	◎	40%
出席	○			減点・欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・必ず教科書を準備すること。
・予習・復習をしっかりとすること。
・授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしがらず積極的に取組むこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	中国語Ⅱ(後期)		
教科書	《最新版》1年生のコミュニケーション中国語 塚元慶一 監修 劉穎 著	参考書	しっかり初級中国語 石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ 著
連絡先	馬研究室(第五体育館2F 研究室23)		

授業科目名	中国語Ⅱ Chinese Ⅱ				担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。文法と会話の学習を中心に授業を進めて行く。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。

授業の一般目標

中国語の発音体系、特に声調をしっかり理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。
■	情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。
■	技能表現的領域	ピンインを正確に発音できるようになる;中国語で自己紹介及び簡単な日常会話ができるようになる

授業計画(全体)

基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標とやり方の説明、成績評価の方法 [授業外学習] 前期で学習した内容を復習する	⑨	[テーマ] 第8課 友達に電話する [内容] 方向補語、使役文、謙語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
②	[テーマ] 第1課 北京に到着 [内容]連動文、動詞句主語、数詞、会話 [授業外学習]テキストの練習問題をもとに復習する	⑩	[テーマ] 第9課 郵便局 [内容] “如果～的话，就…” 、前置詞 “把” 、方向補語 “到” 、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
③	[テーマ] 第2課 道を尋ねる [内容] 疑問詞“怎么”、動詞＋“了”、反復疑問文、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑪	[テーマ] 第10課 医者に行く [内容] “有一点儿”、助動詞“要”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
④	[テーマ] 第3課 買い物 [内容]動詞＋“一点儿”、比較表現、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑫	[テーマ] 第11課 家庭訪問 [内容]助動詞“用”、進行形、“就是”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑤	[テーマ] 第4課 バスに乗る [内容] 名詞修飾詞、副詞、結果補語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑬	[テーマ] 第12課 謝恩会 [内容] “就要～了”、変化を表す語、“有了”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑥	[テーマ] 第5課 新しい友達 [内容] 様態補語、2つの“了”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑭	[テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリング [授業外学習] テストに備えて復習する
⑦	[テーマ] 第6課 外食 [内容] 助詞 “过” 、主述述語文、動詞 “喜欢” 、 “多” 、会話 [授業外学習]テキストの練習問題をもとに復習する	⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習] テストに備えて復習する
⑧	[テーマ] 第7課 約束 [内容] 動詞“听说”、“可～了”、助動詞“打算”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○		◎	60%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○	◎	40%
出席	○			減点・欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・必ず教科書を準備すること。
・予習・復習をしっかりとこと。
・授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしがらずに積極的に取組むこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	中国語Ⅰ(前期)		
教科書	《最新版》2年生のコミュニケーション中国語 塚元慶一 監修 劉穎 著	参考書	本気で学ぶ中国語 趙玲華 著
連絡先	馬研究室(第五体育館2F 研究室23)		

授業科目名	韓国語Ⅰ Korean Ⅰ				担当教員	金　賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。ハングル文字のしくみから読み・書き、韓国語を学ぶとき最も苦手とする発音の練習、日常生活に必要な基礎的な表現について講義する。また、言葉と関連して、韓国のスポーツ事情・文化・歴史などについても紹介しながら授業を進めていく。

授業の一般目標

テキストをもとに、「聞く・読む」基礎的な能力を学習し、「話す・聞く」能力の習得を目指して学習することを目標とする。なお、スポーツ事情・文化・歴史に接することにより、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	韓国語の文字（ハングル）を読める。韓国語の特徴が理解できる。
■	情意的領域	韓国語の背景や韓国の文化に触れ、外国語習得や異文化交流に更なる関心を持つ。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

韓国語を初めて学ぶ学生を対象し、発音、文字、ならびに簡単な日常会話をわかりやすく説明する。テキストに沿ってゆっくり進み、全部で15回の講義項目を行い、2年次の韓国語Ⅱへ進む基礎的な語学力を身につける。文字と発音の段階から、あいさつなど基礎的な会話の要素もくわえ、知識と応用のバランスに配慮した授業を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	［テーマ］ オリエンテーション ［内容］ 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、韓国紹介、韓国語の簡単な挨拶紹介 ［授業外学習］ 韓国・韓国語に関して興味のあることを調べる	⑨	［テーマ］ 予定や持ち物の有無② ［内容］ある、いる、ありません、いませんの表現の練習、教科書6課の練習問題 ［授業外学習］ 教科書6課を読んでおく
②	［テーマ］ 韓国語文字（ハングル）の仕組と発音 ［内容］ 基本母音字母と合成母音字母① ［授業外学習］ 教科書1課を読んでおく	⑩	［テーマ］ 質問の仕方① ［内容］それは何ですか、質問に関する表現の習得、教科書7課の単語 ［授業外学習］ 教科書7課を読んでおく
③	［テーマ］韓国語文字（ハングル）の仕組と発音］ ［内容］ 基本母音字母と合成母音字母② ［授業外学習］ 教科書2課を読んでおく	⑪	［テーマ］ 質問の仕方② ［内容］韓国語を用いて、職業、趣味などを質問できるように練習、教科書7課の練習問題 ［授業外学習］ 教科書7課を読んでおく
④	［テーマ］ 韓国語文字（ハングル）の仕組と発音 ［内容］ 合成母音字母、自分の名前をハングルで書いてみよう ［授業外学習］ 教科書3課を読んでおく	⑫	［テーマ］ 助詞と疑問詞のまとめ ［内容］韓国語の助詞について日本語と比較しながら学習 ［授業外学習］ 教科書7課を読んでおく
⑤	［テーマ］ 韓国語文字（ハングル）の仕組と発音 ［内容］ 韓国の食べ物の名前、教室でよく使う言葉 ［授業外学習］ 教科書4課を読んでおく	⑬	［テーマ］ うちとけた表現 ［内容］「です・ます」体の作り方学習 ［授業外学習］ 教科書8課を読んでおく
⑥	［テーマ］ 自己紹介、かしこまった丁寧体① ［内容］「私は～です。～といいます。」の練習 ［授業外学習］ 教科書5課を読んでおく	⑭	［テーマ］ 家族の呼び名 ［内容］家族の呼び名、家族構成を韓国語で言えるように練習、 ［授業外学習］ 教科書8課を読んでおく
⑦	［テーマ］ 自己紹介、かしこまった丁寧体② ［内容］「私は～です。～といいます。」の練習 ［授業外学習］ 教科書5課を読んでおく	⑮	［テーマ］ 総括 ［内容］１－８課まで学習した内容の総括、会話の練習 ［授業外学習］ 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	［テーマ］ 予定や持ち物の有無① ［内容］ ある、いる、ありません、いませんの表現学習、教科書6課の単語 ［授業外学習］ 教科書6課を読んでおく	⑯	［テーマ］ 期末テスト ［内容］　授業の理解度を確認するための試験を実施する ［授業外学習］ テストの準備をしておく

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験（評価割合80%）、授業内課題を評価する（評価割合20%）。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可（欠格条件）。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	◎		80%
授業内レポート			○	20%
授業外レポート				無し
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

私語・スマートフォン（タブレット）使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。

関連科目	韓国語Ⅱ		
教科書	『新チャレンジ韓国語』、白水社、金順玉著	参考書	『もっとチャレンジ韓国語』、白水社、金順玉著
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	韓国語Ⅱ Korean Ⅱ				担当教員	金　賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

韓国語Ⅰで学んだ内容をベースにして、日常会話を学習し、単語・文法は、会話を行いながら韓国人がよく使うパタン一学習を練習する。また、基礎的な文章を応用して、あいさつ、買い物、道を尋ね、案内などの日常会話を学ぶ。韓国人とのコミュニケーションができるように、ペアを組んで発表するなど会話中心の授業を行う。

授業の一般目標

実用的な会話場面を掲示し、毎回生徒同士がペアを組んで練習することで、自然な基礎会話能力を身に付ける。学生の興味・関心があるテーマ(スポーツ、旅行)を取り上げ、比較することで韓国と日本の文化をより深く理解できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	韓国人と日本人の会話スタイルの類似点・相違点が理解できる。
■	情意的領域	韓国の文化について触れることによって、異文化交流に関心を持ち、広い世界観を確立する。
■	技能表現的領域	韓国語で日常会話ができる。

授業計画(全体)

韓国語Ⅰで学んだ例文を応用しながら、実用的な日常会話ができるように、学生同士あるいはクループで練習を行う。会話を中心に楽しく韓国語の会話を身につけるように授業を行う。(学生の学習の進度によって、授業計画を若干変更する場合があります。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学習] 韓国語Ⅰで学んだ内容の復習	⑨	[テーマ] 動作の進行や状態表現 [内容]「～しています」という表現を学び、動作の進行や状態表現の練習、教科書11課の練習 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく
②	[テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 韓国語Iで学んだ基本的表現の復習、基礎的な韓国語の表現を復習 [授業外学習] 教科書9課を読んでおく	⑩	[テーマ] ～くださいの表現とお金の数え方 [内容] 買い物や誰かにお願いする際に使う表現の習得と練習、教科書11課 [授業外学習] 文末表現、動作の進行や状態表現の復習する
③	[テーマ] 動詞、形容詞 [内容] 好き、嫌いの表現、動詞の否定　練習、教科書9課の単語の学習 [授業外学習] 教科書9課を読んでおく	⑪	[テーマ] 年齢に関する表見 [内容] 年齢の数え方、これまで9課から11課まで学んだ表現を用いて会話の練習 [授業外学習] 教科書12課を読んでおく
④	[テーマ] 目的表現、変則用言 [内容] 動詞の変則用言、目的を表す表現の練習、 [授業外学習] 教科書10課を読んでおく	⑫	[テーマ] 比較表現と二つの文章をつなぐ表現 [内容]「～より、～が」のような比較表現、「～て、～です」「～けれど　～です」のような二つの内容をつなぐ表現の習得 [授業外学習] 教科書12課を読んでおく
⑤	[テーマ] 過去形の作り方 [内容] 動詞の過去型の作り方、「何をしましたか」のやり取り練習、教科書10課の単語の学習 [授業外学習] 会話練習のために、教科書9、10課を読んでおく	⑬	[テーマ] ペアで覚える形容詞 [内容] 日常生活でよく使われる形容詞を用いて会話の練習、教科書12課 [授業外学習] 教科書13課を読んでおく
⑥	[テーマ] 会話練習 [内容] 教科書9課、10課で学んだ表現と動詞を用いて会話の練習 [授業外学習] 会話練習のために、教科書9、10課を読んでおく	⑭	[テーマ] 動詞の可能表現 [内容]「～することができる」の可能表現の練習、教科書13課の単語 [授業外学習] 教科書13課を読んでおく
⑦	[テーマ] 覚えたら便利な動詞 [内容] 身近な動詞を用いて会話の練習、教科書10課 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく	⑮	[テーマ] よく使われる副詞、総括 [内容] 副詞を用いた会話の練習、教科書13課、9課から13課までの総括 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 文末表現 [内容]「明日何をするつもりですか。」を用いてよく使われる文末表現の学習、教科書11課の単語の学習 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく	⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		80%
授業内レポート			○	20%
授業外レポート				無し
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。

関連科目	韓国語Ⅰ		
教科書	『新チャレンジ韓国語』 白水社　金順玉著	参考書	『もっとチャレンジ韓国語』、白水社　金順玉著
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp		

≪人生設計科目≫

授業科目名	キャリアプランニング Ⅰ Career Planning Ⅰ (L.)				担当教員	クラス担任教員、キャリアプランニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

この授業では、学生生活(授業、日常、部活その他)での目的意識(なぜ、今ここにいて、これをやっているのか)を吟味することを通じ、大学生活の充実を図ります。また、1年生からの人生設計(キャリアプランニング)の意識化を行います。

授業の一般目標

ライフステージの一段階として大学生活を考え、学生生活の目標を自分なりにさだめることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	改めて入学時の目標や夢を再確認する。今後の大学生活と進路とを結びつけて考えられる。希望の職業以外の職業にもある程度の知識を持つ。
■	情意的領域	職業や進路を話しあうことができる仲間を持つ。
■	技能表現的領域	コース選択や科目履修を主体的に計画できる。

授業計画(全体)

実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態をとります。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全クラス合同) [内容] キャリア・プランニングの考え方について説明し、本授業の流れについて説明します。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しを考える。(90分)	⑨	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格2(クラス単位) [内容] グループごとに調べた職業について、クラス内で発表します。 [授業外学習] 発表準備。(90分)
②	[テーマ] 講話①(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直す。(90分)	⑩	[テーマ] 他者からみた自分・自分からみた他者 (クラス単位) [内容] 仲間からどのように見られているかを互いに検討することを通じ、人間関係における自分のポジションや役割を考えます。 [授業外学習] 他者にどう接するべきかを考える。(90分)
③	[テーマ] 講話②(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直してみよう。	⑪	[テーマ] 社会が求める「スキル」「能力」とは (クラス単位) [内容] 行政や産業界から求められる様々な能力のうち、「社会人基礎力」をとりあげ、自己評価を行います。 [授業外学習] 自分の「強み」「弱み」の活かし方を考える。(90分)
④	[テーマ] 導入演習、夏休みの反省、後期の目標(クラス単位) [内容] 本学進学当時の目的について改めて思い返し、夏休みの反省も踏まえ、後期の大学生活の目標を考えます。 [授業外学習] 進学当時からのことを改めて振り返る。(90分)	⑫	[テーマ] 「夢」を描こう(クラス単位) [内容] 10年後の自分を想像したり、10年前の夢を思い出したりしながら、自分の夢について語りあってみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。(90分)
⑤	[テーマ] 「はたらく」とはどういうことか (クラス単位) [内容] 「はたらく」ということを深く考えると難しい面があります。改めて自分なりに考えてみます。 [授業外学習] はたらく意味を自分なりに考える(90分)	⑬	[テーマ] 来年度の目標を書こう(クラス単位) [内容] 2年生を見据えて、来年どんなことに挑戦したいか、またそのためにどのような取り組みが必要かを検討してみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。(90分)
⑥	[テーマ] 教師になるには? (クラス単位) [内容] 入学生の過半が希望する教師という職業について、その現状と超えるべきハードル、日程について確認します。 [授業外学習] 教師になるまでの道のりについて調べる(90分)	⑭	[テーマ] 就職内定の4年生・卒業生の話を聞こう(全クラス合同) [内容] 就職の内定を得た4年生や卒業生をお呼びし、進路決定方法、準備方法、現段階でやるべきことなどの講話をしてもらいます。 [授業外学習] 自分なりの就職に向けたスケジュールを考える。(90分)
⑦	[テーマ] 体育・スポーツ系の仕事とは?(クラス単位) [内容] 教師以外の体育・スポーツに関わる仕事、業界と関連資格などを調べ、自分の志望を再度確認します。 [授業外学習] 興味のある職業について考える。(90分)	⑮	[テーマ] 自分の人がらと適職について考えよう(全クラス合同) [内容] 職業興味検査を行い、自己採点と自己分析をしよう。 [授業外学習] 職業興味検査の結果をよく検討する。(90分)
⑧	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格1(クラス単位) [内容] スポーツ系以外で世の中にはどんな職業があるのか、またそれらに関連する資格、知識、技能とは? グループごとに調べます。 [授業外学習] グループ学習。(90分)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	10%
授業外レポート	◎	◎	◎	20%
演習・実技	◎	◎	◎	20%
授業態度	◎	◎	◎	50%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。諸君の自己啓発意欲に期待します。
また、クラス合同の場合の実施教室等は掲示により周知します。

関連科目	キャリアプランニングⅡ・キャリアプランニングⅢ		
教科書	「キャリアプランニング Ⅰ 演習資料」 (オリエンテーション時に配布します)	参考書	
連絡先	クラス担任教員		

授業科目名	キャリアプランニングⅡ Career Planning Ⅱ(S.)				担当教員	キャリアプラニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

就職活動の準備段階として必要な事項について概説する。具体的には、自分は何が得意か、何に向いているかなど、自分自身を知る作業の方法や、昨今の就職をめぐる状況と就職に至るまでの道のりについて概説をする。講義を聞く代わりにインターンシップ(職業体験実習)を行うことも可能である。

授業の一般目標

「自分と職業生活・職業選択」をメインテーマに、自分自身について自覚的に考え、同時に、様々な職業と就職までの道のりについて具体的に考えられるようになることが目標となる。

授業の到達目標

■	認知的領域	職業について、より深い具体的知識を備える。また、職場の人間関係や「やりがい」について自分なりに意見を持てる。
■	情意的領域	職業選択に当たり、自分なりの動機をより強くする。
■	技能表現的領域	社会人らしい考え方、話し方をすることができる。

授業計画(全体)

下記の内容を集中講義の形で実施する。期日等については、後日掲示する。
インターンシップについては、事前のオリエンテーションから実習後のレポート提出までの日程を掲示により告知する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 現時点の将来像を確認するとともに、本授業の流れについて説明する。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しについて考える。(90分)	⑨	[テーマ] 社会を知る① [内容] 職業選択理論の考え方を学び、ゲーム形式で実践する。 [授業外学習] 職業の種類や幅について事前に調べておく。(90分)
②	[テーマ] 大学生の就職状況に関する現状分析 [内容] 大学生の就職状況について概説する。 [授業外学習] 就職状況をふまえ、自分の対策を考えること。(90分)	⑩	[テーマ] 社会を知る② [内容] 昨今の就職環境や企業・官公庁における採用動向から就職活動について考える。 [授業外学習] 就職情報サイトなどを事前に閲覧しておく。(90分)
③	[テーマ] 就職までの道すじ [内容] 就職内定までの手続き、必要なことがらを、職種ごとに概説する。 [授業外学習] 関心ある職業について必要なことがらを押さえる。(90分)	⑪	[テーマ] 社会人基礎力① [内容] 社会人基礎力の各要素とその具体的場面における重要性について、講話を行なう。 [授業外学習] 自分なりに職業の位置づけを検討すること。(90分)
④	[テーマ] 自己分析の目的と必要性 [内容] 就職活動で必要となる自己分析の意義と企業等の目的について概説する。 [授業外学習の指示等] 自分なりに自己分析の方針を考える。(90分)	⑫	[テーマ] 社会人基礎力② [内容] 社会人基礎力の各要素について自己評価を行い、エントリーシートなどの分析につなげる。 [授業外学習] 自分なりに職業の位置づけを検討すること。(90分)
⑤	[テーマ] 自己アセスメント① [内容] 自己分析の材料として、自己アセスメント(VPI予定)を行う。 [授業外学習] わからない職業は自分なりに調べておく。(90分)	⑬	[テーマ] キャリアデザイン① [内容] 目標設定理論をもとに、目標とモチベーションの関係について理解を深める。 [授業外学習] 将来の夢や希望の再確認をしておくこと。(90分)
⑥	[テーマ] 自己アセスメント②結果検討 [内容] 自己アセスメントの結果を自己採点し、結果を分析、検討する。 [授業外学習] 分析結果から見た自分像について考える。(90分)	⑭	[テーマ] キャリアデザイン② [内容] グラジュエーション・リストを作成し、目標達成のための方策の具体化を図る。 [授業外学習] 残りの学生生活でやりたいことを事前にまとめる。(90分)
⑦	[テーマ] コミュニケーション能力① [内容] 社会人として必要なコミュニケーション能力について概説する。 [授業外学習] 自分のコミュニケーション能力を検討する。(90分)	⑮	[テーマ] まとめ [内容] これまでのまとめ [授業外学習] 提出物などに漏れがないか確認する。(90分)
⑧	[テーマ] コミュニケーション能力② [内容] 社会人として必要なコミュニケーション能力について、グループワークを行なうことによってその必要性や具体的発揮法を感得する。 [授業外学習] 自身のコミュニケーション力を再検討する(90分)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	30%
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	35%
授業態度	◎	◎	◎	35%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。諸君の自己啓発意欲に期待します。

関連科目	キャリアプランニングⅠ・キャリアプランニングⅢ		
教科書		参考書	
連絡先	キャリアプラニング運営担当教員(オリエンテーション時に告知する)		

授業科目名	キャリアプランニングⅢ Career Planning Ⅲ(L.)				担当教員	学科・コースのグループ担当教員 キャリアプラニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

3年次前期は、将来の進路について明確なイメージを固めゆく時期である。キャリアプランニングⅢでは、学生の進路への意識を高めるべく種々の演習を行うほか、実際の進路指導をめぐる話題を多方面から扱う。

授業の一般目標

1)これまでの自分の生きてきた道程を振り返りつつ、学生生活の二年間を総括する。 2)各人の性格、適性、学力レベルなどを将来の進路希望と関連付けて考える。 3)進路意識を高めるために、企業人事担当者などを招聘し、職業に対するありうべき態度、企業の求める人材像、現在の企業動向等について情報を取得する。 4)より具体的に就活を展開する際に必要とされる知識、技能、手続きなどを把握する。

授業の到達目標

■	認知的領域	学生生活の二年間を将来に結びつけて考える。企業の求める人材像や就職動向について知る。
■	情意的領域	就職活動上、自らの希望を熱意をもって表現する方法の必要性を知ると同時に、実践できる。
■	技能表現的領域	就職活動を展開する際に必要とされる知識、技能、手続きを挙げることができる。

授業計画(全体)

下記に示す内容を中心に、学生各自が実際の就職活動を行う際に役立つ情報を総合的に蓄積していくことが目的である。外部から講師を招聘する場合と、コースまたはクラスごとに演習を行う場合がある。回によって異なるので掲示その他の指示に従うこと。なお、外部から講師を招聘する場合にはクラス合同で授業を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全クラス合同) [内容] 現時点の就職状況を確認するとともに、本授業の流れについて説明する。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しについて考える。(90分)	⑨	[テーマ] 大学院という進路(全クラス合同) [内容] 大学卒業後に継続して学ぶことの意味と意義について考える。 [授業外学習] 大学院の情報を収集する(90分)
②	[テーマ] 自己PRとしての自己紹介 (各クラス) [内容] 就職活動において自己PRは欠かせない。この観点から自己紹介を行ってみる。 [授業外学習]より他者にアピールする自己紹介内容を考える。(90分)	⑩	[テーマ] 就職活動の全体像(全クラス合同) [内容] 就職活動に臨むにあたり、その全体的な流れを把握する。 [授業外学習] 就活支援サイトをチェックする。(90分)
③	[テーマ] 就職の道すじ(各クラス) [内容] 入学以来から卒業までのイベントを挙げながら、就職に至るまでの自らのスケジュールを考える。 [授業外学習] 就職活動のスケジュールを組み立てる。(90分)	⑪	[テーマ] 自己プロデュースの方法 (全クラス合同) [内容] 自分をプロデュースすることの重要性とその方法について述べる。 [授業外学習] 前期の学習内容を振り返る。(90分)
④	[テーマ] 敬語の使いかた・電話一のマナー(各クラス) [内容] 具体的な事例を想定し、仕事上正しい言葉遣いについて考える。 [授業外学習] 敬語等の使い方を調べる。(90分)	⑫	[テーマ] 対人スキルを磨く(全クラス合同) [内容] 就活に即効性があり、修飾語も重要なマナーと対人スキルについて述べる。 [授業外学習] 対人スキルを日常で実践してみる。(90分)
⑤	[テーマ] 自己分析の実際(各クラス) [内容] 仙台大学生として企業等が期待することはどんなことかを検討することを通じ、自らの長所、短所を改めて考える。 [授業外学習] 自分のアピールポイントを考える。(90分)	⑬	[テーマ] 訴求点を探す(全クラス合同) [内容] 自己アピールのポイントと方法を学ぶ。 [授業外学習の指示等] 自分の長所を考える。(90分)
⑥	[テーマ] 自己PR書、自己紹介書の作成(各クラス) [内容] 自己PR書を試作してみることにより、自分という人間を理解してもらう文章作成のポイントを考える。 [授業外学習] 他己分析をしてみる。(90分)	⑭	[テーマ] 視野を拡げる(全クラス合同) [内容] 企業名や規模に惑わされずに企業を選ぶための方法を理解する。 [授業外学習] 求人票を読む。(90分)
⑦	[テーマ] 履歴書とエントリーシートの作成(各クラス) [内容] 履歴書やエントリーシートの試作を通じて、より良い文書の作成について考える。 [授業外学習] 履歴書とエントリーシートの完成版を作成する。(90分)	⑮	[テーマ] 「働く」を疑似体験する(全クラス合同) [内容] 体験型の就活ナビゲーションを通じて、新社会人になることを具体的にイメージする。 [授業外学習] 就活に必要な用具などを揃える。(90分)
⑧	[テーマ] 夏休みの過ごし方(全クラス合同) [内容] 後期から本格化する就職活動を見据えて夏休みにやるべきことを考える。 [授業外学習] 夏休みの行動指針を立てる。(90分)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。これらのために、出席状況および作業への取組状況を主材料とします。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	70%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	30%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

就職活動のスタートが遅れることによる不利を背負わないよう、この授業を始めとして積極的な情報収集を心がけてください。

関連科目	キャリアプランニングⅠ・キャリアプランニングⅡ		
教科書	「キャリアプランニングⅢ演習資料」 (オリエンテーション時に配布します)	参考書	
連絡先	学科・コースのグループ担当教員(オリエンテーション時に告知します)		

2.　専門基礎科目

≪講義≫

授業科目名	スポーツ経営学 Sport Management (L)				担当教員	永田秀隆
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	ストレングス&コンディショニングスペシャリスト、アシスタント・マネジャー、NSCA認定パーソナルトレーナー、レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツが幅広い層に普及している今日、スポーツを指導・振興する上で、経営的なものの見方や考え方が重要となっている。そこで、学校、地域、公共・商業スポーツ施設やプロスポーツといった様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的なアプローチを試みる。

授業の一般目標

スポーツ経営の基本的な構造(仕組みやシステム)について理解する。様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的な視点で捉え、またそのことについて考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ経営の基本構造が説明できる。経営学的な視点でスポーツ現象を捉えられ、そのことについて考察できる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本授業は、スポーツ経営学の入門編と位置づけていることから、多様な視点でのスポーツ経営現象を紹介することになる。
毎回、授業テーマに沿った資料を原則配布し、また受講者の理解を深めることに配慮するためパワーポイントやビデオ等も活用する。数回、授業内容に沿ったレポートを課すことになるので、授業内容を各自がそれなりに理解しておくことが重要である。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション／スポーツ経営学とは [内容] 教員紹介、授業概要(目標、進め方、シラバス、成績評価方法等)の説明／スポーツ経営の構造(仕組み)について概説する [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 商品やスポーツマーケティングの現実 [内容] ビデオ「地球市場　富の攻防 ～最強商品:スーパースター～」を視聴し、概要と感想をまとめる(小レポート該当) [授業外学習]
②	[テーマ] スポーツ組織と取り巻く環境(ステークホルダー) [内容] スポーツ組織の特徴を説明するとともに、スポーツ組織を取り巻く環境(ステークホルダー)を理解し、事例についても考える [授業外学習]プロスポーツを取り巻くステークホルダーを考える	⑩	[テーマ] スポーツ組織の設計とスタッフ [内容] スポーツプロダクト(製品)を生み出すスポーツ組織の捉え方、設計の仕方、スタッフ等について理解する [授業外学習]スポーツ組織について調べておく
③	[テーマ] 市場における競争地位の類型化および経営資源の分類 [内容] 競争地位の類型化について説明するとともに事例検討も実施し、また類型化の前提となる経営資源の分類について理解する [授業外学習]競争地位の類型化に関するレポート作成要領を提示	⑪	[テーマ] スポーツ経営における経営評価 [内容] スポーツ経営現象をよりよいものにしていくための手段としての経営評価に着目し、その考え方を理解するとともに応用できるようにするため身につける [授業外学習]経営評価について調べておく
④	[テーマ] ブランド資産の創造とブランド価値評価 [内容] ブランドの概念、意義、資産とその維持に関して概説し、またブランド価値評価に関するデータも示す [授業外学習]各自の所属する学科のロゴマークを考えておく	⑫	[テーマ] プロスポーツの経営 [内容] 日本のプロスポーツ(Jリーグ等)を取上げ、そこでの組織の取組(経営)と消費者としての観戦者の特性に着眼し、現場での経営についての理解を深める [授業外学習]各自の関心のあるプロスポーツの現状を把握しておく
⑤	[テーマ] 商品の構造や開発、市場での経営戦略 [内容] ビデオ「NO.1を死守せよ ～カローラ40年目の苦闘～」を視聴し、キーワードを抽出する(小レポート該当) [授業外学習]	⑬	[テーマ] プロスポーツ経営の実際 [内容] プロスポーツの現場における経営の実際について、現場経験者の取り組みを視聴し、考察を深める [授業外学習]
⑥	[テーマ]プロダクト(製品)とスポーツプロダクト [内容] プロダクトの概念、製品の開発やライフサイクル、スポーツプロダクトの構造を理解し具体例についても考察する [授業外学習]製品ライフサイクルについて調べておく	⑭	[テーマ] 商業スポーツ施設の経営 [内容] 激しい競争環境の中にある商業スポーツ施設の経営の現状や課題等について理解を深め、今後の方向性について考える [授業外学習]特定の商業スポーツ施設について、その概要を調べておく
⑦	[テーマ] スポーツイベントの特徴及びメディアとの関係 [内容] イベント及びスポーツイベントの概要や波及効果を認識し、またスポーツイベントとメディア(テレビ)との関係について理解し検討する [授業外学習]スポーツイベントについてイメージを膨らませておく	⑮	[テーマ] 地域スポーツの経営 [内容] 地域に存在する各種スポーツ団体、総合型地域スポーツクラブ、あるいは地域と関わりの深い学校体育経営の現状や課題について概説する [授業外学習]地元に総合型地域スポーツクラブがどれだけあるか調べる
⑧	[テーマ] スポーツマーケティングの概要・計画・戦略 [内容] スポーツマーケティングの枠組み、計画づくり、そしてマーケティング戦略について、実践例を交え説明する [授業外学習]マーケティングとは何か調べておく	⑯	[テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り [授業外学習]

成績評価方法(方針)

授業外レポート(25%)、授業内レポートとリアクションペーパー(75%)の結果に基づき、総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎			75%
授業外レポート	◎			25%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・本授業は、体育学科、スポーツ情報マスメディア学科と現代武道学科では必修であり、特に体育学科のスポーツマネジメント・コースの基礎科目となる。前記コースへの所属を強く希望する学生は、皆出席を目指してもらいたい。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・15分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により変更することがある。

関連科目	スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツマーケティング論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツ産業論(3年)、スポーツクラブマネジメント論(3年)、スポーツ政策論(4年)		
教科書		参考書	山下秋二他『スポーツ経営学』大修館書店、 八代勉他『体育・スポーツ経営学講義』大修館書店　他
連絡先	A棟3階312:永田研究室(hd-nagata@sendai-u.ac.jp)　オフィスアワー:火曜日　10:20　～　11:50		

授業科目名	スポーツ社会学 Sociology of Sport (L)				担当教員	荒牧　亜衣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(中高保体), レクリエーションコーディネーター, アシスタントマネージャー, ジュニアスポーツ指導員, 社会教育主事任用
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツと社会との関係から、近代スポーツの特徴および現代スポーツの特徴やその意義、役割を概説する。また望ましいスポーツ振興のあり方や方法について具体的に解説する。

授業の一般目標

スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方が理解できるようになる。さらにわが国のスポーツ文化の特徴や今後の望ましいあり方について思考できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	わが国のスポーツの現状や望ましいスポーツのあり方について説明できる。
■	情意的領域	スポーツ指導やスポーツ集団の運営に関心をもち、意欲的に取組むことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

テキストに沿って、その内容および関連事項について解説する。また各章が終わった時点で、内容の理解のための小テストを行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　スポーツ社会学とは何か [内容]　オリエンテーションを兼ね、スポーツ社会学とは何かを解説する。 [授業外学習]　シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ]　スポーツ参与とスポーツ的社会化(2) [内容]　スポーツへの社会化とスポーツ・ドロップアウト, バーンアウトについて解説する。 [授業外学習]スポーツドロップアウトやバーンアウトの原因について考えておくこと
②	[テーマ]　現代スポーツの特徴と「スポーツの危機」 [内容] 現代スポーツの特徴を解説するとともに、「スポーツの危機」と言われるスポーツをめぐる諸問題について説明する。 [授業外学習]　スポーツにおける諸問題について発表できるようにしておくこと	⑩	[テーマ]　スポーツ参与とスポーツ的社会化(3) [内容]　日本人のスポーツ参与の実態と生涯スポーツの課題について解説する。 [授業外学習]　日本人のスポーツ参加のデータを調べておくこと
③	[テーマ]　スポーツと社会(1) [内容]　近代スポーツの誕生とその社会的背景について解説する。 [授業外学習]　イギリス近代社会の特徴について理解しておくこと	⑪	[テーマ]　スポーツ集団(1) [内容]　わが国のスポーツ集団の特徴とその背景について解説する。 [授業外学習]　大学運動部の歴史について簡単に調べておくこと
④	[テーマ]　スポーツと社会(2) [内容]　現代社会におけるスポーツの意義や役割について解説する。 [授業外学習]　現代社会とはどのような特徴を持つのかを理解しておくこと	⑫	[テーマ]　スポーツ集団(2) [内容]　望ましいスポーツクラブづくりについて解説する。 [授業外学習]　テキスト48頁から52頁を熟読しておくこと
⑤	[テーマ]　スポーツと文化(1) [内容]　スポーツの文化的性格について解説する。 [授業外学習]　文化とは何かを調べておくこと	⑬	[テーマ]　スポーツと政治・経済(1) [内容]　スポーツと政治との関係について解説する。 [授業外学習]ベルリン(1936)や東京(1964)のオリンピックについて調べておくこと
⑥	[テーマ]　スポーツと文化(2) [内容]　文化論的プレイ論(ホイジンガ, カイヨワのプレイ論)について解説する。 [授業外学習]　ホイジンガやカイヨワという学者について簡単に調べておくこと	⑭	[テーマ]　スポーツと政治・経済(2) [内容]　スポーツと経済との関係について解説する。 [授業外学習]　テキスト154・155頁を熟読しておくこと
⑦	[テーマ]　スポーツと文化(3) [内容]　スポーツ文化の構成要素とスポーツ観について解説する。 [授業外学習]　自らのスポーツ観について発表できるようにしておくこと	⑮	[テーマ]　地域スポーツの課題と総合型地域スポーツクラブ [内容]　総合型地域スポーツクラブについて、その理念や課題等について解説する。 [授業外学習]　身近な地域スポーツやそのクラブの特徴について調べておくこと
⑧	[テーマ]　スポーツ参与とスポーツ的社会化(1) [内容]　スポーツ参与およびスポーツ的社会化の概念について解説する。 [授業外学習]　野生児(アヴェロンの野生児, 狼少女)について調べておくこと	⑯	[テーマ]　試験 [内容]　授業の理解度・到達度を確認するための期末試験を行う。 [授業外学習]　テキストを熟読し、復習しておくこと

成績評価方法(方針)

期末試験の成績(評価割合80%)を基本とするが、小テストの成績(評価割合20%)、および積極的な授業態度も加点する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		加点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・テキストに沿って授業を行うので、必ず下記テキストを準備し、予習をしておくこと。
・受講は静粛を旨とし、質問に対しては積極的に発言すること。

関連科目	スポーツ経営学(1年), 地域スポーツ論(2年)		
教科書	丸山富雄編著『現代スポーツ論』中央法規出版	参考書	
連絡先	荒牧研究室		

授業科目名	スポーツ心理学 Sport Psychology (L.)				担当教員	粟木一博／菊地直子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	中高保健体育、スポーツプログラマー、社会教育主事任用資格
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人の間で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツの場面に存在する様々な問題を心理学的に解説する。さらに、それを競技力の向上やスポーツの指導のために応用する方法について解説する。

授業の一般目標

スポーツ心理学の基礎的な事項を学習し、競技力の向上やスポーツ指導の場面に存在する様々な問題を心理学的に把握できる。さらに、自分自身の競技生活やスポーツの指導場面にこれらの知識を当てはめて考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ心理学の基礎的事項についての説明ができる。スポーツ場面に存在する問題を心理学的に捉えることができる。
■	情意的領域	スポーツ場面の問題点に対して主体的に興味を持ち、心理学的に焦点を当てて考えることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

スポーツ心理学の基礎的な知識に関する解説を行なう。それらが実際のスポーツ場面で応用できるように自分自身のスポーツ経験に照らし合わせて考える時間や具体的な事例の提示を行なう。学習内容の振り返りのために小レポートを実施し、理解度到達度を確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方について解説する。 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] スポーツとこころの健康 [内容] メンタルヘルスに関する問題やその重要性について解説する。それとともに、スポーツと発達についても触れる。 [授業外学習]コミュニケーションということばの意味について調べる。
②	[テーマ] スポーツにおける心理アセスメント [内容] 心理テストを利用して心理的なアセスメントを行なうとともに、その利用方法について解説する。 [授業外学習]どのような心理テストがあるのかを調べておく	⑩	[テーマ] スポーツ選手のアイデンティティ [内容] スポーツの低年齢化や高度化に伴い、スポーツ選手のアイデンティティがどのように形成されていくのか解説する。 [授業外学習]「自我同一性」ということばについて調べておく。
③	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論① [内容] 認知、情動、欲求の各側面から今日までの動機づけ理論について解説する。 [授業外学習]「やる気」とはどのようなものか発表できるように準備する。	⑪	[テーマ] ストレスの概念と生体の反応及びアセスメント ストレスの概念・定義及び各因子について解説するとともに、その評価方法についても解説する。 [授業外学習]自分のストレスについてまとめておく。
④	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論② [内容] 原因帰属理論、内発的動機づけ理論などについて解説する。スポーツ場面における動機づけ理論の応用について解説する。 [授業外学習]前回学習した動機づけ理論の基礎について確認をする。	⑫	[テーマ]スポーツ選手の性格 [内容]スポーツ選手の生きている現実的・心理的世界を探求し、理解させる。 [授業外学習]自分のストレスを評価してみる。
⑤	[テーマ] スポーツにおける目標設定 [内容] 動機づけを高める手法としての目標設定について解説する。 [授業外学習]自分の目標をワークシートに表現できるように整理する。	⑬	[テーマ]スポーツカウンセリング① [内容] スポーツに関与するうちに起こるスポーツ障害、およびストレスについて解説する。 [授業外学習]スポーツ選手の育つ環境的側面について復習しておく。
⑥	[テーマ] スポーツにおける集中力① [内容] 「注意」の性質について解説する。スポーツにおける「集中力」の性質について解説する。 [授業外学習]「集中力」ということばの意味について調べておく。	⑭	[テーマ] スポーツカウンセリング② [内容]熱中度の高いスポーツアスリートのスポーツにおける滞りとその背景、症状について解説する。 [授業外学習]スポーツ障害とアスリートの背景について復習する。
⑦	[テーマ] スポーツにおける集中力② [内容] 情報処理モデルを用いて注意集中について解説する。集中力のコントロールのための方法について解説する。 [授業外学習]前回学習した「集中力」について確認する。	⑮	[テーマ]スポーツカウンセリング③ [内容] スポーツ選手のこころの健康と競技について、示唆し、考えさせる。 [授業外学習]スランプやプラトーについて調べる。
⑧	[テーマ] スポーツとリーダーシップ [内容] 特性論、類型論、機能論、状況適合論からリーダーシップ理論について解説する。また、グループダイナミクスについて解説する。 [授業外学習]望ましいリーダー像について説明できるようにしておく。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度を測定するための試験を実施する。 [授業外学習]テストの準備をしておく。

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を一回実施する（評価割合60%）。また、授業内レポート（評価割合40%）を課す。そしてこれらの結果を総合して成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			60%
授業内レポート	○	◎		40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	粟木研究室（E棟2階：内線336）、菊地研究室（第4体育館1階：内線429）		

授業科目名	スポーツバイオメカニクス Sport Biomechanics (L.)				担当教員	宮西智久
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	教員免許状、健康運動指導士、健康運動実践指導者、ｱｽﾚﾁｯｸﾄﾚｰﾅｰ、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、NSCA-CPT、CSCS
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツバイオメカニクスは、「スポーツ運動において、力学的な力(外力と内力)が身体とその運動に及ぼす影響を研究する科学」である。本講義では、スポーツの運動を題材にしてスポーツバイオメカニクスの基盤となる力学(ニュートン力学)の基礎的事項を中心に学習する。具体的には、運動を記述するキネマティクス(運動学)、運動の原因に迫るキネティクス(運動力学)を中心に、さらに流体力学、筋収縮の力学について学ぶ。

授業の一般目標

スポーツバイオメカニクスとは何かを理解し、体育・スポーツの技術指導やトレーニング現場で直面する問題を解決するにあたって、スポーツバイオメカニクスの知識や知見を活用・応用することができる。すなわち、身近なスポーツの運動について、パフォーマンスの向上と傷害予防の観点から合理的な運動や安全な運動とは何かを科学的に理解し説明することができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツバイオメカニクスで用いるキー概念や専門語の意味について理解し、スポーツの運動現象について論理的に説明することができる。
■	情意的領域	スポーツの運動における実践的主観を客観化することによって興味や関心を深める。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本講義は大きく6つのパートから構成されている。パートⅠ:スポーツバイオメカニクス序説(1回)、パートⅡ:キネマティクス(並進運動のキネマティクス2回、回転運動のキネマティクス2回)、パートⅢ:キネティクス(並進運動のキネティクス3回、回転運動のキネティクス3回)、パートⅣ:仕事・エネルギー・パワー(1回)、パートⅤ:流体力学(1回)、パートⅥ:筋収縮の力学(2回)。本講は、これらのパートについて順に系統だって進められる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] スポーツバイオメカニクス序説 [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行った後、スポーツバイオメカニクスの歴史をひも解き、定義、目的、現代的意義を述べる。 [授業外学習] 教科書(1章)	⑨	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅠ [内容] 力のモーメント(トルク)、回転運動の発生、力のモーメント計算 [授業外学習] 教科書(6章)
②	[テーマ] 力学と数学の基礎 / 並進運動のキネマティクスⅠ [内容] 力学モデル、運動の形態(並進/回転/一般)と種類(等速/等加速度/加速度)、スカラー量とベクトル量、ベクトルの加算・減算、三角関数、行列、微分・積分、SI単位 [授業外学習] 教科書(2, 3章)	⑩	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅡ [内容] つり合い、てこの原理、重心とその測定法、重心の性質、姿勢の安定、慣性モーメント、平行軸の定理 [授業外学習] 教科書(6章)
③	[テーマ] 並進運動のキネマティクスⅡ [内容] 位置、速度、加速度、加速度の正負、加速度と力の関係、等速度運動と等加速度運動、放物運動 [授業外学習] 教科書(3章)	⑪	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅢ [内容] ニュートンの運動の三法則の回転版、回転の運動方程式、角運動量と角力積、角運動量保存の法則 [授業外学習] 教科書(6章)
④	[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅠ [内容] 角度、角速度、角加速度、角加速度の正負、角加速度と力のモーメントの関係 [授業外学習] 教科書(4章)	⑫	[テーマ] 仕事・エネルギー・パワー [内容] 仕事と力、仕事と力学的エネルギー、衝突と力学的エネルギーの保存、仕事とパワー、パワーと力学的エネルギー、エネルギーの変換、力学的効率 [授業外学習] 教科書(7章)
⑤	[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅡ [内容] 回転運動変量の方向、角速度と速度の関係、等速円運動と等角加速度運動 [授業外学習] 教科書(4章)	⑬	[テーマ] 流体力学:空気や水による力 [内容] 物質の三態、アルキメデスの原理、浮力と浮心、層流と乱流、流体力(抗力・揚力)、ベルヌーイの定理、マグヌス効果 [授業外学習] 教科書(8章)
⑥	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅠ [内容] 力、力の三要素、ニュートンの運動の三法則の並進版、ダランベールの原理 [授業外学習] 教科書(5章)	⑭	[テーマ] 筋収縮の力学Ⅰ [内容] 筋の種類と構造・機能、骨格筋の力発揮特性(力ー長さ関係、力ー速度関係、力ーパワー関係)、筋収縮モデル [授業外学習] 教科書(9章)
⑦	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅡ [内容] いろいろな力(万有引力と重力、垂直抗力と摩擦力、外力と内力)、運動量と力積、運動量保存の法則 [授業外学習] 教科書(5章)	⑮	[テーマ] 筋収縮の力学Ⅱ [内容] 身体外部の物体へ発揮する力、関節モーメントの発生、筋張力計算、筋張力発揮増大に関わる要因 [授業外学習] 教科書(9章)
⑧	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅢ [内容] フリーボディダイアグラム、並進の運動方程式、加速度と力・速度・変位の関係 [授業外学習] 教科書(5章)	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 選択問題(マークシート方式) [授業外学習] 教科書・参考書、ノート等を十分復習し試験に万全を期すこと。

成績評価方法(方針)

定期試験(教科書・参考書、ノート類の持ち込み不可)、授業内レポート、出席率等に基づき評価する。受講態度が悪い学生は減点対象とする。詳細は第1回目の講義において伝える。

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○			60%
授業内レポート	○			20%
授業外レポート				–
演習・実技				–
授業態度		○		減点対象
出席		○		20%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

受講条件:
1. 教科書を購入し必ず持参すること。教科書を持参しない者は欠席とします。
2. 学生証を忘れた者は欠席とします。
3. 学期末定期試験の受験資格者は総授業時数の2/3以上の出席率(学則参照)を満たした者です。授業の公欠はありません。受験資格者は最終講義後に掲示板にて発表します。試験は学則に基づき実施します。
4. 指定座席に座ること。
5. 携帯電話の電源を切り、手に持たないこと。
6. 講義に集中し静聴すること。静聴できない学生は周囲に多大な迷惑を掛けるだけでなく、講義の進行に大変支障を来しますので受講しないで下さい。なお、受講態度が悪い学生は減点するだけでなく、退室させる場合があります。
7. 高校までの物理学(力学)や数学で学習した知識で理解できる内容です。教科書の予習に加え、中学・高校時の物理学・数学の教科書を復習し講義に臨んで下さい。なお、計算問題がありますので電卓(関数電卓推奨)を持参下さい。
8. その他重要事項は第1回目の講義において伝えますので、必ず出席すること。

関連科目	スポーツ技術観察論(2年)、スポーツコーチング実習(3年)、ストレングス&コンディショニング実習(3年)、卒業論文(4年)		
教科書	スポーツバイオメカニクス(宮西編, 化学同人)	参考書	スポーツ技術のバイオメカニクス(J.Hay著, BookHouse HD) スポーツバイオメカニクス20講(阿江・藤井著, 朝倉書店)
連絡先	管理研究棟4F404号室 【オフィスアワー:木曜日16:00～17:30】		

授業科目名	運動生理学 Exercise Physiology (L)				担当教員	内丸　仁
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	中学校・高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

運動生理学では生理学や解剖学を基礎として、活動（運動時）状態における人体の働きについて、生理学的な機能あるいは構造学的変化について体系的に講義を行う。

授業の一般目標

運動時の筋・神経・呼吸・循環系の生理学的な機能および働きあるいは構造学的変化について学ぶ。また、競技力向上のためのトレーニング、ウオームアップおよびクールダウンの重要性、疲労、健康に及ぼす運動の効果についても理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応について理解する。
■	情意的領域	実際の活動（運動およびトレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことが出来るようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各回の授業テーマについて、PowerPointを用いた講義が中心となる。また、 各授業毎に小テストを実施・提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 運動生理学とは？ [内容] 運動生理学の授業の進め方と生理学、運動生理学およびスポーツ生理学についての説明 [授業外学習] シラバス参照	⑨	[テーマ] 運動とエネルギー代謝 [内容]　生命活動に必須のエネルギー代謝、および運動代謝について、栄養素と関連づけながら説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること
②	[テーマ]　運動と骨格筋Ⅰ [内容]　筋の分類と運動を起こす骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズムについて説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること	⑩	[テーマ]　運動と内分泌系とストレス [内容]　運動時に生体内で分泌されるホルモンの名称と働き、運動によるストレスの変化やトレーニングによるストレスへの適応について説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること
③	[テーマ]　運動と骨格筋Ⅱ [内容]　筋収縮におけるATPの役割と無酸素的および有酸素的エネルギー供給機構について説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること	⑪	[テーマ]　運動と免疫 [内容] 運動における免疫系の変化やトレーニングによる免疫機能の適応について説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること
④	[テーマ]　運動と骨格筋Ⅲ [内容]　筋線維のタイプと筋力・筋パワー・筋持久力特性について説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること	⑫	[テーマ] 運動と内部環境（体温調節・水分補給） [内容] 高温や低温環境における運動による体温の変化や調節機能、運動における体内の水分バランスや水分補給について説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること
⑤	[テーマ]　運動と神経 [内容]　神経の名称と働き、および運動に関連する神経機構、運動単位および反応と反射について説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること	⑬	[テーマ]　運動と外部（高温、高地、水中他）環境 [内容] 高地、水中といった異なる環境下での運動時の生理学的な応答について説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること
⑥	[テーマ]　運動と呼吸循環Ⅰ [内容]　運動時の呼吸の調整と肺換気のメカニクスおよび呼吸筋のトレーニングの重要性および無酸素性作業閾値について説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること	⑭	[テーマ]　体力と体力特性とトレーニング [内容]　体力の定義とスポーツ選手を中心としたの体力特性について、体力維持・増進のためのトレーニングについて説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること
⑦	[テーマ]　運動と呼吸循環Ⅱ [内容]　肺・心臓・血液などの呼吸循環系による酸素の運搬と組織における酸素利用、および運動における酸素の役割、関連する酸素摂取量について説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること	⑮	[テーマ]　運動と健康および加齢 [内容]　健康に及ぼす運動の効果、加齢に伴う健康の問題点やその予防方法としての運動について説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること
⑧	[テーマ]　運動と呼吸循環Ⅲ [内容]　運動における酸素借および酸素負債、血液のポンプ作用としての心臓の働きと心拍数および血圧について説明する [授業外学習]　参考書および資料をもとに復習すること	⑯	[テーマ]　テスト [内容]　授業の理解度・到達度を確認するためにテストを実施する。 [授業外学習]　これまでの復習をすること

成績評価方法（方針）

筆記テスト（持込不可）を1回実施する（評価割合60%）。また、授業内に実施するクイズ（評価割合10%）および出席状況（評価割合30%）を含めた成績評価を行う。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には減点の対象とする。出席が2/3（10回）未満の学生は失格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			60%
授業内レポート	◎	○		10%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席		◎		30%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする（欠格条件）。
・参考書やノートを持参すること。
・講義中に私語などで他の学生の迷惑になる、あるいは授業に支障をきたすと判断した場合には退出してもらう。授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とする（減点あり）。
・予習・復習を行うこと。
・授業計画は授業の進行状況により多少前後することがある。

関連科目	解剖・生理学、体力相談と運動処方、トレーニングのプログラムデザイン		
教科書	スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識 村岡功編著　市村出版	参考書	運動生理学　石河利寛、杉浦正輝共著　建帛社 はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ3　スポーツ生理学　冨樫健二編　化学同人
連絡先	研究室：C棟2F		

授業科目名	スポーツ医学概論 Introduction to Sports Medicine（Ｌ.）				担当教員	橋本　実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中高保体、養護）、健康運動指導士、健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー、レクリエーション・コーディネーター、福祉レクリエーション・ワーカー、障害者スポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。

授業の一般目標

スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する。
■	情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学習]当日配布するプリントを参照すること	⑨	[テーマ] 体液 [内容] スポーツに関連する体液の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
②	[テーマ] スポーツ医学の基礎 [内容] スポーツ医学の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑩	[テーマ] 細胞 [内容] スポーツに関連する細胞の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
③	[テーマ] ドーピング① [内容] ドーピングに関連する知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑪	[テーマ] 免疫 [内容] スポーツに関連する免疫の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
④	[テーマ] ドーピング② [内容] ドーピングに関連する防止策や実態について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑫	[テーマ] 赤血球 [内容] スポーツに関連する赤血球の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 呼吸器 [内容] スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑬	[テーマ] 高地トレーニングと貧血 [内容] 高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 循環器 [内容] スポーツに関連する循環器の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑭	[テーマ] 骨格筋 [内容] スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑦	[テーマ] 遺伝 [内容] スポーツに関連する遺伝の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること

成績評価方法（方針）

基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席（5回までの欠席に）するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。
出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

授業中は下記の項目を厳守すること。
1. スマホ、携帯電話の電源を切る。
2. スマホでの撮影は留学生以外は禁止。
3. 無断で教室を離れない。
4. 挨拶をする。
5. 帽子はかぶらない。
6.私語は厳禁。
講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。

関連科目			
教科書	スポーツ医学概論 講義ノート	参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階　　オフィスアワー:月曜日　14:20～15:50		

授業科目名	スポーツ指導の基礎 Fundamentals of Sports Coaching				担当教員	阿部　肇・武石健哉
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格，ﾚｸﾚｰｼｮﾝｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ，ｼﾞｭﾆｱｽﾎﾟｰﾂ指導員，ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛｸﾞﾗﾏｰ，障害ｽﾎﾟｰﾂ指導員
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツ指導者の実際的な機能と役割は多岐に渡り，選手の競技力向上を目的とした助言や介助的行為のみならず，スポーツ組織におけるマネジメント的側面での責務も大きい．本講義では，指導者の機能と役割とは何かに始まり，トレーニング構成の諸原則，ならびに種々のマネジメント的側面からみた組織論について学習する．

授業の一般目標

スポーツ指導におけるコーチ（指導者）の実際的な職務を知り，求められる能力を理解できるようなる．そして，実践の場における指導上の様々な具体的な方法論を身に付ける．そこには，組織運営上のマネジメント側面やトレーニング計画を立案，実行する選手育成の内容も含まれる．

授業の到達目標

■	認知的領域	コーチの役割と，その実務における具体的な方法論を説明できる．
■	情意的領域	指導に関する理論的な思考を持つことができる．
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本講義では，先ず指導者の実際的な機能と役割とは何かについて，トレーニングや試合場面での選手への助言や介助的な行為といった狭義なものから，スポーツ組織におけるマネジメントといったより広義な側面まで概説する．その後に，指導者として選手に提供するトレーニング内容をいかに構成（デザイン）していくべきかについて，より詳細に講義を進める．

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 講義ガイダンス [内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] トレーニング課題と手段，方法の関係 [内容] トレーニングにおける「手段-方法-課題」の対応関係を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
②	[テーマ] スポーツ（競技）集団の構造と指導者 [内容] 競技集団にはどのような構造があり，そこでの指導者の関わりを説明する [授業外学習]資料を基に予習しておくこと	⑩	[テーマ] トレーニング構成の一般原理 [[内容] トレーニング計画を立案する際の一般原理を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
③	[テーマ] 発達過程におけるコーチ・選手関係の変化 [内容] 選手の発達に伴うコーチと選手の関係のあり方を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑪	[テーマ]　トレーニング構成の基本単位 [内容] トレーニングを構成する，課業，ミクロ，メゾ，マクロの基本単位を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
④	[テーマ] 指導者の機能と役割 [内容] 指導者にはどのような機能があり役割を果たしているか説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑫	[テーマ] トレーニング構成の計画立案 [内容] トレーニング構成の具体的な計画の立案について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑤	[テーマ] 組織における6つの基本構造ブロック [内容] 競技組織（集団）における基本的な構造について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑬	[テーマ] トレーニング構成の実際①（ミクロ周期） [内容] ミクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑥	テーマ] 組織の内部影響力としての基本的引力 [内容] 組織の構造変化を伴う目標や理念による諸引力の存在を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑭	[テーマ] トレーニング構成の実際②（メゾ周期） [内容] メゾ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑦	[テーマ] 組織の基本類型 [内容] 様々なタイプの組織の基本的な構造を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑮	[テーマ] トレーニング構成の実際③（マクロ周期） [内容] マクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑧	[テーマ] 組織のライフサイクル・モデル [内容] 組織構造が諸引力（目標，理念）に導かれ変化する様を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度，到達度を確かめるテストを行う [授業外学習]テストに備えて復習しておくこと

成績評価方法（方針）

試験は，期末試験を1回実施する（評価割合80%）．また，授業内レポートを課す（評価割合20%）．これらの結果を総合して評価を行う．授業中における態度は減点対象となる．出席は欠格条件とする．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

私語，遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない（欠格条件）．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．

関連科目	無し		
教科書	無し（プリント資料を配布する）	参考書	
連絡先	研究室：阿部　肇　A棟4階406　/　武石健哉　4体1階425		

授業科目名	武道概論 Introduction to Budo(L.)				担当教員	齋藤浩二・南條充寿・藪孝太郎・仲田直樹
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

「武道とはなにか」、「なぜ今、武道なのか」等、現代における武道の特性や学校体育における武道の変遷などについて概説し、現状と課題について検討をしていく。

授業の一般目標

武道の特性や学校体育における武道の変遷などが理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができる。また、剣道・柔道についての創始から現在までの経緯についても触れることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	現代における武道の種目やスポーツとの相違点の説明ができる。
■	情意的領域	今なぜ、武道が必要なのか、日本人の行動様式やものの考え方に関心がもてるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

授業は武道全体を捉えた総論を主とするが、代表的な種目である柔道と剣道についての関連した内容と武士道について取り上げて進めていく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業内容の説明と武道の言語 [授業外学習]「武」を用いる熟語をいくつか調べてくること(30分)	⑨	[テーマ] 国民道徳と武道・武士道 [内容] 明治時代に求められた武道・武士道の意味について、井上哲次郎の国民道徳論をもとに検討する [授業外学習] 井上哲次郎について調べておくこと(30分)
②	[テーマ]武道とは何か [内容] 武道の意味や言語について概説する [授業外学習]武道の種目を調べてくること(15分)	⑩	[テーマ] 柔道の創始Ⅰ [内容] 嘉納治五郎が創始した講道館柔道について、柔術からの変遷を中心に解説する [授業外学習]嘉納治五郎について調べてくる(30分)
③	[テーマ] 武道の特性Ⅰ [内容] 武道のわざとかたの捉え方を論じる [授業外学習]「かた」について自分の考えをまとめてくる(15分)	⑪	[テーマ] 柔道の創始Ⅱ [内容] 講道館柔道創始の目的を現在の柔道と比較しながら検討していく [授業外学習]講道館柔道の目的について調べてくる(15分)
④	[テーマ] 武道の特性Ⅱ [内容] 武道の文化論と人間教育などについて [授業外学習]武道から得たことことを書いてくる(15分)	⑫	[テーマ] 柔道における教育的価値Ⅰ [内容] 体育・勝負・修心の目的について解説する 柔道の「稽古」について解説する [授業外学習]練習と稽古の違いについて調べてくる(30分)
⑤	[テーマ] 学校体育における武道の位置と変遷Ⅰ [内容] 学校への導入など、戦前の武道を取り上げる [授業外学習]明治・大正時代の時代背景を調べてくること(30分)	⑬	[テーマ] 柔道における教育的価値Ⅱ [内容] 乱取と形の稽古法について解説する 柔道の技術論について解説する [授業外学習]柔道修行の目的について調べてくる(15分)
⑥	[テーマ] 学校体育における武道の位置づけと変遷Ⅱ [内容] 戦中・戦後について取り上げる [授業外学習]第二次世界大戦について調べてくること(30分)	⑭	[テーマ] 武道とスポーツⅠ [内容] 柔道の歴史的変遷からオリンピック種目に至るまでの経緯を捉えていく [授業外学習]オリンピックとは何か？調べてくる(15分)
⑦	[テーマ] 禅と武道・武士道 [内容] 沢庵禅師と宮本武蔵の関係から、武道・武士道の禅的意味を検討する [授業外学習] 宮本武蔵について調べておくこと(30分)	⑮	[テーマ] 武道とスポーツⅣ [内容] 柔道の国際化を中心に、その普及状況や世界で行われている柔道について解説する [授業外学習]柔道の世界における普及率を調べてくる(30分)
⑧	[テーマ] 儒教と武道・武士道 [内容] 徳川家光と柳生宗矩の関係から、武道・武士道の儒教的意味を検討する [授業外学習] 柳生宗矩について調べておくこと(30分)	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 試験 [授業外学習]授業で用いた資料やノートをよく復習しておくこと

成績評価方法(方針)

試験(70%)、授業内レポート(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席回数が2/3以下の場合は、成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			70%
授業内レポート	○			30%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度		△		加点
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

現代武道学科の学生らしく、節度ある態度で受講してもらいます。ふさわしくない受講態度の場合は、厳しく指導します。

関連科目	武道の応用展開の基礎、武道指導論、柔道方法論、剣道方法論		
教科書	特に指定しない	参考書	中林信二『武道論考』
連絡先	齋藤研究室:第三体育館3階剣道場　オフィスアワー:木曜日　11:00～12:30		

授業科目名	武道の応用展開の基礎 Fundamentals of applied deployment of Martial Arts				担当教員	遠藤保雄/竹内直人
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

武道の応用展開（制圧・逮捕、警備・警護）の実社会での活用による社会の安全・安心の確保に不可欠なリスク・危機管理の修得をベースとして、我が国の危機管理体制、安全保障と自衛隊の役割、海上保安行政、警察の機能と役割について概説する。

授業の一般目標

武道の応用展開とは何か理解した上で、我が国社会の安全・安心を脅かす要因を踏まえ、国家安全保障、周辺海域の海上保安、防犯等の警察の機能・役割、防災のあり方について理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	武道の応用展開の概要と我が国の安全・安心に直結する国防、海上保安、警察の役割とそれぞれの公的機関の機能についての概要を説明できる。
■	情意的領域	武道の応用展開の社会的意義と国防、海上保安、防犯・防災等我が国の社会の安全・安心の確保の方策に関心を持つ。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本授業は、毎回、指定のテーマについて考察し、指定教科書や講義ノートを活用し理解を深めさせる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 社会の安全・安心の確保のためのリスク・危機管理（遠藤） [内容] 社会の安全・安心を脅かす各種のリスク・危機を概観しリスク・危機管理のあり方と取組の類型を概説する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論序章1～3を予習すること(90分)	⑨	[テーマ] 犯罪捜査等の流れ（竹内） [内容] 犯罪発生後の捜査、起訴、公判、科刑、出所後の処遇等の基本的な流れについて理解する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第2章3-4)を予習すること(90分)
②	[テーマ]社会の安全・安心の確保のための体制（遠藤） [内容] 社会の安全・安心の確保に果たす国・公的機関、警備業、企業・国民・地域コミニュティの役割について概説する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論序章4～8を予習すること(90分)	⑩	[テーマ]女性・子ども・高齢者の安全安心（竹内） [内容] 女性・子ども・高齢者の安全安心に係る課題と対策について考察する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第2章4-1)を予習すること(90分)
③	[テーマ]我が国の危機管理体制と国民の人権保護（遠藤） [内容] NSCなど国家の危機管理組織と職務、重要性を増すインテリジェンス機能、危機管理下での国民の人権保護のあり方を概説する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論序章9を予習すること(90分)	⑪	[テーマ] 犯罪被害者支援（竹内） [内容] 犯罪被害者の立場・心情と犯罪被害者支援方策について考察する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第2章4－3）を予習すること(90分)
④	[テーマ]日本の安全保障と自衛隊①（遠藤） [内容] 日本の安全保障上のリスク・危機の考察と国防の基本原則・自衛隊の役割機能を概説する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第1章1～3を予習すること(90分)	⑫	[テーマ] 組織犯罪対策（竹内） [内容] 暴力団をはじめとする組織犯罪の実態とその対策について理解する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第2章4－4）を予習すること(90分)
⑤	[テーマ]日本の安全保障と自衛隊②（遠藤） [内容]第2次大戦後から今日に至る我が国の防衛政策の展開と自衛隊の体制整備の変遷を概説する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第1章4を予習すること(90分)	⑬	[テーマ]国際テロ対策（竹内） [内容] 国際テロの現状と背景要因、国際テロ対策について理解する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第2章4－11）を予習すること(90分)
⑥	[テーマ] 海上保安庁の役割と機能（遠藤） [内容]我が国周辺海域の安全・安心の確保に果たす海上保安庁の多様な機能・役割を概説する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第3章を予習すること(90分)	⑭	[テーマ] 災害時における危機管理①（遠藤・竹内） [内容]災害対策の基本的視点と災害への3段階対応、災害対策の制度的枠組みと行政体制、各種防災計画等について概説する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第6章を予習すること(90分)
⑦	[テーマ] 社会の安全安心と警察（竹内） [内容] 社会の安全安心を守るための基本的な考え方と警察の役割について考察する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第2章1を予習すること(90分)	⑮	[テーマ] 災害時における危機管理②（竹内・遠藤） [内容] 災害時の警察の対応を理解するとともに、危機管理の基本的な考え方について考察する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第6章を予習すること(90分)
⑧	[テーマ] 社会の安全安心に携わる行政機関（竹内） [内容] 警察をはじめとする安全安心のための各種行政機関について概説する。 [授業外学習]社会の安全・安心概論第2章2を予習すること(90分)	⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] クラスでの講義ノートと指定教科書をベースに出題する。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験結果に基づき評価する。暗記ではなく、思考力を重視した評価を行う。その際、①起承転結の論理構造、②リスク管理、安全保障の確保と自衛隊組織国の治安の維持確保と警察制度に関する知識の正当性、③実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○		90%
授業内レポート	◎	○		10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

学則通り全授業の三分の二以上の出席が必要

関連科目	社会の安全・安心概論、応用武道護衛Ⅰ		
教科書	社会の安全・安心概論　仙台大学体育学部現代武道学科	参考書	必要に応じて授業で指示する
連絡先	遠藤　ys-endo@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	日本国憲法 Constitution of Japan				担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（全免許）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

テキストを用いる。日本国憲法の総論と基本的人権の保障の基本的事項を対象にする。

授業の一般目標

憲法の法的意味を理解し、関連する用語を適切に使用できるようになり、日本国憲法について自己学習ができるとともに、憲法に係わる社会的事件について意見を述べることができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	憲法・憲法学上の用語の意味と使用法を理解し、適切に使用できるようになる。
■	情意的領域	特に、基本的人権に係わる問題事項を自ら考え、意見を組み立てて議論できるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

シラバスに挙げた事項につきテキストの関係個所を指摘し、その理解を図り、講義を進める。テキストにない事例は別途配布する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス ・ 導入授業 [内容] 授業の進め方と、単位評価に関する注意事項の説明。 「日本国民」とは誰か [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑨	[テーマ] 生存権の特徴 [内容] 朝日訴訟上告審（最大判昭42・5・24） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか（1） [内容] 憲法の諸ルールと、国家権力の構成、国家権力行使の拘束 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑩	[テーマ] 信教の自由と政教分離（1） [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件（最判平8・3・8） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか（2） [内容] 国法体系における憲法の地位：最高法規性の意味 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 信教の自由と政教分離（2） [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件（最判平8・3・8）、 津地鎮祭事件（最大判昭52・7・13） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 法の下の平等保障は何を意味しているか（1） [内容] 平等保障の概説、 国籍法違憲判決（最大判平20・6・4） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑫	[テーマ] 人権保障と公共の福祉（1） [内容] 「公共の福祉」の概説、 職業選択の自由が問題になった事件からの理解（公衆浴場法合憲件判決と薬事法違憲判決） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑤	[テーマ] 法の下の平等保障は何を意味しているか（2） [内容] 国籍法違憲判決（最大判平20・6・4） 尊属殺重罰違憲判決（最大判昭48・4・4） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑬	[テーマ] 人権保障と公共の福祉（2） [内容] 職業選択の自由が問題になった事件からの理解（公衆浴場法合憲件判決と薬事法違憲判決） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑥	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題（1） [内容] 私的自治の原則の概説、 日産自動車事件（最判昭56・3.24） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑭	[テーマ] 司法裁判所の裁判 [内容] 「法律上の争訟」の意味、 板まんだら事件（最判昭56・4・7） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題（2） [内容] 日産自動車事件（最判昭56・3.24） 三菱樹脂事件（最大判昭48・12・12） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑮	[テーマ] 日本国憲法の違憲審査制 [内容] 日本国憲法の違憲審査権の性質、 警察予備隊違憲訴訟 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 基本的人権の分類 [内容] 基本的人権保障条項の分類項目と、それぞれの特徴 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

成績の評価は、基本的に、筆記試験による。欠席日数は学生便覧「試験細則」による。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

テキストを必ず授業で携行すること

関連科目			
教科書	ワンステップ憲法（嵯峨野書院）	参考書	
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	社会の安全・安心概論 Introduction to Social Safety and Security				担当教員	田中智仁、高橋昌利
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	警備業務検定2級
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

総論では、社会の安全・安心を脅かす要因について、社会的側面と心理的側面の両面から概説する。各論では、主に警備業と消防の分野に着目し、安全管理の歴史、法制度、社会的意義、具体的な方策について概説する。

授業の一般目標

社会の安全・安心を脅かす要因を的確に分析する思考力を培い、適切な安全管理の方策を考案・提言することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会の安全・安心に関心を持ち、理論（歴史と法制度を含む）と実践の多角的な視野で警備や消防を捉えることができる。
■	情意的領域	日常生活における安全管理にとどまらず、社会の安全・安心の確保に貢献する実践的活動に参加する。
■	技能表現的領域	社会の安全・安心を確保するための方策を具体的に考案し、提言することができる。

授業計画（全体）

第1回から第10回までは総論と警備業分野であり、田中が担当する。第11回から第15回までは消防分野であり、高橋が担当する。テキストの内容に基づき、配布資料と板書を中心に授業を進める。また、補助的に映像資料等を適宜使用する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 警備業務の多様性と意義（田中） [内容] 現在の警備業は、どのような業務を実施しているのか。その意義は何かを概説する。 [授業外学習]警備業務の種類を事前に調べる。(90分)	⑨	[テーマ] 警備業法の概要（田中） [内容] 警備業の活動を規定している警備業法について概説し、特別な権限を保持しない場合の実務的対応を検討する。 [授業外学習]警備業法第21～60条の条文を読む。(90分)
②	[テーマ] 日本における警備業の誕生（田中） [内容] 日本において、いつ、どのような社会的背景のもとに警備業が誕生したのかについて概説する。 [授業外学習]日本近代史（明治期以降）を復習する。(90分)	⑩	[テーマ] 警備業の関連法規（田中） [内容] 警備業法に関連する法規を概説し、警備業務実施上の各種制限について検討する。 [授業外学習]警備業法施行規則を読む。(90分)
③	[テーマ] 日本における警備業の発展（田中） [内容] 日本における警備業がどのように発展したのかを、高度経済成長期の社会的背景を踏まえて概説する。 [授業外学習]高度経済成長期の社会的背景を調べる。(90分)	⑪	[テーマ] 消防の役割と消防の組織（高橋） [内容] 社会の安全・安心を脅かすリスク・危機に対する消防の役割、市町村の区域をベースとする消防の組織について概説する。 [授業外学習]日本の消防制度について調べる。(90分)
④	[テーマ] 社会安全のためのインフォーマルなコントロール（田中） [内容]公権力に依拠したフォーマルなコントロールを踏まえ、住民主体のインフォーマルなコントロールについて概説する。 [授業外学習]日常生活の安全管理方法について考える。(90分)	⑫	[テーマ] 消防制度の発足（高橋） [内容] 町火消から消防組・警防団を経て、消防がどのような経緯で発足したのか、自治体消防と消防団の歴史的変遷について概説する。 [授業外学習]日本の消防制度について調べる。(90分)
⑤	[テーマ] 社会安全のためのセミフォーマルなコントロール（田中） [内容] 社会安全のための第三のコントロールとして、NPOと安全産業によるセミフォーマルなコントロールについて概説する。 [授業外学習]官と民の違いについて考える。(90分)	⑬	[テーマ] 自治体消防制度（高橋） [内容] 自治体消防における市町村の消防責任、市町村の消防機関、自治体の枠を超えた消防の組織について概説する。 [授業外学習]日本の消防制度について調べる。(90分)
⑥	[テーマ]警備範囲とコントロール・レベル（田中） [内容] 三種のコントロールが交錯する場として学校警備を取り上げ、警戒線の設定とコントロールのレベルを概説する。 [授業外学習]学校の安全管理方法について考える。(90分)	⑭	[テーマ] 消防の任務（高橋） [内容] 消防の任務と機能及び災害の類型、災害対応、火災予防対策、危険物の規制、地域住民等の自主防災活動について概説する。 [授業外学習]日本の消防制度について調べる。(90分)
⑦	[テーマ] 警備業による社会不安への対応（田中） [内容] 社会不安によって生起する警備の需要について、どのように対処すべきかを概説する。 [授業外学習]マスコミの事件報道の特徴について考える。(90分)	⑮	[テーマ] 消防と行政機関との協力（高橋） [内容] 消防と警察・海上保安庁・自衛隊等他の公的機関との連携及び機能分担について概説する。 [授業外学習]日本の消防制度について調べる。(90分)
⑧	[テーマ] 警備業法の成立（田中） [内容] 警備業による「暴力」が警備業法成立・改正の背景にあることを踏まえ、民間人に可能な「警備」を概説する。 [授業外学習]警備業法第1～20条の条文を読む。(90分)	⑯	[テーマ] 定期試験 [内容] 所定の到達目標を達成したかどうかを筆記試験によって考査する。 [授業外学習]全15回の授業内容を復習する。(90分)

成績評価方法（方針）

①社会の安全に関する理論と警備業分野・消防分野の知識の妥当性、②適切な安全管理方法の実現可能性を重視する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。授業出席回数が2／3を下回る場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	○	100%
授業内レポート	—	—	—	評価対象外
授業外レポート	—	—	—	評価対象外
演習・実技	—	—	—	評価対象外
授業態度	—	—	—	評価対象外
出席	△	△	△	欠格事由

履修上の注意（受講学生に望むこと）

●授業内容の予習・復習を自主的に進めるだけでなく、時事問題に幅広く関心を持ち、日頃のニュースをチェックしておくことが望ましい。
●授業内容を丸暗記するのではなく、自分なりに考え、発言できる積極性をもって受講することが望ましい。

関連科目	武道の応用展開の基礎、応用武道概論、応用武道護衛Ⅰ、応用武道護衛Ⅱ		
教科書	遠藤保雄、荒木二郎、森惣一、田中智仁 2014『社会の安全・安心概論』農林統計出版	参考書	田中智仁2009『警備業の社会学』明石書店
連絡先	第五体育館3階33号研究室（田中研究室） tm-tanaka@sendai-u.ac.jp		

≪実技≫

授業科目名	柔道Ⅰ Judo Ⅰ (P.A.)				担当教員	仲田直樹
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	中高保体,ジュニアスポーツ指導員,講道館柔道初段※有料
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

本授業は、柔道に必要な基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)と対人運動の技能(投技、固技)の実技を通じて解説する。

授業の一般目標

基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)を習得した後に、投技技能、固技技能の習得に取り組む。
技能の習得を通じて柔道の本質である「精力善用」「自他共栄」の精神を理解する。
手技・腰技・足技の中から1つずつ習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本傳講道館柔道の概要(創始の歴史、目的など)について説明できる。国際柔道連盟試合審判規定に基づいて柔道の試合の勝敗が理解できる。
■	情意的領域	伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。
■	技能表現的領域	中学校、高等学校において柔道の授業を行うことができる技能を身につける。

授業計画(全体)

本授業は基本動作の解説のあと、投技の習得においては「五教の技」に基づき、その理合(相手を投げるための要素→崩し・作り・掛け)を解説しながら段階を踏んで展開していく。それぞれの技術は、かかり練習、約束練習をもって正確さを追求し、受身と投技においては試験を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の流れ、評価のめやす、柔道の概要、道場内でのルールなどの説明を行う。	⑨	[テーマ] 投技技能の習得③～乱取練習 [内容] 大腰の紹介。体捌きの中の前回り捌きについて解説していく。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。
②	[テーマ] 受身の習得 [内容] 柔道の受身を紹介し、後受身、横受身、前回受身について解説していく。	⑩	[テーマ] 投技技能の習得④～乱取練習 [内容] 体落の紹介。かかり練習、約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
③	[テーマ] 柔道衣の着衣～基本動作 [内容] 柔道衣の各部位の名称や実際の着方について説明する。礼法(立礼、座礼)、基本姿勢、進退動作、組み方を解説する。	⑪	[テーマ] 投技技能の習得⑤～乱取練習 [内容] 大外刈と大内刈の紹介。かかり練習、約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
④	[テーマ] 固技技能の習得① [内容] 抑込技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。	⑫	[テーマ] 投技技能の習得⑥～乱取練習 [内容] 背負投の紹介。かかり練習、約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
⑤	[テーマ] 固技技能の習得② [内容] 関節技基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。	⑬	[テーマ] 投技技能の習得⑦～乱取練習 [内容] 巴投の紹介。捨身技の理論を解説していく。約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。
⑥	[テーマ] 固技技能の習得③ [内容] 絞技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。	⑭	[テーマ] 乱取練習 [内容] これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を数多く行う。
⑦	[テーマ] 投技技能の習得① [内容] 投技の理論を解説し、習得の方法について説明する。出足払の紹介。	⑮	[テーマ] 柔道の審判法 [内容] オリンピックや世界選手権大会などで用いられている国際柔道連盟試合審判規定のうち、技の評価や罰則など基本的な部分を解説していく。
⑧	[テーマ] 投技技能の習得② [内容] 膝車の紹介。投技における体捌きの重要性について解説する。	⑯	[テーマ] 実技試験 [内容] 前回受身(左右)のテストを行う。

成績評価方法(方針)

実技試験を用いて評価する。ただし、出席回数が2／3以下の場合は成績評価対象外とする。また、基本動作の未習得による危険性を考慮して、いかなる理由であろうと初回から3回連続の欠席者においてはその後の履修を許可しないこととする。大会等による欠席、怪我による見学も出席とは認めない。事故の多い競技特性から、最低2／3以上、道衣を着て受講したことで単位認定の対象者となることを理解していただきたい。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	50%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席			◎	50%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

武道の特性を理解し、授業中は道場内でのルール(礼法、服装、注意事項など)を厳守してください。著しく実践できない学生については受講を遠慮していただく可能性があります。
柔道衣は各自で準備してください。 ※第1回目の授業で申し込みが可能です。
柔道衣を着用する場合に金属類や余計な物は身につけないこと。

関連科目	種目別コーチング演習(柔道)Ⅰ・Ⅱ		
教科書		参考書	柔道パーフェクトマスター(新星出版社)
連絡先	仲田研究室:第5体育館3F34		

授業科目名	剣道Ⅰ Kendo Ⅰ (P.A.)				担当教員	齋藤浩二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	中高保体、ジュニアスポーツ指導員、剣道一級（有料）
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

剣道の基本動作と一本打ちの技の習得に重点をおいて行う。「技」の習得は、代表的な技のみに留めて、互格稽古および簡易試合ができるまで展開する。また、木刀による剣道基本技稽古法を実施する。

授業の一般目標

剣道の基礎的な動作を身に付け、基本となる打ち方を理解して、面・小手・胴を打突できるようになる。日本の伝統的な行動様式や剣道具の着装・外し方の作法などが理解でき、身に付けることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	剣道の試合の仕方、技の種類、竹刀・剣道具の名称を説明できる。
■	情意的領域	剣道着・袴を着装して、相手と打ち合うことの楽しさを味わうことができる。
■	技能表現的領域	伝統的な行動や礼儀作法が理解でき、基本動作が身に付けることができる。

授業計画（全体）

基本動作と打突の仕方・打たせ方を身に付けてから、徐々に剣道具を着装する。その上で、一本打ちの技を重点的に取り組み、いくつかの技を習得して稽古へと展開していく。また、木刀による剣道基本技稽古法の練習を取り入れていく。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション基本動作の習得 [内容] 授業の内容の説明と剣道についての概要、竹刀の名称、組み立て方の説明、基本動作としての礼法（正座・座礼）、構え方の指導	⑨	[テーマ] 連続技（二段技）の習得、互格稽古 [内容] 復習（素振り、切り返し）、切り返し、一本打ちの技、払い技の復習、小手−面、小手−胴、約束練習、互格稽古
②	[テーマ] 剣道着・袴の着装、基本動作から打突動作への展開 [内容] 剣道着・袴の着装、足さばき、振り方（上下・正面）、稽古時の礼法の指導	⑩	[テーマ] 引き技の習得、互格稽古 [内容] 復習（素振り、切り返し）、切り返し、一本打ちの技、二段技の復習、つばぜり合い、引き面、引き胴、約束練習、互格稽古
③	[テーマ] 剣道具(垂・胴)の着装、打突の仕方・打たせ方の導入 [内容] 前回の復習（足さばき・振り方）、剣道具（垂・胴）の着装、打ってみる稽古着・袴の着装、足さばき、振り方（上下・正面）、稽古時の礼法の指導	⑪	[テーマ] 試験 [内容] 素振り、切り返し、面打ち、胴打ち、小手ー面打ち
④	[テーマ] 打突の仕方・打たせ方の習得 [内容] 復習（素振り）、打ってみる、踏み込み足の練習、打突の仕方（面）の指導	⑫	[テーマ] 木刀による剣道基本技稽古法の習得（Ⅰ） [内容] 木刀による剣道基本技稽古法を紹介し、立会い、基本技1・2・3を習得する
⑤	[テーマ] 剣道具(面・小手)の着装、打突の仕方、打たせ方(面)の導入 [内容] 復習（素振り、踏み込む足による面打ち）、剣道具（面・小手）の着装、部位（面・胴・小手）を打ってみる、すり足による面打ち、踏み込み足による面打ち	⑬	[テーマ] 木刀による剣道基本技稽古法の習得（Ⅱ） [内容] 立会い、基本1・2・3を復習し、基本4・5・6を習得する
⑥	[テーマ] 打突の仕方（面・胴・小手）の習得 [内容] 復習（素振り、踏み込み足による面打ち）、すり足による（面・胴・小手）、踏み込み足による（面・胴・小手）、約束練習	⑭	[テーマ] 木刀による剣道基本技稽古法の習得（Ⅲ） [内容] 立会い、基本1～6を復習し、基本7・8・9を習得する
⑦	[テーマ] 一本打ちの技の練習、切り返しの導入、稽古の導入 [内容] 復習（素振り、踏み込む足による面打ち）、切り返し一回、一本打ちの技（面・胴・小手）の練習、約束練習、稽古	⑮	[テーマ] 木刀による剣道基本技稽古法(Ⅳ) [内容] 立会いから基本技1から9までを習得する
⑧	[テーマ] 切り返しの完成、払い技の習得、互格稽古 [内容] 復習（素振り、切り返し）、切り返し2回、一本打ちの技、払い技の練習、約束練習、互格稽古	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 木刀による剣道基本技稽古法のできばえを評価する

成績評価方法（方針）

実技試験（70%）、授業時の実技評価（30%）の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席回数が2／3以下の場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験			◎	70%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			○	30%
授業態度			△	加点
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

授業ではあるが、剣道は伝統的な行動を重視するため、礼儀作法や行動の仕方については厳しく指導します。用具としては、剣道着・袴・手拭いが必要です。

関連科目	剣道Ⅱ		
教科書	特に指定はありません。	参考書	「剣道指導要領」「木刀による剣道基本技稽古法」
連絡先	齋藤研究室：第三体育館3階剣道場　オフィスアワー：木曜日　11:00～12:30		

授業科目名	空手道 Karatedo(theory and practice)				担当教員	阿部芳吉、堀内孝一
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

空手道の歴史や特性を踏まえて、礼法や中級程度の基本的な技術(基本、形、組手)の習得を目指す。すなわち基本として、順突き、逆突き、受け、前蹴り、廻蹴り等を組み合わせた移動基本、形として太極初段、組手として約束1本組手の習得を目指す。そのため、正しい拳の握り方と突き方、揚げ受け、外受けなどの正しい受け方、前屈立ち、後屈立ち、四股立ちなどの正しい立ち方、前蹴り、廻蹴りなどの正しい蹴り方を習得し、空手道独特の技術や動きの理解とその習得を目的とする。

授業の一般目標

①武道空手道としての歴史・礼節・道徳を習得する。
②初級レベルの基本突き、蹴り、受け、および移動基本ができる。
③太極初段、平安初段ができる。
④約束組手(五本組手、基本一本組手、自由一本組手)ができる。
⑤よく聞く(聞く力)・よく理解する(理解する力)・工夫する(内外の工夫する力)を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	空手道の礼法および基本的な知識や技術を説明することができる
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	初級レベルの基本突き、蹴り、受け、移動、形、約束組手ができる

授業計画(全体)

日本空手道協会の昇級審査規程に定める初球レベルの基本技術を中心に、空手道の礼法、立ち方、突き、蹴り、受け、形、約束組手などについて解説しつつ指導する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 礼法、立ち方、突きと受けの基本 [内容] 空手道の礼法や基本技術の名称および技術を理解する [授業外学習]	⑨	[テーマ] 形(3) [内容] 突き、蹴り等の基本を確認したあと、平安初段を最初から最後まで通して習得する [授業外学習]
②	[テーマ] 立ち方、突きと受けと蹴りの基本(1) [内容] 立ち方、突きと蹴りの基本について名称と技術を習得する [授業外学習]	⑩	[テーマ] 約束基本組手(1) [内容] 初歩的な約束組手を習得する [授業外学習]
③	[テーマ] 立ち方、突きと受けと蹴りの基本(2) [内容] 立ち方、突きと蹴りの基本について名称と技術を習得する [授業外学習]	⑪	[テーマ] 約束基本組手(2) [内容] 習得した初歩的な約束組手を少しずつ強さや精度を高める [授業外学習]
④	[テーマ] 移動基本(1) [内容] 前屈立ち、後屈立ち、騎馬立ち等の移動技術を習得する [授業外学習]	⑫	[テーマ] 約束基本組手(3) [内容] 習得した初歩的な約束組手を少しずつ強さや精度を高める [授業外学習]
⑤	[テーマ] 移動基本(2) [内容] 習得した前屈立ち、後屈立ち、騎馬立ち等の強さや精度を高める [授業外学習]	⑬	[テーマ] 総合(1) [内容] 習得した基本技術や形、約束組手の強さや精度を総合的に高める [授業外学習] テストに向けて習得した技術や形を反復練習する
⑥	[テーマ] 移動基本(3) [内容] 習得した前屈立ち、後屈立ち、騎馬立ち等の強さや精度を高める [授業外学習]	⑭	[テーマ] 総合(2) [内容] 習得した基本技術や形、約束組手の強さや精度を総合的に高める [授業外学習] テストに向けて習得した技術や形を反復練習する
⑦	[テーマ] 形(1) [内容] 突き、蹴り等の基本を確認したあと、太極初段の前半部分を習得する [授業外学習]	⑮	[テーマ] 総合(3) [内容] 習得した基本技術や形、約束組手の強さや精度を総合的に高める [授業外学習] テストに向けて習得した技術や形を反復練習する
⑧	[テーマ] 形(2) [内容] 突き、蹴り等の基本を確認したあと、太極初段を後半部分習得する [授業外学習]	⑯	[テーマ] テスト [内容] 移動基本、形、組手の名称の理解や技術の習熟度をテストする [授業外学習]

成績評価方法(方針)

移動基本、形、約束組手の名称を説明することができ、初級レベルの基本的な技術を習得しているかどうかをテストする

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	○		◎	100%
授業態度				
出席		○		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

2/3以上の出席がないと、単位認定資格を失う。

関連科目			
教科書	公益社団法人日本空手協会指導書	参考書	(財)空手道連盟『空手道指導書』
連絡先	齋藤研究室:第三体育館3階剣道場		

授業科目名	合気道 Aikido(P.A.)				担当教員	菅野秀雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

合気道の基本的な技の習得に重点をおいて行なう。固め技、投げ技は代表的な基本技のみに留める。合気道は勝敗という相対的なものを求めるのではなく、絶対的なものを求める武道なので互いに反復稽古が出来るように展開をする。

授業の一般目標

合気道の基礎的な動作を身につけさせてから、単独による動作、相対による動作で基本技を理解できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	合気道の概要と掴み方、技の種類、基本的な体捌きが説明できること。
■	情意的領域	技を掛ける「取り」と「受け」の関係を理解し反復練磨する楽しみを味わうことができること。
■	技能表現的領域	伝統的な行動や合理的な身体運用が身につけることが出来ること。

授業計画(全体)

基本的な足捌き、掴み方を身につけさせてから単独動作、相対動作で合気道の身体捌きを身につけさせ、基本的な技を習得して稽古へ展開していく。稽古をとおして護身的な技も出来るようにしていく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の流れと評価の目安、合気道概要についての説明を行う。	⑨	[テーマ] 投げ技の基本技④:相半身片手取り小手返し [内容] 相半身片手取り小手返しを指導。
②	[テーマ] 基本動作の習得① [内容] 合気道の構えと足捌き(単独、相対)、受身、膝行、掴み方の指導 。	⑩	[テーマ] 投げ技の基本技⑤:逆半身片手取り回転投げ [内容] 逆半身片手取り回転投げの指導。
③	[テーマ]基本動作の習得② [内容] 正面打ちの打ち方、横面打ちの打ち方、体捌き(入身、転換),呼吸法(座法)の指導	⑪	[テーマ] 固め技の基本技③:逆半身片手取り第二教(表技・裏技) [内容] 逆半身片手取り第二教の表技・裏技を指導。
④	[テーマ] 投げ技の基本技①:逆半身片手取り四方投げ(裏技) [内容] 逆半身片手取り四方投げ(裏技)と後受身の方法を指導。	⑫	[テーマ] 復習:投げ技の基本技 [内容] 既習投げ技の復習を掛稽古で行う。
⑤	[テーマ] 固め技の基本技①:相半身片手取り第一教(表技) [内容] 相半身片手取り第一教(表技)を指導。	⑬	[テーマ] 復習:固め技の基本技 [内容] 既習固め技の復習を掛稽古で行う。
⑥	[テーマ] 固め技の基本技②:相半身片手取り第一教(裏技) [内容] 相半身片手取り第一教裏技を指導。	⑭	[テーマ] これまでの総復習 [内容] 掛り稽古によりこれまでの既習技の復習を行う。
⑦	[テーマ] 投げ技の基本技②:相半身片手取り入り身投げ [内容] 相半身片手取り入り身投げを指導。	⑮	[テーマ] これまでの復習とレポート [内容] 相手を決め既習の技の練習とレポートを作成する。
⑧	[テーマ] 投げ技の基本技③:逆半身片手取り四方投げ(表技) [内容] 逆半身片手取り四方投げ(表技)を指導。	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 基本技による実技試験:固め技、投げ技、呼吸法の実技を行う。

成績評価方法(方針)

実技試験(35%)、授業内レポート(25%)授業時の実技評価(40%)の結果に基づき、総合的に評価する。授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席回数の2／3以下の場合は、成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	35%
授業内レポート	○			25%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		○		40%
授業態度		○		加点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

合気道は競技を行わない伝統的な武道であり、礼儀作法や行動については厳しく指導します。初回の授業で説明します。
合気道着(あるいは柔道着)は各自で準備してください。

関連科目	応用武道実技Ⅰ・Ⅱ		
教科書	特に指定はありません。	参考書	特に指定はありません。
連絡先	齋藤研究室:第三体育館3階剣道場		

授業科目名	陸上競技 Track and Field				担当教員	門野洋介、柴山一仁、宮崎利勝、名取英二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員、 スポーツプログラマー
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を、実技を通して学ぶ。

授業の一般目標

陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性を理解し、基本的技能を身につける。
自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能がわかる。
■	情意的領域	自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。
■	技能表現的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の基本的技能が身につく。

授業計画（全体）

グループに分かれ、競走種目（短距離走、リレー、ハードル走）、跳躍種目（走高跳、走幅跳）、投てき種目（砲丸投）を複数回に分けて実施していく。
最後に実技試験を行ない、技能と記録を評価する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業計画について説明する。	⑨	[テーマ] 走高跳② [内容] 走高跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
②	[テーマ] 短距離走① [内容] 短距離走のスタート～加速局面における疾走技能について学習する。	⑩	[テーマ] 走幅跳① [内容] 走幅跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。
③	[テーマ] 短距離走② [内容] 短距離走の中間疾走局面における疾走技能について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。	⑪	[テーマ] 走幅跳② [内容] 走幅跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
④	[テーマ] リレー① [内容] リレーのルールに基づいた、スムーズなバトンの渡し方について学習する。	⑫	[テーマ] 砲丸投① [内容] 砲丸投の立ち投げの技能について学習する。
⑤	[テーマ] リレー② [内容] スムーズなバトンパスができるように練習する。 レースを行ない、記録を計測する。	⑬	[テーマ] 砲丸投② [内容] 砲丸投のグライド投法の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
⑥	[テーマ] ハードル走① [内容] ハードリングの技能について学習する。	⑭	[テーマ] 実技試験① [内容] 走（短距離走、ハードル）の記録を測定する。
⑦	[テーマ] ハードル走② [内容] インターバルの走り方について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。	⑮	[テーマ] 実技試験② [内容] 跳（走高跳、走幅跳）の記録を測定する。
⑧	[テーマ] 走高跳① [内容] 走高跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。	⑯	[テーマ] 実技試験③ [内容] 投（砲丸投）の記録を測定する。

成績評価方法（方針）

・①出席、②各種目の記録、③実技試験で評価する。
・授業態度も評価に含む。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験			◎	
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度		◎		
出席		◎		50%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	門野洋介（A408, hr-kadono@sendai-u.ac.jp）		

授業科目名	器械運動(男子) Apparatus Gymnastics(Men)				担当教員	鈴木 良太
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実技は、マット運動、鉄棒、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幇助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。
■	情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。
■	技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。

授業計画(全体)

テーマごとに基本技能から応用技能へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、鉄棒、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、マット運動の基本技能 [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解	⑨	[テーマ] 鉄棒③ [内容] 前振りとびおりの基本知識と基本技能の習得
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基礎知識と基礎技術の習得	⑩	[テーマ] 鉄棒④ [内容] け上がり、前回り、後回り、前振りとびおりを連結させ連続技に発展させる
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技能習得	⑪	[テーマ] 鉄棒⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技術習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得	⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得	⑬	[テーマ] とび箱② [内容]閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト	⑭	[テーマ] とび箱③ [内容]台上前転の基本知識と基本技能の習得
⑦	[テーマ] 鉄棒① [内容] 逆上がり、前回り、後回りの基本知識・基本技能の習得	⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得
⑧	[テーマ] 鉄棒② [内容] け上がりの基礎知識と基礎技能の習得	⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト

成績評価方法(方針)

実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			◎	100%
授業態度				減点あり
出席				失格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

○2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。
○服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。
○遅刻は原則認めない。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)
連絡先			

授業科目名	器械運動(女子) Apparatus Gymnastics(Women)				担当教員	鈴木 良太
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実技は、マット運動、平均台、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幇助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。
■	情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。
■	技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。

授業計画(全体)

テーマごとに基本技術から応用技術へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、平均台、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、マット運動の基本技能 [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解	⑨	[テーマ] 平均台③ [内容] 開始技・終末儀の基本知識と基本技能の習得
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基礎知識と基礎技能の習得	⑩	[テーマ] 平均台④ [内容] 習得した技を連結させ連続技に発展させる
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技術習得	⑪	[テーマ] 平均台⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技能習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得	⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得	⑬	[テーマ] とび箱② [内容]閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト	⑭	[テーマ] とび箱③ [内容]台上前転の基本知識と基本技能の習得
⑦	[テーマ] 平均台① [内容] 歩行系・ターン系の基本知識・基本技能の習得	⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得
⑧	[テーマ] 平均台② [内容]平均台上での前転・前後開脚ジャンプの基礎技能の習得	⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト

成績評価方法(方針)

実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			◎	100%
授業態度				減点あり
出席				失格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

○2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。
○服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。
○遅刻は原則認めない。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)
連絡先			

授業科目名	水　泳 Swimming（P. A. ）				担当教員	渡邉　泰典
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	日体協公認水泳指導員、健康運動指導士、健康運動実践指導者
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

水泳は老若男女問わず、生涯にわたって親しむことができる代表的運動である。本授業では、水の物理的・生理的特性について講義すると共に、実際に水が身体に及ぼす影響を紹介して、その活用方法を提示する。また、水泳技能習得のための指導に加えて、水泳不得意者を対象とした指導上のコツや留意点（安全管理に関する内容を含む）について説明し、理論と実践を通して水泳の基礎能力を養成する。

授業の一般目標

体温、心拍数、代謝、姿勢などの観点から、水が身体に及ぼす影響を理解する。水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を理解する。水中での身体の使い方と呼吸の仕方を理解し、状況に応じて使い分けることができるようになる。水泳動作のメカニズムと、指導法を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	水泳・水中運動の基本的技能とそのメカニズムを理解し、説明することができる。水中事故を未然に防ぐための方法を理解し、安全に配慮して運動することができる。
■	情意的領域	水中特有の浮遊感の中で、運動することの楽しさを知る。水泳技能の習得と向上、泳タイムの短縮を通して、水泳・水中運動に興味を持てるようになる。
■	技能表現的領域	泳げない者は泳げるようになる。泳げる者は自らの技能の向上と泳タイムの短縮はもとより、水泳不得意者に対する指導体験を通して、泳法指導の基礎を身につける。

授業計画（全体）

最初に教室にて水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を講義する。続いてプールにて実技に入り、浮き身及びその応用として立泳ぎを教示した後、クロール・平泳ぎの2種目について、そのメカニズムと指導法を紹介する。ここでいったん泳法検定を実施し、水泳技能を見極める。その後の授業では、高技能者は指導体験を、低技能者と初心者は泳法習得のためのトレーニングを重ねる。本授業では、水泳の基本技能の習得と、泳げるようにするためのプロセスについて学ぶ。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。	⑨	[テーマ] 第1次泳法実技検定【実技】 [内容] 事前能力調査によりA評価を受けた者に対し、100m個人メドレー（50Fr+50Br）の泳法検定を行う。合格者は指導体験に移行される。B評価以下と判定された者はノルマ練習を行う。
②	[テーマ] 水泳指導法【講義】 [内容]「水泳指導者とはどうあるべきか」を主たるテーマに、必要条件、資質、取り組み方、泳法理論等を指導者の立場から理解させる。	⑩	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング①【実技】 [内容] これより、第2次泳法検定合格を目指し、トレーニング期間と成る。第1次検定合格者はこれより、不合格者を対象に初心者指導体験を行う。不合格者は指導員に従い練習を行う。クロール系と平泳ぎ系練習を隔週ごとに分けて実施する。
③	[テーマ] 水中安全管理と安全対策【講義】 [内容] 指導上のマナー、事故と責任、環境整備、用具の取り扱いと管理の方法、水泳の衛生管理、事故とその判例等について解説する。	⑪	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング②【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
④	[テーマ] 水慣れ、およびクロール・平泳ぎ能力調査【実技】 [内容] プールでの誓約、利用上の規則周知、入水時のマナー、水慣れ。	⑫	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング③【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
⑤	[テーマ] 浮き身・立泳ぎ（巻足）泳法の原理紹介、体験【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、初心者指導にも繋がる浮き身・立泳ぎの原理、習得方法を解説、実技体験をしながら習得する。	⑬	[テーマ]　水泳・水中運動①【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・水中ウォーキング等
⑥	[テーマ]クロール・背泳ぎ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範泳法を基に、クロール泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説、さらにその原因を改善するための矯正法、すなわち、指導法を紹介する。	⑭	[テーマ] 水泳・水中運動②【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・アクアビクス等
⑦	[テーマ] 平泳ぎ・ﾊﾞﾀﾌﾗｲ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範泳法を基に、平泳ぎ泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説する。	⑮	[テーマ] 水泳・水中運動③【講義】 [内容] 教室にて水中における運動指導にかかわる知識（健康運動指導士、健康運動実践指導者資格取得にも関わる）水の原理、水泳の特性、効果等について講義・紹介する。
⑧	[テーマ] クロール・平泳ぎの初心者指導法紹介【実技】 [内容] クロール・平泳ぎを対象に、泳げない原因を改善するための矯正法、すなわち、初心者指導法を紹介する。	⑯	[テーマ]水泳・水中運動④、第2次泳法実技検定【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際の実技トレーニング、及び、 水泳不合格者を対象に、100m個人メドレー（50Fr+50Br）の泳法検定を行う。

成績評価方法（方針）

実技では、100m（50mクロール+50m平泳ぎ）完泳が最低合格ラインで（可）評価、これに立泳ぎ（1分間）完泳か背泳ぎ・バタフライ25m完泳で（良）評価となる。さらに指導体験を2回以上実施した者が（優）評価となる。（秀）評価は前述の全種目において高得点者に与えられる。なお、講義・理論授業は必ず出席。欠席の場合はその分、レポート提出等の課題が課せられ、怠った場合は（不可）評価となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎		◎	80
授業態度				
出席				20

履修上の注意（受講学生に望むこと）

①教職志望者は受講が望ましいが、必修ではない。
②泳げるようになりたいと真剣に希望する者であれば、泳ぎが苦手であっても歓迎する。
③海浜実習の受講希望者が望ましい。
④本学指定の水着でしか受講できない。指定の水泳帽も必要となる。

関連科目	海浜実習、水上安全法（含実習）、種目別コーチング演習Ⅰ（水泳）、種目別コーチング演習Ⅱ（水泳）		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室　渡邉泰典（ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp）		

授業科目名	バレーボール Volleyball (P.A.)				担当教員	石丸出穂・荒牧亜衣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員、教員免許状(中高保体)
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は、6人制バレーボールの、基本的な運動技能(特にゲーム展開を広げるパス、サーブ、スパイク)の向上に重点を置き、前半は、バレーボールの練習法、指導法を紹介する。後半では、グループでの活動で生み出される、チームプレーの重要性を認識させ、仲間とのつながりを促し、ゲームを通して、バレーボールの戦術紹介、ルール・審判法を説明する。

授業の一般目標

バレーボールの基本的な運動技術、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、および、スパイク(少なくともジャンプなしでの打球の仕方)を身につけ、将来、指導する立場になった場合に、デモンストレーションを行えるようになる事が、本授業の大きな目標である。さらに、それらの技術を駆使して、仲間と協力しながら、戦術を理解し、ゲームを楽しむ方法を修得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本的な運動技術のポイントや、ルール、戦術を、知識として理解する。
■	情意的領域	仲間との‘‘繋がり’’が、プレーの‘‘繋がり’’になる事を通して、ゲームを楽しめるようになり、バレーボールの戦術にも興味を持てるようになる。
■	技能表現的領域	バレーボールの授業を行うことが出来るようになる、基本的な運動技術を身につける。

授業計画(全体)

前半は、バレーボールの基本的な運動技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク・サーブの打球)の向上に重点を置くため、2～3人組での個人技術のトレーニング中心の授業を行う。後半は、ゲームを中心とした授業の中で、バレーボールの戦術やルール・審判法の紹介、グループ活動での仲間との‘‘繋がり’’作り、を行っていく。前半終了時と後半終了時に、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイクの打球、のチェックテストを行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	⑨	[テーマ] ゲームへの展開②および、スパイク打球チェック [内容] W型のレセプションフォーメーションを理解したゲームを行い、同時進行で、スパイク打球のチェックを行う
②	[テーマ] オーバーハンドパス、スパイク打球の基本技術 [内容] オーバーハンドパス、スパイク打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う	⑩	[テーマ] ゲームへの展開③および、ブロックの基本技術 [内容] セッターを固定し、正確なトスから強力なスパイクが打てる可能性が高まるゲームを行い、ブロックの基本技術を紹介する
③	[テーマ] アンダーハンドパス、サーブ打球の基本技術 [内容] アンダーハンドパス、サーブ打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う	⑪	[テーマ] ゲームへの展開④ [内容] スパイクディフェンスフォーメーションを理解したゲームを行う
④	[テーマ] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの応用技術 [内容] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの、3人組のトレーニングを行う	⑫	[テーマ] ゲームへの展開⑤ [内容] ポジション別の役割を理解したゲームを行う
⑤	[テーマ] スパイクの基本技術 [内容] スパイクの基本、助走→踏切→打球→着地を説明し、トレーニングを行う	⑬	[テーマ] ゲームへの展開⑥ [内容] ポジション別の役割を理解し、ポジションにおける反則(アウトオブ・ポジション)を意識したゲームを行う
⑥	[テーマ] スパイクの応用技術 [内容] ゲームの流れに近いトレーニングを、段階的に行う	⑭	[テーマ] オーバーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、オーバーハンドパスのチェックテストを行う
⑦	[テーマ] バレーボールの歴史とルール [内容] バレーボールの誕生から現在に至るまでの歴史や、ゲームを行うためのルールや審判法などの講義を行う	⑮	[テーマ] アンダーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、アンダーハンドパスのチェックテストを行う
⑧	[テーマ] ゲームへの展開① [内容] スパイクを生かすゲームを目標に行う	⑯	[テーマ] [内容] 期末テストは行わない

成績評価方法(方針)

出席状況(15%)、授業態度【グループでの積極的かつ協力的な行動、授業のルールやマナーを守る】(20%)、チェックテスト【オーバーハンド、アンダーハンドパス、スパイク打球】(50%)、技術向上度(15%)、を総合的に評価する。ただし、欠席は3回までは認めるが、それ以上の場合は、成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート			◎	50%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎		○	15%
授業態度		◎		20%
出席	○	◎		15%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

最初のガイダンスには必ず出席する事。欠席者は履修出来ないこともある。服装は、基本的に仙台大学指定のスウェット及びTシャツ。体育館用シューズを用意すること。はだしでシューズをはくのは不可。時計・指輪・ピアス・ネックレスははずす。着替えは2体の更衣室またはクラブハウスで行う。バッグ等の貴重品は各自で管理し、更衣室には絶対に置かないこと。試合で休む等は直接口頭で伝える事。それ以外は認めない。不幸があった際はあとから直接伝えにくること。遅刻は原則的に認めない。授業中は、分別ある行動を心がけること。授業の妨げになる行動を取る学生は、退出してもらう場合もある。

関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(バレーボール)		
教科書	特に指定しない	参考書	Volleypedia バレーボール百科事典 (日本バレーボール学会・編)
連絡先	荒牧研究室		

授業科目名	バスケットボール Basketball (P.A.)				担当教員	児玉 善廣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

本授業は競技形態，競技特性などを踏まえ，バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く．特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ，パス，ドリブルなどの操作能力を磨く．ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術，戦術を学び，審判法なども経験する．競技の基本戦術を理解し，ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする．

授業の一般目標

本授業は競技形態，競技特性などを踏まえ，バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く．特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ，パス，ドリブルなどの操作能力を磨く．ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術，戦術を学び，審判法なども経験する．競技の基本戦術を理解し，ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする．

授業の到達目標

□	認知的領域	
■	情意的領域	ゲームや諸々の身体運動によって，仲間との連携や協力ができ，楽しさなどを表現できる．
■	技能表現的領域	スキルの向上が見え，基本技術が出来き，楽しさが理解できる．

授業計画（全体）

本授業は競技形態，競技特性などを踏まえ，バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く．特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ，パス，ドリブルなどの操作能力を磨く．ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術，戦術を学び，審判法なども経験する．競技の基本戦術を理解し，ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする．

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンティーション [内容] 担当教員の紹介，授業の目標と進め方，成績評価の方法	⑨	[テーマ] ゲームへの展開 Ⅰ（スクリメージ） [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) 実践的シュート感覚とリバウンドの体感
②	[テーマ] バスケットボールの競技特性 [内容] バスケットボールの歴史的変遷 と 基本技術 と ルールの説明	⑩	[テーマ] ゲームへの展開 Ⅱ（スクリメージ） [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 攻防のバランス
③	[テーマ] 基礎技術 Ⅰ [内容] 1)ボールコントロール 2)ボールハンドリング 3)パッシングの紹介	⑪	[テーマ] ゲーム Ⅰ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) マンツーマン・ディフェンス とゾーン・ディフェンスについて
④	[テーマ] 基礎技術 Ⅱ [内容] シューティング 1)ドリブル とレイアップシュート	⑫	[テーマ] ゲーム Ⅱ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 3ポイント・シュートの影響
⑤	[テーマ] 基礎技術 Ⅲ [内容] シューティング 2)ジャンプシュート とリバウンド	⑬	[テーマ] ゲーム Ⅲ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (3) シュート率 とリバウンディングの影響
⑥	[テーマ] 基礎技術 Ⅳ [内容] 1)パッシング とドリブル 2)シューティングとの組み合わせ	⑭	[テーマ] ゲーム Ⅳ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (4) シュート率 とリバウンディングの影響
⑦	[テーマ] ゲームの試み [内容] ゲームによる競技感覚の体感	⑮	[テーマ] オフェンス技術のまとめ Ⅰ [内容] オフェンスプレイに必要な基本的技術の総合練習 (ドリブルチェンジ，クロスオーバーシュート，ゴールシュートのコンビネーション技術)
⑧	[テーマ]基礎技術の総合練習 [内容] 1)ドリブル 2)ドリブルターン 3)レイアップシュート 4)ジャンプシュートの連続した組み合わせを体得する．	⑯	[テーマ] オフェンス技術のまとめ Ⅱ [内容] ドリブルチェンジ，クロスオーバーシュート，ゴールシュートまでのコンビネーションプレイ

成績評価方法（方針）

1・実技試験は期末に実施する．
2・出欠に関しては授業に対する意欲の1つと捉える．
3・授業態度も学科行動の評価として大切に扱う．以上を総合的に評価を行う．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				30%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				30%
授業態度				35%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席のない学生は単位を修得することは出来ない．
・授業態度の悪い者や，著しく授業を妨げる行動と判断した者は，受講資格を失う．
・授業用の専用ジャージを用意しているので，そのジャージを着用し参加すること．
・授業計画は授業の進み方（技術体得状況）で若干変更する場合がある．

関連科目	種目別 コーチング演習 Ⅰ・Ⅱ（3年），スポーツ・コーチング実習（3年）		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	研究室32 ： 第5体育館3階 オフィスアワー ： 前期/後期 木曜日 10:20 ～12:00		

授業科目名	バスケットボール Basketball				担当教員	佐藤久夫・菅野恵子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業はバスケットボールの競技特性を瞬時の攻防の切り替え(トランディション)と捉えた上で、攻防のシステムを段階的な実技を通して体得しながら、チームスポーツにおける役割と責任を学び専門分野への応用と人間的成長の礎とする。また、試合を運営する方法についても実践をもって指導する。

授業の一般目標

バスケットボールの基本技術や特性を活かした戦術とは何かを知り、指導者としてのレベルでチームスポーツを考えられるようになる。さらに、正確なルールを知り試合を運営する側の審判法や記録を経験することで、授業や課外活動での指導者としての能力を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	指導者のレベルでチームスポーツを考えられるようになる。
■	情意的領域	役割と責任を果たそうと努力することで、人間的成長の礎となる。
■	技能表現的領域	基本的なスキルを習得することで、教員採用実技試験等に対応できる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿って段階的に実技指導を行うが、動きとシステム攻防の理解度を深めるために視聴覚教材も用いる。受講生の個性を活かせるような役割を与え、各ポジションの連係プレイを確立して試合を戦術を用いて行うようにする。よって、グループ編成し役割をローテーションしながら総合的な理解を深める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 1、競技の歴史説明　2、競技特性と攻防の概略説明	⑨	[テーマ] トランディション1(攻防一体) [内容] zone defenseからの速攻方法とその役割分担
②	[テーマ] 攻撃の個人スキル [内容] 1、制限区域内のシュート　2、制限区域外のシュート　3、3点シュート　4、ピボットとドライブの方法　5、パスの方法	⑩	[テーマ] トランディション2(攻防一体) [内容] man to man defenseからの速攻方法とその役割分担
③	[テーマ] 防御の個人スキル [内容] 1、制限区域内の防御　2、制限区域外の防御　3、ピボットやドライブに対する防御	⑪	[テーマ] 試合形式による展開1 [内容] 1、zone defenseでのトランディションを中心とした試合　2、man to man defenseでのトランディションを中心とした試合
④	[テーマ] 集団スキルの攻防(1) [内容] 1、1on1の攻防　2、2on1の攻防　3、3on2の攻防　4、3on3の攻防	⑫	[テーマ] 試合形式による展開2 [内容] 1、審判法と記録方法　2、戦術を含む展開方法　3、戦術的総合試合
⑤	[テーマ] 集団スキルの攻防(2) [内容]　1、4on3の攻防　2、4on4の攻防	⑬	[テーマ] 試合形式による展開3 [内容] 1、コーチの立場からの戦術(タイムアウト)　2、残時間と点差による戦術の展開　3、5分試合を題材にした逆転方法と勝ち試合の制し方法
⑥	[テーマ] ポジション毎の攻防 [内容] 1、ガードポジションの攻防　2、フォワードポジションの攻防　3、センターポジションの攻防	⑭	[テーマ] 試合形式による展開4 [内容] 1、10分試合による総合的な展開とベンチワーク　2、模範的な展開の映像による学習
⑦	[テーマ] 集団スキルの攻防(3) [内容] 1、3on3(G,F,Cポジションから)の攻防　2、4on4(2G,F,Cから)の攻防	⑮	[テーマ] 試合形式による展開5 [内容] 10分×2回の試合による総合的な展開と運営
⑧	[テーマ] 集団スキルの攻防(4) [内容] 1、5on4(zone defense)　2、5on5(man to man defense)　3、5on5(zone defense)	⑯	[テーマ] テスト [内容] 1、基本技術(ドリブル、シュート)のスキルテスト　2、競技特性の理解度と習熟度

成績評価方法(方針)

成績は、スキルテストや理解度、習熟度から評価する。同時に授業内での協力的な貢献度や授業態度についても判断の材料とする。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				80
授業態度				20(減点アリ)
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業における服装は指定されている運動着とする。
・食事や睡眠等の体調管理につとめ、良好な状態で受講すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	研究室:A棟4階410室　　オフィスアワー:木曜日　10:00～12:00		

授業科目名	ハンドボール Handball(P.A.)				担当教員	桑原　康平
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	教員免許状（中・高 保健体育）
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業では、ハンドボールの基本的な技術・戦術を身に付けることを中心に展開し、その中でハンドボールの特性や歴史、ルールや国際的なトレンドについても触れていく。

授業の一般目標

ハンドボールにおける基本的な技術・戦術を身に付ける。
実際の試合において適切な状況判断ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	ハンドボールの基本的な技術・戦術について理解する。
■	情意的領域	ハンドボールの構造的特性を理解し、仲間と協力してゲームに参加することができる。
■	技能表現的領域	ハンドボールの個人技術（主にシュートとフェイント）と個人戦術（主にシュートとフェイント）を身に付ける。

授業計画（全体）

ハンドボールの個人技術・戦術を習得することから始め、次第にそれらの技術・戦術をグループやチームの中で応用できるよう展開する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要説明、ハンドボールの概要説明、グループ分け	⑨	[テーマ] 数的優位の攻め方① [内容] 数的優位の際の攻撃理論（パラレル・クロス） 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム
②	[テーマ] ボールに慣れる [内容] 集団行動（整列の仕方）、ボールハンドリング、各種シュートの説明・実践、パスの説明・実践、基本的なルールの説明	⑩	[テーマ] 数的優位の攻め方② [内容] 数的優位の攻撃理論（パラレル・クロス・スクリーン） 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム
③	[テーマ] シュート [内容] ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】	⑪	[テーマ] 数的優位の攻め方③ [内容] 数的優位の際の攻撃（パラレル・クロス・スクリーン・スライド） 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム
④	[テーマ] ハンドボールの映像を視聴する [内容] 各年代別カテゴリーの試合映像を視聴、戦術・技術・その他についての説明	⑫	[テーマ] ゲーム① [内容] リーグ戦を行う
⑤	[テーマ] ポジション別シュート [内容] サイドシュート、ポストシュートの説明、実践 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム	⑬	[テーマ] ゲーム② [内容] リーグ戦を行う
⑥	[テーマ] フェイント① [内容] フェイントのステップ（片脚着地） 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム	⑭	[テーマ] スキルテスト [内容] 個人技術の実技テストを行う
⑦	[テーマ] フェイント② [内容] フェイントのステップ（両脚着地） 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム	⑮	[テーマ] ハンドボール全般に関する筆記テスト [内容] ハンドボールの理論、ルール、歴史について筆記テストを行う
⑧	[テーマ] 1対1の攻め方と守り方 [内容] スペースの攻め方と身体接触の仕方 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム	⑯	[テーマ] まとめ [内容] まとめ

成績評価方法（方針）

授業に対する関心・意欲・態度等は平常点とし、評価に加味する（50%）。また、スキルテスト（30%）、筆記テスト（20%）を行い、これらの結果を総合して評価を行う。出席は欠格条件とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○			20%
授業外レポート				
演習・実技			◎	30%
授業態度		◎		50%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

欠席が4回以上になると評価の対象から外れます。
公式試合、大会参加（練習試合や合宿は不可）による出席回数不足については、別途課題を提示することがあります。ただし、いかなる理由においても開講回数の2/3以上の出席を満たしていない場合は、評価の対象から外れます。なお、実技技術習得の観点から、授業に長期間参加できない（ケガ、病気等による）ことが予想される者は履修を控えてください。（治療後に履修するようにしてください。）
その他、諸注意は初回のオリエンテーションの中で行います。

関連科目			
教科書		参考書	基本が身につくハンドボール練習メニュー200
連絡先	第5体育館2階　桑原研究室		

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)				担当教員	中屋敷　眞　・　黒澤　尚
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業はサッカーの基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れた授業とする。

授業の一般目標

サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。
■	情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。
■	技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。

授業計画（全体）

日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意	⑨	[テーマ] ヘディング [内容] ヘディングの技術構造の説明。ドリル練習、パスゲーム、ヘディングシュート、スモールサイドゲームを通じた技能獲得
②	[テーマ] 集団行動と最初の技能評価 [内容] 集団の扱い方の説明。ボールリフティングとスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価	⑩	[テーマ] トラッピング　その2（空中にあるボール） [内容] 空中にあるボールのトラッピングの技術構造と使用部位の説明。ドリル練習、トラップ＆パス、スモールサイドゲームを通じた技能獲得
③	[テーマ] インサイドキック [内容] インサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑪	[テーマ] インステップキック　その1（空中にあるボール） [内容] インステップキックの技術構造と使用局面の説明。ボールミートとロングキックのドリル練習、サッカーテニスを通じた技能獲得
④	[テーマ] アウトサイドキック [内容] アウトサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑫	[テーマ] インステップ　その2（プレースキック） [内容] 地面上にあるボールのインステップキックの技術構造の説明。ドリル練習、シュートスキル、そして1/4ピッチでのスモールサイドゲームを通じた技術獲得
⑤	[テーマ] トラッピング　その1（グランダーボール） [内容] グランダーボールのトラッピングの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑬	[テーマ] ドリブルとシュート・パス [内容] 良いドリブルの解説と練習。ゲームスキルとしてパスやシュートとの組み合わせたパターン練習とスモールサイドゲーム
⑥	[テーマ] トゥキック、ヒールキック、ソールキック [内容] 3種類のキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑭	[テーマ] ゲーム [内容] ハーフコートでの8：8のゲーム。ほぼ正規のルールを適用
⑦	[テーマ] インサイドでのスワーブキック（インフロントキック） [内容] インサイドでのスワーブキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑮	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11：11のゲーム。正規ルールで行う。
⑧	[テーマ] アウトサイドでのスワーブキック（アウトフロントキック） [内容] アウトサイドでのスワーブキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑯	[テーマ] [内容]

成績評価方法（方針）

出席3分の2以上、ボールリフティング20回以上、およびサッカーのルールに関するレポート2つを達成できなかった場合、欠格とする。ボールリフティングについては、毎週授業時の最初の15分間をウォームアップも兼ねてリフティングタイムとして設け、小テスト的に確認するので、出来る限り早い段階での達成努力をすること。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				実施せず
授業内レポート				
授業外レポート	◎			15%
演習・実技	◎	○	◎	70%
授業態度	○	○	○	15%
出席	◎	◎	◎	欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学指定ウェアー着用
・各自サッカーシューズ（スパイク、トレーニングシューズ）用意
・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席（見学）する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。※病気・ケガの場合は診断書。
・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。
・「学ぶ」高いモチベーションを有した受講者を強く希望する。
・授業態度については減点対象であり、改善しない場合は欠格とする場合もある。

関連科目			
教科書	特に指定なし	参考書	特に指定なし
連絡先	研究室：A棟4F413　オフィスアワー：木曜日12：30～14：00		

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)				担当教員	吉井　秀邦・黒澤　尚
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業はサッカーの基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れた授業とする。

授業の一般目標

サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。
■	情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。
■	技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。

授業計画（全体）

日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意	⑨	[テーマ] ペネトレーション（突破）①個人 [内容] ドリブルやラン・ウィズ・ザ・ボールによる突破を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
②	[テーマ] サッカー競技の特色と最初の技能評価 [内容] サッカー競技の特色を説明。M-T-Mの原則に従いスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価	⑩	[テーマ] ペネトレーション（突破）②グループ [内容] 3人目の動きやサポート、グループでの突破、オフェンス戦術を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
③	[テーマ] ボールフィーリング① [内容] ボールを運ぶ技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑪	[テーマ] ボールを奪う①個人 [内容] 個人でのボール奪取技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
④	[テーマ] ボールフィーリング② [内容] ボールをコントロール（止める）技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑫	[テーマ] ボールを奪う②グループ [内容] グループでのボール奪取、ディフェンス戦術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
⑤	[テーマ] パス&コントロール① [内容] 動きながらのパス&コントロールの技術獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑬	[テーマ] スモールサイドゲーム [内容] コートのサイズを変えながら、ミニゲームを行い、
⑥	[テーマ] パス&コントロール② [内容] サポート・ポジショニングについて学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑭	[テーマ] 審判法 [内容] サッカーの審判法を学ぶ。
⑦	[テーマ] ボールを失わない [内容] ボールキープの為の手や体の使い方を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑮	[テーマ] ゲーム [内容] 8;8のゲーム。正規ルールで行う。
⑧	[テーマ] シュート・ヘディング [内容] シュート技術・ヘディング技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑯	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。

成績評価方法（方針）

出席3分の2以上、およびサッカーのルールに関するレポートを達成できなかった場合、欠格とする。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				実施せず
授業内レポート				
授業外レポート	◎			20%
演習・実技	◎	○	◎	60%
授業態度	○	○	○	20%
出席	◎	◎	◎	欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学指定ウェアー着用
・各自サッカーシューズ（スパイク、トレーニングシューズ）用意
・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席（見学）する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。※病気・ケガの場合は診断書。
・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。
・「学ぶ」高いモチベーションを有した受講者を強く希望する。
・授業態度については減点対象であり、改善しない場合は欠格とする場合もある。

関連科目			
教科書	特に指定なし	参考書	特に指定なし
連絡先	研究室:A棟4F414　オフィスアワー:木曜日12:40～14:10		

授業科目名	ラグビー Rugby(P.A.)				担当教員	武石 健哉
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

ラグビーの基本理念・スキルを身につける為に、毎回テーマが与えられ活動する。受講者相互にコミュニケーションをとり、ラグビー特有のプレーができるよう関係を構築していく。教員は、基本理念・スキル習得のためのポイントと活動を促進するようなアドバイスを行う。

授業の一般目標

ラグビー独自の基本的なスキルを身につけると共に、基本理念とされているノーサイド、ワンフォアオール・オールフォアワンの精神を理解する。また、ラグビー憲章にある自由、責任、フェア、多様性といった特徴をゲームから感じ取る。さらに戦術・戦略面について学ぶことにより、ラグビー競技を深く理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	フットボールからサッカーとラグビーに分かれた歴史的背景を理解する。ボールの形、ラグビーのスローフォワード、ノックオン、オフサイドが成立した理由、レフリーの役目、キャプテンシーとは何かを理解する。
■	情意的領域	ボールを前方へパスしてはいけない、前方へ落してはいけない等のラグビーのルールに留意して、他者と関係を構築しながら授業でのテーマに取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ラグビーの競技特性を理解しつつ、個人、チームスキルを発揮できる。

授業計画(全体)

主にグループにより活動を進め、多様なゲーム形式にてラグビーに必要な要素を理解する。基本的なスキルトレーニングにて、ゲームに必要なスキル習得を目指す。ミニゲーム、基本スキル習得ドリルを並行して行い、実戦で活用できるレベルに基本スキルを高めると共に、ゲームを構成しているプレーについて知識を深める。最終的に、15人制のルールでゲームを行い、ルール・ゲーム特性を理解し、チーム力の向上を目指すことでラグビーを学ぶ。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス ラグビーというスポーツ [内容] 担当教員の紹介、授業の目的と進め方、成績評価の方法、ラグビーの歴史、国内外のラグビーについて説明する。	⑨	[テーマ] アタック方法の理解と実践① [内容] アタック方法を提示し実践する。デコイ、クロス、ループといった複数でアタックする方法を練習する。ミニゲームにて達成度を確認する。
②	[テーマ] ラグビーのルーツ、フットボールを体験する [内容] サッカーとラグビーのルーツであるフットボールについての説明を行い、実体験する。ラグビーにおけるレフリー、キャプテンの役割、ローの意味等についての説明を行う。	⑩	[テーマ] アタック方法の理解と実践② [内容] ラン・パス・密集(モール)を駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
③	[テーマ]] 走る・投げる・捕る① [内容] パススキル・キャッチングスキルの習得。ボールを持ってのランニングスキル、ランニングパススキル、ランニングキャッチスキルの習得。	⑪	[テーマ] アタック方法の理解と実践③ [内容] ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
④	[テーマ] 走る・投げる・捕る② [内容] 3on3のゲーム形式の中でランニング・パス・キャッチングの各スキルを習得する。	⑫	[テーマ] アタック方法の理解と実践④ [内容] ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。グランドの形状、大きさを考え、ゲームを組み立てる。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
⑤	[テーマ] 走る・投げる・捕る③+ユニットプレー(BK) [内容] ゲームで使うBKサインプレーの動きを習得する。6on6のゲーム形式でランニング・パス・キャッチングの各スキルを習得する。	⑬	[テーマ] アタック方法の理解と実践⑤ [内容] セットプレーからの攻撃、ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
⑥	[テーマ] 密集を作る [内容] 5対5の攻防を行う。モールの形成方法、サイド攻撃プレーを習得する。	⑭	[テーマ] ディフェンス方法の理解と実践、攻撃課題を練習する [内容] ディフェンスの基本的な原則を提示し練習する。アタック方法にて抽出された課題に対しての練習を行う。
⑦	[テーマ] ユニットプレー(FW) [内容] スクラム、ラインアウトのユニットプレーを実施する。ユニットプレーの構成を理解する。	⑮	[テーマ] 15人制ラグビーのルールによる試合 [内容] ラグビーのスキル、基本的な考えを理解してゲームが出来るか確認する。ゲーム終了後、チーム内で振り返り、発表し、全員で成果を共有する。
⑧	[テーマ] キックスキル [内容] 様々なキックスキル、キックボールのキャッチングスキルを習得する。キックゲームを行い、実戦に活用できるスキルへ高める。	⑯	[テーマ] スキルテスト [内容] スキルテストを行う。実際のゲーム場面を抜出し、その中でスキルを発揮する、ラグビー精神が反映されたプレーができるか確認する。

成績評価方法(方針)

授業態度(評価割合30%)、実技実施状況(評価割合40%)、定期試験スキル到達度チェック(評価割合30%)。これらの結果を総合して成績評価を行う。ただし出席回数2／3以下の場合は成績評価対象外とする。また、特別な理由がない限り、初回から3回連続の欠席者においては、その後の履修を許可しないこととする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○		○	30%
授業内レポート			○	評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	○		◎	40%
授業態度		○	◎	30%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

最初のガイダンスには必ず出席すること。参加・体験型の学習を中心とする本授業では、自ら考え行動する意欲が必要とされる。身体接触が伴う競技であるため、授業に出席する際の靴や服装をよく考えることが必要。ピアスや貴金属、実技に適さない靴の着用は認めない。

関連科目	特になし		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	研究室:第4体育館 武石研究室 オフィスアワー:火曜10:20～11:50		

授業科目名	ダンスⅠ Dance Ⅰ (P.A.)				担当教員	山梨　雅枝
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	教員免許状（中高保体）、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

創作ダンス・現代的なリズムのダンス・フォークダンスを中心とした、課題解決型の実技授業である。課題の解決には、仲間と協力が不可欠であり、一人では思いつかないアイディアをダンスを通じて共有する。毎時間、発表する場を設け、踊ること、踊りを鑑賞することに親しむ能力を育む。また、将来、指導者の立場になった時に活用できるよう、ダンス用語や指導法についても説明を加えながら授業を展開する。

授業の一般目標

授業は、グループ活動が中心に行う。自己の考えや、仲間の意見に敏感に感応し、身体活動につなげていく。活動中は、仲間の動きや意見を認め合う態度を忘れてはならない。毎回の授業でミニ発表会を行う。見る側、見られる側の体験を重ね、鑑賞というダンスのコミュニケーションの在り方を体験的に学ぶ。また、授業での気付きは、各自カードに記入によって確認を行う。

授業の到達目標

□	認知的領域	
■	情意的領域	他者の動きに興味・関心を持つことができる。
■	技能表現的領域	ダイナミックに身体を動かすことができる。

授業計画（全体）

毎時間、テーマに沿った課題を提供し、実践する。この流れが中心となるが、より理解を深める為に有効と思われる教材が見つかれば、ｼﾗﾊﾞｽに明記していない内容も急遽取り入れて実施する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　オリエンテーション [内容]　担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法についての説明。ダンス作品DVD鑑賞。	⑨	[テーマ]　創作ダンス　発表 [内容]　スポーツの名場面イメージした作品を発表する。
②	[テーマ]　リズムにのる [内容]　リズムにのってダイナミックに踊る。	⑩	[テーマ]　リズムダンス　振りうつし [内容]　振付を覚えて、踊る。
③	[テーマ]　ひと流れの動き [内容]　新聞紙をつかって、ほと流れの動きを体験する。	⑪	[テーマ]　最後のポーズを考える [内容]　10回目の授業で習得した振付に振りを加え、最後のポーズを考える。
④	[テーマ]　走る－止まる [内容]　対極の動きの連続で踊る。	⑫	[テーマ]　リズムダンスを振りつける　① [内容]　グループで選んだ曲に振付する。
⑤	[テーマ]　集まる－飛び散る [内容]　群を変化させて踊る。	⑬	[テーマ]　リズムダンスを振りつける　① [内容]　グループで選んだ曲に振付する。
⑥	[テーマ]　スポーツ名場面（創作）　① [内容]　スポーツの動きを取り入れて、デフォルメ表現を取り入れて創作する。	⑭	[テーマ]　リズムダンス　発表 [内容]　グループで振りつけた作品を発表する。
⑦	[テーマ]　スポーツ名場面（創作）　② [内容]　スポーツの動きを取り入れて、デフォルメ表現を取り入れて創作する。	⑮	[テーマ]　フォークダンスを踊る　① [内容]　フォークダンスを踊り、踊り方をノートに記載する。
⑧	[テーマ]　スポーツ名場面（創作）　③ [内容]　スポーツの動きを取り入れて、デフォルメ表現を取り入れて創作する。	⑯	[テーマ]　フォークダンスを踊る　② [内容]　フォークダンスを踊り、踊り方をノートに記載する。

成績評価方法（方針）

実技試験および発表会作品の出来栄えにより、授業内容の理解度を観る。また、受講態度、授業カード、出席状況を総合的に評価する。しかし、出席回数が単位取得条件を満たしていても、授業内容が理解できていないと判断した場合、単位取得は認められない。また、他の受講者に悪影響と思われる行動や発言をしたと授業担当者が判断した場合、単位取得は認めない。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験			◎	30%
授業内レポート	○	○		5%
授業外レポート				
演習・実技			◎	30%
授業態度		◎	◎	15%
出席		◎		20%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・自ら授業を楽しもうとする姿勢を持つこと。
・体調管理を怠らない。（飲み物を各自準備する。但し、蓋のある容器のみ持込可。）
・体育館使用上のルール、授業を受ける最低限のマナーを守る。
①授業中、周囲に目を配り、互いがより良く学びあえる空間を築く様、努めること。
②活動の妨げになるものは一切身につけないこと。
③服装については、授業担当者の指示に従うこと。。

関連科目	保健体育科教育論　Ⅲ、ダンス　Ⅱ		
教科書	適宜資料を配布する。	参考書	・女子体育（社団法人　日本女子体育連盟編集）
連絡先	山梨研究室（第4体育館1F）		

授業科目名	海浜実習 Activity & Swim Camp				担当教員	渡邉 泰典
開講内容	学年・学期	1年・集中	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

海浜実習はプール実技の応用として、海浜を利用しての水泳訓練及びマリンスポーツの体験等を主とした学外集中実技授業である。6月と7月にそれぞれ事前オリエンテーションを実施し、学外集中授業として現地にて8月下旬に3泊4日間の日程で開講する。

授業の一般目標

事前オリエンテーション、プール実技及び3泊4日の学外授業全日程に参加すること。実技ノルマである大遠泳（約3km・2時間）完泳を目指すこと。民宿・旅館での集団生活に必要なマナーを厳守すること。

授業の到達目標

■	認知的領域	海浜活動に関わる基本的知識・技能と、活動上の留意点について説明することができる。
■	情意的領域	自然の驚異にふれ、海で活動することの楽しさを知る。人間個人の能力の限界に挑戦し、達成感を得られる。参加実習生同士や上級生との親睦を深めることができる。
■	技能表現的領域	連続2時間以上の泳力を身につけることができる。水泳以外のアクティビティを実践することができる。

授業計画（全体）

事前オリエンテーション、事前実技講習有り。本番の日程は8月の第4週頃に3泊4日の日程で実施予定である。宿泊施設は地元民宿と旅館を貸し切り。交通手段については貸し切りバス利用予定。事前申込み手続き有り。参加費用については約35,000円銀行振り込み（事前に掲示にて告知）。

授業テーマとその内容

1、事前作業
[テーマ] 海浜実習指導内容・知識事前確認
[内 容]
①泳力チェック；同時開講の水泳授業により、事前に泳力を確認する。
②海浜実習オリエンテーション（6月中旬ごろ）；指定会場にて実習に関する説明会を実施する（実施場所については別途掲示する）。
③事前実技講習（7月中旬ごろ）；遠泳に必要な基本的知識と技能に関する説明会を実施する（実施場所については別途掲示する）。

2、現地本番作業
[テーマ] 実地海浜訓練実技体験
[内 容]
＜第1日目＞ 午前；大学出発、現地到着、
午後；開講式、入退水方法、点呼法、集団行動等の実技学習、
海浜での泳能力チェック、遠泳マナー習得

＜第2日目＞ 全日；海浜救助法、およびマリンスポーツ体験（①ｽｷﾝﾀﾞｲﾋﾞﾝｸﾞ、②ｼｰｶﾔｯｸ体験、③スタンドアップパドルボード等）

＜第3日目＞ 全日；遠泳に向けた隊列泳練習（①小遠泳、②中遠泳 等）

＜第4日目＞ 午前；大遠泳、
午後；撤収作業、閉講式、 現地出発、本学到着、全行程終了・解散

成績評価方法（方針）

ノルマ；全日程参加（事前学内講習含）・全種目体験完了・大遠泳完泳

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	40
授業態度	◎	◎	◎	10
出席	◎	◎	◎	50

履修上の注意（受講学生に望むこと）

①受講可能条件として、水泳実技履修者のうちで、6月末に実施される第1次水泳実技試験を受験していなければならない（合否は問わない）。
②水泳実技授業において、第1次水泳実技試験までの出席率が100％でなければ参加できない。
③海浜という自然環境の中での授業なので、危機的場面に遭遇することもあり、また、体育授業を想定した集団行動訓練も充分行うので、忍耐強く且つ積極的受講が要求される。さらに、民宿での集団生活が有る訳であり、規律正しい態度も要求される。

関連科目	水泳、水上安全法（含実習）		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室 渡邉泰典（ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp）		

授業科目名	スキーⅠ SkiⅠ(P.A.)				担当教員	高橋 弘彦 他
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

各自のレベルにおけるスキーの基礎的理論、基礎技術及び指導法を修得させる。また、学外集中授業の運営形態を学ばせると共に集団生活を通して共同・協調の精神を養わせる。
実習は2月下旬から3月上旬にかけて、3泊4日の日程で山形県蔵王温泉スキー場にて実施する。

授業の一般目標

修得技能は、初めてスキーを行う者でも全日本スキー連盟バッヂテスト3級を目標とする。スキー経験のある者については、より難易度の高い斜面の滑走が可能になるよう自己技能の向上に努める。

授業の到達目標

■	認知的領域	各自のレベルにおける技術について説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	実習開始時よりも技能向上が認識できる。

授業計画(全体)

技能レベル毎の班別講習を実施する。技能習得の効率を高めるため、原則として1班10名以内の班編成とする。
ナイタースキーも実施する。
※受講希望者数がホテルの収容人数を超えた場合は、抽選となる場合がある。また受講の優先は4月における履修登録者となる。

授業テーマとその内容

1. オリエンテーション
 授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用に関する説明を行う(11月中旬を予定)。
 各自の技能評価用紙を提出させる。

2. 実習
 ①全体ミーティング
  開講式に先立ち、蔵王温泉スキー場の紹介、ホテルにおける生活、リフト券の取り扱い等に関する留意点を説明する。
 ②開講式
  各班の指導担当教員及び補助学生の紹介を行う。
  ゲレンデにおけるマナーと傷害防止に関する説明を行う。
 ③実技
  技能レベルの近い数班が合同にて班分けを行い、正式の講習班を編成する。
  講習班の決定後は、各班毎に実技講習を実施する。
   1)プルーク:押し開き、リズミカルな連続押し開き
   2)プルークボーゲン:交互押し出し、浅まわりと深まわり
   3)シュテムターン:山開き、谷開き
   4)パラレルターン(大回り):スキッディング、カービング
   5)パラレルターン(小回り):スキッディング、カービング
   6)総合滑降:雪質、斜度等の条件に適合した滑り
   7)制限滑降:ポールセットにより制限されたコース
   8)班別デモンストレーション
 ④閉講式

成績評価方法(方針)

修得技能、授業参加態度および実習における生活全体を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	100%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。また、指定期日までに参加費の入金がない場合も参加は認められない。 2. オリエンテーションは11月を予定。 3. 実習期間中は、禁酒、禁煙となる。これに違反した場合は、履修放棄扱いとなる。 4. 実習費は、39000円程度の予定(宿泊、全食事、交通、保険、リフト)。レンタルスキーを借りる場合は、別途5500円程度(現地支払い)が必要となる。レンタルウェアーの取り扱いはない。5. 参加希望者が受入れ可能人数を超過した場合は、抽選になることもある。

関連科目	スキーⅡ(3年)		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahshi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	キャンプ Camp (P.A.)				担当教員	岡田 成弘
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	(公社) 日本キャンプ協会「キャンプインストラクター」
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

組織キャンプの体験を通して、指導者に必要な資質を育成する。3泊4日間のキャンプを行い、一般的なプログラムや必要とされるマネジメントを学び、指導者からは指導法やキャンプ指導の魅力を学ぶ。また、自然環境における集団生活の中で、自立心、協調性、リーダーシップなどを養い、仲間との交流を深める。

授業の一般目標

・組織キャンプを通じて、プログラム、マネジメント、指導法について理解を深める。
・野外活動に必要な知識、技術を身につける。
・自然に親しみ、学生・教員との交流を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	野外活動に必要な知識・技術を身につける。
■	情意的領域	自然体験活動への興味を持ち、積極的に関わるようになる。自然に興味を持ち、自然環境を配慮する精神を育む。
■	技能表現的領域	集団生活の中でコミュニケーション力を高める。課題に対して自分なりの意見を持ち、他者とディスカッションし、グループとしての意思決定を行えるようになる。

授業計画(全体)

8月下旬～9月初旬に、学外のキャンプ場で宿泊型の実習を行う。
実習前に複数回のオリエンテーション及び準備を行う。
キャンプインストラクターの資格取得希望者は、別途教科書を購入し、キャンプ後に筆記試験を行う(詳細はオリエンテーション等で説明)。

授業テーマとその内容

日程: 第一団 2017年8月29日～9月1日(3泊4日)
第二団 2017年9月3日～6日(3泊4日) ※日程は変更する可能性があります。

対象: 仙台大学1年生及び過年度生 240名 (第一団120名 第二団120名)

指導者: 仙台大学教員(岡田、弓田、仲野、他)、ティーチングアシスタント(大学院生)、補助学生(学部生3～4年生)

実習施設: 南蔵王野営場(国立花山青少年自然の家保有の施設)

費用: 10,000円程度(施設使用料、食費、バス代、保険代、教材費)
※実習に必要な持ち物にかかる費用は自己負担とする(雨具など)

プログラム:
1日目 野外レクリエーション、テントサイト設営、野外炊事
2日目 沢歩きハイク、登山準備、野外炊事
3日目 南蔵王縦走登山、キャンプファイヤー
4日目 撤収、ふりかえり
※天候などの諸事情によって変更となる場合あり

実習までの流れ:
5月中旬 ガイダンス(日時・場所は掲示板で告知します)
キャンプ実習の目的、日程、プログラム、費用、持ち物
キャンプインストラクターの資格について説明
6月中旬 オリエンテーション①
キャンプ実習の持ち物、参加費振込について、個人調査票記入
7月下旬 オリエンテーション②
実施要項作成、最終確認
8月下旬 キャンプ実習本番 (第一団、第二団)
10月中旬 まとめの会
ふりかえり、レポート提出

詳細は、5月のガイダンスで説明するので、必ず参加すること。キャンプ前に2回行われるオリエンテーションとキャンプ後に行われるまとめの会にも必ず参加すること。
これらの集まりに無断で遅刻・欠席した者は、キャンプ実習に参加することはできない。掲示板をよく見ておくこと。

成績評価方法(方針)

実習中の態度及び実習後のレポートによって総合的に評価する。
その他、オリエンテーション時の態度や事前提出物の状況なども考慮する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート		○	○	50%
演習・実技	○	○	○	50%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・学科及び男女混成の6～7人程度の少人数班を作成する。友人同士で同じ班になれない可能性があるが、サークルや学科といった垣根を越えて積極的に交流してもらいたい。
・施設にお風呂はない。シャワーも毎日入れるわけではない。シャワーを毎日浴びなくても、清潔で快適に過ごせる野外スキルを学んでもらいたい。
・実習中は、学年関係なく、禁酒、禁煙とする。携帯電話の使用時間も限定する。
・ガイダンスやオリエンテーションに無断欠席・遅刻した者は実習への参加を認めない。欠席・遅刻する場合は事前に岡田のところに相談にくるように。
・必要最低限の道具は各自で揃えてもらう(詳しくはガイダンスで説明)。

関連科目	レクリエーション実技Ⅰ(1年)、レクリエーション実技Ⅱ(2年前期)、スポーツマネジメント実習(2年)、野外教育活動論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年)		
教科書	特になし	参考書	(公社) 日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」
連絡先	岡田研究室(A棟509)		

授業科目名	スケート Skating(P.A.)				担当教員	川口鉄二　他
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

スケートに関する理論（歴史・滑走原理）及び基本技術（直進系・曲進系・転向系・停止系）を学習する。更に選択種目（フィギュアスケート、スピードスケート、アイスホッケー、インラインホッケー等）の基礎技能を身につけ、種目特性に応じた動く楽しさを経験する。

授業の一般目標

体育大学ならではのスケートの基本技術の学習を通して安全への配慮、マナー・エチケット及び用具の管理方法などを理解する。種目特有のできる楽しさを自らの身体知を通して学ぶことにより、体育授業及び競技、生涯スポーツの指導力へと結びつけることを狙いとする。

授業の到達目標

■	認知的領域	スケートの滑走原理、技術特性を理解し、説明できる。
■	情意的領域	グループ学習を通して相互理解を深め、協力する態度を身につける。
■	技能表現的領域	日本スケート連盟公認プレーンテストC級以上の技能を習得する。スピードスケート、アイスホッケーの競技会とその計画・運営、審判ができる。

授業計画（全体）

領域は希望と経験を考慮し、基礎、ﾌｨｷﾞｭｱ、スピード、アイスホッケーの各コースに分かれて実習を行う。実習場所は、盛岡及び仙台のスケート場。基礎技能の確認の後、各コース毎の技能を習得し、最終的にC級、B級の相当の技能テストを行い、ゲームや発表会、競技会などでも楽しめる技能を身につけていく。

授業テーマとその内容

[テーマ] オリエンテーション
[内容] 実習の概要、方法、達成課題及び評価等について

[テーマ] スケートの基礎知識
[内容] 生涯スポーツとしての今日的課題。スケート種目とその基礎技能の構造、競技法、基本ルール、技の体系について。
[内容] 滑走技術の類型と位相構造を知る。
[内容] スケーティングの基礎、自然滑走と惰力滑走、自力滑走の練習。

[テーマ] 曲進系,停止系 転向系滑走技術の習得
[内容] 両脚カーブ、フォアクロス、フォアスネークの練習。
[内容] イの字、ハの字ストップの練習。
[内容] フォア-バック、バック-フォア、モフォークターン、ジャンプターン

[テーマ] コース別上位技術の習得
[内容] フィギュア、スピード、アイスホッケー独自の基本技術及び戦術を習得することにより、競技の基礎技能を身に付ける。ルールに基づく競技を実際に体験することにより、各競技特性の理解を深める。

[テーマ] 技能テストによる達成度の確認・練習。
[内容] 各コースごとのテスト種目についての説明及び達成課題を目標とした練習。
[内容] 各コースごとのテスト種目に基づいた技能テスト。

[テーマ] 学習技能に基づく競技、ゲーム、発表などの応用滑走。
[内容] 実習で身に付けた技能をもとに、ゲームや競技、発表、競技、及びレクリエーションを行い、運営を含めた楽しみ方を学ぶ。

[テーマ] まとめ
[内容] 実習全体の総括と内容の記録（日誌）、動感達成内容の記録・公開。

成績評価方法（方針）

実習時間の30%以上の欠席は不可とする。技能習得と授業態度を総合して評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		○	◎	70%
授業態度	○			70%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

①履修希望者は必ずｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝに参加し、実習参加登録が必要です。②宿泊を伴う場合は相応の経費がかかります。③防寒具（スキー系ウェア、帽子、手袋）を身に付け、けがの防止に留意すること。④地方（盛岡）と仙台市内、夏期と冬期の選択が可能です（アイスホッケーのみ）。⑤技能習得を優先目標に置くので、当たり外れの無いマイシューズでの参加を勧めます。

関連科目			
教科書		参考書	アイススケーティングの基礎（DSK）
連絡先	A403川口		

3.　発展科目

授業科目名	応用武道概論 Introduction to Applied Martial Arts				担当教員	紀野國宏明/竹内直人
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

実社会において武道を応用し、社会の安全と安心を担う警察行政について、国と地方の警察組織の仕組み、各部門における任務及び具体的活動内容等について概説するほか、警察が行う安全と安心を確保するための具体的施策等について考察する。また、警察官にとって必須の法律や警察官に求められる職務倫理について具体的事例や判例等も交えて考察する。

警察機関について具体的に学習することにより、実社会における武道の応用展開の実態を理解するとともに、実社会における武道の応用展開の問題点や今後のあり方などについて自ら探求していく能力を身に付ける。また、将来、武道を通じて社会の安全・安心に寄与しようとする人材に求められる倫理観や基礎的な法的知識を修得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	警察官必須とされる逮捕術等を通して武道の応用展開の実態を理解するとともに、社会の安全・安心を担う者に必要な基礎的な法律知識を修得する。
■	情意的領域	警察における武道のあり方や警察官に求められる職務倫理等の学習を通じ、将来、武道を通じて社会の安全・安心に寄与しようとする者に必要な倫理観や心構えを養う。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

竹内教授の授業にあっては、資料及び教科書を基にした講義、紀野國准教授の授業にあっては資料、板書を中心とした講義とし、必要に応じて映像等の資料も活用する。また、警察の施設及び業務状況等の視察に際しては小レポートを作成させる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 社会の安全安心と警察(竹内) [内容]社会の安全安心を守るための基本的な考え方と警察の役割について考察する。 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 地域警察について(紀野國) [内容] 警察の基本法である警察法の概説と地方警察おいて最も国民の身近で活動している地域部門の任務と具体的活動について概説する。 [授業外学習]警察法について学習してくる
②	[テーマ] 犯罪捜査等の流れ(竹内) [内容]犯罪は発生後の捜査、起訴、公判、科刑、出所後の処遇等の基本的な流れについて理解する。 [授業外学習]	⑩	[テーマ]刑事警察について(紀野國) [内容] 刑法上の犯罪についての概説と国民にとって関心の高い犯罪捜査を担当している刑事部門の任務と具体的活動について概説する。 [授業外学習]刑法上の犯罪について学習してくる
③	[テーマ] 女性・子供・高齢者の安全安心(竹内) [内容]女性、子供、高齢者の安全安心に係る課題と対策について考察する。 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 交通警察について(紀野國) [内容] 刑法上の犯罪についての概説と交通(事故)事件捜査を担当している交通部門の任務と具体的活動について概説する。 [授業外学習]
④	[テーマ] 犯罪被害者支援(竹内) [内容]犯罪被害者の立場・心情と犯罪被害者支援方策について考察する。 [授業外学習]	⑫	[テーマ] 警備警察について(紀野國) [内容] 警察官の職務権限についての概説と公安の維持と災害等への対処を通じ、国民の安全と安心を守る警備部門の任務と具体的活動について概説する。 [授業外学習]警察官職務執行法について学習してくる
⑤	[テーマ] 組織犯罪対策(竹内) [内容] 暴力団をはじめとする組織犯罪の実態とその対策について理解する。 [授業外学習]	⑬	[テーマ] 生活安全警察について(紀野國) [内容] 警察官の職務権限についての概説と主として国民生活の安全安心を担当する生活安全部門の任務と具体的活動について概説する。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 国際テロ対策(竹内) [内容] 国際テロの現状と背景、要因、国際テロ対策について理解する。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 総務・警務警察について(紀野國) [内容] 警察官に求められる職務倫理についての考察と警察組織の基盤を支える総務・警務部門の任務と具体的活動について概説する。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 災害時における危機管理(竹内) [内容] 災害時の警察の対応を理解するとともに、危機管理の基本的な考え方について考察する。 [授業外学習]	⑮	[テーマ] 警察署の視察、体験(紀野國) [内容] 宮城県内の警察署を訪問し、警察の施設及び業務の現状等について視察するとともに業務を体験する。 [授業外学習]視察結果についてレポートを提出する
⑧	[テーマ] 警察と公安委員会について(紀野國) [内容] 警察と公安委員会について歴史的背景等も含めて概説する。 [授業外学習]公安委員会制度について	⑯	[テーマ] テスト(紀野國) [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるため、期末テストを行う。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施し(評価割合80%)、また、授業内外レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。欠席は、評価割合に加えず、欠格条件として考慮される。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎			10%
授業外レポート	◎			10%
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

- 3分の2以上の出席のない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。
- 社会の安全・安心を担う分野において必要とされる基礎的知識を修得し、将来、そのような分野において活躍することを目標として行われる授業であることを自覚し、受講すること。

関連科目	武道の応用展開の基礎(1年)、社会の安全・安心概論(2年)、応用武道護衛Ⅰ(2年)、応用武道実技Ⅰ(1年)		
教科書	社会の安全・安心概論:遠藤保雄等(竹内教授)	参考書	社会安全政策論概説:金山泰介(竹内教授)
連絡先	研究室:5体24号　オフィスアワー:		

授業科目名	武道指導論 Instruction of Budo				担当教員	齋藤浩二/南條充寿/仲田直樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

日本古来の武道の指導方法は、日本人のものの考え方や規範意識の上で成り立ってきている。伝播されてきた外来スポーツを指導するに当たっては、この武道の指導法が基礎になっていた。授業では、伝統的に行なわれてきた武道の指導方法とスポーツ科学における指導方法について捉える。特に、柔道や剣道における指導論を取り上げて展開する。

授業の一般目標

これまでの武道の一般的な指導方法とスポーツにおける指導法において、どのような相違点があるのかが理解できる。武道の指導に際しての心がけていかなければならないところを知ることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本における伝統的な指導スタイルが説明できる。
■	情意的領域	実際に武道を行なって感じていることなど、指導に関する理論的な思考を持つことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

日本における武道の捉え方と教育に導入されたことなどから取り上げて進めていく。武道とスポーツとの関係を倫理観の違いからや、技術・技能の点から捉えていく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の概要 [授業外学習]シラバスをよく読んでくること(15分)	⑨	[テーマ] 稽古の捉え方 [内容] 稽古の言葉の由来を知る [授業外学習]稽古の言葉の由来を知る(30分)
②	[テーマ] 武道と教育 [内容] 外来スポーツの指導にみる武道の素養、戦後の学校における部活動を取り上げる [授業外学習]外来スポーツとはを調べてくる(15分)	⑩	[テーマ] 武道のスポーツ化 [内容] オリンピックスポーツの柔道と武道としての柔道の違いを知る 柔道の教育的価値を知る [授業外学習]武道の種類を調べてくる(15分)
③	[テーマ] 指導論(1) [内容] スポーツ競技の分類から考える [授業外学習]スポーツ競技がいくつあるかを調べてくる(30分)	⑪	[テーマ] 武道指導の実際武道指導の実際 [内容] 現在の柔道における指導現場の実際について解説し、それらの現状と課題について検討していく [授業外学習]柔道の指導で「何を」伝えるか、考えてくる(30分)
④	[テーマ] 指導論(2) [内容] 技術と技能から捉える [授業外学習]技能とは、何かを考えてくる(15分)	⑫	[テーマ] 武道必修化の背景 [内容] 平成24年度より中学校で武道が必修化された理由を考える [授業外学習]なぜ中学校で武道が必修になったのか調べてくる(30分)
⑤	[テーマ] 指導論(3) [内容] 戦術論から捉える [授業外学習]実際に行なっている競技における戦術について考えてくる(30分)	⑬	[テーマ] 現場の事故と対処法 [内容] 柔道の授業中や部活動で起こる事故について知り、その対処法を学ぶ 柔道の授業中や部活動で起こる事故について知り、その対処法を学ぶ [授業外学習]柔道の事故について調べてくる(60分)
⑥	[テーマ] 指導論(4) [内容] 指導者のあり方、何を伝えるべきか [授業外学習]指導に必要なこととはを考えてくること(30分)	⑭	[テーマ] 指導における現状と問題Ⅰ [内容] 体罰やいじめなど、学校における問題の現状を知り、考える [授業外学習]次週までに、用意されたプリントについて自分の意見を書く(60分)
⑦	[テーマ] 文武両道という考え方 [内容] 武道における教育的価値を知る [授業外学習]スポーツマンシップについて調べてくる(30分)	⑮	[テーマ] 指導における現状と問題Ⅱ [内容] 現在、指導現場で起こっている問題について、受講生の考えを発表させる。その後、全員で討論する [授業外学習]自分の考えを明確にしておく(30分)
⑧	[テーマ] 柔道の歴史と指導法 [内容] 武士道とスポーツマンシップの違いを知る [授業外学習]柔道以外の格闘技について調べてくる(30分)	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 武道の指導に関する事柄についての理解度を確かめる [授業外学習]資料やノートを復習してくること

成績評価方法(方針)

試験(70%)、授業内レポート(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席が2/3以下の場合は、成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			70%
授業内レポート	○			30%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				加点
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

指導者へ志を抱いている学生らしく、節度ある態度で受講してもらいます。ふさわしくない場合は、厳しく指導します。

関連科目	柔道指導法演習、剣道指導法演習		
教科書	特に指定していません。	参考書	特に指定していません。
連絡先	齋藤研究室:第三体育館3階剣道場　オフィスアワー:木曜日　11:00～12:30		

授業科目名	柔道方法論 Judo methodology				担当教員	南條充寿・仲田直樹
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

嘉納治五郎師範の手によって柔術から発展した講道館柔道の発祥から今日までを歴史的背景から振り返り、それぞれの時代における競技化や国際化、学校体育における柔道のあり方などを解説していく。
柔道のコーチングについて、立技、固技の技術の構造などを理論的に解説していくなど、その詳細に迫り、今後の課題を検討する。

授業の一般目標

講道館柔道の創始からその目的(本質)、国内外におけるその使命などを歴史的背景から知ることができる。オリンピック種目に選出された経緯から今日までを振り返り、スポーツとしての柔道の問題点や将来への課題などについて触れることができる。
柔道における技術について、その技術構造を理論として知ることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	講道館柔道の創始からその使命について説明することができる。 オリンピック種目になってから今日までの競技化の流れについて説明することができる。
■	情意的領域	柔道の国際的競技化が進む中、その本質との乖離について検討することで将来的な課題を持つことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

授業は①柔術から柔道②嘉納治五郎③競技柔道の国際化④柔道のコーチング⑤教育現場での柔道⑥柔道の将来、これらの6項目をキーワードとし、関連した内容を取り上げて進めていく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業内容とその流れについて説明する。 [授業外学習]柔道について現在持っている知識をまとめてくる。	⑨	[テーマ] 競技柔道の国際化Ⅳ [内容] 競技柔道で採用される道具について解説し、その歴史的変遷と将来について検討する。 [授業外学習]競技柔道で使用される「道具」には何があるか調べてくる。
②	[テーマ]柔術とは [内容] 柔術について、その発祥と流派について解説する。 [授業外学習]柔術について調べてくる。	⑩	[テーマ] 柔道のコーチングⅠ [内容] 柔道の教育的本質の伝承と技術向上について解説し、その現状を検討する。 [授業外学習]柔道の基本動作について調べてくる。
③	[テーマ] 嘉納治五郎Ⅰ [内容] 嘉納治五郎と柔術との出会いから、柔道発祥の原点について解説する。 [授業外学習]嘉納治五郎について調べてくる。	⑪	[テーマ] 柔道のコーチングⅡ [内容] 立技、固技の技術構造を解説し、その変遷を解説する。 他の格闘技を紹介し、それらと柔道を比較検討する。 [授業外学習]柔道以外の格闘技について調べてくる。
④	[テーマ] 嘉納治五郎Ⅱ [内容] 嘉納治五郎の柔道の普及活動について国内外から解説する。 [授業外学習]「精力善用」「自他共栄」について調べてくる。	⑫	[テーマ] 柔道のコーチングⅢ [内容] 競技柔道のコーチングについて、諸外国のシステムと日本との相違点を解説し、今後の課題を検討する。 [授業外学習]日本以外で柔道が盛んに行われている国はどこか調べてくる。
⑤	[テーマ] 嘉納治五郎Ⅲ [内容] 東京オリンピック招致までの活動について解説する。 [授業外学習]オリンピックについて調べてくる。	⑬	[テーマ] 教育現場での柔道Ⅰ [内容] 武道必修化に伴う教育現場の現状を解説し、今後の課題について検討する。課外活動(部活動)での問題点について解説する。 [授業外学習]初心者に対する指導で重要なことは何か考えてくる。
⑥	[テーマ] 競技柔道の国際化Ⅰ [内容] オリンピック種目となったその経緯から、競技柔道の始まりについて解説する。 [授業外学習]柔道の勝敗の決め方について調べてくる。	⑭	[テーマ] 教育現場での柔道Ⅱ [内容] 日本で採用されている学校体育における柔道のあり方と、諸外国で行われている柔道との相違点について解説する。 [授業外学習]学校体育の柔道について問題点は何か考えてくる。
⑦	[テーマ] 競技柔道の国際化Ⅱ [内容] 国際柔道連盟について解説する。 [授業外学習]柔道の大会を運営する際に必要な役割について調べてくる。	⑮	[テーマ] 柔道の将来 [内容] 柔道における教育的本質とスポーツの側面について振り返り、将来どうあるべきか検討する。 [授業外学習]柔道で何が伝えられるか考えてくる。
⑧	[テーマ] 競技柔道の国際化Ⅲ [内容] 競技柔道で採用されるルールについて解説し、その歴史的変遷と将来について検討する。 [授業外学習]スポーツにおける「ルール」とは何か調べてくる。	⑯	[テーマ] 試験 [内容] これまで解説してきた柔道についての理解度を確かめる。 [授業外学習]授業の内容を振り返り、全体の復習をしておくこと。

成績評価方法(方針)

試験(60%)、授業外レポート(40%)の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。
ただし、出席回数が2/3以下の場合は、成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			70%
授業内レポート				
授業外レポート	○			30%
演習・実技				
授業態度		△		加点
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

現代武道学科の学生らしく、節度ある態度で受講してもらいます。

関連科目	柔道Ⅱ、柔道指導法演習、武道指導論		
教科書		参考書	
連絡先	南條研究室:3体3F柔道場横		

授業科目名	剣道方法論 Technical Method of Kendo				担当教員	齋藤浩二
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

戦後の歴史的変遷を把握し、そこに関わる技・技術、稽古法、試合・審判規則などについて解説を行う。競技化された剣道は、勝負にこだわりをもちながら指導されている一面と、段位審査にみられる理合に沿ったわざの発現を目指す一面が存在している。つまり、勝負に繋がる指導か、正しさを追及する指導かである。授業ではこの点を特に取り上げる。

授業の一般目標

剣道の歴史（近世の剣術の成立から近代剣道の形成まで）が理解できる。剣道における技・技術の構成を把握して、現在の剣道に問われている課題を知ることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	戦後のスポーツとして復活してきた変遷を説明できる。
■	情意的領域	技・技術の構成を理解して、自分の攻めからの打突のモデルを作成できる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

剣道の歴史については、戦後の禁止から復活のところを中心に進めていく。それと同時に試合・審判規則の変遷にも触れる。技・技術の構成については、一般的指導法と攻めの実体をモデル化したものを考察していく。最後には、『五輪書』の水の巻について解説する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の概要 [授業外学習]稽古の意味を調べてくること（30分）	⑨	[テーマ] 技・技術と技能 [内容] 技、技術さらに技能について考える [授業外学習]技能とは何かを調べてくること（30分）
②	[テーマ]剣道の用語Ⅰ [内容] 剣道に関する専門用語を理解する [授業外学習]気剣体一致とはどのようなことか、考えてくること（30分）	⑩	[テーマ] 攻めの実体と法則性 [内容] 剣道における攻めとは何かを考える [授業外学習]自分が使える技を整理してくること（30分）
③	[テーマ] 剣道用語Ⅱ [内容] 剣道に関する専門用語を理解する [授業外学習]武芸十八般とはを調べてくること（15分）	⑪	[テーマ] 攻めの実体のモデル作成 [内容] 攻めの4つのモデルから各自の技を捉えて考えてみる [授業外学習]モデルを作成してくる（60分）
④	[テーマ] 剣道史Ⅰ [内容] 近世の剣術の成立を取り上げる [授業外学習]第二次世界大戦について調べてくること（30分）	⑫	[テーマ] 『五輪書』水の巻Ⅰ [内容] 宮本武蔵と『五輪書』の説明 [授業外学習]宮本武蔵について調べてくる（60分）
⑤	[テーマ] 剣道史Ⅱ [内容] 戦前、戦中の剣道について捉える [授業外学習]スポーツとしての剣道と武道としての剣道の違いは（30分）	⑬	[テーマ]『五輪書』水の巻Ⅱ [内容] 『五輪書』水の巻から剣道の技術を捉える [授業外学習]担当するところを調べてくること（60分）
⑥	[テーマ] 剣道史Ⅲ [内容] 戦後の剣道の復活について捉える [授業外学習]剣道年表を作成する（60分）	⑭	[テーマ]『五輪書』水の巻Ⅲ [内容]『五輪書』水の巻から剣道の技術を捉える [授業外学習]担当するところを調べてくること（60分）
⑦	[テーマ] 試合・審判規則Ⅰ [内容] これまでの剣道試合・審判規則の変遷を取り上げて説明する [授業外学習]試合・審判規則を読んでおくこと（30分）	⑮	[テーマ] 『五輪書』水の巻Ⅳ [内容]『五輪書』水の巻から剣道の技術を捉える [授業外学習]担当するところを調べてくること（60分）
⑧	[テーマ] 試合・審判規則Ⅱ [内容] 現行の試合規則を取り上げる [授業外学習]試合・審判規則を読んでおくこと（30分）	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 剣道の特性などの理解度を確かめる [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験（70%）、輪読等（授業内レポート30%）の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席回数が2/3以下の場合は、成績評価対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			70%
授業内レポート	○			30%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度		△		加点
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

現代武道学科の学生らしく、節度ある態度で受講してもらいます。ふさわしくない受講態度の場合は、厳しく指導します。

関連科目	武道の応用展開の基礎、武道指導論、剣道指導法演習		
教科書	特に指定しない	参考書	全日本剣道連盟『剣道指導要領』
連絡先	齋藤研究室：第三体育館3階剣道場　　オフィスアワー：木曜日　11:00～12:30		

授業科目名	柔道指導法演習 Judo method-of-instruction exercise				担当教員	南條充寿・仲田直樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

柔道は日本の伝統文化として発展し、今日にいたるまで継承されてきたものである。近年では学校教育においても必修科目として位置づけられるようになってきた。柔道の技術を正しく理解し、実践することができるようになるためには指導者の影響力が大きいことはいうまでもない。そこで本科目では、柔道の初心者に対する指導法について研究し、正しい理論や技術を身に付けることが目標である。

授業の一般目標

講道館柔道の創始からその目的(本質)、国内外におけるその使命などを歴史的背景から知ることができる。オリンピック種目に選出された経緯から今日まで振り返り、スポーツとしての柔道の問題点や将来への課題などについて触れることができる。柔道における技術について、その技術構造を理論として知ることができ、他者に伝えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本傳講道館柔道の概要(創始の歴史、目的など)について説明できる。国際柔道試合審判規定に基づいて柔道の試合の勝敗が理解できる。
■	情意的領域	伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。
■	技能表現的領域	他者に対して柔道の基本的動作を指導できるだけの技能を身につける。

授業計画(全体)

本授業は実技科目「柔道」を母体とし、基本的動作、受身、主要な投技・固技を自らが体現することができ、且つ他者に指導できることを目的としている。また近年、ルール改正が頻繁に行われているが、正しく試合を見極められるよう解説していく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容とその流れについて説明する。	⑨	[テーマ] 投技Ⅳ [内容] 大外刈、大内刈について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。
②	[テーマ] 指導上の注意 [内容] 中学校で武道が必修化された理由を考える。また、柔道の事故について知る。	⑩	[テーマ] 固技 [内容] 関節技、絞技について知識を深め、腕挫十字固と送襟絞、片羽絞を実践し、ポイントを説明する。
③	[テーマ] 受身Ⅰ [内容] 後受身、横受身、前受身について解説し、受講生に習得させる。また、指導上の注意点を説明する。	⑪	[テーマ] 審判法Ⅰ [内容] 柔道の歴史と現在のルールについて説明する。また、審判員のジェスチャーについて説明する。
④	[テーマ] 受身Ⅱ [内容] 前回受身(低い姿勢から)について解説し、受講生に習得させる。また、指導上のポイントを説明する。	⑫	[テーマ] 審判法Ⅱ [内容] 受講生同士が試合と審判を行う。また、確認と復習ができるようにビデオ撮影を行う。主に投技の判定について説明する。
⑤	[テーマ] 受身Ⅲ [内容] 前回受身(高い姿勢から)について解説し、受講生に習得させる。また、指導上のポイントを説明する。	⑬	[テーマ] 審判法Ⅲ [内容] 受講生同士が試合と審判を行う。また、確認と復習ができるようにビデオ撮影を行う。主に反則行為について説明する。
⑥	[テーマ] 投技Ⅰ [内容] 出足払、送足払、燕返、膝車、支釣込足について解説し、受講生に習得させる。また、指導上のポイントを説明する。	⑭	[テーマ] 審判法Ⅳ [内容] 柔道の試合のビデオ(スコア無表示)を見て試合の勝敗を理解する。
⑦	[テーマ] 投技Ⅱ [内容] 体落、背負投について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。	⑮	[テーマ] 復習 [内容] 全14回で説明してきた技術を復習する。
⑧	[テーマ] 投技Ⅲ [内容] 大腰、払腰について解説し、受講生に修得させる。また、指導上のポイントを説明する。	⑯	[テーマ] 試験 [内容] これまで解説してきた柔道について理解度を確かめる。

成績評価方法(方針)

出席状況と試験を総合的に評価する。ただし出席回数が2/3以下の場合は成績評価対象外とする。また、授業への積極的な態度については加点する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	○		○	30%
授業態度				
出席		◎		70%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

柔道に対する正しい理論と技術を修得しておくことが大切である。
授業中は、道場内でのルールを厳守する。著しく実践できない学生については受講を遠慮してもらう可能性がある。
柔道衣は各自で準備する。柔道衣を着用する場合に金属類や余計な物は身につけないこと。

関連科目	柔道、柔道Ⅰ、柔道Ⅱ、柔道方法論		
教科書		参考書	柔道パーフェクトマスター(新星出版社)
連絡先	南條研究室:3体3F柔道場横		

授業科目名	剣道指導法演習 Kendo Coaching Method				担当教員	齋藤浩二
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

剣道の初心者を対象とした指導方法を取り上げて、技術の指導構成を基にした内容を実践していく。その上で指導体験として模擬指導を展開する。

授業の一般目標

剣道の指導内容を整理して、その手順を知ることができる。指導をすることの難しさと何をどのように伝えればいいのかという指導のポイントを理解することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	剣道の指導の手順を説明できる。
■	情意的領域	剣道の技術に理論的な思考をもつことができる。
■	技能表現的領域	剣道の模範的な基本動作が身につけることができる。

授業計画（全体）

剣道の初心者指導の手順に則り、技術の取得と指導方法を展開していく。（基本動作から剣道具着装し、基本打突まで）指導体験として、グループに分かれて指導案作成から模擬授業を実施する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の概要とグループ分け [授業外学習]シラバスを熟読すること（10分）	⑨	[テーマ] 模擬指導（1） [内容] 基本動作（Ⅰ） 礼法、構え、振り方、足さばき [授業外学習]担当者は指導案を作成する（60分）
②	[テーマ]剣道について、竹刀の説明 [内容] 実技指導前の基礎知識として、剣道について、竹刀について取り上げる [授業外学習]竹刀の名称、規格を調べてくること（15分）	⑩	[テーマ] 模擬指導（2） [内容] 基本動作（Ⅱ） 素振り、踏み込み [授業外学習]担当者は指導案を作成する（60分）
③	[テーマ] 基本動作（Ⅰ） [内容] 礼法、構え、振り方、足さばき [授業外学習]剣道における礼法とはを調べてくる（15分）	⑪	[テーマ] 模擬指導（3） [内容] 基本打突 （面打ち） [授業外学習]担当者は指導案を作成する（60分）
④	[テーマ] 基本動作（Ⅱ） [内容] 素振り、踏み込み [授業外学習]素振りと打つことの関連について考えてくること（15分）	⑫	[テーマ] 模擬指導（4） [内容] 剣道具着装と打ち方（Ⅰ） 剣道具（垂れ・胴）の着装、面打ちと胴打ち [授業外学習]担当者は指導案を作成する（60分）
⑤	[テーマ] 基本打突 [内容] 基本打突（面打ち） [授業外学習]自分の面打ちのやり方をまとめてくる（30分）	⑬	[テーマ] 模擬指導（5） [内容] 剣道具着装と打ち方（Ⅱ） 剣道具（面・小手）の着装、面・胴・小手のその場打ち [授業外学習]担当者は指導案を作成する（60分）
⑥	[テーマ] 剣道具着装と打ち方（Ⅰ） [内容] 剣道具（垂れ・胴）の着装、面打ちと胴打ち [授業外学習]剣道具（垂れ・胴）の名称を調べてくること（15分）	⑭	[テーマ] 模擬指導（6） [内容] 基本打突（剣道具着装しての面・胴・小手打ち） [授業外学習]担当者は指導案を作成する（60分）
⑦	[テーマ] 剣道具着装と打ち方（Ⅱ） [内容] 剣道具（面・小手）の着装、面・胴・小手のその場打ち [授業外学習]剣道具（面・小手）の名称を調べてくること（15分）	⑮	[テーマ] 教材の工夫 [内容] 竹刀を用いての教材の工夫 [授業外学習]竹刀を用いた内容を考えてくる（60分）
⑧	[テーマ] 基本打突（剣道具着装） [内容] 基本打突（面・胴・小手打ち） [授業外学習]胴打ちの仕方を考えてくること（30分）	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度を試験する [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験（50%）、模擬授業（50%）、授業態度を総合的に評価する。ただし、出席回数が2/3以下の場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	50%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎		◎	50%
授業態度				加点
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

節度ある態度で受講してもらいます。ふさわしくない場合は、厳しく指導します。

関連科目	武道指導論、武道実践実習		
教科書	現代武道学科『武道の必修化に伴う体育実技（剣道）指導』	参考書	特に指定はありません。
連絡先	齋藤研究室：第三体育館3階剣道場　　オフィスアワー：木曜日　11:00～12:30		

授業科目名	柔道Ⅱ JudoⅡ(P.A.)				担当教員	南條充寿・仲田直樹
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	講道館柔道初段　※有料
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は柔道Ⅰと通じて習得した投技、固技の基本的な技術を通じて更なる理合(崩し、作り、掛け)の向上を目指す。また、それらの技術が乱取練習において使えるようになるよう取り組む。

授業の一般目標

投技67本、固技29本における各技術の基本的な動きから実戦での応用までを解説し、それらが正確に習得できるよう取り組む。
技能の習得を通じて柔道の本質である「精力善用」「自他共栄」の精神を理解する。
「投の形」が取と受の理合いを通じて習得できるよう取り組む。

授業の到達目標

■	認知的領域	柔道における投技67本、固技29本の技能構造が理解できる。
■	情意的領域	伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。
■	技能表現的領域	中学校、高等学校において柔道の授業を行うことができる高度な技能を身につける。

授業計画(全体)

本授業は投技と固技のそれぞれの技術の構造を解説し、連絡技や変化技などその応用に迫る。投技においては類似した技について解説していく。
それぞれの技については、かかり練習や約束練習をもって正確さを追求し、乱取練習において実際に相手を投げることを目指す。
また、「投の形」の解説をし、それらの習得を通じて理合いの向上を目指す。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の流れや評価のめやすについて説明する。	⑨	[テーマ] 投技技能の習得～捨身技② [内容] 投技の横捨身技15本を解説し、各技の基本的な理合いと応用について説明する。
②	[テーマ] これまでの復習 [内容] 理論・実習Ⅰで習得した基本動作及び、投技と固技の復習を行う。 投技・固技においては、分類ごとの要点を中心に解説していく。	⑩	[テーマ] 固技技能の習得① [内容] 固技技能のうち抑込技7本と絞技11本を解説し、各技の要点とその応用について説明する。
③	[テーマ] 投技技能の習得～手技① [内容] 投技の手技15本のうち7本を解説し、各技の基本的な理合いと応用について説明する。	⑪	[テーマ] 固技技能の習得② [内容] 固技技能のうち関節技9本を解説し、各技の要点とその応用について説明する。
④	[テーマ] 投技技能の習得～手技② [内容] 投技の手技15本のうち8本を解説し、各技の基本的な理合いと応用について説明する。	⑫	[テーマ] 「投の形」の習得① [内容] 形の基本的な構造について解説する。 形における礼法、手技3本(浮落、背負投、肩車)と腰技3本(浮腰、払腰、釣込腰)の説明をする。
⑤	[テーマ] 投技技能の習得～腰技 [内容] 投技の腰技11本を解説し、各技の基本的な理合いと応用について説明する。	⑬	[テーマ] 「投の形」の習得② [内容] 足技3本(送足払、支釣込足、内股)の説明をする。 手技と腰技の復習を踏まえ、一連の流れを確認する。
⑥	[テーマ] 投技技能の習得～足技① [内容] 投技の足技21本のうち11本を解説し、各技の基本的な理合いと応用について説明する。	⑭	[テーマ] 「投の形」の習得③ [内容] 真捨身技3本(巴投、裏投、隅返)と横捨身技3本(横落、横車、浮技)の説明をする。
⑦	[テーマ] 投技技能の習得～足技② [内容] 投技の足技21本のうち10本を解説し、各技の基本的な理合いと応用について説明する。	⑮	[テーマ] 振り返り [内容] これまでに習得した投技と固技をふりかえり、各自の習得レベルと課題について確認する。
⑧	[テーマ] 投技技能の習得～捨身技① [内容] 真捨身技5本を解説し、各技の基本的な理合いと応用について説明する。	⑯	[テーマ] 実技試験 [内容] 「投の形」の実技試験を行う。

成績評価方法(方針)

実技試験(70%)と各技能の習得状況(30%)を総合的に評価する。授業への積極的な態度については加点の材料とする。
ただし、出席回数が2／3以下の場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		○	○	30%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

武道の特性を理解し、授業中は道場内でのルール(礼法、服装、注意事項など)を厳守してください。著しく実践できない学生については受講を遠慮していただく可能性がある。
柔道衣は各自で準備する。
柔道衣を着用する場合に金属類や余計な物は身につけないこと。

関連科目	柔道方法論、柔道指導法演習		
教科書		参考書	柔道パーフェクトマスター(新星出版社)
連絡先	南條研究室:3体3F柔道場横		

授業科目名	剣道Ⅱ kendoⅡ(P.A.)				担当教員	齋藤浩二
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	中高保体、ジュニアスポーツ指導員、剣道初段(有料)
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

剣道Ⅰで身に付けた基本打突をより効果的な打ち方ができるように、いくつかの技を習得して自由練習(稽古)や試合ができるまで展開する。また、日本剣道形(太刀の形1本目から3本目)を実施する。

授業の一般目標

基本打突や代表的なしかけ技、応じ技ができるようになり、自由練習(稽古)や試合をおこなうことにより、剣道の持つ楽しさを味わうことができる。また、木刀による剣道基本技稽古法を身に付けることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	試合の仕方、簡単なルール、技の種類の説明ができる
■	情意的領域	相手との自由練習や試合において、打ち合うことの楽しさを味わうことができる
■	技能表現的領域	基本打突、技、さらに、日本剣道形(1本目から3本目)が身に付けることができる

授業計画(全体)

一年次の基本動作や基本打突を確認してから、しかけ技や応じ技のよく使われる技を習得して、自由練習を多く取り入れて行う。試合については、団体試合形式で実施する。また、日本剣道形(1本目から3本目)の練習を取り入れていく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、名称や用語の確認 [内容] 授業の内容の説明と剣道具、竹刀の名称を確認する	⑨	[テーマ] 試合Ⅱ [内容] 基本打突、自由練習、試合
②	[テーマ] 基本動作の習得 [内容] 基本動作(構え、足さばき、素振り)、踏み込み、基本打突の復習	⑩	[テーマ] 試合Ⅲ [内容] 基本打突、自由練習、試合
③	[テーマ] 剣道具の着装、基本打突の習得 [内容] 剣道具着装の確認、基本打突の復習	⑪	[テーマ]日本剣道形の習得Ⅰ [内容]日本剣道形を紹介し、立会い、太刀の形1本目を行う
④	[テーマ] 基本打突、切り返し、自由練習(稽古)の習得 [内容] 基本打突、切り返し、自由練習(稽古)の習得	⑫	[テーマ] 日本剣道形の習得Ⅱ [内容] 立会、太刀の形1本目を復習し、2本目を行う
⑤	[テーマ] 技の習得 Ⅰ [内容] 基本打突、払い技、連続技の習得、自由練習	⑬	[テーマ] 日本剣道形の習得Ⅲ [内容] 立会、太刀の形1・2本目を復習し、3本目を行う
⑥	[テーマ] 技の習得Ⅱ [内容] 基本打突、技のパターン練習、自由練習	⑭	[テーマ] 日本剣道形の習得Ⅳ [内容] 立会、太刀の形1本目から3本目を行う
⑦	[テーマ]試合の導入 [内容] 基本打突、技のパターン練習、自由練習	⑮	[テーマ] 日本剣道形の習得Ⅴ [内容] 立会、太刀の形1本目から3本目を行う
⑧	[テーマ]試合Ⅰ [内容] 試合規則の説明、基本打突、自由練習、試合	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 日本剣道形太刀の形1本目から3本目までの試験を行う

成績評価方法(方針)

実技試験(50%)、授業時の実技評価(50%)、の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席回数が2/3以下の場合は、成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			○	50%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		△	○	50%
授業態度				加点
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業ではあるが、剣道は伝統的な行動を重視するため、礼儀作法や行動の仕方については厳しく指導します。必要な用具につきましては、初回の授業で説明しますが、剣道着、袴、手拭いを準備してください。

関連科目	剣道Ⅰ、武道実技(形)		
教科書	特に指定はありません。	参考書	『剣道指導要領』
連絡先	齋藤研究室:第三体3階剣道場　　オフィスアワー:木曜日　11:00～12:30		

授業科目名	応用武道護衛Ⅰ Guard of applied martial arts Ⅰ				担当教員	伊藤重孝・高橋哲雄・田中政孝
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

武道の応用展開をベースとする警察業務について概説する。

授業の一般目標

武道の応用展開としての逮捕術、警衛術、災害救助方法等の習得を通じ、警察業務を遂行し得る思考力を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	犯罪・事故・災害への対応の理解を深めることができる。
■	情意的領域	武道の応用展開を通じて警察業務への関心を深める。
■	技能表現的領域	自己規律、制御の確立と社会の安全安心に寄与する実践的能力の向上を図る。

授業計画(全体)

テキスト、配布資料、板書を中心にし、これに逮捕術等の展開の映像資料等を交えて講義する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 武道の応用展開の基本(伊藤) [内容] 武道の応用展開、制圧・逮捕・護衛・退避・護身毎に職務の執行、法的解釈それらの特性と違いを概説する。 [授業外学習]	⑨	[テーマ] ごえい術Ⅱ [内容] 要人へ接近しようとする者の制止・排除の方途の修得 両肩回し・背面排除・肩止め手首とり [授業外学習]
②	[テーマ]要人護衛・警護の意義と歴史を考察する(高橋) [内容] 護衛対象の歴史・身位・根拠を解説し組織機構と警護対象との比較を概説する。 [授業外学習]	⑩	[テーマ] ごえい術Ⅲ [内容] 駆け足での接近者に対する方途を習得する。 前方タックル・側方タックル [授業外学習]
③	[テーマ] 警衛、警護に関わる過去の事例等を検証する(高橋) [内容] 歴史的に著名な事件を列挙、問題点等を解説し、併せてご成婚の事例等について概説する。 [授業外学習]	⑪	[テーマ] ごえい術Ⅳ [内容] 凶器を所持し危害目的の接近者に対する制止・排除方法習得する。 首タックル・小手押さえ突き倒し [授業外学習]
④	[テーマ]防護、防衛活動の手法と限界を事例に基づき講義、検証する(高橋) [内容] 家庭、学校、企業、一般公衆における同様事案の事例と対応手法、根拠、限界を概説する。 [授業外学習]	⑫	[テーマ] 実技演習 [内容] 徒歩列における位置取り、単独、複数の防禦体制の習得 [授業外学習]
⑤	[テーマ] 道場等において護衛、警護等の状況を再現検証する(伊藤) [内容] 道場において、鳥瞰、演技により防護の意義、教養、鍛錬の内容を習得する。 [授業外学習]	⑬	[テーマ] 実技演習① [内容] 乗り物等における位置取り、防護方法の習得 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 警察における警護術、道場において実践(伊藤) [内容]護衛に必要とされる基礎体力、ダッシュ等の反応訓練の概念と手法を習得する。	⑭	[テーマ]実技演習② [内容] 想定による防禦計画の策定、実践方法の習得 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 警察における逮捕術・警護術実践 (伊藤) [内容] 必要な基本的体力の他、防護の揚げ受け、もろ手受け、タックル等の手法を習得する。	⑮	[テーマ] 総括レビュー③ [内容] 課題設定の総合訓練と講評 [授業外学習]
⑧	[テーマ] ごえい術Ⅰ [内容]接近者に対する制止、排除の方途を習得する。 手首つかみ方向かえ・ひじ返し [授業外学習]	⑯	[テーマ] テスト [内容] 講義ノートをベースに出題する。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

試験・出席・実技の練度及び授業態度を総合評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	○			20%
授業外レポート	○			20%
演習・実技				
授業態度				
出席			○	

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目	特に、8から12時限の講義は、応用武道実技Ⅰと合わせて総合評価する。		
教科書	『安全安心の礎』伊藤重孝著(仙台大学出版会)	参考書	
連絡先			

授業科目名	応用武道護衛Ⅱ Guard of applied martial arts Ⅱ				担当教員	田中智仁
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	警備業務検定2級
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

第1回～第3回および第15回の総論では、警備業の社会的意義武道とのマッチングについて講義する。第4回以降の各論では、各種警備業務について網羅的に扱い、実務の実施要件と求められる技術について業務別に概説する。警備業務検定2級の筆記試験で必要となる知識について講義する。

授業の一般目標

武道を応用した警備・警護の実施に必要な民間警備実務の知識と思考力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	警備業の社会的意義や警備業務の実施要領について説明できる。
■	情意的領域	人の生命・身体・財産を守ることに興味を示し、安全確保の活動に参加できる。
■	技能表現的領域	警備業務実施上の留意点を理解して警備計画を立案できる。

授業計画（全体）

配布資料、板書を中心に講義を進める。必要に応じて、映像資料等も交えて解説する。実務に関する講話が主要となるが、随所に学術的観点を盛り込み、思考力の開拓を目指す講義を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 武道を応用した警備・警護の在り方（総論） [内容] 警備・警護に於いて必要とされる感性と身体能力について、武道とのマッチングを図る。 [授業外学習]「社会の安全・安心概論」を復習する。(90分)	⑨	[テーマ] 雑踏警備業務（各論） [内容] 群集の安全確保における誘導法、リスク除去等について概説する。 [授業外学習]雑踏事故の事例を調べる。(90分)。
②	[テーマ]警備員の使命と心構え（総論） [内容] 警備業の理念と警備員としての在り方を、警備業法に基づいて概説する。 [授業外学習]警備業法の条文を確認する。(90分)	⑩	[テーマ] 交通誘導警備業務（各論） [内容] 交通事故、交通障害等への防止措置としての交通誘導について概説する。 [授業外学習]工事現場・駐車場の事故の事例を調べる。(90分)
③	[テーマ] 警察・消防との連携（総論） [内容] 関係諸機関との相補性を明確にし、官民協働体制の確立にむけた実技の在り方を概説する。 [授業外学習]警察法と警備業法の趣旨の相違を確認する。(90分)	⑪	[テーマ] 貴重品運搬警備業務（各論） [内容] 現金、美術品等の運搬に係る安全確保と、警備車両運用について概説する。 [授業外学習]「三億円事件」について調べる。(90分)
④	[テーマ] 施設警備業務（各論） [内容] 事業所、商業施設等の安全確保と出入管理等について概説する。 [授業外学習]防犯・防災に関する事例を調べる。(90分)	⑫	[テーマ] 核燃料物質等危険物運搬警備業務（各論） [内容] 大規模な危険物運搬の実施方法とそのリスクについて概説する。 [授業外学習]原子力関連分野の動向を調べる。(90分)
⑤	[テーマ] 空港保安警備業務（各論） [内容] テロ、ハイジャック等への対抗措置としての空港保安について概説する。 [授業外学習]テロ・ハイジャックに関する事例を調べる。(90分)	⑬	[テーマ] 身辺警備業務（各論） [内容] 要人警護およびエスコートサービスの基本的技術と着眼点について概説する。 [授業外学習]要人が襲撃された事件の事例を調べる。(90分)
⑥	[テーマ] 保安警備業務（各論） [内容] 万引き、盗撮等への対抗措置としての保安警備について概説する。 [授業外学習]店舗内の犯罪に関する事例を調べる。(90分)	⑭	[テーマ] 緊急通報サービス（各論） [内容] 携帯端末を用いた身辺・物品の安全確保および追跡サービスについて概説する。 [授業外学習]社会的弱者が被害を受けた事例を調べる。(90分)
⑦	[テーマ] 機械警備業務（各論・基礎編） [内容] ホームセキュリティに代表される機械警備システムの基礎について概説する。 [授業外学習]機械警備システムの運用事例を調べる。(90分)	⑮	[テーマ] 警備業務の多様化と応用武道の展望（総論） [内容] 警備業の対応業務は、正規の警備業務にとどまらない。その展望を応用武道の観点から考える。 [授業外学習]警備業務と武道の関連性を考える。(90分)
⑧	[テーマ] 機械警備業務（各論・応用編） [内容] 機械警備システムを応用した各種安全サービスについて概説する。 [授業外学習]福祉、医療関係のIT技術について調べる。(90分)	⑯	[テーマ] 定期試験 [内容] 所期の到達目標を達成したかどうかを試験する。 [授業外学習]配布資料、教科書、参考書を復習する。(90分)

成績評価方法（方針）

定期試験とレポートの両方とも、①各種警備業務に関する知識の妥当性、②警備計画の実現可能性を重視する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験とレポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	○	80%
授業内レポート	—	—	—	評価対象外
授業外レポート	—	○	○	20%
演習・実技	—	—	—	評価対象外
授業態度	—	—	—	評価対象外
出席	—	—	—	評価対象外

履修上の注意（受講学生に望むこと）

●本講義は「応用武道実技Ⅱ」に対応する。
●警備業務検定の受験希望者は、各回の概説を踏まえ、各自で試験勉強に取り組むこと。
●各論については各回の完結性が高いため、欠席の場合にはレポートを課す場合がある。

関連科目	応用武道実技Ⅱ		
教科書	全国警備業協会2014『警備員必携（新版）』全国警備業協会	参考書	田中智仁2009『警備業の社会学』明石書店 田中智仁2012『警備業の分析視角』明石書店
連絡先	五体3階33号研究室（田中研究室） tm-tanaka@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	応用武道実技Ⅰ Guard skillⅠ				担当教員	伊藤重孝・田中政孝
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

武道の応用展開の一環で警察業務に係る逮捕術、ごえい術、用具制圧法を実践形式で修得させる。

授業の一般目標

逮捕術、ごえい術、用具制圧法を実践形式で修得することにより、体力・気力の醸成、これら術の展開に必要な戦略的な思考を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	逮捕術、ごえい術、用具制圧法を体で覚え、警察業務の社会的意義についての理解を深める。
■	情意的領域	武道の精神の重要性を再確認し、その実社会での応用展開の意義を再認識する。
■	技能表現的領域	自己規律・制御の確立と、相手を尊重する姿勢を堅持しつつ、逮捕術等の実践的な展開能力の向上を図る。

授業計画(全体)

実技指導とその一環で実技を効果的に活用する戦術・戦略の口頭及び防具を活用した指導を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]警察における逮捕術Ⅰ(伊藤) [内容] 構え・防御・受身要領　構え⇒徒手基本、正面右(左)前 捌き⇒右、左・前、後・相対 受身⇒前方、側方、後方	⑨	[テーマ] 用具制圧Ⅳ [内容] 用具を活用しての離脱法、投げ、固めの要領② 短棒⇒小手打ち押倒し・短棒固め　長物⇒引払い、引倒し 防具着装打突
②	[テーマ] 警察における逮捕術Ⅱ(伊藤) [内容] 当身の要領　前突き・掌低当て・前蹴り・横蹴り・膝当て・肘当て 参考　手刀	⑩	[テーマ] 用具制圧Ⅴ [内容] 紐の活用要領…補足・結束 ロープ⇒結束等・4種目他応用　防具着装打突
③	[テーマ] 警察における逮捕術Ⅲ(伊藤) [内容] 離脱・連行要領①離脱⇒片手内、外回し・肘寄せ・体沈め・合掌どり・突き倒し	⑪	[テーマ] 外部講師によるデモンストレーション [内容] 防具着装による試合訓練及び合同訓練
④	[テーマ] 警察における逮捕術Ⅳ(伊藤) [内容]　制圧・固め・連行要領② 手首挫き押倒し(引倒し投げ) 固め⇒前固め・後固め・腕固め　連行⇒小手取り	⑫	[テーマ] 逮捕術6～9のレビュー [内容] 主な各種目のレビュー　防具訓練
⑤	[テーマ]　警察における逮捕術Ⅴ(伊藤) [内容] 1時限から4時限までの講義・演習実技のレビューと応用動作 1～4のレビュー　ソフト警棒による打突訓練以下毎回	⑬	[テーマ] 防具試合の訓練 [内容] 試合ルールの説明と種目別試合訓練 四方の形　1
⑥	[テーマ] 用具制圧Ⅰ [内容] 短棒(警棒)の用途別の使用要領 構え⇒基本の姿勢・中断の構え・下段の構え・両手の構え 打突⇒中段打ち・下段打ち・両手突き	⑭	[テーマ] 逮捕術・ごえい術、用具制圧、形の総括Ⅰ [内容] 上記の術の応用・変化 四方の形　2
⑦	[テーマ] 用具制圧Ⅱ [内容] 長物(警杖)の用途別の使用要領構え 基本の姿勢・本手の構え・逆手の構え・引落しの構え・水平の構え 打突⇒本手打ち・逆手打ち・逆手突き・水平構えからの打ち	⑮	[テーマ] 逮捕術・ごえい術、用具制圧、形の総括Ⅰ [内容] 総括的なレビュー
⑧	[テーマ] 用具制圧Ⅲ [内容] 用具を活用しての離脱法、投げ、固めの要領①短棒⇒手甲挫き・上腕挫き投げ(二頭筋、三頭筋) 防具装着訓練以下毎回実施	⑯	[テーマ] 実技試験及びテスト [内容] 実技指導及び講話をベースに出題する

成績評価方法(方針)

出席・実技テスト(形)・授業態度を総合評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○			20%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	70%
授業態度	○			10%
出席		○		

履修上の注意(受講学生に望むこと)

実技の向上に併せて悪用防止を体得させる。

関連科目	応用武道護衛Ⅰと一体的に進める。		
教科書	『安全安心の礎』 伊藤重孝著(仙台大学出版会)	参考書	
連絡先			

授業科目名	応用武道実技Ⅱ Guard skill Ⅱ				担当教員	紀野國宏明・田中智仁
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	警備業務検定2級（施設警備）
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

警備員として身につけるべき各般の実技の修得を図る。

授業の一般目標

施設警備業務2級の検定資格を有した警備員として、現場対応ができる実技面の修得を図る。

授業の到達目標

■	認知的領域	警備業務に必要な各般の実技を体得し、警備員の社会的役割の重要性について理解を深める。
■	情意的領域	実社会において警備・警護面でのあらゆる事態への対応能力を養う。
■	技能表現的領域	警備業務の遂行に必要な多様な実技面での対応要領を体得する。

授業計画（全体）

警備・警護に必要な実技面での対処方法につき、実地の指導による反復練習により、体系的な修得を進める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 礼式及び敬礼の基本 [内容] 警備員入退室時等屋内及び屋外における礼式と、関係者への敬礼を実演し、体得する。	⑨	[テーマ] 警戒棒・警戒杖の取扱要領Ⅰ [内容] 警戒棒・警戒杖等の護身用具について、警備業において認められる取扱要領を体得する。
②	[テーマ] 警備員の基本動作と部隊教練 [内容] 警備員の基本動作及び部隊教練における整列、方向変換、行進、足踏み、行進間における方向変換を実演する。	⑩	[テーマ] 警戒棒・警戒杖の取扱要領Ⅱ [内容] 警戒棒・警戒杖等護身用具の具体的な取扱要領について、錬度を深める。
③	[テーマ] 礼式及び教練の小括 [内容] 礼式、敬礼、教練を総合的にレビューし、警備員の基本動作を体得する。	⑪	[テーマ] 不審者・不振物発見時の措置と警察機関等への連絡要領 [内容] 巡回における不審者遭遇、不審物発見時の対応を実演し、また事件・火災等の緊急時における警察・消防・救急等諸機関への迅速かつ的確な通報をシュミレーションして、基本動作を体得する。
④	[テーマ] 身分証明、手荷物検査等出入管理要領 [内容] 身分証明、手荷物・身体検査を実演し、出入管理の基本動作を体得する。	⑫	[テーマ] 緊急時における施設警備要領の小括 [内容] 不審事案対応、誤信用具の取扱い、通報要領を総合的にレビューし、緊急時の基本動作を体得する。（警備業界から講師を招請）
⑤	[テーマ] 巡回実施上の着眼点と留意点 [内容] 学内巡回を実施し、チェックポイントと基本動作を体得する。	⑬	[テーマ] 群衆規制・避難誘導の要領及び各種広報実施要領 [内容] 分断作戦、バファローダッシュ等の発生をシュミレーションし、雑踏及び大型施設における避難誘導の基本動作を体得するほか、情報広報、規制広報、禁止広報を実演する。
⑥	[テーマ] 防犯・防災機器の操作要領 [内容] 携帯無線機（トランシーバー）の操作、火災報知器のローカルシステム操作、消火栓の操作をシュミレーションし、基本動作を体得する。	⑭	[テーマ] 傷病者の救護要領 [内容] 止血法、蘇生法等の基本動作を体得する。
⑦	[テーマ] 平常時における施設警備要領の小括 [内容] 平常時の出入管理、巡回、機器操作を総合的にレビューし、施設警備の基本動作を体得する。（警備業界から講師を招請）	⑮	[テーマ] 群衆対応要領の小括 [内容] 不特定多数の人々の安全確保のため、群衆に対する規制・避難誘導等の要領及び救急・救命法の基本動作を総合的にレビューし、体得する。（警備業界から講師を招請）
⑧	[テーマ] 護身術の実施要領 [内容] 警備員が、警備業務の実施に当たって、相手方から反抗若しくは攻撃を受けた場合の、とっさの対応要領を体得する。	⑯	[テーマ] 実技試験及びペーパーテスト [内容] 実技指導の実際及び指導中の講話・指示等をベースに出題する。

成績評価方法（方針）

成績評価は、実技演習における取組み姿勢、習熟程度等に重点を置く（評価割合70%）とともに、実技における基本動作の習熟度及び講話・指示の内容をベースにした実技のポイントについての期末試験を1回実施（評価割合20%）する。また、実社会における職業人としてのあり方を涵養するため、授業態度も評価の対象とし（評価割合10%）、これらを総合して成績評価を行う。欠席は評価割合に加えず、欠格条件とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	20%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	70%
授業態度		◎		10%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

- 3分の2以上の出席がない学生は、この単位を取得することができない（欠格条件）。
- 実技で屋外の活動もあり、また、部外の行使を招請するため、授業態度も評価の対象とする。
- この実技の授業は、警備業務検定における施設警備の実技試験のために不可欠な授業であることから、しっかりと復習し、反復訓練する必要がある。

関連科目	応用武道概論（2年）、応用武道護衛Ⅱ（2年）、社会の安全・安心概論（2年）、応用武道実技Ⅰ（2年）		
教科書	施設警備業務の手引（全国警備業協会　編）	参考書	警備員必携（全国警備業協会　編）、
連絡先	研究室：	オフィスアワー：	

授業科目名	武道実践実習 Budo Coashing Practicum				担当教員	齋藤浩二・南條充寿
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

これまで専門的に行ってきた武道競技を対象に、関連する講義・演習・実技での授業で修得した知識や技能をもとにして、武道に関連する講習会、競技会または道場等において実技指導を体験することによって、より実践的な指導内容についての理解をすることを目指すものである。

授業の一般目標

事前指導においては、実習の概要や心得を理解する。実習期間は、実習生として自覚を持って、礼儀・態度を弁えて行動し、積極的に実習に専念する。事後指導では、実習内容を実習誌にまとめる。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容や指導内容が説明できる。
■	情意的領域	実際の指導体験を通して、人との関わりから楽しさややりがいを感じることができる。
■	技能表現的領域	技術指導の大切な部分である、自ら模範を示すことから基本に忠実な技術を身につけることができる。

授業計画（全体）

オリエンテーションとして、実習のねらいを説明し、各自の技術の修得状況を確認をする。その後、競技ごとに実習に関わる事前指導を実施し、実習に参加する。実習後は、実習誌を作成する。

授業テーマとその内容

事前指導
・実習の概要とねらい
・実習の心得、希望調査（種目の割り振り）
・種目別の内容の説明、役割分担
・模擬指導の実施
実習先毎に実習
以下の指導実習を行う。
・道場、スポーツ教室を原則とする。特に、学校側からの要請による場合は、中学校の部活動も認める
・小中学生対象の練習会、練成会
・小中学校対象の練成会、競技会での審判員

成績評価方法（方針）

実習での指導者による評価（50%）、実習誌（授業外レポート20%）、実習での指導態度や行動（30%）等を総合的に判断して評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	○			20%
演習・実技	◎		◎	50%
授業態度	○			30%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

武道を学んでいる学生として、ふさわしい態度で臨んでください。好ましくない態度や事前指導の欠席のものは、実習を参加することができません。

関連科目	武道指導論、柔道指導法演習、剣道指導法演習		
教科書	特に指定はありません。	参考書	特に指定はありません。
連絡先	齋藤研究室：第三体育館三階剣道場　　オフィスアワー：木曜日　11：00～12：30		

授業科目名	海外武道実習 Martial Art and Security（F.E）				担当教員	齋藤浩二、南條充寿
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

海外における武道教育に関する学習体験の場として、本学と提携をしている韓国・中国の大学を中心に韓国伝統武道、中国武術の理論・実技の実践と武道を通じての護衛や社会の安全・安心の確保の方策についての実習を行う。今年度も韓国・龍仁大学校と中国・瀋陽師範大学にての実習を実施する。

授業の一般目標

韓国および中国における武道の理論・実技についての学習ができる。また、韓国では警護についての知識や実践されている護衛の実態を知ることができる。さらに、両国ともに伝統文化が体験できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	韓国の武道（テコンドー）と中国武術（太極拳）について学べる。
■	情意的領域	韓国では、警護の実践されている現場を見学することによって身近に感じとることができる。中国では、施設見学によって歴史的認識ができる。
■	技能表現的領域	韓国ではの武道と警護実務が学ぶことができる。中国では、中国武術のほか中国伝統文化を体験できる。

授業計画（全体）

韓国では龍仁大学校警護学科の授業や実習内容を5泊6日の日程で行う。中国では、瀋陽師範大学にて6泊7日の日程で実習を行う。また、事前指導の実施や事後には報告書を作成する。

授業テーマとその内容

平成29年度の韓国・龍仁大学校警護学科での実習は、下記の日程で武道・警護に関する講義のほか、韓国伝統武道としてテコンドーの理論・実技や警護の実践の場を見学等を行う。

実施期日　平成29年6月から7月中を予定

第1日目　仙台出発→ソウル　オリエンテーション、施設見学

第2日目　警備理論　警備実務　、武道実技

第3日目　警備理論　警備実務　、校内実習

第4日目　警備理論　警備実務　、校内実習

第5日目　外部施設見学

第6日目　ソウル出発　仙台空港到着後、解散

平成29年度の中国・瀋陽師範大学での実習は、下記の日程で、中国武術、中国伝統文化体験に関する講義のほか、施設見学等を行う。

実施期日　平成29年6月から7月中を予定

第1日目　仙台出発→成田→瀋陽　オリエンテーション、施設見学

第2日目　外部施設見学、中国伝統文化体験

第3日目　外部施設見学、中国伝統文化体験

第4日目　中国武術、中国語、中国伝統文化体験

第5日目　中国武術、中国語、中国伝統文化体験

第6日目　中国武術、中国語、中国伝統文化体験

第7日目　瀋陽出発→成田→仙台

成績評価方法（方針）

授業態度（50％）、実技内容（30％）、実習誌（授業外レポート20％）の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	○			20%
演習・実技	◎			30%
授業態度	◎			50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

海外での実習のため、態度や行動には十分注意すること。礼儀作法や行動の仕方については厳しく指導します。実習にかかる経費は自己負担となります。なお、事前に希望調査を行い、履修前に履修者の決定を行います。

関連科目	韓国伝統武道、中国武術Ⅰ、応用護衛Ⅰ、応用護衛Ⅱ		
教科書	特に指定はありません。	参考書	特に指定はありません。
連絡先	齋藤研究室：第三体育館3階剣道場　オフィスアワー：木曜日　11：00～12：30		

授業科目名	運動障害救急法(含実習) Emergency Care for Sports Injury （Ｌ.）				担当教員	橋本　実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(含実習)	関連資格	教員免許状(全免許)、介護福祉士、健康運動指導士、健康運動実践指導者、レクリエーション・コーディネーター、福祉レクリエーション・ワーカー、アスレティックトレーナー、、障害者スポーツ指導員、スポーツプログラマー、NSCA-CPT、CSCS
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する。
スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう。

授業の一般目標

スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる。
固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する。
■	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明する [授業外学習]ﾌﾟﾘﾝﾄを配布するので参考にすること	⑨	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
②	[テーマ] 外傷 [内容] 外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑩	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
③	[テーマ] 外傷の新しい治療 [内容] 外傷の新しい治療について説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑪	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の対処方法、予防法などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
④	[テーマ] 固定法 [内容]様々な方法による上肢の固定法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑫	[テーマ] 心肺蘇生法 [内容] 心肺蘇生法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 止血法 [内容] 様々な方法による止血法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑬	[テーマ] AEDを使った心肺蘇生法 [内容] AEDを使った心肺蘇生法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 脳震盪 [内容] 脳震盪の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑭	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] AED、AED実習器具を使って実習する [授業外学習]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる
⑦	[テーマ] 頭部外傷 [内容]頭部外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] 包帯、三角巾の使用方法、RICE、傷の治療を実習する [授業外学習]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること

成績評価方法(方針)

基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。
出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業中は下記の項目を厳守すること。
1. スマホ、携帯電話の電源を切る。
2. スマホでの撮影は留学生以外は禁止。
3. 無断で教室を離れない。
4. 挨拶をする。
5. 帽子はかぶらない。
6.私語は厳禁。
講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。

関連科目			
教科書	運動障害救急法 講義ノート	参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階　　オフィスアワー:月曜日　14:20～15:50		

授業科目名	スポーツ栄養学 Sports Nutrition				担当教員	岩田　純
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	レクリエーション指導者
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツ栄養学とは、栄養学を基本としてトレーニング前後や試合前後などのスポーツ特有の場面に応じた食事や運動によって活動量が増加した分の栄養摂取、あるいは増量・減量を含めた競技種目に適した身体作りなどについて学ぶ科目である。そのため、オリエンテーション後の3週分の授業内容は栄養学の基礎知識に関する説明を多く実施し、その後に前述のスポーツに特有な応用的内容を加えていく。

授業の一般目標

運動をする人の健康維持やスポーツ選手の競技力向上のための栄養摂取について理解できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	エネルギーや各栄養素と運動の関係や運動時の様々な場面における食事のとり方を説明できる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

教科書および資料等を使い授業を進める。3～4つの単元ごとに小テストを実施する。また、筆記試験の前週には試験範囲と同様の内容で確認のテストを実施する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、スポーツと栄養について [内容] 担当教員の紹介、授業内容と進め方、成績評価の方法、スポーツ栄養学とは何かを説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] トレーニング期の食事 [内容] トレーニング期の疲労回復のための食事について説明する。 [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと
②	[テーマ] 運動時のエネルギー源（糖質・脂質） [内容]運動時にエネルギー源となる糖質と脂質の役割について説明する [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと	⑩	[テーマ] 体重調節と食事 [内容] 減量や増量を行う際の食事のとり方や注意事項などについて説明する。 [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと
③	[テーマ] からだ作りとたんぱく質 [内容] たんぱく質の構造、体内での役割・代謝、必要量などについて説明する [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと	⑪	[テーマ] 試合期の食事 [内容] 試合1週間前から前日、当日などの食事のとり方や注意事項などについて説明する [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと
④	[テーマ] 代謝調節とビタミン・ミネラル [内容] ビタミン・ミネラルの主な働きや体の機能維持にどのような関わりがあるのかを説明する [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと	⑫	[テーマ] 貧血予防の食事 [内容] スポーツ選手に起こりやすい貧血とその予防のための食事について説明する。授業の最初に⑧～⑪までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学習] ⑧～⑪までの内容を復習し、小テストにそなえること
⑤	[テーマ] スポーツ選手の身体組成 [内容] スポーツ選手の身体組成の評価方法について説明する。授業の最初に②～④までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学習] ②～④までの内容を復習し、小テストにそなえること	⑬	[テーマ]運動時の体温調節と水分補給 [内容] 運動時の体温調節の仕組みや水分補給について説明する。 [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと
⑥	[テーマ] 身体組成の測定方法 [内容] 身体組成の測定方法について紹介し、それぞれの長所や短所について説明する。 [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと	⑭	[テーマ] まとめ [内容] これまでの授業内容についてのまとめを行う。確認のテストを実施する。 [授業外学習] 確認のテストでわからなかったところを復習しておくこと
⑦	[テーマ] 推定エネルギー必要量 [内容] 1日のエネルギー消費にはどんな因子があり、エネルギー消費量の測定方法や推定式を用いた算出方法を説明する。 [授業外学習] 予習としてテキストを読んでおくこと	⑮	[テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験 [授業外学習] 試験に備えて復習をしておくこと
⑧	[テーマ] 日常の食事 [内容] 日常の食事について食事バランスガイドを用いて自己診断する方法を説明する。授業の最初に⑤～⑦までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学習] ⑤～⑦までの内容を復習し、小テストにそなえること	⑯	[テーマ] 試験問題の解説 [内容] 筆記試験問題の解説を行う [授業外学習] 不正解だった問題を確認して理解すること

成績評価方法（方針）

筆記試験（評価割合80%）、授業内で実施する小テスト（評価割合20%）により総合的に成績評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート	○			20%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。

関連科目			
教科書	スポーツ・健康栄養学（化学同人）	参考書	
連絡先	岩田研究室：D棟2階		

授業科目名	臨床心理学 Clinical Psychology(L)				担当教員	菊地 直子
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	養護教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

応用心理学である臨床心理学とはどのような学問か。その理論や背景とともに、心理臨床の実践を中心に解説する。

授業の一般目標

臨床心理学の背景を理解するとともに、基礎的な心理療法理論に触れ、相談者に対する態度やスキルについて理解している。

授業の到達目標

■	認知的領域	症状や問題について心理的に洞察できる。
■	情意的領域	対人援助場面で、対象者の心理的世界を適切に理解できるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本講義は、実践の学である臨床心理学の理論と実際を中心に概説する。前半は、基本的な人格理論について触れ、実際的な人間理解の諸方法について、学びを深めるために「体験」を通した学習を多く取り入れる。後半は、心理臨床の実際と、児童期・思春期臨床について解説する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法について理解させる [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 心理療法の実際①・・・アセスメントと見立て [内容] 心理療法の介入を行うにあたってのアセスメントの重要性と見立てについて、精神医学のと異同とともに説明する。 [授業外学習]精神医学においての「診断」と見立ての違いについてまとめておく。
②	[テーマ] 臨床心理学とは [内容] 臨床心理学の定義と近年の動向について概説する。 [授業外学習]これまでに遭遇した心理的なの問題について発表できるようにして	⑩	[テーマ] 心理療法の実際②・・・認知・行動療法 [内容] 教育現場における実際の臨床的手法について概説する。 [授業外学習]家族療法について、各自調べてレポートをする。
③	[テーマ] 青年期の心理的課題と問題 [内容] 受講学生にアンケートを実施し、身近にある問題や関心について調査したのち、一般的な課題について概説する。 [授業外学習]各自フロイトについて調べてくる。	⑪	[テーマ] 心理療法の実際③・・・来談者中心療法 [内容] ロジャースの心理臨床について、視聴覚機材を使って概説する。 [授業外学習]視聴覚教材を通して得た学びを文章にする。
④	[テーマ] 心理的援助の理論①・・・深層心理学 [内容] 精神分析理論について、無意識を中心に概説する。 [授業外学習]各自ユングについて調べてくる。	⑫	[テーマ] 乳幼児期の心理的問題・・・知的障害・自閉症・学習障害・ADHD [内容] 発達課題と乳幼児期に生じやすい問題について解説する。 [授業外学習]課題とする問題を設定し、その援助についてレポートを作成する①
⑤	[テーマ] 心理的援助の理論②・・・分析心理学 [内容] 分析心理学の理論について概説する。 [授業外学習]深層心理学的心理療法の特徴についてまとめておく。	⑬	[テーマ] 児童期・思春期の心理的問題① [内容] 心理的特徴とアセスメント・介入における留意点について解説する。 [授業外学習]課題とする問題を設定し、その援助についてレポートを作成する②
⑥	[テーマ] 対象理解の方法①・・心理査定 [内容] 質問紙調査法による理解とその評価についての体験と解説をする。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑭	[テーマ] 児童期・思春期の心理的問題②・・・虐待・不登校・いじめ [内容] スクールカウンセラーと養護教諭との連携についても解説する。 [授業外学習]課題とする問題を設定し、その援助についてレポートを作成する。
⑦	[テーマ] 対象理解の方法② [内容] 言語によるコミュニケーションによる理解についての体験と解説をする。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑮	[テーマ] まとめと討論 [内容] これまで学んだことについて、学生の質問や疑問を検討するとともに課題の設定をする。 [授業外学習]質問や疑問について発表できるようにしておく。
⑧	[テーマ] 対象理解の方法③ [内容] ノンバーバルなコミュニケーションによる理解についての体験と解説をする。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑯	[テーマ] まとめ2と課題提出 [内容] 確認と課題提出 [授業外学習]課題についてレポートを作成する。

成績評価方法(方針)

定期試験は実施しないが、二つの課題についてレポートを課し、評価する(評価割合70%)。また、授業内レポート(評価割合20%)、演習や実習についても評価対象とする(評価割合10%)

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート	△	◎		70%
演習・実技		◎		10%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・携帯電話等はカバンにしまうこと。
・このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室 第4体育館1階 9号室		

授業科目名	安全・安心関係法令概論Ⅰ Introduction to the laws and regulations on social safety and security Ⅰ				担当教員	中井　憲治（法科大学院教授・全剣連役員（剣道居合道錬士）・空手道名誉師範）
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	公務員、教員、警備員その他法律基礎知識を要する資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

犯罪動向と刑事政策、安全・安心関係法体系を俯瞰し、武道修行の現代的意義、危機管理等に触れながら、憲法、刑法，刑訴法,等を概説する。適宜の事例を中心に、判りやすい対話型授業を実施する。

武道は、武技の修練による人間形成の道であり、厳しい修行と相まって人材育成に資する。この観点を踏まえつつ実学を旨として教授し、創意工夫の試行錯誤の双方向性講義を実施。しかして健全な常識、リーガルマインドのほか、平明な文章起案や口頭表現に係る能力をも涵養させ、もって文武両道の人材を養成する。

授業の到達目標

■	認知的領域	犯罪動向と刑事政策、憲法、刑法、刑訴法等の基本的事項について説明できる。
■	情意的領域	世のため人のために尽くすとの心根の涵養、これを基盤とした犯罪動向、刑事政策、安心・安全関係法令に対する関心が高まる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

安全・安心関係法体系に従い、実学を旨として教授する。詳細は以下のとおり。2年後期の法令概論Ⅰは「公法系」を中心とし、「私法系」を中心とする3年前期の法令概論Ⅱに継続性をもって移行することを予定している。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 導入講義（常識と法、国家と法。現代武道史） [内容] 法学概論Ⅰ Ⅱの導入講義を実施する。常識と法、現代武道史、現代空手道史と沖縄史、国家と法等を概説する。 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 刑法の基礎知識（刑法） [内容] 犯罪とは何か。構成要件、違法性、責任等、刑法の基礎知識について概説する。
②	[テーマ] 法令用語の定義の重要性、常識と法等 [内容] 具体的事例を中心に、対話型授業を実施する。 [授業外学習]	⑩	[テーマ] 詐欺と恐喝。正犯と共犯（刑法） [内容] 振込め詐欺を題材として対話型授業を実施する。組織犯罪、犯罪動向と刑事政策のほか、正犯と共犯について概説する。 [授業外学習]
③	[テーマ] 事実認定、法の解釈適用等 [内容] 具体的事例を中心に、対話型講義を実施しつつ、憲法、刑法等の社会の安全安心を担う法体系について概説する。 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 詐欺、恐喝、強盗等（刑事政策、刑法） [内容] 詐欺と恐喝、恐喝と強盗、強盗と窃盗の区別について概説する。 [授業外学習]
④	[テーマ] 最近の犯罪動向と刑事司法手続、刑事政策等 [内容] 万引と刑事政策の事例を題材に、対話型授業を実施しつつ、最近の犯罪動向と刑事司法手続の流れ等について概説する。 [授業外学習]	⑫	[テーマ] 窃盗、事後強盗等（刑法） [内容] 窃盗と事後強盗等の関係について対話型講義を実施し、関連知識の理解を深める。 [授業外学習]
⑤	[テーマ] 憲法の最高法規性と罪刑法定主義、万引と現行犯逮捕等（刑法、刑訴法） [内容] 現行犯逮捕を題材に、対話型授業を実施する。罪刑法定主義、事実認定，現行犯逮捕等について刑訴法にも触れつつ概説する。 [授業外学習]	⑬	[テーマ] 横領・占有離脱物横領等（刑法） [内容] 横領と占有離脱物横領の区別等について、理解を深めるべく具体的事例を中心に対話型授業を実施する。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 犯意。殺人、傷害致死、過失致死等（刑法）。証拠による事実認定（刑訴法）。 [内容] 殺人等を題材に、犯意や事実認定について理解を深めるべく対話型授業を実施する。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 放火、失火等（刑法） [内容] 放火、失火等について概説する。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 事実認定概論、犯意、因果関係等（刑法・刑訴法） [内容] 殺意、黙秘権、因果関係等を題材に、事実認定，証拠裁判主義等の理解を深め、未遂犯について概説する。 [授業外学習]	⑮	[テーマ] 安全・安心関係法令概論Ⅰ総括 [内容] 法令概論Ⅰの総括講義（基礎知識の整理等）を実施する。 [授業外学習]
⑧	[テーマ]過失犯、未遂犯、違法性阻却、未必の故意等（刑法、刑事政策） [内容] 故意犯、過失犯、未遂、正当防衛について具体的事例を中心に、対話型授業を実施する。 [授業外学習]	⑯	[テーマ] 安全・安心関係法令概論Ⅰ総括 [内容] 定期試験 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験成績の点数（70点）及び平常点（30点）の合計100点満点で評価する。授業出席回数が2／3以下の場合は、原則として成績評価対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○			70%
授業内レポート				
授業外レポート	○			
演習・実技				
授業態度		○		30%
出席		○		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

世のため人のために尽くすとの心根を涵養しつつ、将来の進路を見定め、実学の基本を修得すべく、問題意識をもって積極的姿勢で受講することを希望する。

関連科目	安全・安心関係法令概論Ⅱ		
教科書	適宜、講義レジメや資料等を配布する。	参考書	芦部信喜「憲法」岩波書店、法務省「犯罪白書」、西田典之「刑法総論総論・各論」法律学講座双書等
連絡先	hdpo21@hotmail.co.jp		

授業科目名	安全・安心関係法令概論Ⅱ Introduction to the laws and regulations on social safety and security Ⅱ				担当教員	中井　憲治(法科大学院教授・全剣連役員(剣道居合道錬士)・空手道名誉師範)
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	公務員試験、警備業務検定その他法律基礎知識を要する資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

犯罪動向と刑事政策、安全・安心関係法体系を俯瞰し、武道修行の現代的意義等に触れつつ、憲法、民法等を概説する。適宜の事例を中心として、判りやすい対話型授業を実施する。

授業の一般目標

武道は、武技の修練による人間形成の道であり、厳しい修行と相まって人材育成に資する。この観点を踏まえつつ実学を旨として教授し、創意工夫の試行錯誤の双方向性講義を実施。しかして健全な常識、リーガルマインドのほか、平明な文章起案や口頭表現に係る能力をも涵養させ、もって文武両道の人材を養成する。

授業の到達目標

■	認知的領域	犯罪動向と刑事政策、憲法、民法等の基本的事項について説明できる。
■	情意的領域	世のため人のために尽くすとの心根との涵養、これを基盤とした犯罪動向、刑事政策、安心・安全関係法令に対する関心が高まる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

安全・安心関係法体系に従い、実学を旨として教授する。詳細は次のとおり。「公法系」を中心とした法令概論Ⅰの復習及び展開をしつつ、民法を中心に「私法系」を概説する。法令概論Ⅰ既修者を対象とするが、同未修者であっても受講できるよう配意する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 導入講義 [内容] 安全・安心関係法令概論Ⅰの総括を踏まえ、法令概論Ⅱの導入講義を実施する。 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 二重譲渡と債権の効力、準消費貸借等(民法)。 [内容] 具体的事例を中心に、対話型講義を実施しつつ、関連知識等について理解を深める。 [授業外学習]
②	[テーマ] 憲法と民法、所有権、売買契約等 [内容] 法令概論Ⅰを踏まえ、所有権や売買契約を概説しつつ、憲法と民法との関係について理解を深める。 [授業外学習]	⑩	[テーマ] 期限の利益、始期と終期、期限と条件、建物賃貸借等(民法) [内容] 適宜の事例を中心に、対話型講義を実施しつつ、関連知識等について理解を深める。 [授業外学習]
③	[テーマ] 売買契約の内容と効力、法令解釈の意義等(民法) [内容] 具体的事例を中心に、売買契約、債権行為、物権行為等について対話型講義を実施する。 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 委任と準委任等(民法) [内容] 具体的事例を踏まえ対話型講義を実施しつつ、関連知識等について理解を深める。 [授業外学習]
④	[テーマ] 契約の効力、損害賠償請求、同時履行の抗弁、契約解除等(民法) [内容] 具体的事例を中心に、対話型講義を実施する。 [授業外学習]	⑫	[テーマ] 代理と代表等(民法) [内容] 具体的事例を踏まえつつ概説し、関連知識等について理解を深める。 [授業外学習]
⑤	[テーマ] 現実売買、期限と条件、特殊詐欺と民法等(民法) [内容] 具体的事例を中心に、法律行為、意思表示、申込みと承諾、債務不履行等について対話型講義を実施する。	⑬	[テーマ]法令の解釈、学理的解釈と法規的解釈等。 [内容] 具体的事例を題材として、法令の解釈等について概説する。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 申込みと承諾、雇用契約、権利の主体(自然人と法人)等(民法) [内容] 雇用契約の具体的事例を中心に、契約の成立、権利の主体等について理解を深めるべく対話型授業を実施する。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 契約の効力、債務不履行・不法行為責任等(民法等) [内容] 適宜の事例を踏まえ対話型講義を実施し、関連知識等について理解を深める。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 退職等と労働基準法等 [内容] 具体的事例を中心に、退職等と労働基準法等について概説する。 [授業外学習]	⑮	[テーマ]安全・安心関係法令概論Ⅱ総括 [内容] 法令概論Ⅱの総括講義(基礎知識の整理等)を実施し、公法と私法の関係について理解を深める。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 賃貸借、消費貸借、使用貸借等(民法) [内容] 金銭消費貸借の具体的事例を中心に、売買契約、消費貸借、使用貸借等について理解を深めるべく対話型講義を実施する。 [授業外学習]	⑯	[テーマ]「安全・安心関係法令概論Ⅱ」総括 [内容] 定期試験

成績評価方法(方針)

試験成績の点数(70点)及び平常点(30点)の合計100点満点で評価する。授業出席回数が2／3以下の場合は、原則として成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○			70%
授業内レポート				
授業外レポート	○			
演習・実技				
授業態度		○		30%
出席		○		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

世のため人のために尽くすとの心根を涵養しつつ、将来の進路を見定め、実学の基本を修得すべく、問題意識をもって積極的姿勢で受講することを希望する。

関連科目	安全・安心関係法令概論Ⅰ		
教科書	適宜、講義レジメや資料等を配布する。	参考書	芦部信喜「憲法」岩波書店、法務省「犯罪白書」、内田貴「民法ⅠⅡⅢ」東大出版会
連絡先	hdpo21@hotmail.co.jp		

授業科目名	運動学(含運動方法学) Movement Theory of Sports				担当教員	川口鉄二
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	保健体育教師教員免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

体育教師やスポーツ指導者の中核になる科目です。巧みな動きがはじめて「できるようになり」、練習によって自在に動けるようになるまでには様々な身体知がかかわります。教える側と教わる側を不可分の関係としてその志向内容を明らかにしていきます。実際の運動学習の際に直面する様々な問題を主体側の地平で捉え、具体例を示しながら解説していきます。

授業の一般目標

保健体育科教員、スポーツ指導者として、動き方を伝えるために不可欠となる運動観察能力が理解できるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ運動の諸概念と正しい運動認識を理解できる。
■	情意的領域	学習者の動く感覚を読み取ることができる。
■	技能表現的領域	指導に結びつく運動の観察ができる。

授業計画(全体)

最新の理論を具体的な運動例を取り入れながら平易に解説していく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価方法他の説明)を行う。 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 「できる」と「教えられる」の関係 [内容] 運動の「説明」「支援」「サポート」と「発生」指導の区別。「発生指導」ないし「自得」により獲得された技能の持つ意味と価値について。 [授業外学習]
②	[テーマ]体育・スポーツ指導者にまつわる今日の諸問題 [内容] 運動指導を目的とする実践現場において隠れ蓑を持つ体育教師やコーチの諸問題を専門性という立場で再考し、以降の講義の狙いを明らかにする。	⑩	[テーマ] 学習目標としての「体力」とは [内容] 学校体育における「体力つくり」の問題点。「体力」という用語の認識実態及び「運動技能」との関係について。 [授業外学習]
③	[テーマ] スポーツ科学とはどのような科学か [内容] スポーツ科学とは何か。体育・スポーツの理論体系及び統合のための理論のパラダイムについて。理論と実践の恒常的断層問題について。 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」1 [内容] 「できた」ことと「コツ」「技術」との関係。「カン」が働くための前提、「コツ」との関係について。 [授業外学習]
④	[テーマ] 人間への眼差しと精密科学の発展 [内容]技を伝えるための人間の運動はどのように把握されるのか。諸外国における運動理論の台頭(マイネル)と日本のモルフォロギー運動学(金子)の発展を概観する。	⑫	[テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」2 [内容]「カン」と「コツ」の公共性、時代性とは 学習目標としての技術力と戦術力について。 [授業外学習]
⑤	[テーマ]指導法に潜む運動認識とは [内容] 体育指導で常に問題にされる鋳型化、モザイク化、構築化あるいは暴力問題などにおいて運動認識がどのようにかかわってくるのか、身近な例を用いて解説する。 [授業外学習]	⑬	[テーマ] 指導者の運動観察能力 [内容] 技能獲得と指導力獲得の基本的認識 「できる」につながる指導者の観察、交信、代行能力と管理・支援指導の区別について。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 運動現象は何故因果的思考と矛盾するのか [内容] 主観と客観、因果思考、データー化と統計的思考の問題、実践的感覚と判断の根拠などについて。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 「できる気がする」までの学習段階 [内容]運動アナロゴン、運動の形成位相、めあて、道しるべについての基本的理解。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 未熟な専門用語がもたらす実践問題 [内容] 専門用語の曖昧さがもたらす混乱。意味内容が理解されていないまま進められる学習やトレーニング活動などの問題について。 [授業外学習]	⑮	[テーマ] まとめ [内容] これまでの内容をスポーツ運動学の体系から概観し、理論的探求への手がかりとする 試験問題の解説。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 「できさせる」ための発生理論 [内容] 教員免許法、学習指導要領における運動発生理論の位置づけ。 教える―覚える関係性に必要とされる観察能力について。 [授業外学習]	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 実践例とのかかわりを重視した記述問題が中心 [授業外学習]参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。

成績評価方法(方針)

テスト前の暗記勉強では対応できません。各回の授業内容がどの程度理解できたかを確かめます。自己の運動経験を踏まえて分析内容を記述できているかを評価します。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			90%
授業内レポート				10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度			○	減点対象
出席	○			減点・欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・運動学に興味をもっていること
・豊富な運動経験が必要です(レベルは問わない)
・授業内容は毎年進化します
・教員志望者は必須です

関連科目	スポーツ技術観察論、スポーツコーチング指導法実習、ジュニアスポーツ指導論		
教科書	スポーツ運動学(明和出版)	参考書	1. 運動学講義(大修館)
連絡先	A棟403(川口)		

授業科目名	日本経済と警備業 Japanese economy and security guard business				担当教員	遠藤保雄／田中智仁
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	警備業務検定2級
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

日本経済は、高度成長期以降、今日に至る経済発展の中で、その産業構造は一次産業、二次産業から知識集約型産業へと高度多様化し、IT、金融、流通等の経済のサービス化も進むとともに、都市化も急速に進展してきた。その一環で、生活安全産業として専門多様化した警備業につき、その産業構造と産業特性を把握し、今後の社会経済的な要請の変化に対応した警備業のあり方について学ぶ。

授業の一般目標

日本の社会の安全・安心の確保上、大きな一翼を担う警備業について、戦後の経済発展に伴いいかに誕生・発展・成熟を遂げてきたか、その果たす役割と生活安全産業としての産業構造と特性について経済学、社会学の両面から考察し、日本経済と警備業に関する基本的な知識を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会の安全・安心に係る領域において活躍する警備業の考察に必要な日本経済の基礎理解と警備業の社会経済的役割を説明できる。
■	情意的領域	日本経済の中での警備業の役割を理解し、積極的に企業情報を収集し、警備業関連分野の展示会等に参加する。
■	技能表現的領域	警備業の専門多様化を踏まえて適切な警備料金を算出し、警備計画を提案することができる

授業計画（全体）

遠藤は毎回パワーポイントで授業を行い、事前に準備されたプリントをサブノートとして使い、ノートをとりつつ理解を深めさせる。また、必要に応じ、関連の文献の事前購読も求める。田中は配布資料と板書で授業を行い、必要に応じて映像資料等を採り入れる。遠藤が経済学的視点から、田中が社会学的視点から、日本の経済社会の発展の特徴を分析し、警備業の果たす役割について講義する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 日本経済の基本的な特徴と警備業の現状（遠藤） [内容] 高度成長期以降、国際化、サービス化等に直面する日本経済の基本特徴と、これに関連し、今日の警備業の現状を概観する [授業外学習]警備業務の1～4号業務を整理してまとめる(30分)	⑨	[テーマ] 日本経済の直面する問題と新しい警備ニーズ [内容] テロ、サイバーテロ、災害、高齢者見守り，東京五輪・パラリンピック等日本経済が直面する課題に答える警備ニーズにつき、概説する [授業外学習]ICTネットワークに侵入するパターンを調べる(60分)
②	[テーマ]戦後の日本経済の動向と警備業の発展①（遠藤） [内容]]戦後の高度経済成長期から安定成長期の日本経済の特徴を特徴を分析し、この過程での警備業の誕生・発展を概説する。 [授業外学習]1950年以降のGDPの推移、経済成長率を調べる。(60分)	⑩	[テーマ] 日本経済の縮小均衡と警備業の構造再編の方向（遠藤） [内容] 警備業の3重構造、専・兼業型の競合的併存、全国展開型と地方経済密着型の競争等の産業構造を踏まえ今後の警備業の再編方向を論じる。 [授業外学習]警備員の雇用規模別企業数を調べる(60分)
③	[テーマ] 戦後の日本経済の動向と警備業の発展②（遠藤） [内容] バブル崩壊後の90年代の「失われた10年」の下での日本経済のデフレ化・経済停滞の中、力強く発展する警備業の特徴を概説する [授業外学習]デフレスパイラルとは何か調べる(60分)	⑪	[テーマ] 警備業の産業構造①(田中) [内容]警備員の賃金、労働時間、就労状況等を踏まえ、警備業に関する産業社会学的な労働問題を概説する。 [授業外学習]警備員の平均給与を調べる。(90分)
④	[テーマ] 戦後の日本経済の動向と警備業の発展③（遠藤） [内容]]2000年代のリーマンショック以降、今日に至る経済激変の中での日本経済の構造変化と3兆円産業化した警備業の動向を概説する。 [授業外学習]警備業の売上高の推移を調べる。(60分)	⑫	[テーマ] 警備業の産業構造②(田中) [内容] 警備料金や労務単価がどのように決定されているのか、ダンピングや下請け構造を踏まえて概説する。 [授業外学習]交通誘導警備業務の警備料金を試算する。(90分)
⑤	[テーマ] 多様な日本の産業構造・国土利用の中での警備業①（遠藤） [内容] 施設警備に着目し増加する工場・事業場や都市での職住分離、大規模複合ビルの出現等に伴う警備の需要の拡大等の経済要因を概説する。 [授業外学習]施設警備の類型を調べる(60分)	⑬	[テーマ] 警備業と社会不安(田中) [内容] 「治安の悪化」や「安全神話の崩壊」といった社会不安が、どのようにして警備業のビジネスチャンスへと転化したのかを概説する。 [授業外学習]高度経済成長期以降の犯罪統計を調べる。(90分)
⑥	[テーマ] 多様な日本の産業構造・国土利用の中での警備業②（遠藤） [内容]大規模商業施設での保安警備、航空需要増加とテロの危険に対応した空港保安警備、エネルギー革命に伴う原子力施設警備を経済的視点から概説する [授業外学習]スーパーの売上高、国内線・国際線の乗客数、原子力発電所数を調べる	⑭	[テーマ] 警備業と雑踏・人口集中(田中) [内容] なぜ雑踏が生まれ、そこで発生する事故が問題視されるようになったのか等、過去の雑踏事故とその社会的背景を踏まえて概説する。 [授業外学習]明石歩道橋事故の調査報告書を読む。(90分)
⑦	[テーマ] 多様な日本の産業構造・国土利用の中での警備業③（遠藤） [内容] 労働力の需給タイト化とIT技術の進歩、規模の利益を踏まえ導入された機械警備とホームセキュリティの動向を概説する。 [授業外学習]機械警備利用件数の推移を調べる(60分)	⑮	[テーマ] 警備業と監視社会(田中) [内容] 警備業や防犯設備業が提供する監視カメラやセンサー等が、人々のプライバシーにどのような影響を与えるのかについて概説する。 [授業外学習]防犯設備の市場規模を調べる。(90分)
⑧	[テーマ]多様な日本の産業構造・国土利用の中での警備業④（遠藤） [内容] 多様なイベント開催と雑踏警備、ビル建設・公共工事等に不可欠な交通誘導警備の進展、日本経済の血液といえる現金輸送警備等を概説する。 [授業外学習]ATMの導入時期とその後の設置件数の推移を調べる(60分)	⑯	[テーマ] テストとレポート [内容] クラスでの講義ノートをベースに出題する。 [授業外学習]パワーポイント及び配布資料を復習しておくこと。(90分)

成績評価方法（方針）

①起承転結の論理構造、②経済学的及び社会学的な説明の妥当性、③実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験およびレポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	○	50%
授業内レポート	—	—	—	評価対象外
授業外レポート	○	◎	◎	50%
演習・実技	—	—	—	評価対象外
授業態度	—	—	—	評価対象外
出席	—	○	—	欠格事由

履修上の注意（受講学生に望むこと）

●「武道の応用展開の基礎」と「社会の安全・安心概論」の内容が基礎知識になるため、復習しておくことが望ましい。
●「応用武道護衛Ⅱ」を履修していないの者の受講も可能であるが、警備業務の種類と特徴を予習しておくことが望ましい。
●経済学及び社会学の基礎知識がない者の受講を想定しているが、可能な限り経済学及び社会学を予習しておくことが望ましい。

関連科目	武道の応用展開の基礎、社会の安全・安心概論、応用武道護衛Ⅱ		
教科書	特に指定しない	参考書	田中智仁2009『警備業の社会学』明石書店 田中智仁2012『警備業の分析視角』明石書店
連絡先	五体3階：遠藤研究室、五体3階：田中研究室		

4. 応用科目

授業科目名	スポーツコーチング概論 Introduction to Coaching				担当教員	武石/藤井邦/阿部肇/森本/石丸/吉井/仲田/桑原/山梨/門野/柴山/溝口/黒澤/佐藤(周)
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツコーチングコースでは、①競技力向上を目指す競技種目別のコーチング、②子供から高齢者まで、それぞれの年齢に応じた生涯スポーツのコーチング、2つの領域におけるコーチングの在り方や知識、スキルを習得することを目的としている。この授業はその導入にあたる。

授業の一般目標

スポーツはあくまでもプレーする側に主体があり、コーチングはそのプレーする側の目的達成のための支援活動である。プレイヤーの目的やレベルは様々であり、それぞれの発育・発達やレベルにおいて求められる指導者像やコーチングは、それぞれの課題に呼応したものでなければならない。競技種目別におけるコーチング法からそれらのことを学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツコーチング全般についての理解を深める。個人運動、球技運動、武道におけるコーチングに関する知識を習得する。
■	情意的領域	プレーする側、相手側の感情を推し量る能力に気付く、感情移入、共鳴など。また、コーチ側の視点からも同様のことを考える。
■	技能表現的領域	競技力向上を目指す種目別のコーチング、生涯スポーツのコーチングに必要なスキル、ヒューマンスキル、コンセプチュアルスキル、テクニカルスキルの獲得を始める。

授業計画(全体)

ここでは各種競技スポーツ、生涯スポーツのコーチが、プレイヤーの意欲や能力、あるいはチャンスを引き出し促進するためのスキルに焦点をあてる。各種目ごとの特徴を踏まえ、どのようにコーチングするかについて解説していく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介　評価方法 [授業外学習]スポーツコーチングについて調べる	⑨	[テーマ] 球技運動Ⅰ　攻守入り乱れ系種目 (ハンドボール) [内容] 球技運動、攻守が入り乱れる種目であるハンドボールのコーチング方法 [授業外学習]ハンドボールの競技特性とコーチングの方法を調べる
②	[テーマ]個人運動Ⅰ　計測系種目(陸上競技) [内容] 個人運動、計測系種目である陸上競技のコーチング方法 [授業外学習]陸上競技の特性とコーチングの方法を調べる	⑩	[テーマ] 球技運動Ⅰ　攻守入り乱れ系種目 (サッカー) [内容] 球技運動、攻守が入り乱れる種目であるサッカーのコーチング方法 [授業外学習]サッカーの競技特性とコーチングの方法を調べる
③	[テーマ]個人運動Ⅰ　計測系種目(陸上競技) [内容] 個人運動、計測系種目である陸上競技のコーチング方法 [授業外学習]陸上競技の特性とコーチングの方法を調べる	⑪	[テーマ]球技運動Ⅱ　攻守分類系種目(バレーボール) [内容] 球技運動、攻守分類系種目であるバレーボールのコーチング方法 [授業外学習]バレーボール競技の特性とコーチングの方法を調べる
④	[テーマ]個人運動Ⅰ　計測系種目(漕艇) [内容]個人運動、計測系種目である漕艇競技のコーチング方法 [授業外学習]]漕艇競技の特性とコーチングの方法を調べる	⑫	[テーマ] 球技運動Ⅱ　攻守分類系種目(テニス) [内容] 球技運動、攻守分類系種目であるテニスのコーチング方法 [授業外学習]テニス競技の特性とコーチングの方法を調べる
⑤	[テーマ]個人運動Ⅱ　採点系種目(体操) [内容]個人運動Ⅱ　採点系種目(体操)のコーチング方法 [授業外学習]体操競技の特性とコーチングの方法を調べる	⑬	[テーマ] 球技運動Ⅲ　攻守交代系種目(野球) [内容] 球技運動、攻守交代系種目である野球のコーチング方法 [授業外学習]野球の競技特性とコーチング方法を調べる
⑥	[テーマ] 個人運動Ⅱ　採点系種目(新体操) [内容]個人運動、採点系種目である新体操競技のコーチング方法 [授業外学習]新体操競技の特性とコーチングの方法を調べる	⑭	[テーマ] 武道　(柔道) [内容]伝統文化としての武道について解説する [授業外学習]]武道の種目について調べてくること
⑦	[テーマ] 個人運動Ⅱ　採点系種目(ダンス) [内容] 個人運動、採点系種目であるダンス競技のコーチング方法 [授業外学習]]ダンス競技の特性とコーチングの方法を調べる	⑮	[テーマ]スポーツと武道 [内容] スポーツと武道の異なるところ　伝播と変容について [授業外学習]スポーツと武道の違いは何か考えてみる
⑧	[テーマ] 球技運動Ⅰ　攻守入り乱れ系種目 (ラグビー) [内容] 球技運動、攻守が入り乱れる種目であるラグビーのコーチング方法 [授業外学習]ラグビー競技の特性とコーチングの方法を調べる	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 各種目のコーチング方法を振り返る [授業外学習]これまでの講義内容を確認すること

成績評価方法(方針)

試験レポート(評価割合80%), 授業内レポート(評価割合20%)、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中にしまうこと。授業計画は多少前後することがある。

関連科目	スポーツコーチング演習・スポーツコーチング実習		
教科書	指定しない	参考書	指定しない
連絡先	研究室:第4体育館　武石研究室　オフィスアワー:火曜10:20～11:50		

授業科目名	スポーツトレーナー概論 Introduction to Sports Trainer				担当教員	山口貴久/竹村英和
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	NSCA-CSCS
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツトレーナーには、子どもから高齢者の健康・体力づくりやトップアスリートの傷害予防と競技力向上をサポートする能力が求められる。本講義では、スポーツトレーナーとして必要な基礎的知識を身につけるために、主要な運動プログラムやスポーツ傷害を例にあげ、最近の研究結果や具体例を基に解説する。

授業の一般目標

スポーツトレーナーに必要な「トレーニング・栄養・休養」を基本とした運動プログラムの立案、分析、評価やスポーツ傷害の予防、受傷後のケアと管理法について研究するための専門的基礎を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	トレーナー活動を実施するための基礎的事項について説明できる。
■	情意的領域	科学的手法を用いたトレーナー環境の構築に取り組むことができるようになる。
■	技能表現的領域	基本的なサポート活動を選手のニーズに応じて構築することができる。

授業計画(全体)

授業テーマに沿った資料を用いての講義が中心となる。授業では主に基本的な理論と実践を取りあげて行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] アスレティックトレーナー(以下AT)とは [内容] ATの役割と、ATの歴史的背景について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
②	[テーマ] 運動、休養、栄養とコンディショニング [内容] 超回復とコンディショニングの関係について説明する。また、資格とパーソナルトレーナーとの関係も解説する。 [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑩	[テーマ] ATに必要な知識と技術 [内容] ATの活動と資質、それに必要な専門領域について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
③	[テーマ] 持久力とスポーツパフォーマンス [内容] 持久力がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑪	[テーマ] スタッフとの連携と組織の運営 [内容] 医科学スタッフの構成と役割、ATの組織と運営について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
④	[テーマ] 筋力・パワーとスポーツパフォーマンス [内容] 持久力がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑫	[テーマ] スポーツ傷害の予防 [内容] ATの主要業務のひとつであるスポーツ傷害の予防について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑤	[テーマ] 神経系とスポーツパフォーマンス [内容] 神経系がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑬	[テーマ] スポーツ現場における応急処置 [内容] ATの主要業務のひとつであるスポーツ現場での応急処置について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑥	[テーマ] コンディショニングとスポーツパフォーマン [内容] コンディショニングがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑭	[テーマ] アスレティックリハビリテーション [内容] ATの主要業務のひとつであるアスレティックリハビリテーションについて解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑦	[テーマ] 発育・発達とスポーツパフォーマンス [内容] 発育・発達がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑮	[テーマ] 検査・測定と評価 [内容] ATの主要業務のひとつである検査・測定と評価について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑧	[テーマ] 老化とスポーツパフォーマンス [内容] 老化がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 筆記試験 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

評価は、出席状況、筆記試験、レポートにより行う。各項目の評価割合は、筆記試験が50%、レポートが50%とする。試験は、期末に1回実施する(筆記試験、持ち込み不可)。また、レポートは授業内に課す。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート				
授業外レポート			◎	50%
演習・実技				
授業態度				
出席			◎	減点あり

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。
・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。

関連科目	運動生理学(1年)、スポーツトレーナー実習(2年)、スポーツトレーナー演習(2年)、体力相談と運動処方(3年)、ストレングス&コンディショニング演習(3年)、フィットネストレーナー・インターンシップ実習(4年)		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	山口貴久　第4体育館1階　tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	ジュニアスポーツコーチング論 Coaching of Junior Sports				担当教員	川口・中屋敷・柴田
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

ジュニアスポーツ指導における「運動の楽しさ」を中心にした基本的な考え方を示し、身体的発達に応じた具体的な指導を実際に体験しながらジュニア世代特有の指導のあり方について理解を深めていく。

授業の一般目標

幼児、子供のスポーツ指導の基本的な知識と能力を身に付ける。ジュニアスポーツを取り巻く現状の理解と目指すべき方向性を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	子供の観察能力の特性について理解する
■	情意的領域	子供の共感能力の特性について理解する
■	技能表現的領域	子供の技能習得過程について理解する

授業計画（全体）

3人の教員によるオムニバス形式によって行う。授業時間内に小テストの実施やﾚﾎﾟｰﾄを提出することがあります。一部は実技を通して理解を深めていく。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　オリエンテーション [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション（授業概要、目標、評価他）を行う。 [授業外学習]	⑨	[テーマ] あそびの写真から、運動財を考える。 [内容] 1枚の写真に隠されている動きの世界を知る。 [授業外学習]自分で、写真やVTRから情報を収集する。
②	[テーマ] ジュニア期の年齢別カテゴリーの分類 [内容] 発育発達上の特徴からジュニア期は3つの年齢カテゴリーに分類される事を解説する [授業外学習]配布資料中の性差や個体差について調べてくること	⑩	[テーマ] 言葉の上達は競技を上達させる。 [内容] 冷静な結果や現状を知り、次なるステップに向けた目標設定を決める。 [授業外学習]「ジュニアから大人への成長に向けて」レポート作成。
③	[テーマ] ジュニア期スポーツ指導の心得について [内容] コーチング領域からのジュニア期指導の心得と保護者の心得についての内容を説明する [授業外学習]配布資料の心得について各自の過去をあてはめて回答するように簡	⑪	[テーマ] ジュニアスポーツの指導者とは [内容] 今日の学校スポーツ、クラブスポーツ、幼児体育指導における具体的諸問題を取り上げ、発生指導の立場から問題点を浮き彫りにする。 [授業外学習]
④	[テーマ]　ゴールデンエイジ　その1 [内容] プレゴールデンエイジの発育発達上の特徴を解説し、その指導法を説明する。 [授業外学習]配布資料を読んでおくこと	⑫	[テーマ] 子供の動きの発達と動感コミュニケーション [内容] スポーツ運動の習熟位相及び局面構造の理解とともに、ジュニア期に重要となる「原志向位相」「探索位相」における共感指導について具体的に解説する。 [授業外学習]
⑤	[テーマ] ゴールデンエイジ　その2 [内容ゴールデンエイジの発育発達上の特徴を解説し、その指導法を説明する [授業外学習]	⑬	[テーマ] ジュニアスポーツと生涯スポーツ [内容] ジュニア期にどのような運動経験を体験することで生涯スポーツとしての基礎が作られるのかを学習位相との関係から説明する。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] ジュニアスポーツとは。 [内容] スポーツは子どもを大人にし、大人を紳士、淑女にする。 [授業外学習]子どものあそびを観察する。	⑭	[テーマ] ジュニア期におけるタレント発掘の捉え方 [内容]子供の能力・才能を早期に確定しようとする背景に何が潜んでいるのか。旧東側諸国の発掘事業を振り返りながら問題点を把握する。 [授業外学習]
⑦	[テーマ]言葉がジュニアを育てる。 [内容] スポーツと言葉、動きを言葉にし、言葉を文字にする。 [授業外学習]スポーツ選手の言葉（コメント）を収集する。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] 授業のまとめとﾃｽﾄ課題 [授業外学習]
⑧	[テーマ] あそびににまつわる、冒険・挑戦と危険性 [内容] あそびとスポーツについて考える。 [授業外学習]	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 記述形式を中心とした問題 [授業外学習]参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。

成績評価方法（方針）

オムニバスそれぞれのテスト及び主席率と受講態度をもとに評価します。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			90%
授業内レポート				10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		減点対象
出席	○			減点・欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・コーチング学に興味をもっていること。
・運動経験が豊富なこと（レベルは問わない）
・授業内容は毎年進化します。
・教員志望者、スポーツクラブ指導希望者を歓迎します。

関連科目	スポーツ技術観察論、ｽﾎﾟｰﾂｺｰﾁﾝｸﾞ実習、運動学（含む方法学）		
教科書	スポーツ運動学（明和出版）	参考書	1. 新しい体育授業の運動学（明和出版）
連絡先	A棟403（川口）		

授業科目名	スポーツ情報戦略論 Sport Intelligence (L.)				担当教員	石丸／粟木
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

今日、オリンピックに代表されるような高度な戦いの舞台で顕著な成績をあげその成績を維持するために、さまざまな情報活動が戦略的に展開されている。ここでは、競技力向上を目的とした情報戦略活動や試合を有利に進めるために必要とされるさまざまな情報戦略活動について紹介し、情報戦略活動の必要性やあり方、望まれるスタッフの資質や能力などについて紹介する。

授業の一般目標

「情報戦略」とは何か、その本質や社会のニーズに検討を加え、その必要性の背景や概要を理解する。また、情報戦略活動はスポーツ活動のさまざまな分野で行なわれていることを理解し、それぞれの分野・現場において必要な活動と望まれる人材の役割や資質や能力について知る。さらに、情報戦略活動を行なうために必要となる原理や原則を理解し、併せて基礎的なスキルを知る。

授業の到達目標

■	認知的領域	「情報戦略活動」の歴史的変遷、社会的ニーズ、現状の課題、国際的動向などを事例を通して知る。
■	情意的領域	「情報戦略活動」の意義や価値、あるべき姿について本質的に考え、創造的に検討を加える視点や態度を身に付ける。
■	技能表現的領域	「情報戦略活動」に必要な基本的スキルについて知り、体験学習を通してその重要性や身に付けるための方法を理解する。

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義とワークショップを中心にすすめる。より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。また、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行い、最後に定期試験を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーションと総論 [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] ソフトを使用したスポーツ情報戦略活動の必要性① [内容] スポーツコード等のソフトを使用して情報戦略活動を行うメリットやデメリットを学ぶ。 [授業外学習] 授業時に連絡
②	[テーマ] スポーツ情報戦略とは何か（定義と用語） [内容] 「なぜスポーツ情報戦略なのか」「スポーツ情報戦略の必要性」「原理・原則・定義」「用語」について学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡	⑩	[テーマ] ソフトを使用したスポーツ情報戦略活動の必要性② [内容] ダートフィッシュ等のソフトを使用して情報戦略活動を行うメリットやデメリットを学ぶ。 [授業外学習] 授業時に連絡
③	[テーマ] スポーツ情報戦略の歴史 [内容] スポーツ情報戦略活動の歴史的変遷、その本質について学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡	⑪	[テーマ] 競技現場における情報戦略① [内容] 現場におけるデータ収集や分析方法について、競技現場を例として学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡
④	[テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法① [内容] スポーツ情報戦略活動の、基礎的な理論、収集について学ぶ（バレーボールを例に） [授業外学習] 授業時に連絡	⑫	[テーマ] 競技現場における情報戦略② [内容] 現場におけるデータ収集や分析方法について、トップレベルの競技現場を例として学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡
⑤	[テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法② [内容] スポーツ情報戦略活動の、基礎的な理論、分析について学ぶ（バレーボールを例に） [授業外学習] 授業時に連絡	⑬	[テーマ] 国際総合競技大会における情報戦略① [内容] 日本オリンピック委員会における情報戦略活動を通して統括組織の視点から学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡
⑥	[テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法③ [内容] スポーツ情報戦略活動の、基礎的な理論、伝達について学ぶ（バレーボールを例に） [授業外学習] 授業時に連絡	⑭	[テーマ] 国際総合競技大会における情報戦略② [内容] 国立スポーツ科学センターにおける情報戦略活動を通して国家情報機関の視点から学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡
⑦	[テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法④ [内容] スポーツ情報戦略活動では欠かせない、会議やミーティングの仕方を学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡	⑮	[テーマ] 国際総合競技大会における情報戦略③ [内容] 国際オリンピック委員会（IOC）が開催する国際総合競技大会を通して国際スポーツの未来の視点から学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡
⑧	[テーマ] スポーツ情報戦略に関わる理論と手法⑤ [内容] スポーツ情報戦略活動で利用されている、身近なクラウドアプリの利用法を学ぶ [授業外学習] 授業時に連絡	⑯	[テーマ] 定期試験 [内容] これまで講義、演習等で学んだ内容の確認を踏まえた定期試験を行う。 [授業外学習] 授業時に連絡

成績評価方法（方針）

授業への参加態度、演習の積極的参加や工夫は加点対象とし、定期試験が評価の中心となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	◎	◎	60%
授業内レポート	◎	◎	◎	10%
授業外レポート	◎	◎	◎	10%
演習・実技		◎	◎	10%
授業態度		◎		10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

本授業では、本質について考える態度を醸成するとともに、必要とされる考え方やスキル(目的を達成する能力)について学習します。したがって、授業中で、抽象的な事柄に対して考えることや作業を通して学ぶことを求めます。プラス思考とオープンマインドの姿勢、さらには学ぶ意欲と真摯な態度を持って参加してください。なお、授業中は、分別ある行動を心がけること。授業の妨げになる行動を取る学生は、教員の判断により警告を与え、3回以上警告を受けた学生は、退出してもらいます。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができません（欠格条件）。

関連科目			
教科書	「知的コーチングのすすめ」. 勝田隆著. 大修館書店 「スポーツ・インテリジェンス」,和久貴洋著,NHK出版	参考書	授業で紹介、または参考資料を配布
連絡先	石丸出穂:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp 0224-55-5758（E棟2階）		

授業科目名	トレーニングのプログラムデザイン Designing a Training Program (L.)				担当教員	竹村英和／鈴木省三
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

適切なトレーニングプログラムは、トレーニングの原理・原則の応用に基づいて、プログラムデザインと呼ばれる手順を踏んで構築される。本講義では、トレーニングの原理を解説するとともに、どのようにトレーニングプログラムを構築していくかについて、最近の研究結果や具体例を基に解説する。

授業の一般目標

各種トレーニングプログラムの変数について理解し、適切なトレーニングプログラムをデザインするための能力を身につける。また、応用として、各自が実施しているスポーツ種目を中心に、競技種目の特異性に関する分析方法や年間トレーニングプログラムの構築および評価方法を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	プログラムデザインを実施するための基礎的事項について説明できる。
■	情意的領域	科学的手法を用いたトレーニングプログラムの構築に取り組むことができるようになる。
■	技能表現的領域	基本的なトレーニングプログラムについて、選手やクライアントのニーズに応じて構築することができる。

授業計画（全体）

授業テーマに沿った資料を用いての講義が中心となる。授業前半は主に基本的な理論を取りあげ、後半では各自の実施している競技種目の特異性分析や年間トレーニングプログラムの作成を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 各種スポーツ種目の特異性分析 [内容] スポーツ種目の特異性を分析するための基礎的理論について説明し、実際に分析を行う [授業外学習] 各自が実施しているスポーツ種目の特異性を検討しておくこと
②	[テーマ] トレーニングの計画・実践・分析・評価の重要性 [内容] トレーニングにおける計画・実践・分析・評価の実例をとりあげ、プログラムデザインの重要性について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑩	[テーマ] 年間トレーニングプログラム（ピリオダイゼーション） [内容] トレーニング期分け（ピリオダイゼーション）に関する基礎的事項について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
③	[テーマ] トレーニングの計画・実践・分析・評価の概観 [内容] トレーニングの計画・実践・分析・評価に関する基礎的事項・応用方法の概略について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑪	[テーマ] 年間トレーニングプログラムの立案 [内容] トレーニング期分けを行うための方法について説明し、実際に年間トレーニングプログラムを作成する [授業外学習] 各自の年間トレーニング計画を検討しておくこと
④	[テーマ] レジスタンストレーニングのプログラムデザインの変数 [内容] レジスタンストレーニングプログラムをデザインするための変数について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑫	[テーマ] トレーニングプログラムの評価 [内容] 各種トレーニングの負荷設定や生理的適応を評価するための方法について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑤	[テーマ] レジスタンストレーニングの強度設定 [内容] レジスタンストレーニングプログラムをデザインするための変数のうち、特に強度について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑬	[テーマ] トレーニングに伴うコンディションの評価 [内容] 生理・心理的パラメータを用いたコンディションチェックや総トレーニング量を評価するための方法について説明する [授業外学習] 各自の年間トレーニング計画を検討しておくこと
⑥	[テーマ] 有酸素性トレーニングのプログラムデザインの変数 [内容] 有酸素性トレーニングプログラムをデザインするための変数について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑭	[テーマ] IT機能を活用したコンディション評価の実例 [内容] [内容] IT機能を活用したコンディション評価の実例について紹介する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑦	[テーマ] 有酸素性トレーニングの強度設定とトレーニングタイプ [内容] 有酸素性トレーニングプログラムをデザインするための変数（運動強度）と主なトレーニングタイプについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑮	[テーマ] プログラムデザインの実例 [内容] トップアスリートにおける計画・実践・分析・評価に基づいたプログラムデザインの実例について紹介する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑧	[テーマ] 各種トレーニングのプログラムデザインの変数 [内容] スピード・アジリティトレーニングなどの各種トレーニングプログラムをデザインするための変数について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する [授業外学習] 全15回の授業内容を復習すること

成績評価方法（方針）

評価は、出席状況、筆記試験、レポートにより行う。各項目の評価割合は、出席状況が15％、筆記試験が65％、レポートが20％とする。試験は、期末に1回実施する（筆記試験、持ち込み不可）。また、レポートは授業内に課す。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			65%
授業内レポート			◎	20%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席		◎		15%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする（欠格条件）。
・授業中の私語や携帯電話の使用は慎むこと。
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。
・授業で配布する資料は書き込み式にしてあるが、指示された内容のみを書くのではなく、必要に応じてメモをとること。
・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。

関連科目	運動生理学、スポーツトレーナー概論		
教科書	特に指定しない	参考書	「NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識　第2版」 「ストレングストレーニング＆コンディショニング　第3版」
連絡先	竹村研究室（C棟3階）		

授業科目名	コンディショニング論 Introduction to Conditioning (L.)				担当教員	高橋陽介/小田桂吾
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	日本体育協会公認アスレティックトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

コンディショニングは競技スポーツにおいて勝つための全ての準備といえる。コンディショニングにおいてアスレティックトレーナーが関わる領域を挙げ、それらの主要な内容を具体的な事例を交え解説する。

授業の一般目標

コーチ、医科学スタッフらとも連携し、競技者に対し最適なコンディショニングプランを提供できるように、その調整方法を幅広い領域から学習し、習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	コンディショニングの基礎的事項を説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	アスレティックトレーナーとして選手、対象者にコンディショニングに関する指導ができる。

授業計画(全体)

授業テーマに合わせたパワーポイントの資料を中心に講義を行う。必要に応じ、資料を配布する。テーマにより実技を行い理解を深める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明 [授業外学習]シラバスの熟読	⑨	[テーマ] トレーニング計画② [内容] トレーニング計画の立案、設計について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
②	[テーマ]コンディショニングとは [内容] コンディショニングの概念、目的について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑩	[テーマ] ストレッチング [内容] ストレッチングの方法、目的、基礎知識について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
③	[テーマ] コンディショニングの要素① [内容] コンディショニングに関わる身体的因子について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑪	[テーマ] ウォーミングアップとクーリングダウン [内容] ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
④	[テーマ] コンディショニングの要素② [内容] コンディショニングに関わる環境的因子、心理的因子について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑫	[テーマ] レジスタンス・パワートレーニング① [内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
⑤	[テーマ] コンディション評価① [内容] コンディション評価の目的、方法について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑬	[テーマ] レジスタンス・パワートレーニング② [内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
⑥	[テーマ] コンディション評価② [内容] コンディション評価の目的、方法について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑭	[テーマ] アジリティー・スタビライゼーショントレーニング [内容] アジリティー・スタビライゼーショントレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
⑦	[テーマ]トレーニングの基礎 [内容]トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑮	[テーマ] 総括・復習 [内容] これまでの講義内容を復習し、テストに備える [授業外学習]テストに備え全範囲を復習する
⑧	[テーマ]トレーニング計画 [内容]トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業理解度の確認のため、筆記試験をおこなう [授業外学習]

成績評価方法(方針)

評価は筆記試験(評価割合100%)のみとし、原則として再試・追試は行わないものとする。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				評価対象外
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・日本体育協会公認アスレティックトレーナー受験希望者が望ましい
・2/3以上の出席が無い学生は評価対象外とする(欠格条件)
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある

関連科目	コンディショニング実習		
教科書	日本体育協会公認AT専門科目テキスト⑥	参考書	
連絡先	高橋研究室　第4体育館1階研究室3　Email: ys-takahashi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	スポーツマネジメント概論 Introduction to Sports Management(L)				担当教員	永田／岡田／弓田／馬
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	コース必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツマネジメントの基本的な考え方や理論について、概説する。わが国の生涯スポーツの現状や課題を説明し、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業論といった様々な視点から理解を深める。

授業の一般目標

スポーツマネジメントの基本的な考え方や理論について理解する。わが国の生涯スポーツの現状や課題を理解し、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業といった様々な視点から考察できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツマネジメントを構成する諸領域を知り、それぞれの現状や課題について説明できる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本授業は、スポーツマネジメント・コース教員によるオムニバス形式で開講する。担当者がそれぞれ授業を担当する。スポーツマネジメントの基礎となる理論について学習することを主とし、具体的には生涯スポーツ、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業論といった領域について取り上げる。基本的な内容を幅広く理解することを念頭に置き、各教員が授業を展開していく。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション（馬） [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法について説明する。生涯スポーツの意義について概説する。 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] スポーツクラブのマネジメント（弓田） [内容] クラブビジネス、組織のマネジメントについて解説し、現状や課題について考える [授業外学習]学習内容を復習すること
②	[テーマ] ヘルスプロモーション（馬） [内容] ヘルスプロモーションの考え方と、それを基本戦略とした健康増進施策について学ぶ。現場における健康づくりの実践例を紹介する。 [授業外学習]学習内容を復習すること	⑩	[テーマ] スポーツファンのマネジメント（弓田） [内容] 地域密着の必要性やマーケティングとの関連性について理解し、日本におけるファンマネジメントの課題について考える [授業外学習]学習内容を復習すること
③	[テーマ]身体活動・運動（馬） [内容] 身体活動・運動の身体的、心理的、社会的および環境的効果を解説する。健康支援について考える。 [授業外学習]学習内容を復習すること	⑪	[テーマ] スポーツリーグのマネジメント（弓田） [内容] リーグの類型や役割について概説し、ガバナンスの重要性と課題について考える [授業外学習]学習内容を復習すること
④	[テーマ]野外教育・レクリエーションの重要性（岡田） [内容] 野外教育やレクリエーションなどの言葉の定義について解説する。野外教育・自然体験活動の事例紹介も行う。 [授業外学習]学習内容を復習すること	⑫	[テーマ] スポーツマネジメントの概説（永田） [内容] スポーツマネジメントについて、学問や立場によって捉え方が一様でないことを前11回の講義も含め理解する。 [授業外学習]学習内容を復習すること
⑤	[テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際①プログラム編（岡田） [内容] 野外・レク事業のプログラムについて学ぶ。事業の評価の視点や企画の際に必要なプログラムデザインについて解説する。 [授業外学習]学習内容を復習すること	⑬	[テーマ] スポーツ事業論①　（永田） [内容] スポーツ経営の仕組みとスポーツ事業論（A.S.　P.S.　C.S.）について解説する [授業外学習]スポーツ事業とは何か、調べておく
⑥	[テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際②マネジメント編（岡田） [内容]野外・レク事業のマネジメントについて学ぶ。事業の事前準備に必要なマネジメントをあげ、それぞれの必要性を解説する。 [授業外学習]学習内容を復習すること	⑭	[テーマ] スポーツ事業論②　（永田） [内容] スポーツ事業論（A.S.　P.S.　C.S.）を用い、事例により運動生活の現状を理解する [授業外学習]自身の児童・生徒時代のスポーツとの関わりを考えておく
⑦	[テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際③まとめ（岡田） [内容] 野外・レク事業の運営方法について学ぶ。事前、事中、事後のマネジメントについて整理し、事業運営に必要な知識を身につける。 [授業外学習]学習内容を復習すること	⑮	[テーマ] スポーツ事業論③及びまとめ（永田） [内容] 前2回で学んだスポーツ事業論（学校を基盤とした理解）が、学校以外の領域においてどのように応用できるか考える。 [授業外学習]学校以外の領域でのスポーツ経営の仕組みについて考えておく
⑧	[テーマ] クラブ系のマネジメント　導入（弓田） [内容]スポーツマネジメントの発展経緯、スポーツ現場で求められるマネジメントを3つレベルに分けて紹介する。 [授業外学習]学習内容を復習すること	⑯	[テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り [授業外学習]

成績評価方法（方針）

馬（授業内レポート25%）、岡田（授業内レポート25%）、弓田（授業内レポート25%）、永田（授業内レポート25%）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎			100%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・本授業はスポマネ・コースの必修授業であり、コース所属教員によりオムニバス形式で実施するため全ての授業を受講してもらいたい。4名の教員が授業を担当するが、1名の担当回数中半分以上休むことがないようにすること。
・全体で2/3以上の出席がない学生も単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・予習・復習をしっかりとすること。
・授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある。

関連科目	スポーツ経営学（1年）、スポーツ社会学(1年）、スポーツマネジメント実習（2年）、地域スポーツ戦略論（2年）、スポーツマーケティング論（2年）、スポーツマネジメント演習（3年）等		
教科書		参考書	授業時に紹介する
連絡先	馬（5体2階）、岡田（A509）、弓田（A504）、永田（A312）		

授業科目名	体力相談と運動処方 Exercise Prescription and Physical Fitness (L.)				担当教員	鈴木省三／竹村英和／馬　佳濛
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	スポーツプログラマー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

生活習慣の一つである「運動・スポーツ」が、健康の維持増進や体力向上に効果があることは多くの研究で明らかにされている。本講義では、健康づくりのために運動習慣を持つことの大切さと、体力増強を狙いとした運動プログラムの作成方法について、最近の研究結果や具体例を基に解説する。

授業の一般目標

運動不足が体力に及ぼす影響について理解し、クライアントの目的に応じた適切な運動プログラムを作成するための能力を身につける。また、応用として、5段階評価表、メッツを用いた運動プログラム、体脂肪を減少させるための有酸素プログラム、高齢者の筋肉量を増加させるための筋力トレーニングプログラム等の作成と評価方法を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	体力相談や運動処方を実施するための基礎的事項について説明できる。
■	情意的領域	科学的手法を用いた運動プログラムの構築に取り組むことができるようになる。
■	技能表現的領域	基本的な運動プログラムを子どもから高齢者のニーズに応じて構築することができる。

授業計画（全体）

授業テーマに沿った資料を用いての講義が中心となる。授業では主に基本的な理論と実践を取りあげ、子どもから高齢者、スポーツ選手、メタボリックシンドローム予備軍らの運動プログラムの作成を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 5段階評価表を用いたスポーツ選手の運動処方の実践（作業2） [内容] クライエントのデータから5段階評価表を作り、目的を達成させるための運動プログラムを作成する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
②	[テーマ] 体力相談と運動処方の意義 [内容] 現代の健康阻害要因と中高年のメタボリック症候群、介護が必要な高齢者との関係から体力相談と運動処方の意義について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑩	[テーマ] ITを用いた運動処方の実際 [内容] 前回のプログラムについてITを用いた運動処方の実際について説明する [授業外学習] METsについて予習をしてくること
③	[テーマ] メタボリックシンドローム [内容] メタボリックシンドロームに関する基礎的事項や改善方法の概略を説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑪	[テーマ] METsを用いた運動処方 [内容] METsの計算方法を説明し、数多くの計算問題を実施する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
④	[テーマ] 運動不足の影響とトレーニング効果 [内容] 運動不足やトレーニングが健康や体力に及ぼす影響について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑫	[テーマ] 糖尿病予備軍の運動処方 [内容] 糖尿病とインスリンの関係から運動処方のポイントについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習しておくこと
⑤	[テーマ] 運動処方のプロセス [内容] クライエントの目的を達成するための運動処方のプロセスについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑬	[テーマ] 高齢者の運動処方 [内容] 高齢者の生理的特性を踏まえた運動処方のポイントについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習しておくこと
⑥	[テーマ] 運動処方の実践（作業1） [内容] 体力増強を目的としたクライエントのプログラム作成（作業） [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑭	[テーマ] 子どもの運動処方 [内容] 子どもの生理的特性を踏まえた運動処方のポイントについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習しておくこと
⑦	[テーマ] 運動プログラムの組み立て手順 [内容] 前回のプログラム作成のポイントについて解説をする [授業外学習] 授業資料を基に復習すること（授業後）	⑮	[テーマ] 生活習慣病予備軍の運動処方 [内容] ケーススタディ研究から生活習慣病についての運動処方のポイントについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習しておくこと
⑧	[テーマ] 5段階評価表の作成法 [内容] 5段階評価表の作成法と分析手順について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する [授業外学習] 全15回の授業内容を復習すること

成績評価方法（方針）

評価は、出席状況、筆記試験、レポートにより行う。各項目の評価割合は、出席状況が15％、筆記試験が65％、レポートが20％とする。試験は、期末に1回実施する（筆記試験、持ち込み不可）。また、レポートは授業内に課す。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	65%
授業内レポート			◎	20%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				評価対象外
出席		◎		15%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。
・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。

関連科目	運動生理学		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鈴木研究室（A棟4階402）		

授業科目名	衛生・公衆衛生学 Public Health(L.)				担当教員	小松正子・高橋弘彦
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	保健体育科教諭、社会福祉主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

人々の健康を守るために疾病予防、環境衛生、保健統計等について、現代のトピック、理論と実際等を講義する。

授業の一般目標

衛生・公衆衛生学の目的である人々の健康を守ることに必要な知識の習得をめざす。

授業の到達目標

■	認知的領域	衛生・公衆衛生学の基礎的事項・重要事項について説明できる。
■	情意的領域	知識を身近な事柄で振り返り応用する態度を身につける。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

知識を身近な事柄で振り返り応用する態度を身につける。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 衛生・公衆衛生学とは [内容] 衛生・公衆衛生学の定義とその内容について説明する [授業外学習]社会における役割について復習しておくこと	⑨	[テーマ] 環境の把握とその評価(1) [内容] 地球環境問題について説明する(温暖化、砂漠化、食物連鎖等) [授業外学習]地球環境問題とその影響についてについて復習しておくこと
②	[テーマ]健康の概念、医事法規 [内容]健康と健康増進(WHO憲章、オタワ憲章等)、病気の経過およびその各段階における予防手段を知り、医事法規についても学ぶ。 [授業外学習]他者に説明できるよう復習する	⑩	[テーマ] 環境の把握とその評価(2) [内容] 生活環境問題について説明する(アルコール、騒音、廃棄物等) [授業外学習]生活環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと
③	[テーマ] 生活習慣病概論 [内容] 生活習慣病の定義、各生活習慣と疾患の関連を知り、生活習慣変容の重要性を理解する。 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 環境の把握とその評価(3) [内容] 化学的環境問題について説明する(環境汚染物質、喫煙等) [授業外学習]化学的環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと
④	[テーマ]健康づくり施策 [内容] 第1次健康づくり対策から健康日本21まで健康づくり対策の変遷 [授業外学習]他者にも説明できるように復習する。	⑫	[テーマ] 環境の把握とその評価(4) [内容] 生物的環境問題について(ウィルス感染症、HIV、AIDS他) [授業外学習]生物的環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと
⑤	[テーマ] 生活習慣病と運動疫学 [内容] 運動と生活習慣病予防の関連について疫学等を通じて理解する。 [授業外学習]他者にも説明できるように復習する。	⑬	[テーマ] 物理的環境要因(1) [内容]気温、気湿(湿度)、熱輻射、気流(風速)の人体影響について説明する [授業外学習]生活を取り巻く物理的環境の影響について復習しておくこと
⑥	[テーマ] 運動基準・運動指針 [内容]運動基準・運動指針(エクササイズガイド)2006について理解する。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 物理的環境要因(2) [内容] 熱中症の現状とその予防法について説明する [授業外学習]学校現場における熱中症の発生状況とその予防法について復習しておくこと
⑦	[テーマ]介護予防概論 [内容]細菌性・ウイルス性、感染型・毒素型等の食中毒の分類・特徴について理解する。有機溶剤、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。 [授業外学習]他者にも説明できるように復習する。	⑮	[テーマ] まとめ [内容]全体を振り返る [授業外学習]各自、理解不足のところを補習すること
⑧	[テーマ] 食中毒、有機溶剤等中毒について [内容] 細菌性・ウイルス性、感染型・毒素型等の食中毒の分類・特徴について理解する。有機溶剤、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。 [授業外学習]身近な食物・曝露(喫煙等)と関連づけて考えられるように復習する。	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 全15回の内容について知識の確認をする [授業外学習]

成績評価方法(方針)

期末試験をもって評価する。6割以上の得点を合格とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート		○		
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				適宜
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

試験を欠席した場合(所定時間を経過し遅刻した場合も含む)、放棄となる。授業・掲示等をよく確認のこと。受講態度に著しい問題が認められた学生に対しては成績評価から減点する。

関連科目	学校保健学		
教科書	衛生・公衆衛生学(アイ・ケーコーポレーション)	参考書	特になし
連絡先	研究室:小松正子(F棟2階)、高橋弘彦(C棟3階)		

授業科目名	学校保健学 School Health(L.)				担当教員	小松正子、小浜明、高橋弘彦、入澤裕樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中高保体）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

児童生徒の健康の保持増進についての講義を行なう。

授業の一般目標

学校保健の概要と心身両面からの保健管理（対人管理・環境管理）・教育（保健学習・保健指導）を学び，理解することを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校保健について深く理解している
■	情意的領域	関心・意欲が高い
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認したり、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行うこともある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション、「学校保健」とは何か [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、学校保健の定義 [授業外学習]配布資料あり。オリエンテーションは必ず出席してください。	⑨	[テーマ] 保健室の役割 [内容]保健室の役割について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
②	[テーマ]学校保健管理の実際 [内容] 学校保健管理が進められる際のツールなど [授業外学習]配布資料等でよく復習を行う	⑩	[テーマ]学校でみられる疾病 [内容] 学校で多く見られる疾病・異常等について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
③	[テーマ] 身体の発育・発達 [内容] 学童期の身体の発育・発達の特徴について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑪	[テーマ] 性教育・薬物中毒・小児生活習慣病 [内容]避妊、薬物、小児糖尿病等に関する知識を視聴覚教材供覧も行いながら修得する [授業外学習]気になった点を参考書や図書館資料を使い調べる
④	[テーマ]健康状態の評価 [内容]児童生徒の健康状態を把握するための指標について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑫	[テーマ]学校でみられる重要な疾患 [内容] 心臓病、腎臓病など生活管理指導が特に必要な疾患について [授業外学習]難しく感じた点、興味が沸いた点は図書館で調べる
⑤	[テーマ] 健康診断 [内容] 学校で行われる健康診断について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑬	[テーマ] 学校管理下の事故の実態と防止 [内容] 小・中・高校における事故発生状況とその予防法について説明する [授業外学習]学校区分ごとの事故発生状況とその要因について復習すること
⑥	[テーマ] 児童生徒の健康状態 [内容] 児童生徒の健康状態の変遷と現在の課題について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑭	[テーマ] 学校環境衛生 [内容] 点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと [授業外学習]点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと
⑦	[テーマ]児童生徒の健康と教育 [内容] 保健学習・保健指導について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑮	[テーマ] まとめ [内容]これまでの学習についてまとめる。 [授業外学習]これまで学習したところを復習しておくこと
⑧	[テーマ] 心の発達と諸問題 [内容] 事例を中心にして考える [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑯	[テーマ] 試験 [内容]授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法（方針）

期末試験により評価を行う。授業進行状況により、授業内レポート（評価割合10%）を課す場合がある。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			90～100%
授業内レポート	○	○		10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授講態度が悪い学生は、単位を習得することが出来ない（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。

関連科目	健康相談（3年：健康福祉・運動栄養）、衛生・公衆衛生学（2年）、保健体育科教育論Ⅱ（3年）		
教科書	基礎から学ぶ学校保健（建帛社）	参考書	特に指定しない
連絡先	小松正子（F棟2階）、小浜、入澤（A棟3階）、高橋弘（C棟3階）		

授業科目名	国際社会と警備				担当教員	遠藤保雄・高成田享
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

国際経済社会の統合化が進む中、日本経済の国際化に伴う日本企業の対外進出や邦人の海外旅行、海外生活機会の拡大に伴い邦人の海外生活や事業展開に伴う生命、身体、財産の保全・安全確保上のリスクが増大している。このような国際社会でのリスクの増大にいかに対処するかに関連し、自己防衛と警備という手法に着目し、その展開の実態と課題を概説する。

授業の一般目標

グローバルな形で社会経済の展開が図られる中で、邦人、邦人企業の国際社会での事業展開と海外生活面での各種リスクが増大しているが、そのリスク対応に関し、我々の生活がこれらの国際社会と密接不可分な関係を有している実態を認識し、国際社会に身を置くに至った際のリスク対応への効果的な展開の必要性を学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	国際化に伴う日本企業等の海外進出に伴う生命・財産・経済活動の確保に関するノウハウの習得
■	情意的領域	社会の安全安心を担う人材として、その役割を担う上で必要な国際的な視点でのリスク管理等へのアプローチの仕方を身に付ける。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

講義は毎回パワーポイントで行い、合わせて事前に準備配布されたプリントをサブノートとして使いノートをとりつつ理解を深める方式をとる。また、必要に応じ、講義時間内で小レポートの作成も求める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 教員紹介と国際社会において直面するリスク・危機管理に関連しこの講義で何を学ぶか [授業外学習]社会の安全・安心概論序章を復習しておくこと(90分)	⑨	[テーマ] 国際化に伴う主要地域ごとのリスク・危機の特徴と背景要因：中南米 [内容] 中南米の貧困と政治経済的不安定の時代的な背景、今日抱える問題を概観し、ケース・スタディを取り込んで邦人の進出に伴うリスク・危機要因を考察する [授業外学習] 中南米での邦人誘拐事件の事例を調べること(90分)
②	[テーマ]戦後の国際社会の構造変化Ⅰ [内容] 1950年から80年だ末にかけての東西冷戦構造下での国際経済動向と国際社会における国家間の対立・戦争、核の傘の形成、植民地の独立と南北問題 [授業外学習]冷戦とは何かについて学習しておくこと(90分)	⑩	[テーマ]国際化に伴う主要地域ごとのリスク・危機の特徴と背景要因：アジア① [内容] 東アジアの政治経済的不安定性の時代的な背景と今日抱える問題を概観し、ケース・スタディを取り込んで邦人の進出に伴うリスク・危機要因を考察する [授業外学習]中国の海洋進出の考え方を調べること(90分)
③	[テーマ] 戦後の国際社会の構造変化Ⅱ [内容] ソ連崩壊後の国際経済動向と国際社会：民族主義の内部化と原理主義の台頭、地域紛争、グローバル経済下での貧困の進行とと9.11等国際テロリズムの台頭 [授業外学習]90年代の世界経済史を学習すること(90分)	⑪	[テーマ] 国際化に伴う主要地域ごとのリスク・危機の特徴と背景要因：アジア② [内容]] 東南アジア・南アジアの貧困と政治経済的不安定の時代的な背景と今日抱える問題を概観しケース・スタディを含め邦人の進出に伴うリスク・危機要因を考察する [授業外学習]アセアンの成立経緯とその狙いを調べること(90分)
④	[テーマ]日本経済の国際化に伴う企業の海外進出・邦人の海外渡航の動向① [内容] 戦後から80年代半ば、85年プラザ合意から90年代末、2000年以降に分けて、邦人の海外旅行、留学、企業進出等の動向 [授業外学習]60年代の海外旅行者数、海外在住者数を調べておくこと(90分)	⑫	[テーマ] 国際化に伴う主要地域ごとのリスク・危機の特徴と背景要因：イスラム圏 [内容]] イスラム社会とテロ等イスラム圏の抱える政治経済的不安定性と今日抱える問題をケース・・スタディを行いつつ概観する [授業外学習]イスラム社会の宗教(イスラム教)の特徴を調べること(90分)
⑤	[テーマ] 日本の国際化のアキレス腱　急速な海外進出に伴う邦人の安全・安心リ [内容]海外旅行客、留学生、邦人企業の海外進出に伴う邦人の海外在住の増大に伴う事故・事件・誘拐・テロ等のリスクについて概説する [授業外学習]海外での邦人の事故件数を調べること(90分)	⑬	[テーマ] 国際化に伴う主要地域ごとのリスク・危機の特徴と背景要因：イスラム圏 [内容] ソ連崩壊後において、ロシアと東欧圏・中央アジアの間の領土・民族・資源を巡る対立が顕在化する中、これら地域の政治経済的不安定性と抱える問題を概観する [授業外学習」中東の国別石油産出量を調べること(90分)
⑥	[テーマ] 日本経済の国際化に伴う企業の海外進出・邦人の海外渡航の動向② [内容] 戦後から80年代半ば、85年プラザ合意から90年代末、2000年以降に分けて、貿易立国日本にとり資源輸入と製品輸出に着目した国際物流の動向 [授業外学習]80年代以降の我が国の貿易の金額と品目構成を調べること(90分)	⑭	[テーマ]]海外進出に伴う邦人、我が国企業の国際社会でのリスク管理等の在り [内容] 個人・企業等に求められる自主的な防衛、警備体制の整備等の必要性を考察する [授業外学習]外務省の危険情報の提供内容を調査しておくこと(90分)
⑦	[テーマ] 貿易立国・日本のアキレス腱　国際物流に潜む各種のリスク・危機 [内容] 我が国の輸出入活動に付きまとう各種リスク、ソマリア沖、アデン湾、マラッカ海峡等の海賊等のリスク・危機をレビューし各社う対策を概観する [授業外学習]日本の船舶の海賊等に遭遇した件数とエリアを調べること(90分)	⑮	[テーマ] 海外進出に伴う邦人、我が国企業等の国際社会でのリスク管理等の在 [内容] 邦人及び邦人企業の安全(セキュリティー)が脅かされた過去の実例とその検証を通じ、テロ問題、各種犯罪・事故等への対応方策を考察する [授業外学習]外務省のデータでのテロ、各種犯罪・事故の発生件数を調べること
⑧	[テーマ] 国際化に伴う主要地域ごとのリスク・危機の特徴と背景要因：アフリカ [内容]] アフリカの貧困と政治経済的不安定の時代的な背景、今日抱える問題を概観し、ケース・スタディを取り込んで邦人の進出に伴うリスク・危機要因を考察する [授業外学習]アフリカの各国がどこの植民地であったか調べること(90分)	⑯	[テーマ] テスト及びレポート [内容] 講義ノートをベースに出題する。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

①起承転結の論理構造、②日本の国際化、16世紀以降の世界の経済社会のグローバル化に関する知識の正当性、③実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○		80%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	○		20%
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

常日頃、新聞・テレビ等の国際情勢に関する報道に関心を持って接すること、16世紀以降の世界史、明治維新以降の日本の政治経済史について高校レベルでの学習を復習しておくこと、出席日数とクラス討議への参加を重視する

関連科目	警備制度の国際比較。武道の応用展開の基礎		
教科書		参考書	適宜、講義の中で指示する
連絡先	遠藤保雄ys-endo@sendai-u.ac.jp, 高成田享to-takanarita @sendai-ac.jp		

授業科目名	犯罪・犯罪心理学 Criminology,Criminal Psychology				担当教員	田中智仁
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	警備業務検定2級
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

犯罪の原因および犯罪が起こりやすい機会を網羅的に概説する。犯罪学は生物学、社会学、心理学等の総合体系であるが、個々の学問の予備知識が無くても理解できるよう順々にテーマを展開する。

授業の一般目標

犯罪発生のメカニズムと対策を理解し、有効的な警備・警護実務を具体的に提言・実践できる思考力を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	犯罪が何故発生し、どのように防止すればよいかを理論に基づいて説明できる。
■	情意的領域	警備・警護の実務および日常生活への応用に関心を持って犯罪対策を実践できる。
■	技能表現的領域	防犯の方策を具体的に提言し、有効な警備計画を立案することができる。

授業計画（全体）

配布資料、板書を中心に講義を進める。必要に応じて、映像資料等も交えて解説する。犯罪社会学と犯罪心理学の理論に関する講話が主要となるが、随所に実務的観点を盛り込み、応用力と思考力の開拓を目指す講義を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 犯罪学とは何か [内容] 「人はなぜ罪を犯すか」（原因論）、「どのように犯罪を防止するか」（機会論）といった立場の違いを説明する。 [授業外学習]近年の重大事件を調べる。(90分)	⑨	[テーマ] 目撃証言の妥当性 [内容] 犯罪捜査では目撃証言が決め手になることが多いが、目撃証言は本当に正確なのだろうか。証言の有効性と限界性を概説する。 [授業外学習]冤罪の事例について調べる。(90分)
②	[テーマ]「犯罪」という概念と犯罪統計の実際 [内容] 私たちがイメージする「犯罪」は、果たして実態そのものなのだろうか。統計のトリックなどを解説する。 [授業外学習]マスコミによる犯罪統計報道を調べる。(90分)	⑩	[テーマ] 構築される犯罪 [内容] 犯罪者は本当に「悪人」なのか。ラベリング論と社会構築主義の観点から、構築される犯罪について概説する。 [授業外学習]本質主義と構築主義の違いを調べる。(90分)
③	[テーマ] 古典的な犯罪学 [内容] 犯罪の原因は脳や身体の特徴で説明できるのか。犯罪生物学と社会病理学を主として概説する。 [授業外学習]20世紀初頭の犯罪学理論を調べる。(90分)	⑪	[テーマ] 犯罪被害者への着目 [内容] 犯罪原因論は犯罪加害者に注目するが、被害者の存在も重要である。そこで、被害者学の観点から犯罪被害者について概説する。 [授業外学習]犯罪被害者支援団体の活動を調べる。(90分)
④	[テーマ] シカゴ学派の古典犯罪学 [内容] 急激な都市化をみせたシカゴでは、深刻な貧困等の社会病理現象が蔓延した。そのような背景で生成した古典的研究を概説する。 [授業外学習]シカゴの都市発達史を調べる。(90分)	⑫	[テーマ] 犯罪を防止する① [内容] 犯罪原因論は、必ずしも防犯に役立つ知見ではない。そこで、環境犯罪学の観点から、犯罪の機会と防止について概説する。 [授業外学習]CPTEDの実用例について調べる。(90分)
⑤	[テーマ] 社会的な犯罪原因① [内容] いわゆる「不健全」な人間関係や帰属集団が犯罪者を生みだすのか。犯罪者生成のメカニズムを概説する。 [授業外学習]有名な犯罪者の生育歴を調べる。(90分)	⑬	[テーマ] 犯罪を防止する② [内容] 警備・警護の実務における防犯活動を環境犯罪学の観点から概説する。 [授業外学習]割れ窓理論の実用例について調べる。(90分)
⑥	[テーマ] 社会的な犯罪原因② [内容] 凶悪犯が存在する半面、なぜ多くの人は凶悪犯罪に手を染めないのか。「社会的絆」に着目して犯罪を概説する。 [授業外学習]日常的なインフォーマル・コントロールを調べる。(90分)	⑭	[テーマ] 「安全・安心まちづくり」という政策 [内容] 環境犯罪学は多くの社会安全政策の基礎となっている。「安全・安心まちづくり」の事例を取り上げ、政策的展開を考える。 [授業外学習]タウンセキュリティの事例について調べる。(90分)
⑦	[テーマ] 心理的な犯罪原因① [内容] 凶悪犯の心理とはどのようなものか、どのような人が凶悪犯になるのか。犯罪心理学の観点から概説する。 [授業外学習]DSM-5の内容を確認する。(90分)	⑮	[テーマ] 過剰防犯の課題 [内容] 環境犯罪学は、過度な監視や過剰な防犯対策を促す危険性も孕む。平和的かつ有効的な実務運用を考える。 [授業外学習]監視社会論について調べる。(90分)
⑧	[テーマ] 心理的な犯罪原因② [内容] 私たちの身近では、凶悪犯罪ではなく軽犯罪が大多数を占める。身近な犯行の心理状態を概説する。 [授業外学習]万引に関する統計を確認する。(90分)	⑯	[テーマ] 定期試験 [内容] 所期の到達目標を達成したかどうかを筆記試験によって考査する。 [授業外学習]配布資料とテキストを復習する。(90分)

成績評価方法（方針）

定期試験とレポートの両方とも、①起承転結の論理構造、②犯罪学的な説明の正当性、③実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験とレポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	○	80%
授業内レポート	—	—	—	評価対象外
授業外レポート	○	○	◎	20%
演習・実技	—	—	—	評価対象外
授業態度	—	—	—	評価対象外
出席	—	—	—	評価対象外

履修上の注意（受講学生に望むこと）

●本講義名に「犯罪心理学」と明記されているが、犯罪学を幅広く扱うことから、心理学に特化した内容ではないことを承知の上で受講すること。
●刑法学・刑事政策も犯罪学の一領域であるが、これらは「安全・安心関係法令概論」で扱うため、本講義では確認程度にとどめる。
●時事的な事例を挙げて説明することがあるため、日々のニュース（主に社会面記事）をチェックしておくこと。

関連科目	社会の安全・安心概論、安全・安心関係法令概論		
教科書	矢島正見他編『よくわかる犯罪社会学入門』（改訂版）学陽書房	参考書	岡邊健編『犯罪・非行の社会学』有斐閣 藤岡淳子編『犯罪・非行の心理学』有斐閣
連絡先	五体3階33号研究室（田中研究室） tm-tanaka@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	警備制度の国際比較 International comparison of security guard system				担当教員	田中智仁／遠藤保雄
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	警備業務検定2級
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

民間警備制度が、①住民自治や市民社会主導のものか、②公的警察制度の補完的な機能にとどまっているかという視点から、諸外国の民間警備制度の由来・特性を検証し、概観する。

授業の一般目標

公的な警察制度の成立の歴史的背景および政治的背景、その権力の強弱を踏まえた上で、諸外国の民間警備制度における相違を理解することができる。また、この違いを国際比較することにより、日本の民間警備制度の特性を見出すことができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	諸外国との国際比較の観点から、日本の民間警備制度の特性について説明することができる。
■	情意的領域	諸外国の民間警備制度の理解を深め、意欲的に現地視察をすることができる。
■	技能表現的領域	日本の警備業者の海外進出計画を、留意点を踏まえて立案することができる。

授業計画（全体）

本講義は田中と遠藤のオムニバス科目である。田中は、警備業の世界史と韓国、フランス、ドイツの民間警備制度を扱う。また、遠藤は、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、日本の大手2社の比較を扱う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 警備制度と国家(田中) [内容] 国際比較を行う上で不可避となる「国家」という概念について概説する。 [授業外学習]高卒程度の政治史を復習する。(90分)	⑨	[テーマ]イギリスの民間警備制度Ⅰ(遠藤) [内容]中世期以降のイギリスの社会経済の発展と国民の警備思想、警備・警察システムの形成過程及びその特性について概説する。 [授業外学習]イギリスの政治経済史を調べる。(90分)
②	[テーマ]民間警備制度の世界史Ⅰ(田中) [内容] 先史時代から中世にかけての民間警備制度の歴史を概説する。 [授業外学習]高卒程度の世界史(古代・中世)を復習する。(90分)	⑩	[テーマ] イギリスの民間警備制度Ⅱ(遠藤) [内容] イギリスの民間警備制度の法体系、警備員の資格制度、警備業務の実態、市場規模、警備業務・警察業務との関係等を概説する。 [授業外学習]イギリスの法制史を調べる。(90分)
③	[テーマ]民間警備制度の世界史Ⅱ(田中) [内容] 中世から近代にかけての民間警備制度の歴史を概説する。 [授業外学習]高卒程度の世界史(近代)を復習する。(90分)	⑪	[テーマ]アメリカの民間警備制度Ⅰ(遠藤) [内容] 植民地時代・西部開拓時代以降の アメリカの警備・法執行システムの形成過程とその特徴を概説する。 [授業外学習]アメリカの政治経済史を調べる。(90分)
④	[テーマ] 民間警備制度の世界史Ⅲ(田中) [内容]世界最古の警備業者といわれるアメリカのピンカートン探偵社について概説する。 [授業外学習]アメリカの歴史(西部開拓時代)を調べる。(90分)	⑫	[テーマ]アメリカの民間警備制度Ⅱ(遠藤) [内容]アメリカの民間警備制度の法体系、警備員の資格制度、警備業務の実態、市場規模、警備業務と警察業務との関係等を概説する。 [授業外学習]アメリカの法制史を調べる。(90分)
⑤	[テーマ] 軍事会社としての民間警備(田中) [内容] 民間兵士を戦地に送り込む軍事会社について概説し、警備業との類似性と差異性について検討する。 [授業外学習]湾岸戦争、9・11、イラク戦争を調べる。(90分)	⑬	[テーマ]カナダ及び 豪州の民間警備制度(遠藤) [内容] カナダ及び豪州の民間警備制度の法体系、警備員資格、警備業務の実態、市場規模、民間警備・警察業務との関係等を概説する。 [授業外学習]カナダと豪州の政治経済史を調べる。(90分)。
⑥	[テーマ] ドイツの民間警備制度(田中) [内容])独の民間警備制度の法体系、警備員の資格制度、警備業務の実態、市場規模、民間警備業務と公的警察業務との関係等を概説する。 [授業外学習]ドイツの政治経済史を調べる。(90分)	⑭	[テーマ] 警備制度の国際比較(田中・遠藤) [内容]第二次世界大戦後の国際情勢の変化の過程で発展してきた 諸外国の警備制度を比較し、その相違と特性を概説する。 [授業外学習]第6回～第13回の授業内容を復習する。(90分)
⑦	[テーマ] フランスの民間警備制度(田中) [内容]仏の民間警備制度の法体系、警備員の資格制度、警備業務の実態、市場規模、民間警備業務と公的警察業務との関係等を概説する。 [授業外学習]フランスの政治経済史を調べる。(90分)	⑮	[テーマ] 日本の大手警備業者の比較(遠藤) [内容] 日本の大手警備業者セコムと綜合警備保障の警備業務に関し、国際的な展開とその業務特性を比較する。 [授業外学習]セコムと綜合警備保障について調べる。(90分)
⑧	[テーマ] 韓国の民間警備制度(田中) [内容] 韓国の民間警備制度の法体系、警備員の資格制度、警備業務の実態、市場規模、民間警備業務と公的警察業務との関係等を概説する。 [授業外学習]韓国の政治経済史を調べる。(90分)	⑯	[テーマ] 定期試験 [内容] 所定の到達目標を達成したかどうかを筆記試験によって考査する。 [授業外学習]全15回の授業内容を復習する。(90分)

成績評価方法（方針）

①起承転結の論理構造、②諸外国の警備制度に関する知識の正当性、③実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	○	50%
授業内レポート	—	—	—	評価対象外
授業外レポート	○	○	◎	50%
演習・実技	—	—	—	評価対象外
授業態度	—	—	—	評価対象外
出席	△	△	△	欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

●初学者にわかるような説明を行うが、高校までに修得した世界史、地理、政治経済の知識を確認しておくことが望ましい。
●近年の警備制度については、時事的な動向も反映させるため、新聞等の国際面をチェックしておくことが望ましい。
●各国とも警備業法の概説を含むため、日本と比較する上で日本の警備業法についても確認しておくことが望ましい。

関連科目	社会の安全・安心概論、応用武道護衛Ⅱ、応用武道実技Ⅱ、日本経済と警備業		
教科書	特に指定しない	参考書	田中智仁2009『警備業の社会学』明石書店
連絡先	五体3階33号研究室（田中研究室） tm-tanaka@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	メンタルトレーニング Mental Training(L)				担当教員	菊地 直子
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本講義は、スポーツ心理学という学問的背景から、さまざまなメンタルトレーニング技法を紹介する。ここでは、はじめにメンタルトレーニングにおける心理的諸側面を分類し、代表的なメンタルトレーニング技法を体験することにより学びを促進する。

授業の一般目標

最終的には、メンタルトレーニングの各スキルを体験し、メンタルトレーニングの効果や効果を挙げるための学問的知識ならびに、人間理解の方法について理解している。

授業の到達目標

■	認知的領域	各メンタルトレーニング技法について理解している。
■	情意的領域	対人援助場面で、対象者の心理的世界を適切に理解できるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本講義は、メンタルトレーニング理論と実際を中心に講義する。また、学びを深めるために「体験」を通した学習を多く取り入れる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 技法の実際① [内容]目標設定技法について理論と実際について体験を通して理解させる。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。
②	[テーマ] メンタルトレーニングとは [内容] メンタルトレーニングの定義と近年の動向について概説する。 [授業外学習]これまでに、遭遇したメンタル的な問題について発表できる。	⑩	[テーマ]技法の実際② [内容] リラクゼーション技法 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。
③	[テーマ] 自己分析 [内容] メンタルトレーニングの効果測定で多用される心理的競技能力テストを体験し、自己理解を深めるとともに査定法についても解説する。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑪	[テーマ] 技法の実際③ [内容] イメージ技法 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。
④	[テーマ] 一般的なメンタルトレーニングプログラム [内容] 上記についての一般的な流れを解説し、対象の理解についての注意事項についても解説する [授業外学習] 配布資料等を熟読する。	⑫	[テーマ] 技法の実際④ [内容] 情動のコントロール [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。
⑤	[テーマ] アセスメント [内容] 心理療法の介入を行うにあたってのアセスメントと見立ての重要性とについて解説する。 [授業外学習]深層心理学的心理療法の特徴についてまとめておく。	⑬	[テーマ] 技法の実際⑤ [内容] ピークパフォーマンスの想起 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。
⑥	[テーマ] 対象理解の方法①・・心理査定 [内容] 質問紙調査法による理解とその評価についての体験と解説をする。 [授業外学習]配布資料等を熟読する。	⑭	[テーマ] スポーツカウンセリング [内容] 人格の変容とぱパフォーマンスの関係、また援助技術について概説する。 [授業外学習]各自の課題を設定し、その援助についてレポートを作成し、提出す
⑦	[テーマ] 対象理解の方法② [内容] 言語によるコミュニケーションによる理解についての体験と解説をする。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] これまで学んだことについて、学生の質問や疑問を検討する。 [授業外学習]これまで学びについて、質問や疑問をまとめておく。
⑧	[テーマ] 対象理解の方法③ [内容] ノンバーバルなコミュニケーションによる理解についての体験と解説をする。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

定期試験は実施しないが、二つの課題についてレポートを課し、評価する(評価割合70%)。また、授業内レポート(評価割合20%)、演習や実習についても評価対象とする(評価割合10%)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート	◎	◎		70%
演習・実技		◎		10%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室 第4体育館1階 9号室		

授業科目名	水上安全法(含実習) Aquatic Life Saving				担当教員	渡邉 泰典
開講内容	学年・学期	3年・半期	授業方法	講義(含実習)	関連資格	日本体育協会公認水泳コーチ
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、水難事故を未然に防ぐための具体的な方法と、万一の事故に適切に対処するための自己保全ならびに一次救命処置の方法について講義と実践形式で展開する。日本赤十字社水上安全法および日本ライフセービング協会ウォーターセーフティー双方のメソッドを導入し、水辺で「いのち」を守るための基礎技能を養成する。

授業の一般目標

水難事故の発生リスクと事故を未然に防ぐための要点をよく理解し、自己保全に努めることができる。万一、水難事故に遭遇した場合でも、生きながらえるための浮き身の方法と人命救助のための方法を修得し、状況に応じて適切に使い分けることができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	水難事故の現状、発生リスク、事故を未然に防ぐための具体的な方法と、一次救命処置の方法を正しく説明することができる。
■	情意的領域	人命尊重の精神、水泳指導者としての安全確保と事故防止の精神について知る。
■	技能表現的領域	立ち泳ぎ、横泳ぎ、浮き身と人命救助(心肺蘇生を含む)のための基本的な技能を身につける。

授業計画(全体)

前半4回の授業は教室にて水上安全法の理論を講義する。その後プールにて実技に移行する。第1段階は基礎泳力として立泳ぎ、横泳ぎを教示し、第2段階で浮き身と救助法、第3段階で心肺蘇生法について理論と実践を併用して説明する。これと平行して海浜実習を利用し、補助学生という立場で必修参加させ、実地での指導マナー・救助マニュアルを体験させる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 水上安全法とは何か、救助員資格取得と本授業との関連性、授業の進め方等について教室にて説明し、再度、受講の意思確認する。 [授業外学習] 改めて履修するか確認し、希望者は強い意志をもって臨むこと	⑨	[テーマ] キャリー&一次救命処置方法紹介【実技】 [内容] 溺者上陸後、担ぎ方・おろし方(ﾌｧｲｱﾏﾝｽﾞｷｬﾘｰ)から心肺蘇生法までの方法を紹介する。 [授業外学習] 実技試験に備え、よく練習しておくこと
②	[テーマ] 水上安全法理論Ⅰ【講義】 [内容] 日本赤十字社と日本ライフセービング協会の人命救助の精神と意義について学ぶ。 [授業外学習] 資格取得のための本講習、筆記試験にむけてよく復習すること	⑩	[テーマ] キャリー&一次救命処置方法訓練【実技】 [内容] 溺者上陸後、担ぎ方・おろし方(ﾌｧｲｱﾏﾝｽﾞｷｬﾘｰ)から心肺蘇生法までの方法を練習する。 [授業外学習] 実技試験に備え、よく練習しておくこと
③	[テーマ] 水上安全法理論Ⅱ【講義】 [内容] 水難事故の現状と発生リスク、事故を未然に防ぐための具体策について学ぶ。 [授業外学習] 資格取得のための本講習、筆記試験にむけてよく復習すること	⑪	[テーマ] 水上安全法(救助法)に関わる実技試験【実技】 [内容] 「立泳ぎ」「横泳ぎ」「潜水」「フロントクロール」「水難者への接近」「キャリー&一次救命処置」の実技試験を実施する。 [授業外学習] 遠征作業に合わせ、携帯品等を準備しておくこと
④	[テーマ] 水上安全法理論Ⅲ【講義】 [内容] 水難事故における対処法を「救助者」「要救助者」の双方の視点から学ぶ。 [授業外学習] 次回より実技を開始するので、事前にプールで泳いでおくこと	⑫	[テーマ] 海浜実習指導補助・救助体験【実技】 [内容] 海浜実習実施前日より現地出発、事前準備・事前指導救助訓練実施。本隊合流後、指導・救助補助に当たる。 [授業外学習] 報告会にあわせ、体験談をレポートにまとめておくこと
⑤	[テーマ] 水上安全法(救助法)に関わる基礎技能紹介【実技】 [内容] 救助のための基礎泳力となる「立泳ぎ」「横泳ぎ」「潜水」「フロントクロール」等を解説するとともに、受講生の能力を確認する。 [授業外学習] 紹介されたスキルを事前にプールにて練習しておくこと	⑬	[テーマ] 海浜実習補助指導・救助体験報告【講義】 [内容] 海浜実習体験、帰還後、反省を含めた報告会を実施する。 [授業外学習] 次回筆記試験に合わせ、理論について、復習しておくこと
⑥	[テーマ]水上安全法(救助法)に関わる基礎技能訓練【実技】 [内容] 救助のための基礎泳力となる「立泳ぎ」「横泳ぎ」「潜水」「フロントクロール」を練習をする。 [授業外学習] 紹介されたスキルを事前にプールにて練習しておくこと	⑭	[テーマ]水上安全法(救助法)筆記試験【講義】 [内容] 本授業初期に学んだ水上安全法理論を主に、指導補助体験から得た指導法・救助法について筆記試験を実施する。 [授業外学習] 採点結果を踏まえ、よく復習しておくこと
⑦	[テーマ] 水上安全法(救助法)における水難者への接近方法紹介【実技】 [内容] 溺者発見から「順下飛び」→「出足・フロントクロール」→「潜水」→「接近」→「チンプル」→「逆アオリ」→「キャリー」→上陸までの行程(スキル)を紹介する。 [授業外学習] 紹介されたスキルを事前にプールにて練習しておくこと	⑮	[テーマ] 授業総括【講義】 [内容] 本授業の総括とともに、本授業目標に対し、習得状況を確認し、授業点検評価を実施する。 [授業外学習] 資格取得のための本講習、筆記試験にむけてよく復習すること
⑧	[テーマ] 水上安全法(救助法)における水難者への接近方法訓練【実技】 [内容] 溺者発見から「順下飛び」→「出足・フロントクロール」→「潜水」→「接近」→「チンプル」→「逆アオリ」→「キャリー」→上陸までの行程(スキル)を練習する。 [授業外学習] 実技試験に備え、よく練習しておくこと	⑯	[テーマ]水上安全法(救助法)最終実技試験【実技】 [内容] 日本赤十字社救助員資格のための実技ノルマ未修得者を対象に最終実技テストを実施する。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

立泳ぎ、横泳ぎ実技および心肺蘇生法実技修得〔合格〕が絶対条件、海浜実習補助指導・救助体験が必須となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			10%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	70
授業態度		◎	◎	10
出席			◎	10

履修上の注意(受講学生に望むこと)

①1年次開講の水泳実技科目および海浜実習科目を受講済みで単位習得者に限る。
②7月中旬に実施される海浜実習に補助学生として参加しなくてはならない。
③習得スキルが多いので公認欠席以外の欠席は許されない。

関連科目	水泳、海浜実習、種目別コーチング演習Ⅰ(水泳)、種目別コーチング演習Ⅱ(水泳)、スポーツコーチング実習		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室 渡邉泰典(ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp)		

授業科目名	スポーツ史 Sport History(L.)				担当教員	藪　耕太郎
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中高保体）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

広義のスポーツについて、歴史学的観点から講述する。とりわけ本講義では、①現代に繋がる“modern”としての近代、②スポーツのイデオロギー的性格、に主眼を置くことで、単なる知識としてのスポーツの歴史ではなく、歴史を通じてスポーツの今日的な課題をクリティカルに問う力を養うことを目的とする。

授業の一般目標

①スポーツの歴史的な変遷について、人類の歴史的展開過程と関連づけて理解することができる。
②近代スポーツが誕生した理由および歴史的意味について説明することができる。
③スポーツの歴史的意味や役割を批判的に検討することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	各時代の体育・スポーツの特徴や、基本知識について説明することができる。
■	情意的領域	歴史について関心をもつ。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本講義は、身体運動文化の歴史的変遷過程を時系列的に辿りながら、その文化の基底を成す歴史と社会のあり方を問う。つまり、各時代の特徴的な身体運動文化を基点に、その文化を定位する特定の様式、および文化を取り巻く諸要素から、各時代・社会のありようを探りたい。なお授業では映像や画像資料も多用するが、基本はレジュメに従うので、持参するのを忘れないようにすること。また授業時間確保の観点から、レジュメは②・⑤・⑨・⑫回のみ配布する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　スポーツの歴史を学ぶ意味 [内容]　なぜ現代社会に生きる私たちがスポーツの歴史を知る必要があるのかを考える。 [授業外学習]　図書館でスポーツ史関連の書籍を探して読む（90分）	⑨	[テーマ]　国民と体育 [内容]　国民国家の誕生と公教育としての体育 [授業外学習]　フリードリヒ・ヤーンという人物を調べる（90分）
②	[テーマ]　古代ギリシャのスポーツ [内容]　古代オリンピックの成立と展開 [授業外学習]　古代オリンピックについて調べてみる（90分）	⑩	[テーマ]　スポーツと市民 [内容]　労働者階級とスポーツクラブ [授業外学習]　プロスポーツ選手の誕生について調べてみる（90分）
③	[テーマ]　古代ギリシャの体育 [内容]　プラトンの体育思想 [授業外学習]　体育の歴史を調べてみる（90分）	⑪	[テーマ]　帝国主義とスポーツ [内容]　クーベルタンと近代オリンピック [授業外学習]　ピエール・ド・クーベルタンという人物を調べてみる（90分）
④	[テーマ]　古代ローマの余暇と政治 [内容]　パンとサーカス [授業外学習]　映画「ベン・ハー」を鑑賞する（90分）	⑫	[テーマ]　近代日本におけるスポーツ受容① [内容]　学生・新中間層とスポーツ [授業外学習]　明治・大正時代について簡単な予習をしておく（90分）
⑤	[テーマ]　中近世の民衆娯楽① [内容]　マス・フットボールとは何か？ [授業外学習]　マス・フットボールについて調べてみる（90分）	⑬	[テーマ]　近代日本におけるスポーツ受容② [内容]　スポーツと思想善導 [授業外学習]　戦争とスポーツの関係について調べてみる（90分）
⑥	[テーマ]　中近世の民衆娯楽② [内容]　マス・フットボールの衰退要因と近代化 [授業外学習]　近代化ということばについて調べてみる（90分）	⑭	[テーマ]　近代日本と武道 [内容]　「創られた伝統」としての武道 [授業外学習]　武道と武術の違いを調べてみる（90分）
⑦	[テーマ]　福音主義と合理的娯楽 [内容]　パブリックハウスとブラッディスポーツ [授業外学習]　動物愛護の歴史について調べてみる（90分）	⑮	[テーマ]　テスト① [内容]　所期の到達目標を達成したかどうかを試験する [授業外学習]
⑧	[テーマ]　スポーツと教育 [内容]　パブリックスクールにおけるスポーツ [授業外学習]　「ラグビー校」について調べてみる（90分）	⑯	[テーマ]　テスト② [内容]　所期の到達目標を達成したかどうかを試験する [授業外学習]

定期試験を重視する（90点満点）。その他、自学自習も評価する（10点）。自学自習は自発的な学習意欲に基づくレポートであり、テーマはスポーツと歴史・社会に関するものなら何でも良い。従って提出は任意であり、書式その他も全て自由とする。但し、活用した情報源の提示は必須とし、また盗用は一切認めない。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			90%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	○			10%
演習・実技				評価対象外
授業態度	△			減点対象
出席	△			減点対象

履修上の注意（受講学生に望むこと）

授業の進行を妨げる行為、特に私語は厳禁とし、場合によってはペナルティを課す。また高等教育である以上、講義内容は相当に高度であり、真剣な態度での受講と、積極的なノートテイクは必須である。ただし、質問などには必ず「理解できるまで」対応する。教員からの教えを待つのではなく、教員と学生とが相互に高めあう関係を期待したい。なお、プリント配布時（講義時間）に取り損ねた場合は、アップローダー（http://ux.getuploader.com/yabu_sendai_u/）から各自でダウンロード＆プリントアウトすること（教員を頼らない）。パスワードはsportshistory。

関連科目	人文社会系科目全般		
教科書	使用しない	参考書	使用しない（授業時間内に適宜紹介する）
連絡先	kt-yabu@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	スポーツ医学A Sports Medicine A （Ｌ.）				担当教員	橋本　実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	アスレティックトレーナー、健康運動指導士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防、整形外科的なメディカルチェック、治療と運動療法を含めたリハビリテーションについて、スポーツドクターの立場から解説する。

授業の一般目標

スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識について学び、スポーツの現場でと予防方法などが活用できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する。
■	情意的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように努力する。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学習]当日配布するプリントとを参照すること	⑨	[テーマ] 前腕、手指の外傷・障害 [内容] 前腕、手指外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
②	[テーマ] 整形外科学の基礎 [内容] 整形外科学の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑩	[テーマ] 下肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
③	[テーマ] 顔面頚部外傷 [内容] 顔面頚部外傷の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑪	[テーマ] 大腿の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
④	[テーマ]　腰部外傷・障害 [内容] 腰部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑫	[テーマ] 膝の外傷・障害 [内容] 下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 胸部外傷・障害 [内容] 胸部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑬	[テーマ] 下腿、足趾の外傷・障害 [内容] 下腿、足趾の外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 上肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢帯外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑭	[テーマ] 小児のスポーツ外傷・障害 [内容] 小児のスポーツ外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑦	[テーマ] 上腕、肘の外傷・障害 [内容] 上腕、肘外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容]　講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習]]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること

成績評価方法(方針)

基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。
出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業中は下記の項目を厳守すること。
1. スマホ、携帯電話の電源を切る。
2. スマホでの撮影は留学生以外は禁止。
3. 無断で教室を離れない。
4. 挨拶をする。
5. 帽子はかぶらない。
6.私語は厳禁。
講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。

関連科目			
教科書	スポーツ医学A 講義ノート	参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階　　オフィスアワー:月曜日　14:20～15:50		

授業科目名	スポーツ医学B Sports Medicine B				担当教員	小澤輝高／柴原茂樹／橋本　実
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	健康運動指導士、日本体育協会公認AT
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツによって引き起こされる内科的疾患と、生活習慣病の運動療法について取り上げる。

授業の一般目標

スポーツによって引き起こされる内科的疾患とスポーツを安全に行うためのメディカルチェックを理解させる。生活習慣病の運動療法についても知識を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツによって引き起こされる内科的疾患と生活習慣病の運動療法について理解する。
■	情意的領域	スポーツを安全に行えるようにする。生活習慣病の患者に対して、運動療法を指導できるようにする。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

毎回プリントに沿った内容で講義を進める。講義の後半には、小テストを行って、講義内容が理解できているか確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義内容、担当者、講義の進め方について説明する。 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 生活習慣病（2）肥満症 [内容] 肥満症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
②	[テーマ] スポーツにおける適応と疲労 [内容] スポーツを長期間行うと体が運動負荷に見合うだけ適応していくこと、スポーツを過剰に行うことで起こるオーバートレーニング症候群について解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 生活習慣病（3）　高血圧症 [内容] 高血圧症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
③	[テーマ] 内科的メディカルチェックと循環器疾患 [内容] 突然死を予防するための内科的メディカルチェックとはどのようなものか、運動によって引き起こされる心臓疾患について解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑪	[テーマ] 生活習慣病（4）　高脂血症 [内容] 高脂血症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
④	[テーマ] スポーツによって引き起こされる、呼吸器疾患と血液疾患 [内容] 運動によって誘発される気管支喘息、過換気症候群や貧血について解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑫	[テーマ] 生活習慣病（5）　糖尿病 [内容] 糖尿病について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑤	[テーマ] 運動療法（1） [内容] 運動療法とはどのようなものかを解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑬	[テーマ] 生活習慣病（6）　虚血性心疾患 [内容] 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑥	[テーマ] 運動療法（2） [内容] どのような疾患が運動療法の適応になるのかを解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑭	[テーマ] 生活習慣病（7）　骨粗鬆症 [内容] 骨粗鬆症について解説した後、その運動療法につても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑦	[テーマ] 運動療法（3） [内容] 運動療法の実例について解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑮	[テーマ] 生活習慣病（8）　関節リウマチと変形性関節症 [内容] 関節リウマチと変形性関節症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 生活習慣病（1）　メタボリックシンドローム [内容] メタボリックシンドロームについて解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために、筆記試験を行う。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

授業に2/3以上出席し、試験で60点以上を合格とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする（欠格条件）。
・授業中の私語は周囲への迷惑となるので慎むこと。
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。

関連科目	スポーツ医学概論、スポーツ医学A		
教科書	特に指定しない。プリントを使用する。	参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト
連絡先	小澤研究室：F棟2階		

授業科目名	体育原理 Philosophy of Physical Education				担当教員	高橋　徹
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中・高　保健体育）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、体育哲学・スポーツ哲学をベースにした講義を行います。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介します。

授業の一般目標

体育教師の専門である体育ないしは教科体育の本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について知り、学校という教育機関において教科体育を担当する教育専門職者としての基本的な考え方を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	体育の理想的なありかたを、自分の力で考えることができる。
■	情意的領域	よい体育を追求しようとする意識をもつことができる。
■	技能表現的領域	体育を人文主義の方向で考えることができるようになる。

授業計画（全体）

一貫して「よい体育の追求」という問題意識に寄り添いながら講義を進めていきます。この講義は、大きく次の4点から構成されます。①体育の本質、②体育と体育教師、③体育とスポーツの可能性、④体育のありかたーめざすべき道ー

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	［テーマ］ 講義「体育原理」についてのオリエンテーション ［内容］ 講義「体育原理」の輪郭について解説し、受講学生との合意形成を図る。 ［授業外学習］ 教科書「はじめに」と「序章」を読んできてください。	⑨	［テーマ］ スポーツの定義的特徴① ［内容］ スポーツの特徴である遊戯性について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第13章」を読んできてください。
②	［テーマ］ 体育への問い ［内容］体育を“教わる立場”から体育を“教える立場”への転換について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第1章」を読んできてください。	⑩	［テーマ］ スポーツの定義的特徴② ［内容］ スポーツの特徴である競争性について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第14章」を読んできてください。
③	［テーマ］ 体育とは何か① ［内容］ 前提としての歴史認識について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第2章」を読んできてください。	⑪	［テーマ］スポーツの概念と文化運動 ［内容］ スポーツの概念構成と現代スポーツへの視界について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第16章」を読んできてください。
④	［テーマ］ 体育とは何か② ［内容］ 体育の概念とその構成について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第3章」を読んできてください。	⑫	［テーマ］スポーツと現代社会 ［内容］ 生涯スポーツと生涯教育との関係性について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第17章」を読んできてください。
⑤	［テーマ］ 体育と体育教師 ［内容］ 体育教師の負の遺産とそこから脱却するための方途について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第4章」を読んできてください。	⑬	［テーマ］ 体育を規定する目的論 ［内容］ 体育論の類型とその可能性について解説する。 ［授業外学習］教科書「第19章」を読んできてください。
⑥	［テーマ］ 専門職としての体育教師 ［内容］ 体育教師の代替不能な職能について解説する。 ［授業外学習］教科書「第5章」を読んできてください。	⑭	［テーマ］ 体育の存在意義と学校体育 ［内容］ 体育における最大の配慮の対象とは何かを解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第21章」を読んできてください。
⑦	［テーマ］ 体育の対象としての人間 ［内容］ 体育哲学とその人間学的基点について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第11章」を読んできてください。	⑮	［テーマ］ 体育と人文主義 ［内容］ 体育における人間形成について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第22章」を読んできてください。
⑧	［テーマ］ 体育における教材構成の基点 ［内容］ 身体運動文化とスポーツとの関係性について解説する。 ［授業外学習］教科書「第12章」を読んできてください。	⑯	［試験］ 論述形式での試験を実施 ［内容］ 講義内容を踏まえつつも、できるだけ自分の「言葉」で論述してください。 ［授業外学習］ 試験勉強

成績評価方法（方針）

基本的には、試験（70%）、課題（30%）とします。試験は学期末に実施し、課題は全て授業内レポートとして行います。レポートの評価については内容ももちろんのこと、適切な表現が用いられているかどうかも評価の対象とします。なお、授業中の発問等に対する解答提示、あるいは積極的な授業協力等には、成績評価において加点します。他人に惑わされることなく、よい成績がとれるように頑張りましょう。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	○	70%
授業内レポート	◎	○		30%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度	○	◎		加点対象
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 受講は、指定教科書の持参を条件とします。教科書を持たない学生は受講できません。なお、教科書は「修正第3版発行」とします。
2. 講義中は静寂を保つこと。静寂を維持できない方は受講をやめてください。
3. 本講義においては、諸知識の記憶も大切ですが、それを用いて考えることが重要です。受け身の姿勢ではない積極的な受講態度を求めます。
4. 詳細については第一回目の講義で説明します。

関連科目	教員免許状（保健体育）取得関連諸科目		
教科書	大橋道雄編 (2011) 体育哲学原論，不昧堂※「修正第3版」	参考書	佐藤臣彦(1993)身体教育を哲学する，北樹出版
連絡先	G棟2階208研究室（高橋徹研究室）		

授業科目名	解剖・生理学 Anatomy and Physiology (L.)				担当教員	小澤　輝高／柴原茂樹／高橋　陽介
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許、健康運動指導士、健康運動実践指導者、NSCA-CPT、CSCS、障害者スポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

健康管理や健康増進に携わる者にとって、ヒトのからだの仕組みや働きを理解することは必要不可欠である。また、運動・トレーニングを安全かつ効果的に行うためには、運動時におけるからだの構造や機能の応答などに関わる知識を身につける必要があり、これらの内容を十分に理解するためには、基礎的な解剖・生理学の知識が必要となる。このような観点から、本講義では人体の構造と機能に関する基礎的事項を解説する。

授業の一般目標

骨格と骨格筋、呼吸循環系、消化器系、内分泌系、神経系、免疫系などヒトのからだを構成する様々な器官系の構造（仕組み）を理解するとともに、これらの機能（働き）に関する基礎的知識（解剖学的・生理学的特徴）を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	ヒトのからだを構成する人体各部の名称やその働きについて体系的に説明できる。
■	情意的領域	ヒトのからだについて興味・関心を持つとともに、健康管理や運動指導に関わるうえでの解剖・生理学の重要性を認識できるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

基本的には教科書に準じて授業を行うが、授業テーマによってはスライドや資料を用いる。授業は、各器官系ごとにその構造と機能を解説し、全授業終了後の筆記試験によって理解度・到達度を確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、成績評価などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 血管系 [内容] 脈管系の構成および心収縮に伴う血管内の血圧等の変化について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。
②	[テーマ] 骨格と骨格筋（1） [内容] 頭頸部・上肢の構造と関節運動について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	⑩	[テーマ] 血液と体液 [内容] 血液の一般的性質や血球成分、血漿および体液の区分等について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。
③	[テーマ] 骨格と骨格筋（2） [内容] 骨盤・下肢の構造と関節運動について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	⑪	[テーマ] 内分泌 [内容] 生体の内部環境を調節する役割を担う内分泌系とホルモン分泌の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。
④	[テーマ] 骨格と骨格筋（3） [内容] 骨格と骨格筋についてのまとめを行う。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	⑫	[テーマ] 免疫系と生体防御 [内容] 病原性生物などによる感染を防ぐ役割をもつ免疫系の働きについて説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。
⑤	[テーマ] 消化器系の構造と機能、消化吸収 [内容] 口腔、胃、小腸、大腸、肝臓など食物の消化吸収に関わる器官の構造とその働きについて説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	⑬	[テーマ] 腎臓の構造と腎機能 [内容] 腎臓の構造と尿の生成とその排出の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。
⑥	[テーマ] 栄養と栄養代謝 [内容] 消化吸収された栄養素がエネルギーを産生するまでの体内における過程について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	⑭	[テーマ] 中枢神経系 [内容] 大脳、小脳、中脳、延髄、脊髄などの中枢神経系の構造と役割について解説する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。
⑦	[テーマ] 呼吸器系の構造と換気 [内容] 肺を中心とした呼吸器系の構造および換気と呼吸運動について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	⑮	[テーマ] 末梢神経系 [内容] 運動の指令や感覚情報を伝える体性神経系と内臓の機能に関与する自律神経系について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。
⑧	[テーマ] 心臓の構造とポンプ作用 [内容] 心臓の構造と心収縮に関わる刺激伝達系、血液を送り出すポンプ作用について説明する。 [授業外学習] 授業内容を復習すること。	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する。 [授業外学習] これまでの授業内容を復習すること.。

成績評価方法（方針）

授業に2/3以上出席し、試験で60点以上を合格とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。
・授業中の私語は周囲への迷惑となるので慎むこと。

関連科目	運動生理学（2年）、スポーツ医学概論（1年）、スポーツトレーナーコース関連科目		
教科書	エッセンシャル解剖・生理学（秀潤社）	参考書	特に指定しない
連絡先	小澤研究室:F棟2階		

授業科目名	スポーツ計量学 Metrics on Sports(L)				担当教員	菊地 直子・林 直樹
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	スポーツプログラマー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

体育・スポーツ場面において、様々なデータを採取し取り扱う必要性が高まってきている。本講義では②から⑧においては統計的な「データの取り扱いの基礎」について、⑨から⑮においては計量の概論と「スポーツにおける計量の実際」について、それぞれ解説する。

授業の一般目標

さまざまなデータの採取と取り扱いについて学び、各授業で学んだ内容について具体的に実践・算出することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	データの意味を知り、2次データまで整理することができる。
■	情意的領域	データについて、正しく取り扱う慎重な態度が形成される。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

さまざまなデータの採取と取り扱いについて学び、各授業で学んだ内容について具体的に実践・算出することができる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法、クラス分け [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 「スポーツ計量学」の意味と意義について考える [内容] 日常において行われる計量とスポーツにおける計量を比較してスポーツ計量の範囲を共に考え、スポーツ計量学の本質を解説する。 [授業外学習] 「スポーツ」「計量」「学」という言葉の定義を復習する。
②	[テーマ]事象を計量する・調査研究の基本的な流れ [内容] 。スポーツ場面において、計量することについて、若干のイメージを持たせる。 [授業外学習]配布資料を熟読しておく。	⑩	[テーマ] 体力の測定・計量 [内容]文部科学省の体力テストを含めた体力・運動能力テストの現状や内容を解説する。形態や姿勢を含めた体力の計量について議論する。 [授業外学習] 体力の概念をキーワードを用いて説明できるように復習する。
③	[テーマ]データの種類,データの整理 [内容] データの種類、尺度について解説する。度数分布表を使って名義、比尺度データの整理を説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]研究法と調査の流れについて復習しておく。	⑪	[テーマ] 様々な体力の計量とその可能性 [内容] パフォーマンスに影響を及ぼす「体力」の計量について、特に視力、聴力などを計量することの意味とその可能性を解説する。 [授業外学習]視覚情報獲得の「輻輳(ふくそう)」の構造を理解する。
④	[テーマ] 代表値、散らばりの尺度 [内容] 代表値、域値、四分位範囲、箱ひげ図の考え方と特徴について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料等を熟読する。	⑫	[テーマ] 血圧・血中乳酸を測定する(一次データの利用) [内容] 心臓から全身を巡る血液に関する基本的な計量を実際に紹介し、その意味や計量意義に関して解説する。血中乳酸の測定を紹介する。 [授業外学習] 乳酸の働きに関して復習し、競技場面での利用方法を考える。
⑤	[テーマ] 標準偏差と標準化 [内容] 標準偏差、標準化および偏差値について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料を熟読し、 不明な点を抽出しておく。	⑬	[テーマ] 位置情報から速度や角度を算出する(二次データの利用) [内容] 連続写真の中の位置の変化から距離や角度を算出し、時間微分することにより速度や角速度を算出する方法を解説する。 [授業外学習] 二次データの利用として速度の算出を完璧にマスターする。
⑥	[テーマ] 2変数の相関 [内容]ピアソンの積率相関係数の概要とその算出の仕方について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料等を熟読する。	⑭	[テーマ]加速度、 力、運動量を算出する(二次データの利用) [内容] 算出した速度を更に時間微分し、加速度を算出する方法を解説する。そして加速度から力や運動量などを算出する方法を解説する。 [授業外学習] 提示した量的パラメータの意味について復習して理解する。
⑦	[テーマ] カイ二乗検定 [内容]クロス集計表の作成および、カイ二乗検定について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]演習を見直し、課題を提出する。	⑮	[テーマ]様々な測定・計量とその評価 [内容] 量的・質的な計量手法を紹介し、それぞれの評価をフィードバックする適切な手法について解説する。 [授業外学習]図表やICT機器でのフォードバック方法を復習する。
⑧	[テーマ] 多変量解析・確認テスト [内容] 前半を多変量解析の手法の概要を説明する。これまでの確認テストを行う。 [授業外学習]ここまでの復習、テストの準備をしておく。	⑯	[テーマ] テスト [内容] テスト [授業外学習]ここまでの復習、テスト準備をしておく

成績評価方法(方針)

主に、定期試験の結果(前後半それぞれのテストの合計点)に重点をおいて評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	◎		
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

- 授業に積極的に参加している学生には成績評価に加点する。
- 授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
- 授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
- このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
- 簡易なもので構わないので、電卓を用意すること。
- 授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室 第4体育館1階 9号室		

授業科目名	データ処理の基礎 Fundamentals of Data Processing （L. ）				担当教員	内野秀哲
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

実証的研究において得られるデータは、そのままの形では何を示唆しているかわかりにくい。それらをまとめ、見やすくわかりやすい形にするのがデータ処理であると言える。本講では表計算アプリケーションを用いてこれらのデータ処理の技法を練習、検討する。

授業の一般目標

データにふさわしい処理（代表値、グラフなど）ができる。またそれらを正しく読み取れる。

授業の到達目標

■	認知的領域	表計算ソフトを活用することができる。また、それらにより代表値を算出することができる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	各種代表値を見やすく、また趣旨をわかりやすくグラフ化することができる。

授業計画（全体）

表計算アプリケーション（EXCEL）の操作方法をまず行い、それらに習熟した後、身近な事例等によって実際に処理技法を適用してみることを通じて、初歩的統計手法の概略を理解してもらう。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション：表計算スキル調査 [内容] EXCELのスキルを確認するための調査を行い、受講生のスキルを確認するとともに、今後獲得する必要のあるスキルを提示する。 [授業外学習] 復習を中心にしてください。	⑨	[テーマ] 書字実験データによるデータ処理の実例Ⅰ [内容] 実験データをもとに、相関、相関係数を学ぶ。 [授業外学習] 様々なグラフを作ってみてください。
②	[テーマ] 表計算スキルアップ練習Ⅰ：番地計算など [内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。 [授業外学習] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。	⑩	[テーマ] 書字実験データによるデータ処理の実例Ⅱ [内容] 実験データをもとに、検定の手順を学ぶ。 [授業外学習] 検定の流れと検定結果の表現についてまとめておくこと。
③	[テーマ] 表計算スキルアップ練習Ⅱ：関数など [内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。 [授業外学習] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。	⑪	[テーマ] 質問紙データによるデータ処理の実例Ⅰ [内容] 調査データをもとに、単純集計結果などの表現方法を学ぶ。 [授業外学習] 集計の手順についてまとめておくこと。
④	[テーマ] 表計算スキルアップ練習Ⅲ：グラフなど [内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。 [授業外学習] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。	⑫	[テーマ] 質問紙データによるデータ処理の実例Ⅱ [内容] 調査データをもとに、クロス集計、代表値のグラフ化などの表現方法を学ぶ。 [授業外学習] 処理手順についてまとめておくこと。
⑤	[テーマ] 表計算スキルアップ練習Ⅳ：データベース機能など [内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。 [授業外学習] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。	⑬	[テーマ] 質問紙データによるデータ処理の実例Ⅲ [内容] 調査データをもとに、多変量解析（因子分析、信頼性分析など）のやり方を経験する。 [授業外学習] 分析内容、目的について確認しておくこと。
⑥	[テーマ] 表計算スキル調査 [内容] スキル測定のための授業内テストを行うとともに、解答解説を通じ、確実なものとする。 [授業外学習] 復習を中心にしてください。	⑭	[テーマ] 質問紙データによるデータ処理の実例Ⅳ [内容] 調査データまとめを通じ、結果からの結論をまとめてみる。 [授業外学習] 興味の有る領域についても同様となるよう確認しておくこと。
⑦	[テーマ] 計時データによるデータ処理の実例Ⅰ [内容] ストップウォッチを用いた実験データをもとに、各種代表値により検討する。 [授業外学習] 様々なグラフを作ってみてください。	⑮	[テーマ] さまざまなグラフ表現とその特徴 [内容] 各種のグラフを取り上げ、その特徴と主な利用法について説明する。 [授業外学習] 復習を中心に。様々なデータに適当なグラフを考えること。
⑧	[テーマ] 計時データによるデータ処理の実例Ⅱ [内容] ストップウォッチを用いた実験データによる検討結果を確認する。 [授業外学習] 検討方法ならびに検討論理について確認しなさい。	⑯	[テーマ] テスト [内容] これまでの学習内容について、お互いの評価を目的とした情報獲得作業の一環としてテストを行う。

成績評価方法（方針）

相互の評価のために、最終のテストのほか、時間内に課す小テスト・授業内レポートや出席状況などを材料とする。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする（欠席多の場合には評価対象としない）。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			20%
授業内レポート	◎			50%
授業外レポート	◎		◎	30%
演習・実技				対象としない
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

データ処理の主な手段となる表計算アプリケーションと、能動的学習環境の支援を意図するポータルアプリケーションを活用する。従って、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。

※その他の注意
実習室の定員の都合上、履修人数によっては実施クラスの編成を行う場合もある。
学内メールの利用が必要になるので、事前にアカウントの確認をしておくこと。

関連科目			
教科書		参考書	荒井ら著　手足を動かすEXCEL巡検（自作教材）
連絡先	4体1F　内野研究室　オフィスアワー　火曜14:20-15:50		

授業科目名	文章表現論Ⅰ Academic Writing Ⅰ(L)				担当教員	末永精悦・齋藤博・高橋義夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

文章は、「文は人なり」と言われるように、書き手の全人格が集約されるものである。自己表現の重要な手段として様々な文章表現に習熟することを目的とする。

授業の一般目標

文章の書き方の基本的な考え方と技能を身に付ける。次に掲げる様々な文章の書き方の理論を理解し、書く力を身に付ける。自由作文、課題作文①、課題作文②、書簡文(手紙、封筒、ハガキ、往復ハガキなど)、自分史、詩歌創作(俳句、短歌、詩)、研究論文(テーマを自分で決めて書く簡易な論文)などを書く。また、語彙力を身に付けるために、言葉シリーズ(プリント)を毎時間学習する。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な様式の文章の書き方の理論を理解する。より多くの言葉の使い方を知る。
■	情意的領域	文章表現に意欲的かつ真剣に取り組む。日本語に対する強い興味・関心を持つ。
■	技能表現的領域	様々な文章の書き方に習熟する。より多くの漢字を読み書きできる。

授業計画(全体)

全体として、様々な文章表現に習熟するように、文章を書くことの意味、書き方の基本などについて説明する。自由作文については、最も書きたいテーマを自分で決め800字詰め原稿用紙に書くこと。課題作文①、②については、読解力、思考力、表現力、判断力を身に付けるために、テーマに基づき、小論文としてまとめること。書簡文では、書き方の基本を理解すること。自分史は自分のアイデンティティの確立を目指すこと。詩歌の創作では鑑賞会を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、言葉シリーズの説明、成績評価の方法、授業の感想(授業評価)を書く。 [授業外学習] シラバスを熟読すること。	⑨	[テーマ] 「自分史」1(他)※「他」は必要に応じて設定するテーマ。 [内容] これまでの自分を振り返り800字詰め原稿用紙2枚にまとめる。書簡文2の返却。言葉シリーズ7の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
②	[テーマ]文章についての考え方 [内容] 様々な文章についての説明。授業の感想。 [授業外学習] 次回の自由作文の題材について考える。	⑩	[テーマ] 「自分史」2(他) [内容] 自分史をまとめる。言葉シリーズ8の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
③	[テーマ] 自由作文1 [内容] 自由作文についての説明。各自で最も書きたいテーマを決め、原稿用紙にまとめる。言葉シリーズ1の学習。授業の感想。 [授業外学習]自由作文2の題材をについて考える。 言葉シリーズの復習。	⑪	[テーマ] 詩歌創作(俳句、他) [内容] 俳句(他)の作り方を説明する。俳句(他)を作る。添削した履歴書を返す。言葉シリーズ9(最終回)の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
④	[テーマ] 自由作文2 [内容] 自由作文2をまとめる。添削した自由作文1を返す。言葉シリーズ2の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑫	[テーマ] 詩歌創作(短歌、他) [内容] 短歌(他)の作り方を説明する。短歌(他)を作る。添削した俳句(他)を返す。授業の感想。 [授業外学習]詩歌創作について。
⑤	[テーマ] 課題作文① [内容] 一字の題(習、空、器から選択)に基づき800字で書く。添削した自由作文2を返す。言葉シリーズ3の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑬	[テーマ] 詩歌(作品集鑑賞) [内容] 俳句(他)、短歌(他)の作品を作者が読み上げ相互に鑑賞し合う。添削した短歌(他)を返す。授業の感想。 [授業外学習]次回の研究論文のテーマについて考えておく。
⑥	[テーマ] 課題作文② [内容] 資料を読んでテーマに沿って800字にまとめる。添削した課題作文①を返す。言葉シリーズ4の学習。授業の感想。 [授業外学習]手紙を出す相手について考えること。言葉シリーズの復習。	⑭	[テーマ] 研究論文 [内容] 研究論文の書き方を説明する。各自のテーマに基づき、図書館、パソコン室等で情報収集する。授業の感想。 [授業外学習]研究論文についてまとめる。
⑦	[テーマ] 書簡文1 [内容] 書簡文の書き方の説明。手紙や封筒を書く。添削した課題作文②を返す。言葉シリーズ5の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑮	[テーマ] 研究論文 [内容] 研究論文を完成させる。授業の感想。学内の授業評価。 [授業外学習]授業全体を各自が振り返る。
⑧	[テーマ] 書簡文2 [内容] ハガキ、往復ハガキを書く。添削した書簡文1を返す。言葉シリーズ6の学習。授業の感想。 [授業外学習]次回の履歴書の書き方を確認すること。言葉シリーズの復習。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

提出された作品の内容、授業への取組み状況などを総合的に見て成績評価を行う。その場合、作品が70%、授業への取組み状況を30%とする。なお、出席状況については、原則2/3以上とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	70%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		30%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

石垣は基礎が最も重要。一カ所でも手を抜けばもろくも崩れ去ります。1回でも欠席すれば基礎の部分に手抜きができることになるので注意しましょう。

関連科目			
教科書	特に指定しない。	参考書	
連絡先	末永精悦研究室A棟3F、齋藤博研究室E棟2F、高橋義夫研究室5体3F		

授業科目名	文章表現論Ⅱ Academic Writing Ⅱ(L)				担当教員	末永精悦・齋藤博・高橋義夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

原則として、文章表現論Ⅰを履修済みの受講生を対象とする。Ⅰよりも、より内面的・思索的・感性的な文章を目指すことを目的とする。

授業の一般目標

Ⅰで学習し身に付けた文章の書き方の基本的な考え方と技能を踏まえ、更に上の段階を目指し、文章力、語彙力を身に付ける。次に掲げる様々な文章の書き方を習得し、書く力を養う。自由作文、課題作文①、課題作文②、履歴書等の書き方、童話・短編小説の創作、書簡文(手紙、ハガキ、年賀ハガキ)、詩歌創作(俳句、短歌、詩)。一方、語彙などを更に多く身に付けるために、言葉シリーズ(プリント)を毎時間学習する。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な様式の文章をより完成度の高いものにする。より広範な言葉についての活用力を身に付ける。
■	情意的領域	文章表現に積極的かつ意欲的に取り組む。日本語に対する興味・関心をより高める。
■	技能表現的領域	様々な文章の書き方に習熟することを目指す。より多くの漢字や言葉の使い方ができる。

授業計画(全体)

様々な文章の書き方に関してより理解を深めるようにし、書き方の工夫などができるようにする。自由作文については、各自現在最も関心を抱く人生上の事柄に関するテーマで800字の原稿用紙に書くこととする。課題作文①、②については、内面的な思索を深め、感性を磨き、自分の考えとして的確に表現できるようになることを目指す。書簡文では日本の文化としての形式についても考えるよう指示する。どの場合でも、提出作品は添削し、受講生と面談して返す。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、言葉シリーズの説明、成績評価の説明、授業の感想(授業評価)を書く。 [授業外学習] シラバスをよく確認すること。	⑨	[テーマ] 童話、短編小説等 [内容] 童話または短編小説を仕上げる。授業の感想。 [授業外学習] 次回の詩歌創作(俳句、短歌、詩、他)について想を練る。
②	[テーマ] 文章についての考え方 [内容] 様々な文章をよりよく書くための心構えについて説明。授業の感想。 [授業外学習] 次回の自由作文について考える。	⑩	[テーマ] 詩歌創作1(俳句、他)※「他」は必要に応じて設定するテーマ。 [内容]俳句(他)のつくり方の説明。俳句(他)を作る。感想を付して、童話、短編小説を返す。言葉シリーズ5の学習。授業の感想。 [授業外学習]短歌(他)について想を練る。言葉シリーズの復習。
③	[テーマ] 自由作文1 [内容] 人生上の課題について内面的な思索を深めた上での自由作文について説明。原稿用紙に書く。言葉シリーズ1の学習。授業の感想。 [授業外学習]自由作文2について想を練る。言葉シリーズの復習。	⑪	[テーマ] 詩歌創作2(短歌、他) [内容] 短歌(他)の作り方を説明する。短歌(他)を作る。添削した俳句(他)を返す。言葉シリーズ6の学習。授業の感想。 [授業外学習]詩について想を練る。言葉シリーズの復習。
④	[テーマ] 自由作文2 [内容] 自由作文2を書く。添削した自由作文1を面談して返す。言葉シリーズ2の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑫	[テーマ] 詩歌創作3(詩) [内容] 詩について説明する。詩作する。添削した短歌(他)を返す。言葉シリーズ7を学習する。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
⑤	[テーマ] 課題作文① [内容] 論理的な文章を読み、その内容に基づいて思索を深め、自分の考えとして論理的にまとめる。言葉シリーズ3の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑬	[テーマ] 書簡文1 [内容] 手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキの書き方を説明する。手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキを書く。添削した詩を返す。言葉シリーズ8の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
⑥	[テーマ] 課題作文② [内容] 図表から読み取れることをまとめ、そのことについて自分の考えを書く。言葉シリーズ4の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑭	[テーマ] 書簡文2 [内容] 手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキを書く。添削した手紙等を返す。言葉シリーズ9(最終回)の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
⑦	[テーマ] 履歴書Ⅰ [内容] 就職活動のために必要な履歴書の書き方について学び実際に書いてみる。{授業外の指示等} 次回の自己PRについて予習する。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑮	[テーマ] 詩歌の作品鑑賞会 [内容]受講生が創作した俳句、短歌の作品集を鑑賞する。授業の感想。学内の授業評価。 [授業外学習]授業全体を各自が総括する。
⑧	[テーマ] 履歴書Ⅱ [内容] 自己分析をし、更に自己PRとしてまとめる。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

提出作品の状況、授業への取組み状況などを総合的にみて成績評価を行う。その割合は、提出作品70%、授業への取組み状況30%とする。なお、出席状況は原則2/3以上とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	70%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		30%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

ひたすら「書く」ことです。とにかく実際に文章を書き、書き込むことによって書く力が身に付くようにしましょう。自分の実力をつける授業だと思って下さい。

関連科目			
教科書	特に指定しない。	参考書	
連絡先	末永精悦研究室A棟3F、齋藤博研究室E棟2F、高橋義夫研究室5体3F		

授業科目名	社会調査法Ⅰ Social Research Ⅰ (L.)				担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	社会調査士・社会福祉士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

社会調査に関する基本的な事柄について解説する。具体的には、社会調査の目的やその歴史、社会調査の種類、社会調査を実施する者の心構えなどである。また、講義後半には質的な模擬調査を行い、社会調査の難しさを体感してもらう。

授業の一般目標

① 社会調査には様々な種類が存在することを知り、自ら社会調査を行う際に、適切な技法を選択できる。
② 与えられたテーマに沿って、自ら模擬調査を実施し、それをまとめることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会調査に関する基本的な事柄について理解できる
■	情意的領域	社会調査の面白さと不完全さに関心を向ける
■	技能表現的領域	調査結果を適切にまとめることができる

授業計画(全体)

2～5回目は、社会調査とは何か、いかに行うかといった基本的な事柄について、講義形式で解説する。6～9回目は、様々な種類の社会調査の結果をまとめたものを読みながら、社会調査が具体的にどのように社会に還元されるかを学び取る。10回目以降は、実際に模擬調査を行い、社会調査の難しさを体感してもらう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 」授業の目標と進め方、成績評価方法の説明 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑨	[テーマ] 調査技法④:参与観察 [内容] 参与観察について解説し、参与観察の結果をまとめた論文を読む [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:5時間)
②	[テーマ] 社会調査とは何か [内容] 社会調査の目的や歴史、調査者の倫理などについて解説する [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑩	[テーマ] 中間試験 [内容] これまでの授業の理解度と関心度を問う記述方式のテストを行い、前半の講義を振り返る [授業外学習]中間試験の反省、模擬調査の計画(学習時間の目安:1時間)
③	[テーマ] 因果関係 [内容]社会調査で明らかにすべき因果関係、それを明らかにする方法論を解説する [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑪	[テーマ] 量的調査の実際 [内容] 量的調査の結果の読解の仕方を解説する [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)
④	[テーマ] 目的による分類 [内容]国勢調査・公式統計・学術調査・世論調査・市場調査といった各種社会調査の違いを解説する [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑫	[テーマ] 質的調査の実際① [内容] 質的な模擬調査を行うための下準備を行う [授業外学習]調査対象者の選定、質問項目準備(学習時間の目安:1時間)
⑤	[テーマ] 方法による分類 [内容] 量的調査と質的調査の違いを解説する [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑬	[テーマ] 質的調査の実際② [内容] 質的な模擬調査を行う [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)
⑥	[テーマ] 調査技法①:実験法 [内容] 実験法について解説し、社会実験を行ったビデオを鑑賞する [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑭	[テーマ] 質的調査の実際③ [内容] 模擬調査の結果をまとめる方法を解説する [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)
⑦	[テーマ] 調査技法②:質問紙調査 [内容] 質問紙調査について解説し、その結果をまとめた論文を読む [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑮	[テーマ] 総括 [内容] 本講義を総括する [授業外学習]最終レポートの作成(学習時間の目安:5時間)
⑧	[テーマ] 調査技法③:インタビュー調査 [内容] インタビュー調査について解説し、それに関する論文を読む [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 期末レポートを作成する [授業外学習]講義全体の復習、社会調査法Ⅱ予習(学習時間の目安:2時間)

成績評価方法(方針)

中間試験(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。試験Ⅰはいわゆる「ペーパーテスト」。試験Ⅱはいわゆる「レポート」「論述」。なお、追試などは一切行わない。また、成績を掲示板等に貼り出すこともしない。全日程の2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○	○		50%
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	○	50%
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。
「分からない」ということは恥でも何でもなく、むしろよく分からないことを「分かった」ふりをすることのほうが恥ずかしいと思うように。そのため、どんな些細な質問でも大歓迎なので、授業後ないしはオフィスアワーに気軽に質問に来るように。また、期末レポートについては事前の添削を受け付けるので、こちらも気軽に利用して欲しい。

関連科目	社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習		
教科書	特に指定しない	参考書	森岡清志『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998 篠原清夫ほか編『社会調査の基礎』弘文堂、2010
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	社会調査法Ⅱ Social Research Ⅱ (L.)				担当教員	岡田　成弘
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会調査士 社会福祉士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

社会調査に関する基本的な事柄について、特に調査方法に焦点を当てて解説する。具体的には、社会調査の企画・設計から資料やデータの収集、そして収集されたデータを分析できる形に整理する方法を理解し、具体的な調査スキルを獲得してもらう。また、講義後半には量的な模擬調査を行い、データを分析し、発表する。

授業の一般目標

① 社会調査には様々な種類が存在することを知り、自ら社会調査を行う際に、適切な技法を選択できる。
② 与えられたテーマに沿って、自ら模擬調査を実施し、それをまとめることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会調査に関する基本的な事柄について理解する
■	情意的領域	社会調査の面白さに気づき、興味関心を持つ
■	技能表現的領域	適切に調査を行い、結果をまとめることができるようになる

授業計画（全体）

2～7回目は、調査の方法論について、講義形式で解説する。8回目以降は、量的調査を実際に行うために必要な具体的な手続きについて詳しく説明しながら、準備を進めていく。11回目に授業内で調査を行い、その結果をまとめて、発表する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法の説明 [授業外学習]配布資料を読み、本日の講義について復習をすること(90分)	⑨	[テーマ] 量的調査の実際② [内容] 調査票の配布、回収、分析の方法について説明する。受講生は、調査の変数を決定する。 [授業外学習]調査計画書を修正し、調査用紙を作成してくる(90分)
②	[テーマ]社会調査とは [内容] 社会調査とは何かを説明する。研究と評価の違いについて説明する。 [授業外学習]配布資料を読み、本日の講義について復習をすること(90分)	⑩	[テーマ] 量的調査の実際③ [内容] 調査票作成について説明する。受講生は、講義を受けて調査票を修正し、完成させる。 [授業外学習]授業外で調査を実施し、データを集めてくる(90分)
③	[テーマ] 先行研究レビュー [内容] 先行研究レビューについて説明する。受講生は興味のあるテーマについて文献レビューを行い、その内容をまとめる [授業外学習]興味のあるテーマについてレビューを行い、まとめる(90分)	⑪	[テーマ] 量的調査の実際④ [内容] 授業内で調査を行う。データ入力の方法を説明し、受講生は、実際にデータを入力する [授業外学習]データ入力を終わらせ、分析しやすい形に整える(90分)
④	[テーマ] 量的研究について～実験研究～ [内容] 実験研究について説明する。受講生は、実験研究の論文を探し、その内容をまとめる [授業外学習]実験研究の論文をレビューし、まとめる(90分)	⑫	[テーマ] 量的調査の実際⑤ [内容]データ分析と発表の仕方について説明する、受講生は、実際に 入力したデータについて分析を行い、発表の準備を行う。 [授業外学習]分析を行い、結果を発表できるようにまとめてくる(90分)
⑤	[テーマ] 量的研究について～調査研究～ [内容] 調査研究について説明する。受講生は、調査研究の論文を探し、その内容をまとめる [授業外学習]調査研究の論文をレビューし、まとめる(90分)	⑬	[テーマ] 量的調査の実際⑥ [内容] 受講生が調査結果を発表し、その内容について解説する [授業外学習]発表をしてアドバイスされたところを修正する(90分)
⑥	[テーマ] 量的調査について～統計処理～ [内容] 統計処理の方法や有意確率、サンプリングについて説明する。 [授業外学習]本日の講義について復習をすること	⑭	[テーマ] 量的調査の実際⑦ [内容] 受講生が調査結果を発表し、その内容について解説する [授業外学習]発表をしてアドバイスされたところを修正する(90分)
⑦	[テーマ] 質的研究について [内容] 質的研究について説明する。受講生は、質的研究の論文を探し、その内容をまとめる [授業外学習]質的研究の論文をレビューし、まとめる(90分)	⑮	[テーマ] 総括 [内容] 本講義を総括する [授業外学習]15回分の講義をふりかえり、レポートを作成する(90分)
⑧	[テーマ] 量的調査の実際① [内容] テーマの決定及び仮説の構築について説明する。授業内調査のテーマを決定し、先行研究をレビューした上で、仮説を構築する [授業外学習]先行研究をまとめ、調査計画書を作成してくる(90分)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

出席点（授業内レポート含む）：50点　→　欠席　－2点　　遅刻・欠席証明　－1点　　5回以上休むと単位を認定しない
個人発表（13回と14回）　：30点　→発表に対して、修正点をアドバイスする
期末課題（調査レポート）：20点　→発表でアドバイスされた点をレポートに反映させる

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎		◎	50%
授業外レポート	◎		◎	20%
演習・実技	◎	○	◎	30%
授業態度				
出席	○	○	○	欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・私語が多かったり、不真面目な態度の者、また人任せにしたり、グループの和を乱したりした者には、単位を認定しないこともある。
・授業では、前半は説明し、後半に作業をすることが多くなります。時間内に終わらない者は、授業外での作業が増えることになります。
・授業内で調査を行い、その結果をまとめて、13回と14回に全員が発表することになります。
・授業内レポートは修正点を赤入れし、次回授業の冒頭に解説する

関連科目	社会調査法Ⅰ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習		
教科書	特になし	参考書	森岡清志『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998 篠原清夫ほか編『社会調査の基礎』弘文堂、2010
連絡先	岡田研究室（A棟509）		

授業科目名	社会統計学Ⅰ Social Statistics Ⅰ (L.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会調査士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

社会調査では、様々な社会的事象についてデータを収集し、そのデータを分析することによって、結論や知見を得る。その際、データ収集の計画立案から収集したデータの集計分析まで、統計的な知識が不可欠である。この授業では、社会調査において用いられる記述統計的な手法について考える。

授業の一般目標

調査で得られたデータの集計や、データの特性を表わす指標の算出の仕方を理解し、実際にそれらが行えるようになること、また、官庁統計や論文などにおける統計的な記述を読み解くことができるようになることが目標である。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会調査における統計的手法の意味やその基礎的な概念を理解すること。
■	情意的領域	様々な社会的事象に対して、客観的かつ論理的に考えようとする態度を持つこと。
■	技能表現的領域	基礎的な統計的手法を使えるようになること。

授業計画（全体）

統計の基礎的な概念について説明する。また、実際にデータを扱うことを通して記述統計の手法の理解と習得を目指す。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 社会調査において統計的手法を使うことの意味について考える。 [授業外学習]マスコミの中から社会的統計データを集める。(1時間程度)	⑨	[テーマ] クロス集計①離散変数の場合 [内容] 離散変数データのクロス集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学習]クロス集計表作成の練習問題をする。(1時間)
②	[テーマ]社会統計の基礎 [内容] 社会調査における測定と、測定に用いられる尺度について考える。 [授業外学習]種々の調査が何を測定しているかを考えてみる。(1時間程度)	⑩	[テーマ] クロス集計②連続変数の場合 [内容] 連続変数データのクロス集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学習]クロス集計表作成の練習問題をする。(1時間)
③	[テーマ] 度数分布①離散変数の場合 [内容] 離散変数の度数データの集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学習]度数分布表とヒストグラム作成の練習問題をする。(1時間)	⑪	[テーマ] 相関関係と因果関係 [内容] 二つの事象の間の関係性について、特に、相関関係と因果関係の区別について考える。 [授業外学習]相関を用いている調査を探してみる。(1時間)
④	[テーマ] 度数分布②連続変数の場合 [内容] 連続変数データの度数の形での集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学習]度数分布表とヒストグラム作成の練習問題をする。(1時間)	⑫	[テーマ] 離散変数データ間の連関 [内容] 二つの離散変数間の連関の程度を表わす指標の種類とその求め方について学ぶ。 [授業外学習]連関係数等の求め方の練習問題をする。
⑤	[テーマ] 代表値とは [内容] データの特性を記述するための指標としての代表値の意味と、その種類について学ぶ。 [授業外学習]種々の調査で用いられる代表値を調べてみる。(1時間程度)	⑬	[テーマ] 連続変数データ間の相関 [内容] 相関係数とその求め方について学ぶ。 [授業外学習]相関の求め方の練習問題をする。(1時間)
⑥	[テーマ] 代表値の求め方 [内容] 具体的なデータをもとに平均値や中央値などの代表値の求め方を学ぶ。 [授業外学習]代表値計算の練習問題をする。(1時間)	⑭	[テーマ] 統計データを読む① [内容] 官公庁などが公表している調査の中の統計資料を選び、統計資料の読み解き方について学ぶ。 [授業外学習]社会調査の統計資料を集めてみる。(1時間程度)
⑦	[テーマ] 散布度とは [内容] 標準偏差や分散など、データの特性としての散らばりを記述する方法について考える。 [授業外学習]種々の調査で現われる散布度を調べてみる。(1時間程度)	⑮	[テーマ] 統計データを読む② [内容] 研究論文の中の統計資料を選び、統計資料の読み解き方について学ぶ。 [授業外学習]研究論文の中の統計資料を集めてみる。(1時間程度)
⑧	[テーマ] 散布度の求め方 [内容] 具体的なデータをもとに標準偏差などの散布度の求め方を学ぶ。 [授業外学習]散布度計算の練習問題をする。(1時間)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

レポートを8回課し、その評価（評価割合20%×4）と授業態度（評価割合20%）によって成績を決定する。
レポートは評価後返却すると同時に、解答の求め方について解説する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎		◎	80%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		20%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・電卓（＋－×÷√の計算が可能なもの）を持参すること。
・単に話を聞くだけでなく、能動的に授業に参加することを望む。
・授業中、授業に無関係のこと、授業の妨げになることをしないこと。（減点の対象）
・出席が2/3未満の場合は不合格とする。

関連科目	社会統計学Ⅱ、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習		
教科書	使用しない	参考書	授業時に指示する
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休み。		

授業科目名	社会統計学Ⅱ Social Statistics II (L.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会調査士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

社会調査では、様々な社会的事象についてデータを収集し、そのデータを分析することによって、結論や知見を得る。その際、データ収集の計画立案から収集したデータの集計分析まで、統計的な知識が不可欠である。この授業では、社会調査において用いられる記述統計的な手法について考える。

授業の一般目標

統計的検定に関わる基礎的な概念について理解すること、そして、社会調査で用いられる統計的検定の手法を習得し、実際に使用することができるようになることが目標である。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会調査で用いられる統計的手法と、その基礎をなす概念を理解すること。
■	情意的領域	様々な社会的事象に対して、客観的かつ論理的に考えようとする態度を持つこと。
■	技能表現的領域	基礎的な統計的手法を使えるようになること。

授業計画（全体）

社会統計学Ⅰで学んだことを基礎にし、与えられたデータに実際に適応してみることを通して、推計統計の手法の理解と習得を目指す。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 基本的な統計量（平均値、標準偏差、相関係数など）について復習する。 [授業外学習]新聞などにある具体例をもとに復習をする。(1時間程度)	⑨	[テーマ] 比率の差の検定 [内容] 二つの集団間での比率の差の検定の方法について学ぶ。 [授業外学習]相関の検定の練習問題をする。(1時間)
②	[テーマ] 確率論の基礎 [内容] 統計手的な推測や検定の基礎をなす確率論の考え方について考える。 [授業外学習]確率に関する練習問題をする。(1時間)	⑩	[テーマ] カイ二乗検定 [内容] クロス表データでの比率の差の検定について学ぶ。 [授業外学習]カイ二乗検定の練習問題をする。(1時間)
③	[テーマ] 正規分布と標準化 [内容] 正規分布の特徴と、標準化の意味について考える。 [授業外学習]標準化についての練習問題をする。(1時間)	⑪	[テーマ] 相関係数の検定 [内容] 相関係数が統計的に有意かどうかについての検定の方法を学ぶ。 [授業外学習]相関係数の検定の練習をする。(1時間)
④	[テーマ] 中心極限定理 [内容] 標本データと母集団の特性値を結ぶ中心極限定理について考える。 [授業外学習]サイコロ投げを例に中心極限定理を実際に確認する。(1時間)	⑫	[テーマ] 回帰分析 [内容] 複数の事柄の間の因果関係を分析する方法について学ぶ。 [授業外学習]回帰分析の練習をする。(1時間)
⑤	[テーマ]平均値の区間推定 [内容] 標本の平均値データから母集団の平均値を推測する方法について学ぶ。 [授業外学習]推定の練習問題をする。(1時間)	⑬	[テーマ] 分散分析① [内容] 三つ以上の平均値の差の検定の方法（1要因の分散分析）について学ぶ。 [授業外学習]分散分析の練習をする。(1時間)
⑥	[テーマ]比率の区間推定 [内容] 標本の比率データから母集団の平均値を推測する方法について学ぶ。 [授業外学習]推定の練習問題をする。(1時間)	⑭	[テーマ] 分散分析② [内容] 2要因配置の分散分析の方法について学ぶ。 [授業外学習]分散分析の練習をする。(1時間)
⑦	[テーマ]仮説検定 [内容] 仮説検定の手順について学ぶ。 [授業外学習]仮説検定について復習をする。(1時間)	⑮	[テーマ] 多変量解析 [内容] 種々の多変量解析の手法を紹介する。 [授業外学習]まとめの復習をする。(1時間程度)
⑧	[テーマ] 平均値の差の検定（t検定） [内容] 二つの集団間での平均値の差の検定の方法について学ぶ。 [授業外学習]t検定の練習問題をする。(1時間)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

レポートを8回課し、その評価（評価割合20％×4）と授業態度（評価割合20%）によって成績を決定する。
レポートは評価後返却すると同時に、解答の求め方について解説する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎		◎	80%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		20%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・この科目の受講には、「社会統計学Ⅰ」の単位取得が必要です。
・電卓（＋－×÷√の計算が可能なもの）を持参すること。
・単に話を聞くだけでなく、能動的に授業に参加することを望む。
・授業中、授業に無関係のこと、授業の妨げになることをしないこと。（減点の対象）
・出席が2/3未満の場合は不合格とする。

関連科目	社会統計学Ⅰ、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習		
教科書	使用しない	参考書	授業時に指示する
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休み。		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	阿部　肇
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本授業は漕艇の競技特性を理解したうえで、競技未経験者から競技経験者までを対象として実習を行う。競技の理解度、技術の習熟度など対象者の段階にあった指導法を学ぶうえで自身の競技理解度を向上させる。

授業テーマとその内容

1)競技力向上
漕艇部部員を対象とした様々な講習会を準備し実行する。
この作業から漕艇の競技力向上に必要とされる多岐にわたる項目の理解度を高める。

2)競技レベルに合わせた指導法の修得
・ハイパフォーマンス（国際レベル）：アイリスオーヤマボート部員との合同トレーニング
・大学トップレベル：漕艇部部員の通常トレーニングでのコーチング
・高校生レベル：宮城県ボート協会と連携し県内高校生との合同トレーニング
・未経験者（初心者）：競技の楽しみ、醍醐味を伝える。スポコム角田との連携事業を効果的に活用する。柴田町ボート協会主催のボート体験会、学祭時のローイングエルゴメーターを活用した体験会。これらのプログラムを企画・運営・改善提案を行う。

成績評価方法（方針）

出席点数の評価割合を100%とする。授業中における消極的な姿勢や指導対象者に対する誠実さに欠ける態度などは減点対象とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○			10%
演習・実技	◎	○		80%
授業態度		○		10%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	A棟4階406室　阿部　肇		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	粟木一博
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本実習のねらいや目標を理解するために，担当教員が実習前のオリエンテーションを数回行う．宮城県、山形県で行われている「コーチング」をキーワードとしたワークショップの一部を企画し、実際に活動を運営する（実習生は原則として下記の「内容」に記載されているプログラムの両方に参画すること）。

授業テーマとその内容

■事前指導

第1回オリエンテーション（掲示板にて連絡）
・実習内容の説明
・役割分担，学生連絡先の確認

■内容

1．山形県高等学校強化合宿（2泊3日：参加者は高校生60名程度、会場は山形県総合運動公園または山形市総合スポーツセンターの予定）
①スケジュール確認，概要説明，役割分担（リーダー，サブリーダー、担当プログラム）決定
②プログラムの確認
③自分の企画担当するプログラムの企画立案および評価
④企画担当以外のプログラムを担当する講師との連絡調整（スケジュールおよび準備物等の確認）
⑤前日まで連絡調整および運営のシミュレーションの繰り返し
⑥当日（会場における運営）
⑦反省ミーティング・報告書作成，チェック
⑧報告書・個人レポート提出

2．宮城県ジュニアアスリート・指導者研修会（日帰りプログラムを2回、参加者は中学生強化指定アスリート20名、その指導者20名程度、宮城県内で実施）
①スケジュール確認，概要説明，役割分担（リーダー，サブリーダー、担当プログラム）決定
②プログラムの確認
③自分の企画担当するプログラムの企画立案および評価
④企画担当以外のプログラムを担当する講師との連絡調整（スケジュールおよび準備物等の確認）
⑤前日まで連絡調整および運営のシミュレーションの繰り返し
⑥当日（会場における運営）
⑦反省ミーティング・報告書作成，チェック
⑧報告書・個人レポート提出

成績評価方法（方針）

演習・実技での成果（50%），授業外レポート（25%），授業態度（25%），などを基に、総合的に成績評価を行う。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない（欠格条件）。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○		25%
演習・実技	○	○		50%
授業態度	○	○		25%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

事前オリエンテーションには，必ず出席すること．そのためにも，掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること．
事前の準備やシミュレーションが頻繁に行われるので、其れにも参加して十分な準備が行えることを前提とする。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	粟木一博（kz-awaki@sendai-u.ac.jp）E棟2階		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	石丸出穂
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本実習のねらいや目標を理解するために，担当教員が実習前のオリエンテーションを数回行う．具体的な活動内容は，学外クラブチームの実技指導(もしくは補助)，である．

授業テーマとその内容

■事前指導
第1回オリエンテーション(掲示板にて連絡)
・実習内容の説明
・学生連絡先の確認(LINE使用予定)

■内容
学外クラブチームの実技指導(もしくは補助)
②-⑤学外クラブチームのサポート(および指導案作成)
⑥⑧⑩⑫⑭事前準備
⑦⑨⑪⑬⑮実際指導・事後指導
※終了した後、個別報告書の提出(表紙、目次、指導計画、それぞれの指導案、実際の内容とレビュー、反省レポート)

成績評価方法(方針)

演習・実技での成果(50%)，授業外レポート(25%)，授業態度(25%)，などを基に、総合的に成績評価を行う。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない(欠格条件)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○		25%
演習・実技	○	○		50%
授業態度	○	○		25%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

事前オリエンテーションには，必ず出席すること．そのためにも，掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること．
バレーボールの経験が豊富で．知識もある程度持ち合わせている者．本学バレーボール実技授業受講済みの者．
10名程度を限度と考えている．遅刻・無断欠席は絶対にしない．自ら授業を作り上げていく姿勢が求められるので，何事にも積極的な態度が必要．外部の機関を対象に指導等を行うので、上記のことが守れない場合や，茶髪，長髪，髭等，身なりが整っていない者は受け付けない．

関連科目	スポーツコーチング概論、スポーツコーチング演習、バレーボール、種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(バレーボール)		
教科書		参考書	
連絡先	石丸出穂:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp　0224-55-5758(E棟2階)		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	門野洋介・柴山一仁・名取英二・宮崎利勝
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

中学生を対象にした陸上競技に関する、①指導計画の作成、②指導、③振り返りを行う。

授業テーマとその内容

中学生を対象に、陸上競技を指導する。

授業は以下の流れに沿って進める。

①指導計画を作成する。

②実際に指導を行う。

③振り返りを行う。

成績評価方法(方針)

①指導計画の内容、②指導の内容および行動、③振り返りの内容について総合的に評価を行う。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎		20%
授業外レポート	◎	◎		20%
演習・実技	◎	◎	◎	20%
授業態度		◎		20%
出席		◎		20%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

種目別コーチング演習Ⅰおよび Ⅱ(陸上競技)を受講することが望ましい。

関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ(陸上競技)、種目別コーチング演習Ⅱ(陸上競技)		
教科書		参考書	
連絡先	門野洋介(A408, hr-kadono@sendai-u.ac.jp)		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	川口鉄二
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

ジュニア期のスポーツ指導現場を通して、運動遊びや基礎技能の習得に関する発生指導、計画・管理方法などの知識を身につける。あるいは、ホッケー競技においても同様のインターンシップを行う。

授業テーマとその内容

次のうちのいずれかから一つを選択して集中形態による実習を行う。ジュニアスポーツ指導：アイキッズスポーツ教室（小学生対象の運動遊び、基本スポーツ指導），森の幼稚園（県内・外における野外活動教室），冬季野外教室（スキー教室等）、大学生対象のスケート実習指導補助、その他民間スポーツクラブにおけるコーチング実習。

成績評価方法（方針）

出席と実習及びレポート評価による。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○		20%
演習・実技			◎	20%
授業態度			◎	20%
出席	◎			40%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

子供が好きなこと。指導に興味関心が強いこと。大学生・スポーツマンらしい態度で接することができること。教員志望者、クラブコーチ志望者を歓迎します。

関連科目			
教科書		参考書	1. 新しい体育授業の運動学（明和出版）
連絡先	B棟403（川口）		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum				担当教員	河野　未来
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
■	技能表現的領域	実習の成果をレポートにまとめることができる。事前指導で学んだことを、指導に生かすことができる。

授業計画（全体）

仙台大学開放講座ジュニア新体操教室の企画・運営・実践指導等を行う。

授業テーマとその内容

■オリエンテーション
本実習の履修者を集めて、実習の概要、実習についてのきまり等の説明。

■事前指導
実習までに1～2回の事前指導を実施。
（仙台大学開放講座ジュニア新体操教室の内容把握）

■実習
毎週水曜日　17:30～19:00　第4体育館にて行う。（計20回）

■事後指導
実習の振り返りと評価。
レポート作成

成績評価方法（方針）

実習への積極性・参加態度・レポート等を見て、総合的に成績評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○	○	○	20%
授業外レポート				
演習・実技	○	◎	○	40%
授業態度	○	◎	○	40%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	新体操　種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ（新体操）		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	河野研究室　第4体育館1階		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum（P.A.）				担当教員	黒澤　尚
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加し、お互いに尊重及び協力することができる。
■	技能表現的領域	指導の実践を通じてコーチングスキルを獲得できる。

授業計画（全体）

仙南女子サッカーフェスティバルをはじめ、キッズ・レディースフェスティバルやなでしこひろば等のサッカーの普及活動に参加し、メイン・アシスタントコーチとして指導を行う。また、フェスティバルの運営サポートも行う。

授業テーマとその内容

＜事前指導＞
オリエンテーション
・実習内容の説明
・役割分担、学生連絡先の確認
・指導案作成及び指導法の説明

＜内容＞
・8月～11月に数回実施される仙南女子サッカーフェスティバル（約30名が参加）において実習を行う。
⇒メインコーチとして実技指導（指導案の作成、指導法について学ぶ）を行う。
・仙台市内で実施されるなでしこひろば（約30名が参加）において実習を行う。
⇒アシスタントコーチとして実技指導（指導案の作成、指導法について学ぶ）を行う。
・年に2回程度実施される宮城県サッカー協会主催のキッズ・レディースフェスティバル（約100～200名が参加）において実習を行う。
⇒運営サポートや実技指導の体験

成績評価方法（方針）

指導実践を終えてのレポート（50％）、実習の出席や授業態度（50％）などを基に総合的に成績評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	○	○	50%
演習・実技	○	◎	○	50%
授業態度	○	○	○	
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・本実習を受講するにあたり、子どもたちを指導するのに相応しい態度や言動が出来る学生を希望する。

関連科目	サッカー実技、種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ（サッカー）		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	黒澤尚（A棟409 tk-kurosawa@sendai-u.ac.jp）		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	桑原　康平
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

実習の前に事前準備として、運営企画案、指導案等を作成する。その上で、必要な準備物や起こりうる事態に対する対処の仕方等についてシミュレーションを行う。また、実際にコーチングを行い、そこで感じたことをレポートすることで、コーチング全般について学ぶ。なお、実習はハンドボールを通じて行う。

授業テーマとその内容

主として、ジュニア期（主に小学生）の子どもを対象としたハンドボールの授業、スポーツ教室等の企画・運営、指導を行う。

成績評価方法（方針）

事前指導の際に作成する授業指導案やスポーツ教室の企画案（20%）
実習中の姿勢・態度・創意工夫・安全管理・コーチングスキル等の観点から総合的に評価（60%）
事後指導の際に作成するレポート課題（20%）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				40%
演習・実技				60%
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

履修時においてハンドボールを専門的に実践している（いた）学生のみ履修を認めます。
学外の授業、スポーツ教室等を対象とする科目のため、身だしなみ（金髪、ピアス等）を整えられない学生の受講は認めません。
提出物等の期日を厳守する。期日を守れない場合は、減点とする。
重合時刻を厳守する。守れない場合は減点とする。
移動を伴う実習の場合、移動に係る費用等は、自己負担になります。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	第5体育館2階　桑原研究室		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	児玉　善廣
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は，スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて，競技スポーツに関連する様々なイベント，競技会，講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験，或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって，より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである．

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては，実習の概要や実習の心得を理解する．実習中は，その現場に適した態度で積極的に業務に専念し，仲間との協力を図る．また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに，さらに身につけるべき知識や技術を確認する．

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる．
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる．
■	技能表現的領域	指導状況に対応し適切な指導ができる．伝承力を養う．

授業計画（全体）

受講生には、テーマの中から選択してもらう。そのテーマ各にオリエンテーション、観察、実技習得も兼ね、指導法を理解しながら、指導案の作成にあたる。それぞれの目的に応じて実技指導や指導補助（支援）などを実践する。最終的に報告書を作成し評価を行なう。

授業テーマとその内容

1.　授業の指導補助
・受講可能な実技授業の日を選択し，指導の補助を行なう．授業観察と指導案作成と実際について学ぶ．

2.　小中高校生を対象とした指導実習，ならびに現場指導者への支援指導．
・自己の指導法を体験し，技術習得と教授法のギャップを認識し，その対応・改善を行なう．指導法学習，指導案作成，指導の実際について学ぶ．

3.　各クリニック，ワークショップなどへの参加，イベント企画と運営体験
・大学行事のイベント等を利用しながら企画や運営を学ぶ．事前指導，実施計画（企画・作成），運営の実際について学ぶ．

成績評価方法（方針）

評価は，実習状況，終了後のレポートによる(評価割合70%)，実習への参加態度（評価割合30%）の結果を総合して行う．出席は欠格条件とする．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎			30%
演習・実技	◎	○	◎	40%
授業態度	○	◎		30%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

オリエンテーションを必須の事，所定の連絡に注意しながら，実践現場で行われる実習であるため，真摯な態度が求められる．ふざけた態度などは，真剣に取り組んでいる選手や周囲に対して失礼となるため，絶対に許されない．服装等の実習時の注意事項は，授業に沿って説明を加える．

関連科目	種目別コーチング演習，バスケットボール実技		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	研究室32　：　第5体育館3階　　オフィスアワー　：　前期/後期　木曜日　10:20 ～12:00		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	齋藤浩二
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
■	技能表現的領域	自らも基本的な動作を示すことから基本に忠実な技術を身に付けることができる。

授業計画(全体)

種目別コーチング演習Ⅰで行った指導法を基に、実際に1年次の「剣道」の授業に参加して剣道の技術指導を学び、指導の補助を行う。また、集中では中学生を対象とした練成会や講習会にて審判や指導の補助を実践する。

授業テーマとその内容

剣道の指導法を学ぶ
・事前指導を実施て、実習の概要とねらいを説明する
・剣道の授業に参加して、授業内容をまとめて提出する
・集中として、中学生対象の講習会や練習会での指導の補助を行う
・中学生対象の錬成会や競技会の審判員を行う

成績評価方法(方針)

実習での審判実技と指導補助の評価(70%)、毎回の行った内容をまとめる(授業内レポート30%)、実習の態度や行動等を総合的な判断して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	○			30%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎		◎	70%
授業態度				加点
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

武道を学んで学生として、ふさわしい態度で臨んでください。好ましくない態度や事前指導の欠席の者は実習に参加することができません。

関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ、剣道		
教科書	『武道の必修化に伴う体育実技(剣道)指導』	参考書	『剣道指導要領』
連絡先	齋藤研究室:第三体育館三階剣道場　　オフィスアワー:木曜日　11:00～12:30		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	佐藤周平
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	テニスの競技特性を理解する。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。誰とでも協力し、積極的にコミュニケーションをとることができる。
■	技能表現的領域	基本技術を習得し、応用する指導に対しても対応することができる。

授業計画(全体)

テニスを通じて、スポーツをコーチングするということを体で感じ、実践的に理解を深めていける授業構成としている。具体的な内容としては、実習前のオリエンテーションとして、前・後水曜日3・4限のテニスの指導補助を、3時限以上必ず行う。また、また、競技テニスの現場を見学することで指導方法の相違を感じ考える。

授業テーマとその内容

≪事前指導≫

オリエンテーション(掲示板にて連絡)
・テニスの競技性について講義
・実習内容の説明
・学生連絡先の確認

≪実習内容≫
①前・後水曜日3・4限のテニスの指導補助として3時限以上参加。
※授業体育の現場を体験する。

・実技の準備
・指導計画の確認と検討
・振り返りならびに反省、レポート提出

②競技スポーツの現場の見学、アスリートへの指導方法の見学。
※競技スポーツの現場を見学する。

・授業と競技の指導現場の相違を感じる。
・振り返りならびに反省、レポート提出

≪その他≫
※②の実施については、今後検討上、場所、時期などが決定される。

成績評価方法(方針)

授業態度、参加度、理解度、協力度などを総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				–
授業内レポート				–
授業外レポート	○	○	○	10%
演習・実技	◎	◎	◎	30%
授業態度	◎	◎	◎	30%
出席	◎	◎	◎	30%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・専門的な知識も含めた授業になるため、テニス経験者が望ましい。

・事前オリエンテーションに必ず参加する。掲示板連絡を見落とさないこと。

・意欲を持って、協力的に授業に参加する事。

関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ(テニス)、種目別コーチング演習Ⅱ(テニス)		
教科書	使用しない	参考書	必要な場合に応じて連絡する
連絡先	佐藤周平(sy-sato@sendai-u.ac.jp) 第2体育館2階		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	佐藤久夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

バスケットボールの専門性を追求する授業である。この授業は二つ授業形式で構成される。技術理論や指導方法の基本的理解を目的とした講義形式の授業と、その理論を実際のコーチングの中で生かしていく実践授業の二形式である。履修学生数にもよるが、実践授業展開は独自のシステムプレーを考案しそのシステムプレーを、授業内学生間で効率よく指導する方法を模擬体験から学ぶものである。

授業テーマとその内容

(1)オリエンテーション;授業概要の説明
(2～7)講義;システムプレイの目的とその原理や必要とされる基本スキルの重要ポイント等の理解を求める講義
(8～10)システムプレー考案;将来チーム指導を行う際に使いたいシステムプレーを考案。
(11～14)コーチングの実践;授業内学生間で、考案したシステムプレーを指導し、その指導法やシステムプレーのあり方について研究を行う。
(15)まとめ;授業内で学びえたバスケットボールの総合理解をレポート作成し提出
その他;授業内学生間だけのコーチング模擬体験だけでなく、外部のバスケットボール活動環境へ出向いてコーチングの実習とする場合もある。

成績評価方法（方針）

受講姿勢や出席状況などを含め評価の材料とする。また、指導方法については、口述表現やバスケットボール理論の理解度などを参考にしながら総合的な判断のもと評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	50%
授業外レポート				
演習・実技		○	○	50%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

2/3の出席を満たさない場合は放棄とする。また専門的な内容となることからある程度の基本的技量と知識を必要とする授業である。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	A410研究室		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	鈴木 良太
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
■	技能表現的領域	基本的な技能を身に付け、それらを応用技能へ発展させ指導することができる。

授業計画（全体）

本授業では、器械運動で学んだことをふまえ、応用技能への指導を中心に、実習（実技）の形式を用いて幇助法をについて授業を展開していく。

授業テーマとその内容

本授業は、器械運動の単位を修得した者が履修資格を有し、器械運動の授業を実際に組み立る中で幇助法や発展運動を理解するものである。
①準備運動の重要性について学ぶ。
・各授業に必要とされる箇所を事前に把握し準備運動に組み込む。
②幇助方法について学ぶ。
・安全を考慮し必要な場合の見極めをする。
③授業の組み立てについて学ぶ。
・事業としての組み立ておよび割合について理解する。
④発展運動について学ぶ。
・発展技を理解し、移行期について見極める。
⑤出来栄えおよび評価方法を学ぶ。
・評価を行う上での注意点を理解する。

成績評価方法（方針）

授業への出席状況や態度および理解度を評価の対象とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	○	◎	◎	100%
授業態度				減点対象
出席				失格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

私語、遅刻等は授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とす。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない（欠格条件）。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先			

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum(P.A.)				担当教員	武石　健哉
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえ、ラグビー競技に関連するイベント、競技会、本学ラグビー授業における企画・運営及び実技指導などに関する体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	ラグビー競技の歴史、15人制、7人制ラグビー、タグラグビーの競技規則を理解する。
■	情意的領域	実習に対して積極的に参加する。実習生との関わり、実習先での指導対象者との関係を構築できる。
■	技能表現的領域	スポーツコーチングにおけるコーチと選手の役割や関係性を理解しつつ、プレーのテクニック、コミュニケーションスキルを発揮できる。

授業計画(全体)

本実習のねらいや目標を理解するために、担当教員が実習前にオリエンテーションを行う。さらに、実習先の担当者からのオリエンテーションも受講する。ねらいや目標を達成すべく、実習に取り組む。

授業テーマとその内容

1. ラグビー授業
本学ラグビー授業にて、指導教員のアシスタントを行う。PDCAサイクルにて指導をブラッシュアップしていく。指導案、指導後の振り返りのレポートを作成、提出をする。
2. タグラグビー指導
小学生へタグラグビーの指導を行う。事前に指導教員のオリエンテーション、実技指導、ルール講習を受講する。指導後は振り返りを行い、課題、改善点を究明し、レポートとして提出する。
3. 柴田町ラグビーフェスティバル
本学学園祭と同時期に実施される、柴田町ラグビーフェスティバルの運営補助を行う。事前に指導教員のオリエンテーション、実技指導、ルール講習を受講する。
終了後は振り返りを行い、課題、改善点を究明し、レポートとして提出をする。
4.学生相互のコーチング
現場指導においては初心者に指導する場面が多いと考えられ、実習においても初心者に近い学生に対して指導することが必要であると考えられる。指導をした学生、指導を受けた学生でレビューを行い、学生の実践的指導力の向上を図る.

成績評価方法(方針)

事前オリエンテーション(25%),実習評価(50%),振り返りレポート(25%)、事前オリエンテーションの参加状況・実習態度などをもとに、総合的に成績評価を行う。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○	○	○	50%
授業内レポート	○		○	50%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点対象
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

ラグビー授業単位修得者、ラグビー経験者が望ましい。

関連科目	スポーツコーチング概論・スポーツコーチング演習		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	第4体育館　武石研究室		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	中屋敷　眞
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、実技指導に関する体験を「サッカーの指導の実践」として行い、より実践的な指導法についての理解と基本的能力の獲得・向上を目指す内容のものとして実施する。

授業の一般目標

本実習は「サッカー」と「指導の実践」に特化した高い専門性を有する授業とする。授業の流れは、先ず座学にてサッカーのコーチングに関する理論と「指導の実践」の方法や仕方を学習し、その後に指導案の作成と指導の実践を行う。この授業の「ねらい」はサッカー指導に関する知識やコーチングスキルの獲得であり、到達目標は日本サッカー協会C級コーチのレベル達成とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	根拠を有した指導案作成とコーチング法の内容を説明できる。
■	情意的領域	プレイヤーズ・ファーストの意味とその重要性そして責務が理解できる。
■	技能表現的領域	指導の実践を通じてコーチングスキルを獲得できる。

授業計画（全体）

前期に実施予定。①オリエンテーション：受講者と人数確認そして授業内容・展開および評価の説明。②座学：指導案の作成方法と「指導の実践」の内容と方法の説明。③指導案の作成（各自）：「指導の実践」のテーマはこちらで作成し抽選で決定。テーマは各自異なる。④「指導の実践」の実施（夏休み期間を予定）。
＊②、③、④についてはグランド確保の状況により後期に変更の可能性大であること注意（掲示板を見ておくこと）。

授業テーマとその内容

授業テーマ：「サッカーの指導の実践」
＜授業の流れ＞
1、オリエンテーション：授業概要と評価方法、諸注意の説明。
2、座学：トレーニングの構築とトレーニング・コーチングサイクルに関する説明。
3、座学：M－T－Mメソッドとトレーニングの種類と方法の説明。
4、座学：逆算の発想に基づく選手育成および指導案の考え方・作り方の説明。
5、座学：コーチングの種類と方法およびコーチの陥りやすい落とし穴に関する説明。
6、座学：効果的・効率的なサッカーコーチング法の説明。
7、座学：指導案の作成方法の説明（ピッチオーガナイズ、ルール、ねらい、方法、キーファクター等）。
8、座学：「指導の実践」の実施方法とコーチング法および留意点の説明と「指導の実践」のテーマ決定。
9、指導案の作成。
10、「指導の実践」①（グラウンド）。
11、「指導の実践」②（グラウンド）。
12、「指導の実践」③同上。
13、「指導の実践」④同上。
14、「指導の実践」⑤同上。
15、「指導の実践」⑥同上。
－以上－

成績評価方法（方針）

・指導案と指導の実践を終えての事後レポートが40％。
・「指導の実践」の結果としての改善レベル（コーチング能力）の評価60％。改善が認められるまで繰り返し実施する。
・授業態度と出席は減点・欠格条件とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	○	○	40%
演習・実技	○	○	◎	60%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・サッカーの高い専門性を有した授業となるので受講受け入れは、現在サッカーを行っている者か高校までの経験者とする。
・本実習の受講に際し、高いモチベーションを有し、礼節をわきまえた言動の出来る学生を希望。
・授業の場所は、座学が教室、「指導の実践」はグラウンドとする。

関連科目	サッカー実技、種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ（サッカー）		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	A413　中屋敷研究室		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	南條・仲田
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。
■	技能表現的領域	他者に対して柔道の基本的動作を指導できるだけの技能を身につける。

授業計画(全体)

本実習のねらいや目標を理解するために、担当教員が実習前のオリエンテーションを数回行う。具体的な活動内容は、柔道実技授業の補助・少年柔道合同稽古の企画運営である。

授業テーマとその内容

■事前指導
第1回オリエンテーション(掲示板にて連絡)
・実習内容の説明
・役割分担, 学生連絡先の確認

■内容
1. 柔道実技授業指導補助
前・後期, 木曜日, 3・4コマ(第3体育館柔道場)で開講している。柔道の実技指導補助を行う。
指導内容は前回受身、投技4種(体落、大腰、一本背負投、大外刈)である。

2. 合同稽古の企画・運営
※年に4～5回行われる小中学生を対象とした「全日本少年柔道育成会東北ブロック」という合同稽古があり、仙台大学も会場として年に1度東北各県から約200～300人の子どもが集まっている。道場全体を使って稽古できるのがだいたい60名がいっぱいであるため大人数を動かす統率力を養ってもらう。
①スケジュール確認, 概要説明, 役割分担(柔道場誘導、体操、実技指導等)
②反省ミーティング・報告書作成, チェック
③報告書・個人レポート提出

成績評価方法(方針)

実習での成果(50%)、授業外レポート(25%)、授業態度(25%)などを基に総合的に成績評価を行う。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○		25%
演習・実技	○	○		50%
授業態度	○	○		25%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

事前オリエンテーションには必ず出席すること。そのためにも掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること。
柔道に対する正しい理論と技術を修得しておくことが大切である。実習中は、道場内でのルールを厳守する。著しく実践できない学生については受講を遠慮してもらう可能性がある。柔道衣は各自で準備する。柔道衣を着用する場合に金属類や余計な物は身につけないこと。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	仲田研究室　0224-55-1126(第5体育館3階)		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	吉井　秀邦
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

柴田町のサッカークリニックに参加し、そのサポートを行い、さらに実践的な指導まで行う。

授業テーマとその内容

サッカークリニック（対象：小学校低学年、幼稚園）の企画・運営・指導（全10回）
日本サッカー協会公認キッズリーダーの下で指導法を学び、実践を行う
クリニックにて実践を行う前に、日本サッカー協会公認キッズリーダー養成講習会を受講し、資格を取得する
柴田町サッカークリニック開催の背景
・柴田町ではスポーツ少年団創設期にサッカーの団体がなく、中学校に入学してからサッカーを始めるといった時期がしばらく続き、柴田高校や仙台大学がある町にしては、サッカーの普及は遅かった。
・宮城県の小中学生の体力は全国平均より下回っていることから、未就学児や小学生低学年からでも始めやすいサッカー競技を通じ、子供たちの体力向上を図ることが求められている。
・保護者のライフスタイルは、仕事中心から生活重視への意識の変化がみられ、主体的に自由時間を活用し、子どもと一緒にいる時間をつくりたいという意識・要望は高まりつつある。
・子どもたちの生活においては一人で過ごす時間が多く、同学年の学校以外の横の繋がりや上級生、下級生の縦の繋がりが希薄になっていることが懸念されている。
・人間関係（近所交流など）が希薄となり精神的なストレスや体を動かす場所などの減少による体力・運動能力の低下など、心身両面にわたる健康上の問題も懸念事項として挙げられている。
このような社会状況の中で、スポーツ活動を「いつでも」「だれでも」「いつまでも」継続的に実践できるような環境づくりが必要である。
・小学4年生ぐらいになると、神経系の発達がほぼ完成すると言われている。
・しかし体力的・精神的には未発達な部分が多く、「危ないから」という理由から、いろいろな体験をさせていない。
・通常の授業に隙間が少なくなり、体を動かすという時間が少なくなってきているのが現状にある。
・今年度より未就学児（4～6歳）の体力向上も図ることを目的とし、子どもが小さい頃から運動することが「好き」になり、未就学児～小学校低学年～スポ少～部活動へと繋がるような仕組みづくりを構築する。

成績評価方法（方針）

出席3分の2以上、およびクリニックの指導実践に関するレポートを達成できなかった場合、欠格とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○			20%
演習・実技	◎	◎	◎	60%
授業態度	○	○	○	20%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

柴田町の子供達に実際に指導するので、その振る舞いや言動には十分注意すること。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	研究室：A棟4F414　オフィスアワー：木曜日12:40～14:10		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	溝口絵里加
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習内容を理解し、説明できる。様々な基本動作の内容が説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
■	技能表現的領域	人前でも自信を持って見本役ができる。対象者に応じた運動あそびを考案、指示することができる。

授業計画(全体)

本実習のねらいや目標を理解するために、担当教員が実習前のオリエンテーションを数回行う。具体的な活動内容は、体操(体つくり)の実技授業指導補助、及び体つくりの運動あそびを考え実践する(90分授業の1コマは必ず担当)。また体操競技に必要なストレッチやトレーニング方法も考え実践する。

授業テーマとその内容

■事前指導
第1回オリエンテーション(掲示板にて連絡)
・実習内容の説明
・学生連絡先の確認(LINE使用予定)

■内容
1. 体操(体つくり)実技授業指導補助及びレポート提出
体操(体つくり)の実技指導補助(運動あそびの提案・実践や、リズム体操を覚えて見本役を行う等)・指導内容の検討、を行う。
必ず、実技授業を担当する。担当実技授業前後に、教員と打合せ、反省会を行う。

2. 体操競技に必要なストレッチやトレーニングを考え実践する。
レポート用紙に内容をまとめ提出する。

成績評価方法(方針)

演習・実技での成果(50%), 授業外レポート(25%), 授業態度(25%)などを基に、総合的に成績評価を行う。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない(欠格条件)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	○	25%
演習・実技	○	○	○	50%
授業態度	○	○		25%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

事前オリエンテーションには、必ず出席すること。そのためにも、掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること。
体操,体操競技の経験が豊富で. 知識もある程度持ち合わせている者。本学の体操(体つくり),器械運動実技授業受講済みの者。
遅刻・無断欠席は絶対にしない。何事にも積極的な態度で受講しない者は受け付けない。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	溝口絵里加 (3体5F)		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	宮西智久
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

本実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、競技スポーツに関連する様々なイベント、競技会、講習会等における企画・運営及び実技指導に関する体験、或いは民間スポーツクラブや団体におけるインターンシップとしての体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、その現場に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協力を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を説明できる。
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。仲間と協力することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

スポーツバイオメカニクス、スポーツ技術観察論の学習を踏まえて、それらの科学的知識が生産される現場体験を通じ、スポーツバイオメカニクスの観点からスポーツの技術やトレーニング指導(コーチング)に資する科学的知識・技術の成立過程を学ぶ。具体的には、動作分析の初歩的理論を学んだ後に、実験や測定などを通して動作分析を体験学習する。走・跳・投などのスポーツ動作を対象に実際に被験者や測定者となって実験を実施する。関連学会大会、講演会等への参加を通して最先端の専門的知識を学ぶ。

授業テーマとその内容

第1回　動作分析の変遷
第2回　動作分析の概要①
第3回　動作分析の概要②
第4回　課題設定(スポーツコーチングに資するバイオメカニクス研究課題)
第5回
第6回
第7回
第8回
第9回
第10回
第11回
第12回
第13回
第14回
第15回
　各種バイオメカニクス機器・装置を用いたスポーツ動作(走、跳、投、打等)の分析
　関連学会大会などへの参加
第16回　課題提出

成績評価方法(方針)

課題およびレポートの提出。出席状況や実習態度を重視しますので、毎回授業に出席して下さい。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				−
授業内レポート				−
授業外レポート	○			25%
演習・実技			○	25%
授業態度		○		25%
出席	○			25%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 不思議だと思うことをそのまま放置せず、その不思議を解き明かそうとする姿勢が大切です。演習(実験)は学生が主体となって営まれるものです。知識を貪欲に探求する姿勢を求めます。
2. 授業の特性等を考慮して、実験等は集中(土日、休業日など)で実施することが多い。
3. 高度な動作分析装置を使用するため、実験要領をきちんと理解し勝手な行動を取らないでください。
4. スポーツバイオメカニクス、スポーツ技術観察論単位修得者。
5. バイオメカニクス的観点から卒論研究を行ってみたい学生は歓迎します。

関連科目	スポーツバイオメカニクス(2年)、スポーツ技術観察論(2年)、卒業論文(4年)		
教科書	プリント配布	参考書	身体運動のバイオメカニクス研究法(阿江・宮西他訳, 大修館書店) スポーツバイオメカニクス(宮西編, 化学同人)
連絡先	管理研究棟4F404号室 【オフィスアワー:木曜日16:00〜17:30】		

授業科目名	スポーツコーチング実習 Coaching practicum (P.A.)				担当教員	森本吉謙
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実習は，スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえ，小学生あるいは中高生を対象とした野球教室や技術講習会等における企画，運営および技術指導を通じて，より実践的なコーチングに対する理解と基本的能力の獲得を目指すものである．

授業の一般目標

様々な年齢や競技レベルの対象者（選手）に対して，各々に応じた適切な技術指導を行うことが出来るようになると共に，野球を通じて習得されるべきマナーや態度についても教授出来るようになる．また，こうした社会的活動の中で社会性を身に付けることを目指す．

授業の到達目標

□	認知的領域	
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる．協調性を以って取り組むことができる．
■	技能表現的領域	様々な年齢や競技レベルの対象者に対して，適切な技術指導ができる．

授業計画（全体）

受講生は定められた日程において，複数回の野球教室や技術講習会等の実習に参加する．

授業テーマとその内容

年度により異なるが，下記のような野球教室，技術講習会において実習を行う．

・宮城県石巻地区野球技術講習会
・山形県村山地区野球技術講習会
・宮城県県南地区高野連技術講習会
・宮城県柴田町少年野球教室
・宮城県名取市中体連技術講習会
・宮城県東部地区野球技術講習会

成績評価方法（方針）

実習における技能および情意的な評価を行う（評価割合70%）．また，授業外レポートを課す（評価割合30%）．これらの結果を総合して評価を行う．実習中における態度は減点対象となる．出席は欠格条件とする．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート		◎	◎	30%
演習・実技		○	◎	70%
授業態度		○	◎	減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

本実習内容の特性上，受講生は原則的として（硬式）野球を競技として専門的に行っている者に限る．茶髪，長髪，髭等，身なりが整っていない者は受け付けない．

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	研究室：A棟4階405　オフィスアワー：木曜日　10:20～11:50		

授業科目名	テーピング Taping (P.A.)				担当教員	高橋陽介・小田桂吾・山口貴之・村上憲治
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

テーピングの理論・目的・効果・有効性について正しい知識を学習して、実技を通じてテーピングの実施技術を習得する。

授業の一般目標

スポーツ活動において使用されているテーピングを各身体部位に外傷予防、応急処置、再発予防のそれぞれの目的に応じた技術、技法を実践できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	テーピングの目的を的確に説明できる。
■	情意的領域	テーピングの効果を選手に指導できる。
■	技能表現的領域	目的に応じたテーピングが巻ける。

授業計画(全体)

運動器の解剖学を理解し、テーピングの理論と実技を繰り返し行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介. テーピングの購入方法. 授業の進め方. 成績・評価の説明	⑨	[テーマ] 足関節テーピング⑥ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技
②	[テーマ] テーピング総論 [内容] 身体の解剖学的構造と傷害発生のメカニズムとテーピング理論の解説と、テーピングの種類・目的・効果・有効性について説明	⑩	[テーマ] 足関節テーピング⑦ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技
③	[テーマ] テーピングとアンダーラップ [内容] テーピングの切り方や貼り方、アンダーラップの巻き方を説明	⑪	[テーマ] アーチテーピング [内容] 足部の構造について解説し、アーチテーピングの実技
④	[テーマ]足関節テーピング① [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技	⑫	[テーマ] 膝関節テーピング [内容] 膝関節保護のテーピングの実技
⑤	[テーマ] 足関節テーピング② [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技	⑬	[テーマ] 肘関節テーピング [内容] 肘関節保護のテーピング実技
⑥	[テーマ] 足関節テーピング③ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるホースシューとサーキュラーの実技	⑭	[テーマ] 指関節テーピング [内容] 指関節保護のテーピング実技
⑦	[テーマ] 足関節テーピング④ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるヒールロックとフィギュアエイトの実技	⑮	[テーマ] 実技試験① [内容] 学んだテーピングの実技評価
⑧	[テーマ] 足関節テーピング⑤ [内容] 足関節テーピング一連の流れの実技	⑯	[テーマ] 実技試験② [内容] 学んだテーピングの実技評価

成績評価方法(方針)

実技テスト90%、出席率10%で評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	○			有
演習・実技	◎		◎	90%
授業態度				減点有
出席		◎		10%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

実技であるので、技能の習得ができない場合の単位認定は認めない。

関連科目	コンディショニング論、コンディショニング実習		
教科書	なし	参考書	日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト⑥
連絡先	高橋研究室　4体1階		

授業科目名	トレーニングの基礎 Basic Theory and Practice for Sports Training				担当教員	門野・阿部・河野・桑原・黒澤・佐藤(周)・柴山・鈴木(良)・武石・坪井・仲田・溝口・宮崎・山梨・吉井・渡邉
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	スポーツプログラマー
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

形態および体力を測定、評価し、それらを向上させるためのトレーニング理論および方法について実習を行なう。

授業の一般目標

①形態および体力の測定方法と評価方法を理解する。
②体力を高めるためのトレーニングに関する基礎理論と方法を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	形態および体力の測定・評価方法が説明できる。 体力を高めるためのトレーニングに関する基礎理論と方法が説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	形態および体力の測定・評価ができる。 体力を高めるためのトレーニングが実践できる。

授業計画(全体)

形態および6つの体力要素(筋力、スピード・敏捷性、パワー、持久力、柔軟性、調整力)について、実際にこれらを測定し、評価を行なう。
また、6つの体力要素を向上させるためのトレーニングの理論と方法について、実技と講義を交えて授業を行なう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業計画について説明する。	⑨	[テーマ] パワーを高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] ハイパワーを高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
②	[テーマ] 形態計測とその評価 [内容] 身長、体重、体組成を測定し、評価する。 測定方法と評価方法について学ぶ。	⑩	[テーマ] 持久力の測定と評価 [内容] 持久力を測定し、評価する。 持久力の測定方法と評価方法について学ぶ。
③	[テーマ] 新体力テストの実施とその評価 [内容] 新体力テストを実施し、自分の体力を評価するとともにその評価方法について学ぶ。	⑪	[テーマ] 持久力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 持久力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
④	[テーマ] 筋力の測定と評価 [内容] 筋力を測定し、評価する。 筋力の測定方法と評価方法について学ぶ。	⑫	[テーマ] 柔軟性の測定と評価 [内容] 柔軟性を測定し、評価する。 柔軟性の測定方法と評価方法について学ぶ。
⑤	[テーマ] 筋力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 筋力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。	⑬	[テーマ] 柔軟性を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 柔軟性を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
⑥	[テーマ] スピード、敏捷性の測定と評価 [内容] スピードと敏捷性を測定し、評価する。 スピードと敏捷性の測定方法と評価方法について学ぶ。	⑭	[テーマ] 調整力の測定と評価 [内容] 調整力を測定し、評価する。 調整力の測定方法と評価方法について学ぶ。
⑦	[テーマ] スピードを高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] スピードと敏捷性を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。	⑮	[テーマ] 調整力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 調整力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
⑧	[テーマ] パワーの測定と評価 [内容] ハイパワーを測定し、評価する。 ハイパワーの測定方法と評価方法について学ぶ。	⑯	[テーマ] まとめ [内容] 授業のまとめを行なう。

成績評価方法(方針)

・①出席、②演習・実技、③授業外レポートによって評価を行なう。
・テーマによっては授業内レポートを課す場合もある。
・授業態度も評価に含む。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎			25%
演習・実技			◎	25%
授業態度		◎		減点対象
出席		◎		50%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目			
教科書	ガイダンスにて配布するテキストを使用する。	参考書	
連絡先	門野洋介(A408、hr-kadono@sendai-u.ac.jp)		

授業科目名	レクリエーション実技Ⅰ Practical Skill on Recreation Ⅰ (P.A.)				担当教員	南條正人・伊藤枝里奈
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	レクリエーション・インストラクター、 レクリエーション・コーディネーター、 福祉レクリエーション・ワーカー
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

レクリエーション指導・支援者は、単にレクリエーション種目（レクリエーション財）を伝達するだけではない。そのことによって人間同士のふれあいを促進し、新しい集団づくりをすすめ、価値ある人生と社会への一歩を築く方向性めざす人達に対して支援を行う。ここでは、レクリエーション指導・支援者として必要な基礎実技を体験学習し、その基礎を習得する。学校の授業や事業、地域レクリエーションなどでの支援能力を養成する。

授業の一般目標

実際の体験を通して、様々な領域のレクリエーション種目（レクリエーション財）や活動の楽しさや面白さが分かる。

授業の到達目標

■	認知的領域	レクリエーションについて説明できる。特に、レクリエーション種目（レクリエーション財）について。
■	情意的領域	様々な領域のレクリエーション種目（レクリエーション財）や活動の楽しさや面白さが分かる
■	技能表現的領域	ゲームやニュースポーツ種目などを楽しむ技術を身につける。

授業計画（全体）

基本的に2名の教員が7回の授業（2ラウンド）を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、グループ分け	⑨	[テーマ] 体力づくりゲーム [内容] 学校体育で展開されている体力づくりの内容をゲーム化して紹介する
②	[テーマ] 室内ゲーム1 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングを紹介する	⑩	[テーマ] 体解しゲーム [内容] 学校体育で展開されている体解しの内容をゲーム化して紹介する
③	[テーマ] 室内ゲーム2 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングで、前回とは異なる内容を紹介する	⑪	[テーマ] 生涯スポーツ1 [内容] 種目・活動の理論と実際（種目：インディアカ）
④	[テーマ] 福祉レクリエーションを意識した活動 [内容] 高齢者や障害者などの対象に合わせたレクリエーション活動	⑫	[テーマ] 生涯スポーツ2 [内容] 種目・活動の理論と実際（種目：ペタンク）※インドア、アウトドア両方
⑤	[テーマ] コミュニケーション・ワーク [内容] 遊び環境を通して多様なコミュニケーションスキルの体験	⑬	[テーマ] 生涯スポーツ3 [内容] 種目・活動の理論と実際（種目：フライングディスク）※ゴルフ、アキュラシー
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス [内容] 子どもの発育・発達を目的としたレクリエーションダンス	⑭	[テーマ] 生涯スポーツ4 [内容] 種目・活動の理論と実際（種目：ユニバーサルホッケー）
⑦	[テーマ] 身近なものを用いたレクリエーション [内容] 新聞紙等を用いたレクリエーション種目（レクリエーション財）の体験	⑮	[テーマ]　生涯スポーツ5 [内容] 種目・活動の理論と実際（種目：チャレンジ・ザ・ゲーム）※4種目
⑧	[テーマ] 室外ゲーム [内容]	⑯	[テーマ] 総括 [内容] 体験学習したレクリエーション種目（レクリエーション財）を各自がレクリエーション実技ノートにまとめて指定された期日までに提出する

成績評価方法（方針）

基本的に2名の教員が7回の授業（2ラウンド）を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	○		40%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	○	○	◎	20%
授業態度				減点あり
出席				40%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目	レクリエーション実技Ⅱ、レジャー・レクリエーション論、野外・レクリエーション・マネジメント論など		
教科書	特になし	参考書	
連絡先			

授業科目名	エアロビックダンス Aerobic dance				担当教員	渋谷　祐子・坂上　香里
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	健康運動実践指導者
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスを理解し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して、安全で効果的なエアロビックダンスの運動プログラムを習得する。また、対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて学習する。

授業の一般目標

エアロビックダンスの基本、低体力者からフィットネス領域での運動を知り、コミュニケーションスキルの向上、指導法、運動のプログラム作成ができるようになる。その他、ストレッチングや筋コンディショニング、リラクゼーション、ヨガなどのさまざまなフィットネスプログラムの体験を通じて、健康づくりの運動指導者に必要な知識、技術を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	健康・体力づくり運動の理解、指導法など運動指導者に必要な知識を身につけることができる。
■	情意的領域	身近な運動に興味を持ち主観的、客観的に健康づくりを考えることができる。
■	技能表現的領域	エアロビックダンスの動作習得により、姿勢改善、正しい身体の使い方ができるようになる。指導法を学習することでプレゼンテーション能力が向上する。

授業計画（全体）

各授業はテーマに沿った資料を用いて実技中心だが講義も行う。各授業毎に、前週の内容を復習し理解度・到達度を確認する。また、協同作業としてのグループワークを行い、集団での発表の場を設ける。場合によってはレポート提出を実施する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、健康運動実践指導者資格受講について シラバスを熟読すること、水分補給の用意、ウエア、シューズの用意すること	⑨	[テーマ] 指導法1 [内容] 集団の運動指導ついて説明する 配布資料を理解しておくこと
②	[テーマ] エアロビックダンス体験1 [内容] 一般的なエアロビックダンスについて説明する	⑩	[テーマ]　指導法2 [内容] 集団の運動指導ついて説明する
③	[テーマ] エアロビックダンス体験2 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する、エアロビックダンスのストレッチングについて説明する。 実技が多いので体調管理、ケガの予防を伝える	⑪	[テーマ] プログラム作成1 [内容] メインエクササイズの運動プログラム作成について説明する 配布資料を理解しておくこと
④	[テーマ] エアロビックダンス体験3 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する、筋力トレーニング（自重負荷運動）について説明する。 実技が多いので体調管理、ケガの予防を伝える	⑫	[テーマ] プログラム作成2 [内容] 作成したプログラムの修正を行う（グループ発表） プログラムを覚え指導練習をすること
⑤	[テーマ] エアロビックダンスの基礎理論 [内容] エアロビックダンスの基本的な考え方、特性・効果・運動プログラムについて説明する。 配布資料を理解しておくこと	⑬	[テーマ] プログラム作成と指導1 [内容] 作成したプログラムを指導する（グループ発表）
⑥	[テーマ] メインエクササイズの運動強度について [内容]　指導者、参加者側双方からみた有酸素運動の運動強度について説明する 配布資料を理解しておくこと	⑭	[テーマ] プログラム作成と指導2 [内容] 作成したプログラムを指導する（グループ発表） テストに備えて復習をすること
⑦	[テーマ] 対象者別の運動プログラム体験 [内容]　対象者に合わせた運動プログラムを理解し、考慮した点や動作上の注意点等を理解する	⑮	[テーマ] テスト1 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う
⑧	[テーマ] 筆記テスト [内容] 健康運動実践指導者テキストからエアロビックダンスに係わる問題を出題する	⑯	[テーマ] テスト2 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う

成績評価方法（方針）

試験は、実技試験を1回実施する（評価割合60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合25%）と、出席（評価割合10%）、学習態度（評価割合5%）を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験			◎	60%
授業内レポート	◎		◎	25%
授業外レポート				予定なし
演習・実技		◎		5%
授業態度		◎		減点アリ
出席	◎	◎		10%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（放棄とみなす）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。見学者は申告すること。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまい、マナーモードにすること。
・実技中心なのでシューズは必ず持参、ウエア、水分補給の用意すること。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団） 「エアロビックダンスEX理論」（社）日本フィットネス協会
連絡先	研究室：なし　　教育企画室経由		

授業科目名	体操(含体つくり運動) Gymnastic(P.A.)				担当教員	溝口　絵里加
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	教員免許状(中高保体)・ジュニアスポーツ指導員・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者・健康運動実践指導士
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

運動を通して、自分や仲間の身体や心の状態に気づき、体の調子を整えたり、友達と触れ合い楽しく体を動かす実技を行う。体ほぐし運動、運動あそび、柔軟性を高める為の運動、ストレッチング、リズム体操などを紹介する。

授業の一般目標

実技を通して、様々な運動を身につけるとともに、運動の基本的な実技指導が出来るようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な基本動作の内容が説明できる。
■	情意的領域	体を動かすことによって、仲間と協力し表現することができる。
■	技能表現的領域	対象者に応じた体操を創ることができる。

授業計画(全体)

試験は、個人技能の出来栄えとグループにおける課題達成度(評価割合70%)また個人学習ノートの記入(評価割合30%)そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は評価割合に加え、さらに欠格条件とする。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	⑨	[テーマ] 組み合わせ課題 [内容] サーキットトレーニング。自重トレーニング。
②	[テーマ] ストレッチングと柔軟体操 [内容] 正しい行い方でストレッチを行う。体ほぐしを行いながら仲間と交流を深める。柔軟体操。	⑩	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり　導入 [内容] 対象者を設定する。動きの種類を出し合う。運動強度の設定をし運動内容を調整する。
③	[テーマ] ストレッチングと柔軟体操の応用 [内容] スタティックストレッチングとバリスティックストレッチングについて。様々なストレッチを実施する。	⑪	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり　運動強度 [内容] 運動強度の設定をし運動内容を調整する。
④	[テーマ] リズム体操(基礎) [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。	⑫	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり　師範について [内容] 運動を指導者らしく見えるよう工夫する。師範について
⑤	[テーマ] リズム体操(応用) [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。	⑬	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり　まとめ [内容] 運動プログラムを仕上げ、出来栄えが良くなるように工夫する。フォーメーションの変化も取り入れる。
⑥	[テーマ] 用具体操 [内容]用具を使った運動あそび。指導方法について	⑭	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラム評価テスト [内容] 各グループで創作した運動プログラムを相互に発表。評価する。
⑦	[テーマ] 用具体操 [内容]用具を使った運動あそび。指導方法について	⑮	[テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。
⑧	[テーマ] リズム体操個人テストと前回までの振り返り [内容] 動きの質を高める。他者の評価方法について	⑯	[テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。

成績評価方法(方針)

個人技能の出来栄えとグループ活動における課題達成度(評価割合70%)また個人学習ノートの記入(評価割合30%)そして、これらを基に総合して成績評価を行う。出席については、評価割合に加え減点対象とし、欠格条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○	○		30%
授業外レポート				
演習・実技			◎	70%
授業態度				減点対象
出席				減点・欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・10分以上の遅刻は欠席とみなす。
・服装や身だしなみを整えて受講すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	特になし	参考書	体つくり運動ー授業の考え方と進め方ー文部科学省
連絡先	溝口研究室(第3体育館3階)		

授業科目名	韓国伝統武道 Taekwondo(P.A.)				担当教員	金　址爀
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

韓国伝統武道であるテコンドーを取り上げて、歴史や特性を理解し、基礎的な動作からプンセ(形)を習得する。また、テコンドーから韓国における武道への考え方や行動様式についても学習する。

授業の一般目標

テコンドーの歴史や発展過程さらに、礼節についても学習することができ、基本動作や技の習得ができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	テコンドーについての説明ができる。
■	情意的領域	韓国における武道のもつ礼節等の考え方についても触れることができる。
■	技能表現的領域	テコンドーの基本的な動作が身につけることができる。

授業計画(全体)

テコンドーの歴史からその成立過程を理解してから、基本動作を習得し、形へと発展していく。(集中で実施)

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンティション [内容] 授業の概要とテコンドー入門	⑨	[テーマ] プンセ(形)Ⅳ [内容] 太極 4章
②	[テーマ] テコンドーの歴史 [内容] テコンドーの発達過程と礼法	⑩	[テーマ] 競う基本動作 [内容] 用具を着装
③	[テーマ] 基本動作Ⅰ [内容] 立つ、歩く	⑪	[テーマ] プンセ(形)Ⅴ [内容] 太極 5章
④	[テーマ] 基本動作Ⅱ [内容]手の動き、足の動き	⑫	[テーマ] プンセ(形)Ⅵ [内容] 太極 6章
⑤	[テーマ] 基本動作Ⅲ [内容] 手の動き、足の動き(移動しながら)	⑬	[テーマ] プンセ(形)Ⅶ [内容] 太極 7章
⑥	[テーマ] プンセ(形) Ⅰ [内容] 太極 Ⅰ章	⑭	[テーマ] プンセ(形)Ⅷ [内容] 太極 8章
⑦	[テーマ] プンセ(形) Ⅱ [内容] 太極 2章	⑮	[テーマ] 総合 [内容] 基本動作、プセム
⑧	[テーマ] プンセ(形)Ⅲ [内容] 太極 3章	⑯	[テーマ] 試験 [内容]実技試験(太極1章～8章)

成績評価方法(方針)

実技試験(70%)、授業時の実技評価(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席回数が2／3以下の場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	70%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			○	30%
授業態度			△	加点
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業ではあるが、韓国の伝統文化を重視するため、礼儀作法や行動の仕方については厳しく指導します。テコンドー着は大学で準備します。

関連科目	空手道、海外武道実習		
教科書	特に指定はありません。	参考書	特に指定はありません。
連絡先	齋藤浩研究室:第三体育館三階　オフィスアワー:木曜日11:00～12:30		

授業科目名	中国武術Ⅰ Chinese martial arts Ⅰ (P.A.)				担当教員	王 強
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

中国の起源をもつ武術の総称である中国武術は、徒手技術である拳法と武器術(刀、剣、槍、棍)が含まれている。中国武術Ⅰでは、太極拳の基礎的動作と代表的な技である24式を習得する。

授業の一般目標

中国武術として、太極拳の基礎的動作と代表的な技である24式が習得できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	太極拳の特徴および動きについて理解できる。
■	情意的領域	太極拳を身につけることによって、心身のコントロールが養われていく。
■	技能表現的領域	24式の動作が身につけることができ、身体の柔軟性を高めることができる。

授業計画(全体)

中国の高等学校体育科の学習指導要項に基づく、太極拳の基礎的動作(基本四手法・四正手)と24式太極拳の套路を習得する。(集中で実施)

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 太極拳の特徴及び基礎的な動き(肩、肘、手首、足など)	⑨	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)Ⅶ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)の第6組を習得する
②	[テーマ] 基本四手法・四正手 [内容] 基本四手法・四正手	⑩	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)Ⅷ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)の第7組を習得する
③	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)Ⅰ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)の第1・2組を習得する	⑪	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)Ⅸ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)の第8組を習得する
④	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)Ⅱ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)の第3組を習得する	⑫	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)Ⅹ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)の第9組を習得する
⑤	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)Ⅲ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)の第4組を習得する	⑬	[テーマ]24式太極拳の套路(とうろ)の総合練習Ⅰ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)を通して練習する
⑥	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)Ⅳ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)の第5組(1)を習得する 24式太極拳の套路(とうろ)の第5組(1)を習得する	⑭	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)の総合練習Ⅱ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)を通して練習する
⑦	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)Ⅴ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)の第5組(2)を習得する	⑮	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)の総合練習Ⅲ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)を通して練習する
⑧	[テーマ] 24式太極拳の套路(とうろ)Ⅵ [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)の第5組(3)を習得する	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 24式太極拳の套路(とうろ)の実技試験を行う

成績評価方法(方針)

実技試験(70%)、授業時の実技評価(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席回数が2／3以下の場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	70%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			○	30%
授業態度				加点
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

礼儀作法や行動の仕方については厳しく指導します。武術服は大学で準備します。

関連科目	中国武術Ⅱ、海外武道実習		
教科書	特に指定はありません	参考書	特に指定はありません
連絡先	齋藤研究室:第三体育館3階剣道場　オフィスアワー:木曜日　11:00～12:30		

授業科目名	中国武術Ⅱ Chinese Martial Arts Ⅱ(P.A.)				担当教員	王 強
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

中国の起源をもつ武術の総称である中国武術は、徒手技術である拳法と武器術(刀、剣、槍、棍)が含まれている。中国武術Ⅰでは、太極拳の基礎的動作と代表的な技である24式を習得したが、中国武術Ⅱは長拳を実施する。

授業の一般目標

中国武術として、長拳の基本動作と三路長拳が習得できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	長拳の特徴および動きについて理解できる。
■	情意的領域	長拳を身につけることによって、心身のコントロールが養われていく。
■	技能表現的領域	三路長拳の動作が身に付けることができる。

授業計画(全体)

中国における長拳の歩法、手法、基本動作を学び三路長拳を習得する。(集中で実施)

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 長拳の特徴及び準備動作	⑨	[テーマ] 三路長拳、第四段 [内容]1. 弓歩頂肘 2.転身左拍脚 3.右拍脚 4.謄空飛脚 1. 弓歩頂肘 2.転身左拍脚 3.右拍脚 4.謄空飛脚 の手法、歩法、基本動作
②	[テーマ] 三路長拳の準備動作 [内容] 1.虚歩亭掌 2.並歩対拳の手法、歩法、基本動作	⑩	[テーマ] 三路長拳 [内容] 1. 歇歩下沖拳2. 仆歩掄劈掌3.提膝挑掌 4. 提膝劈掌 の手法、歩法、基本動作
③	[テーマ] 三路長拳、第一段 [内容] 1.左弓歩沖拳 2.右弾腿沖拳 3.馬歩沖拳の手法、歩法、基本動作	⑪	[テーマ] 三路長拳 [内容] 1. 弓歩沖拳 2. 虚歩亮掌 3. 並歩対拳 の手法、歩法、基本動作
④	[テーマ] 三路長拳、第一段 [内容] 1.左弾腿沖拳 2.大躍歩前穿 3.弓歩撃掌 4.馬歩架掌の手法、歩法、基本動作	⑫	[テーマ] 三路長拳 [内容] 1. 弓歩沖拳 2. 虚歩亮掌 3. 並歩対拳の手法、歩法、基本動作
⑤	[テーマ] 三路長拳、第二段 [内容] 1.虚歩栽掌 2.提膝穿掌 3.仆歩穿掌 4.虚歩桃掌の手法、歩法、基本動作	⑬	[テーマ] 三路長拳 [内容] 復習段階(1) 段階に分けて練習する。難しい動作に対しては、繰り返しておこなう。
⑥	[テーマ] 三路長拳、第二段 [内容] 1.馬歩架掌 2.叉歩双擺掌 3.弓歩撃掌 4.転身蹴腿馬歩盤肘の手法、歩法、基本動作	⑭	[テーマ] 三路長拳 [内容] 復習段階(2) 段階に分けて練習する。難しい動作に対しては、繰り返しておこなう。
⑦	[テーマ] 三路長拳、第三段 [内容] 1.歇歩掄砸拳 2.仆歩亮掌3.弓歩劈拳 4.換跳歩弓歩沖拳の手法、歩法、基本動作	⑮	[テーマ] 三路長拳 [内容] 復習段階(3) 段階に分けて練習する。難しい動作に対しては、繰り返しておこなう。
⑧	[テーマ] 三路長拳、第三段 [内容] 1. 弓歩沖拳2. 弓歩下沖拳 3. 叉歩亮掌側踹腿 4. 虚歩挑掌の手法、歩法、基本動作	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 三路長拳の試験

成績評価方法(方針)

実技試験(70%)、授業時の実技評価(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席回数が2／3以下の場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	70%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			○	30%
授業態度				加点
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

礼儀作法や行動の仕方については厳しく指導します。武術服は大学で準備します。

関連科目	中国武術Ⅰ		
教科書	特に指定はありません	参考書	特に指定はありません
連絡先	齋藤研究室:第三体育館3階剣道場 オフィスアワー:木曜日 11:00～12:30		

授業科目名	武道実技(形) Performance of Martial Arts				担当教員	齋藤浩二・南條充寿・仲田直樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は柔道と剣道に分かれて実施する。柔道では定められた『形』のうち、『極の形』と『講道館護身術』を解説していく。その過程において乱取の柔道では見られない当身技などの高度な技術を修得していく。また、短刀、長刀、杖、拳銃などを取り扱うため、それらを用いた際の理合いを修得できるよう取り組む。剣道は、日本剣道形を太刀の形7本、小太刀の形3本を解説し、修得をしていく。

授業の一般目標

柔道では、極の形と講道館護身術における各技術の基本的な動きを理解し、正確に習得できるようになる。2つの形において、取りと受けの理合いが正確に習得できるよう取り組む。技能の習得を通じて柔道の本質である「精力善用」自他共栄」の精神を理解することができる。剣道では日本剣道形の歴史的な変遷を理解した上で、10本を打太刀・仕太刀の両方をマスターすることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	柔道は極の形20本、講道館護身術21本の技能構造が理解できる。 剣道は、日本剣道形10本を理解することができる。
■	情意的領域	伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。
■	技能表現的領域	講道館柔道や全日本剣道連盟の昇段の際に必要な高度な技能を身につけることができる。

授業計画(全体)

本授業は柔道と剣道を分かれて実施する。柔道は極の形と講道館護身術におけるそれぞれの技術の構造を解説し、あてみわざやぶきなどを連絡技や変化技などその応用に迫る。投技においては類似した技について解説していく。また、「投の形」の解説をし、それらの習得を通じて理合の向上を目指す。剣道は、形の歴史的な変遷を学習をし、日本剣道形の基本的な所作、注意事項等を理解させてうえ。太刀の形・小太刀の形の修得に展開していく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の流れや評価のめやすについて説明する。	⑨	[テーマ] 講道館護身術② / 総合練習② [内容] (柔道) 講道館護身術の「組みつかれた場合」後半3本を解説していく。「組みつかれた場合」を一連の流れで行う。 (剣道)太刀の形1本目から7本目、小太刀1本目から3本目を修得する。
②	[テーマ] 極の形① / 「日本剣道形」の変遷と留意点 [内容] (柔道) 極の形から「居取」の前半4本について解説していく。 (剣道) 「日本剣道形」の変遷と留意点、形を行なううえでの注意点と基本動作。	⑩	[テーマ] 講道館護身術③ / 総合練習③ [内容] (柔道)講道館護身術の「徒手の部」である「離れた場合」前半3本を解説していく。 (剣道)太刀の形1本目から7本目、小太刀1本目から3本目を修得する。
③	[テーマ] 極の形② /基本動作、太刀の形1本目から3本目 [内容] (柔道)極の形から「居取」の後半4本について解説していく。 (剣道)基本動作、太刀の形1本目から3本目を解説していく。	⑪	[テーマ] 講道館護身術④ / 刃引きによる修得① [内容] (柔道) 講道館護身術の「離れた場合」後半2本を解説していく。「離れた場合」を一連の流れで行う。(剣道)刃引きを用いて、太刀の形1本目から7本目、小太刀1本目から3本目を修得する。
④	[テーマ] 極の形③ / 太刀の形4本目から5本目 [内容] (柔道)極の形から「立合」の前半4本について解説していく。 (剣道)太刀の形1本目から3本目の復習、4本目から5本目を解説する。	⑫	[テーマ] 講道館護身術⑤ / 刃引きによる修得② [内容] (柔道)講道館護身術の「武器の部」である「短刀の場合」3本を解説していく。(剣道)刃引きを用いて、太刀の形1本目から7本目、小太刀1本目から3本目を修得する。
⑤	[テーマ] 極の形④ / 太刀の形6本目から7本目 [内容] (柔道)極の形から「立合」の中盤4本について解説していく。 (剣道)太刀の形1本目から5本目の復習、6本目から7本目を解説する。	⑬	[テーマ] 講道館護身術⑥ /実技試験 ① [内容] (柔道)講道館護身術の「武器の部」である「杖の場合」3本を解説していく。(剣道)実技試験の1回目、打太刀・仕太刀のどちらかを太刀の形1本目から7本目まで実施する。
⑥	[テーマ] 極の形⑤ / 小太刀の形1本目から2本目 [内容] (柔道)極の形から「立合」の後半4本について解説していく。 (剣道)太刀の形1本目から7本目の復習、小太刀1本目から2本目を解説する。	⑭	[テーマ] 講道館護身術⑦ /実技試験 ② [内容] (柔道)講道館護身術の「武器の部」である「拳銃の場合」3本を解説していく。「武器の部」9本を一連の流れで行う。(剣道)実技試験の2回目、打太刀・仕太刀のどちらかを太刀の形1本目から7本目まで実施する。
⑦	[テーマ] 極の形⑥ / 小太刀の形3本目 [内容] (柔道)極の形を一連の流れで取と受の動きを確認する。 (剣道)太刀の形1本目から7本目の復習、小太刀1本目から2本目を解説する。	⑮	[テーマ] 講道館護身術⑧ /実技試験 ③ [内容] (柔道)「徒手の部」「武器の部」のを一連の流れで取と受の動きを確認する。(剣道)実技試験の3回目、打太刀・仕太刀のどちらかを小太刀の形1本目から3本目まで実施する。
⑧	[テーマ] 講道館護身術① / 総合練習① [内容] (柔道)講道館護身術の「徒手の部」である「組みつかれた場合」前半4本を解説していく。 (剣道)太刀の形1本目から7本目、小太刀1本目から3本目を修得する。	⑯	[テーマ] 実技テスト /実技試験 ④ [内容] (柔道) 「極の形」と「講道館護身術」の実技試験を行う。 (剣道)実技試験の4回目、打太刀・仕太刀のどちらかを小太刀の形1本目から3本目まで実施する。

成績評価方法(方針)

実技試験(70%))と各技能の習得状況(30%)を総合的に評価する。授業への積極的な態度については加点の材料とする。ただし出席回数が2/3以下の場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	70%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		○	○	30%
授業態度				加点
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

武道の特性を理解し、授業中は道場内でのルール(礼法、服装、注意事項など)を厳守してください。著しく実践できない学生については受講を遠慮していただく可能性があります。
柔道衣、剣道着・袴は各自で準備してください。柔道衣、剣道着・袴を着用する場合に金属類や余計な物は身に付けないこと。

関連科目			
教科書	特に指定はありません。	参考書	特に指定はありません。
連絡先	南條研究室:第3体育館3F柔道場、オフィスアワー:金曜日14:20～15:30、齋藤研究室:剣道場、オフィスアワー:木曜日11:00～12:30		

授業科目名	テニス Tennis (P.A.)				担当教員	佐藤　周平
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

テニスの基本技術を修得しながら、テニスの面白さや奥の深さを体験し、理解を深めていく。

授業の一般目標

基本技術の修得だけではなく、歴史・ルール・審判方法・試合の運営等についても理解してもらいたい。

授業の到達目標

■	認知的領域	ショットの基本原則・歴史・ルール・審判方法等の理解
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。誰とでも協力し、積極的にコミュニケーションをとることができる。
■	技能表現的領域	基本技術の修得とゲームでの実践

授業計画（全体）

テニスの競技性の理解を深めることで、ボールを打つことに対する理解を高める。テニスの基本技術の修得から、応用技術の修得へと発展していき、ゲームを中心とした授業を展開していく。また、習得状況により、進度も変わってくる場合がある。
悪天候時には教室で、歴史・ルール等を学習する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、成績評価と履修上の諸注意、テニスの基本技術について解説	⑨	[テーマ] テニスの基礎知識1 [内容] テニスの歴史
②	[テーマ] 基本技術その1　ミニテニス [内容] ・ワンバウンドでボールを打ち合う（グランドストローク） ・ダイレクトでボールを打ち合う（ボレー）	⑩	[テーマ] テニスの基礎知識2 [内容] テニスのルールと運用
③	[テーマ] 基本技術その2　グランドストローク [内容] ミニテニスより距離を長くして、グランドストローク（フォアハンド）	⑪	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解1
④	[テーマ] 基本技術その3　サービス [内容] 前回を発展して、グランドストロークを向上させるとともに、サービスの基本を学ぶ	⑫	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解2
⑤	[テーマ] 基本技術その4　ボレー [内容] 前回に加えて、ネットでのボレーの基本を学ぶ	⑬	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解3
⑥	[テーマ] 基本技術その5　スマッシュ [内容] 前回に加えて、ボレーとスマッシュの基本を学ぶ	⑭	[テーマ] シングルス [内容] 基本戦術の理解4
⑦	[テーマ] 基本技術その6　サービスリターン [内容] サービスリターンの基本を学ぶ	⑮	[テーマ] 実技の確認テスト [内容] 基本技術の修得度をテストする
⑧	[テーマ] 基本技術その7　バックハンド・ストローク [内容] バックハンドストロークを学ぶ	⑯	[テーマ] テニスの基礎知識のテスト [内容] テニスの基礎知識の理解度をテストする

成績評価方法（方針）

授業参加度・実技テスト（70%）、筆記テスト（30%）の結果を総合して評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎			30%
授業外レポート				
演習・実技			◎	70%
授業態度		◎		加点・減点
出席				加点・減点

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. テニスコートの関係で，受講者の制限をします。（40名以内）
初回授業日に，抽選を行い受講者を決定します。
詳細は，別途掲示します。
2. コートを傷めないシューズ（テニスシューズ）を各自準備すること。
3. ラケット,ボールは貸し出します。
4、積極的に参加する事。

関連科目			
教科書	特になし	参考書	テニスに関する雑誌
連絡先			

授業科目名	バドミントン Badminton（P. A. ）				担当教員	菊地　直子・林　直樹
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

生涯スポーツとして最も適した種目の一つであるバドミントンは、学校体育の中でも盛んに取り入れられている。本授業は、中学・高校の体育授業の実践を念頭に置いた初心者指導について解説する。

授業の一般目標

バドミントンについて歴史や道具・安全配慮について理解し、技術の習得をする。最終的には、バドミントンの一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	打法とフライト、バドミントン一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	基本的な打法について、実際に習得している。

授業計画（全体）

バドミントンいついて、基本的な知識を獲得しつつ、前半はスキル獲得に重点を置く。後半は、獲得したスキルを使ってのゲームや、ゲームの運営ができるように実際のゲーム運営を学生同士で行いながらすすめる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法の確認を行う。	⑨	[テーマ]　競技としてのバドミントンを知る [内容] 視聴覚教材を使って、バドミントン競技についてイメージの喚起を行う。
②	[テーマ] バドミントンを知る [内容] バドミントンについて、歴史や道具などについて解説する。	⑩	[テーマ] ゲームの方法　シングルス① [内容] シングルスの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。
③	[テーマ]　基本的技術の習得1　アンダーハンドストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、訓練を行う。	⑪	[テーマ] ゲームの方法　シングルス② [内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。
④	[テーマ] 基本的技術の習得2　オーバーヘッドストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑫	[テーマ] ゲームの方法　ダブルス① [内容] ダブルスのフォーメーションについて解説し、訓練を行う。
⑤	[テーマ] 基本的技術の習得3　サーブとその他の返球 [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑬	[テーマ] ゲームの方法　ダブルス② [内容] ダブルスの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。
⑥	[テーマ]　基本的技術の習得4　スマッシュ、クリアストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑭	[テーマ] ゲームの方法　ダブルス③ [内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。
⑦	[テーマ] 基本的技術の習得5　ドロップ、ドライブ等のストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑮	[テーマ] 実技の確認テスト [内容] 基本的スキルをマスターしているかについてテストを行う。
⑧	[テーマ] 基本的技術の習得6　プッシュ、レシーブ [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 試合進行などについてプリントによるテストを行う。

成績評価方法（方針）

定期試験は、筆記テストを1回実施する（評価割合50%）。また、実技（評価割合50%）についても評価する。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			50%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	50%
授業態度		◎		
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

3回以上欠席した学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・安全配慮の観点から、靴下の着用を義務付ける。
・毎年受講希望生が多数のため、質の保障・安全上の配慮から、人数を抽選などで調整する（最大60名）。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室第4体育館1階　9号室		

授業科目名	ソフトボール Softball (P.A.)				担当教員	入澤　裕樹・森本　吉謙
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ソフトボールは，投・打・走・捕など，基本的運動の多くが含まれるスポーツ種目である．本授業では，ソフトボールの基本的な技術や戦術を概説し，また，それらを習得するべく各種の練習方法を紹介する．加えて，ゲームを通じて，実際のゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する．

授業の一般目標

ソフトボールにおける技術や戦術の基本，およびそれらを習得する練習の具体的な方法論を学習して実践できるようになり，かつ集団競技の中で他所との関わりを積極的に持つことが出来るようになる．特にソフトボール特有の技術であるウインドミル投法に関しては，最終的に自身が出来るようになると同時に，適切な指導法を身に付ける．

授業の到達目標

■	認知的領域	ソフトボールの基本的な技術や戦術およびそれらの練習方法を説明できる．
■	情意的領域	集団競技として積極的に他者との関わりを持てるようになる．
■	技能表現的領域	理解したことを実践でき，加えてウインドミル投法を出来るようになる．

授業計画（全体）

毎時間テーマに沿った各技術を学習した後，それらの技術を発揮しやすいケースで試合形式の実践を行う．先ずキャッチボール，投手のウインドミル投法，野手の守備といった個人の防御技術，および，基本的な打撃，バントやヒットエンドラン等の戦術的な打撃といった個人の攻撃技術を学習する．その後に，併殺プレイや内外野の連携プレイといった集団における防御技術の学習へと発展する．最終的にはチームに分かれてリーグ戦を行い，実際のゲームの中で勝敗を競い合う．

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 講義ガイダンス [内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法	⑨	[テーマ] 集団の防御技術⑧ （送球および併殺プレイ） [内容] 主に内野における連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する
②	[テーマ] 個人の防御技術① （キャッチボールの基本） [内容] キャッチボールの基本を学び各種ドリルを実践する	⑩	[テーマ] 集団の防御技術⑨ （内外野の連携プレイ） [内容] 内外野の連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する
③	[テーマ] 個人の防御技術② （ウインドミル投法その1） [内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する	⑪	[テーマ] 審判法 [内容] 試合における審判の判定方法およびジェスチャーを学ぶ
④	[テーマ] 個人の防御技術③ （ウインドミル投法その2） [内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する	⑫	[テーマ] ゲーム① [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（第1節）
⑤	[テーマ] 個人の防御技術④ （野手の基本技術） [内容] ゴロ処理，フライ処理の習得のためのドリルを実践する	⑬	[テーマ] ゲーム② [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（第2節）
⑥	[テーマ] 個人の攻撃技術⑤ （打撃の基本技術その1） [内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する	⑭	[テーマ] ゲーム③ [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（第3節）
⑦	[テーマ]個人の攻撃技術⑥ （打撃の基本技術その2） [内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する	⑮	[テーマ] ゲーム④ [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（最終節）
⑧	[テーマ] 個人の攻撃技術⑦ （戦術的な攻撃と走塁） [内容] バント，エンドラン等の戦術的な打撃を習得するための各種ドリルを実践する	⑯	[テーマ] テスト（実技試験） [内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする

成績評価方法（方針）

試験は，実技試験を1回実施する（評価割合100%）．授業中における態度は試験結果からの減点対象となる．出席は欠格条件とする．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点有り
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

バットやグローブ等の用具の準備，後片付けを全員で協力して行うこと．また，遅刻者については，ウォーミングアップが不十分となるので，障害防止の観点から授業参加を認めない場合もある．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない（欠格条件）．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．

関連科目	無し		
教科書	無し	参考書	無し
連絡先	研究室：A棟3階302　オフィスアワー：木曜　12:40～14:10		

授業科目名	新体操 Rhythmic Gymnastic (P.A.)				担当教員	河野未来
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

新体操における基本動作について学ぶ。また、徒手や手具を用いた演技についても触れ、新体操における動作やリズムの取り方、表現的な動きについて学ぶ。

授業の一般目標

学生のレベルに応じて動作能力を成長させるとともに、新体操に関する知識を習得するとともに意識を高める。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な基本動作の内容が説明できる。
■	情意的領域	体を動かすことによって、仲間と協力し表現することが出来る。
■	技能表現的領域	新体操の演技をフレーズで創ることができる。

授業計画(全体)

新体操の各基本動作を習得してから、演技創作・発表会へと展開していく。
技能習得のレベルに応じて、グループ分けを行う場合もある。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、授業の目標と進め方	⑨	[テーマ] フープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のフープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。
②	[テーマ] ロープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ロープの基本動作と様々な操作方法を覚える。	⑩	[テーマ] フープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのフープの操作と連係をもとに演技を創作する。
③	[テーマ] ロープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のロープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。	⑪	[テーマ] リボン① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・リボンの基本動作と様々な操作方法を覚える。
④	[テーマ] ロープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのロープの操作と連係をもとに演技を創作する。	⑫	[テーマ] リボン② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のリボンの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。
⑤	[テーマ] ボール① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ボールの基本動作と様々な操作方法を覚える。	⑬	[テーマ] リボン③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのリボンの操作と連係をもとに演技を創作する。
⑥	[テーマ] ボール② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のボールの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。	⑭	[テーマ] クラブ① [内容] ・徒手の動作を完璧なものにし、連係を考えてみる。 ・クラブの基本動作と様々な操作方法を覚える。
⑦	[テーマ] ボール③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのボールの操作と連係をもとに演技を創作する。	⑮	[テーマ] クラブ② [内容] ・徒手の動作を完璧なものにし、連係を考えてみる。 ・前回のクラブの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える
⑧	[テーマ] フープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・フープの基本動作と様々な操作方法を覚える。	⑯	[テーマ] 演技発表会(DanDanDance&Sports) [内容] ・創作した演技を発表する。

成績評価方法(方針)

習得技能と授業参加態度を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			○	20%
授業態度		○		10%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	研究室:第4体育館1階　オフィスアワー: 水曜日 14:20～15:50		

授業科目名	社会調査演習 Social Research Ⅰ (L.)				担当教員	田中智仁
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	社会調査士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本演習では、社会調査の質的分析の方法に特化し、さまざまな質的データの収集の方法と得られたデータの分析方法を習得する。インタビュー、フィールドワーク、内容分析のいずれかを選択し、課題設定、調査計画の立案、調査対象の選定、調査実施、データ分析、調査報告という一連の手順を実践する。

授業の一般目標

社会調査の質的分析の方法を理解し、実践を通じて体得する。具体的には、参与観察、インタビュー、内容分析などでおこなわれる質的データの収集とその分析を行うことができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	質的分析の方法を理解し、データの収集とその分析方法について説明できる。
■	情意的領域	質的分析に興味を示し、自発的に調査活動に参加することができる。
■	技能表現的領域	少なくとも1つの質的分析を用いて成果を発表することができる。

授業計画(全体)

本演習は、次のような手順で課題に取り組む。(1)テーマごとにグループに分かれ、(2)課題の設定と質的調査の分析方法を検討する。(3)各グループで生じた問題を教員は個別に解説する。(4)グループで質的分析を用いて調査を行い、その成果を発表する。(5)各グループでおこなわれた質的分析の方法のちがいを全体に解説する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法を説明する。 [授業外学習]社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱを復習する。(90分)	⑨	[テーマ] 実査(1) [内容] 設定した質的分析を用いて調査を実施し、とくにラポールの問題を検討する。 [授業外学習]実施で生じた問題を整理する。(90分)
②	[テーマ] 質的調査法の種類 [内容] 参与観察、インタビュー、内容分析などの質的調査の種類を確認し、各種の手法にどのような特徴があるかを説明する。 [授業外学習]質的分析を用いた先行研究を調べる。(90分)	⑩	[テーマ] 実査(2) [内容] 設定した質的分析を用いて調査を実施し、とくにラポールの問題を検討する。 [授業外学習]実施で生じた問題の解決策を検討する。(90分)
③	[テーマ] 参与観察法(フィールドワーク) [内容] 参与観察法(フィールドワーク)の実施方法と主な先行研究について説明する。 [授業外学習]『ストリート・コーナー・ソサエティ』を読む。(90分)	⑪	[テーマ] データの処理(1) [内容] 質的データの分析の仕方(とくに適切なコーディングの仕方)を適宜解説しながらデータの処理をおこなう。 [授業外学習]処理で生じた問題を整理する。(90分)
④	[テーマ] インタビュー調査 [内容] インタビュー調査の実施方法と主な先行研究について説明する。 [授業外学習]『アウトサイダーズ』を読む。(90分)	⑫	[テーマ] データの処理(2) [内容] 質的データの分析の仕方(とくに適切なコーディングの仕方)を適宜解説しながらデータの処理をおこなう。 [授業外学習]発表に向けて調査結果をまとめる。(90分)
⑤	[テーマ] 内容分析および言説分析 [内容] 内容分析および言説分析の実施方法と主な先行研究について説明する。 [授業外学習]『セクシュアリティの歴史社会学』を読む。(90分)	⑬	[テーマ] グループ発表(1) [内容] 参与観察およびインタビューの調査結果を発表し、内容分析や二次データの質的分析とどのようにちがうのかを検討する。 [授業外学習]発表結果を調査報告としてまとめる。(90分)
⑥	[テーマ] グループ化と調査課題の設定 [内容] 受講生同士でグループを結成し、グループごとに調査課題を設定する。 [授業外学習]メンバー同士で意見交換し、課題を明確化する。(90分)	⑭	[テーマ] グループ発表(2) [内容] 内容分析および言説分析の調査結果をグループで発表し、参与観察およびインタビューとどのようにちがうのかを検討する。 [授業外学習]発表結果を調査報告としてまとめる。(90分)
⑦	[テーマ] 調査方法の設定 [内容] 質的調査にはさまざまな分析方法があることを適宜確認し、調査課題に適した質的分析の方法を検討する。 [授業外学習]選択した質的分析の特長を復習する。(90分)	⑮	[テーマ] グループ発表の総括 [内容] グループで用いられた質的分析のちがいを解説し、特に同一対象に実施したインタビューとドキュメント分析とのちがいを検討する。 [授業外学習]調査報告をレポートとしてまとめる。(90分)
⑧	[テーマ] 調査計画の設定 [内容] 質的分析を実際におこなうための計画を立案し、一次データの収集の仕方を検討する。 [授業外学習]実査に向けた準備を進める。(90分)	⑯	[テーマ] 最終レポートの提出 [内容] 調査結果およびグループ発表の結果をレポートにまとめ、提出する。 [授業外学習]講義全体を復習する。(90分)

成績評価方法(方針)

レポート(50%)およびグループ(個人)発表(50%)の結果にもとづき、総合的に評価する。質的調査の演習科目であるという性質上、調査実施、データ分析、調査報告を評価対象とする。そのため、調査が実施できない場合もしくは調査の成果を報告できない場合は単位を認定しない。また、量的調査(アンケートなど)は評価対象としない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート			◎	50%
演習・実技	○	○		50%
授業態度				評価対象外
出席				評価対象外

履修上の注意(受講学生に望むこと)

質的調査では「現場に行き、自らの五感で事実を確認する」という姿勢が最も重要視されます。内容分析であっても、分析対象となる資料を探すために、歩き回るのが基本です。そのため、知力だけではなく、体力も求められることを覚悟して受講してください。

関連科目	社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査実習		
教科書	特に指定しない	参考書	谷富夫ほか編『よくわかる質的社会調査法(プロセス編/技術編)』ミネルヴァ書房
連絡先	田中研究室(第五体育館3階33号室) tm-tanaka@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	社会調査実習 Field Experience of Social Research (F.E.)				担当教員	内野秀哲・三谷高史
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	実習	関連資格	社会調査士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

実際の社会調査現場で行われている調査を参観、体験すると共にデータ収集、結果の整理および分析などを実際に試みてもらう。また結果からの考察についても相互に討論する。これらにより社会調査の基本的方法および調査研究の流れを把握してもらう。

授業の一般目標

社会調査の目的および実施上の諸問題について自分なりの見通しを持つことができる。また、得られたデータから自分なりの結論や考察を引き出すことができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会調査の諸方法を列挙することができる。また、仮説にあわせ調査計画を立案することができる。
■	情意的領域	社会調査上の楽しさをそれなりに体験することができる。
■	技能表現的領域	結果の処理や分析がある程度可能となる。

授業計画（全体）

教員らおよび履修者が持つ問題意識に基づき、数グループにわかれて研究プロジェクトを組織する。プロジェクトごとに調査計画を立案し、相互に討論する。得られた計画を実施するとともに、結果を分析、処理を行なう。

授業テーマとその内容

第1週目：オリエンテーション
第2～4週目：社会調査に必要とされる基礎知識の復習
第5～7週目：問題関心の整理
第8～10週目：調査項目・調査票の作成
第11週目：プレ調査および反省点の洗い出し
第12～15週目：本調査
第16～18週目：調査結果の整理
第19～27週目：統計処理と結果の検討
第28～29週目：レポートの作成
第30週：講義のまとめ

成績評価方法（方針）

調査や討論への参加状況および発表資料が主な評価材料となるが、個人ごとに最終報告を求め、これを確認材料に含める。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート		○	○	50%
演習・実技	○	○	○	50%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

2/3以上出席しない学生は、出席数不足として、成績は「放棄」となる。
グループごとに行なうことが多いので、できるだけ互いに連絡をとりあい、主体的に参加してほしい。

関連科目	社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習		
教科書	特に指定しない	参考書	森岡清志『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp（三谷）		

授業科目名	武道と教職 Japanese Martial Arts Education				担当教員	阿部芳吉、中川保信
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

我が国の伝統文化である武道は、近世において武士教育、近代以降には国民教育の教材としての意義を見出され今日に至っている。平成23年度から小中高と年次進行で実施される学習指導要領では、中学校での武道の必修化と高等学校における伝統文化の重視という形で武道の持つ教育的な意義が着目されている。この武道の教育的意義と効果についての理解を深め、将来における武道の指導者としての知識を習得させる。

授業の一般目標

① 武道の歴史と教育的意義について理解することができる。
② 学校武道教育の変遷と現在の教育問題の実状と原因を究明する。
③ 武道の持つ教育への有用性の理解を深め、その実践者として必要な知識や行動力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	武道の教育的意義と役割について考えさせ、それに関する理解を深め、説明できるようにする。
■	情意的領域	伝統文化としての武道と日本人の生活にみられることの関心を持たせる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

プリントに基づき、講述と板書、発問により理解度を確認しながら進める。適宜視聴覚教材や図書館などを利用しての調べ学習及び外部の実践者の講話等も取り入れる。一定の区切りがついた時点で相互の授業評価や受講者の理解状況調査を行い、受講者の意欲関心、能力に則した適切な授業の在り方を考え、所期の問題が達成出来る的確な授業を模索する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義に臨むにあたり、特に武道精神を学ぶ姿勢や態度、及び教育の在り方や教師の職業としての魅力について考える。（相撲DVD） [授業外学習の指示等] 講義アンケートの提出	⑨	[テーマ] 武道の歴史的変遷と武士道精神について [内容] 武の成り立ちと 武士の発生と武士道の起源、武士道としての体系化や武士道の成立と平安時代から江戸時代までを把握。（空手） [授業外学習の指示等]関係図書による調べ学習をする。
②	[テーマ] 教育と新学習指導要領の改訂点について [内容] 教育とは、教育の役割及び江戸時代の庶民教育や明治の教育制度などの日本の教育の歴史について考える。 [授業外学習の指示等] 教職の見地からの武道のとらえ方について考える。	⑩	[テーマ] 近代武道の成立と戦後の復活及び国際化について [内容] 明治維新の影響やその後の武道の置かれた状況を踏まえ、戦後の復活と東京オリンピックの意義を考える。 [授業外学習の指示等]内村鑑三や新渡戸稲造の著書を読む。
③	[テーマ] 現在の教育課題と教育観について [内容]今の時代を生きる力とは。教師の実践例からの武道の心と伝統文化としての先人から学ぶべきことを考える。（武道のDVD） [授業外学習の指示等] 提示資料を熟読して感想をもとめておく。	⑪	[テーマ]人間教育に果たす武道の持つ特性について [内容] マスコミを賑わした柔道の問題、今なお受け継がれている武道精神、名言として使われるものと医道と剣道を考える。 [授業外学習の指示等]提示したプリントで要点をまとめる。
④	[テーマ] 学科創設のねらいや学ぶべきこと及び受講における留意点について [内容] 現代社会における国民の安全の確保と韓国の取り組みの事情。目指すもの、担う役割、学ぶべきことについて考える。（柔道DVD） [授業外学習の指示等] 我が国の安全面での問題や韓国の情勢を確認する。	⑫	[テーマ] 現職教員から学ぶ [内容] 相撲を指導している現職教員を招き、自ら実践している「武道と教職」についての講話と意見交換 [授業外学習の指示等]講話の要点をまとめて提出。（A4で1枚程度）
⑤	[テーマ] 現代武道学科の目指す人材育成及び武道の社会での有用性について [内容] 武道の歴史的変遷や現代武道学科の目指すもの、武道の必修化に関して、今なぜ武道なのか。（剣道DVD） [授業外学習の指示等]日常生活で感じる武道精神について確認する。	⑬	[テーマ] 現職教員から学ぶ [内容] 剣道を指導している現職教員を招き、自ら実践している「武道と教職」についての講話と意見交換 [授業外学習の指示等]講話の要点をまとめて提出。
⑥	[テーマ] 外国人から見た武道の魅力、武道憲章やこども武道憲章について [内容] オイゲン・ヘリゲルやアレック・ベネットの武道の極意、外国人が武道について質問することを通して武道を考える。（空手DVD） [授業外学習の指示等]武道憲章、こども武道憲章を理解しておく。	⑭	[テーマ] 現職教員から学ぶ [内容] 空手を指導している現職教員を招き、自ら実践している「武道と教職」についての講話と意見交換 [授業外学習の指示等]講話の要点をまとめて提出。
⑦	[テーマ] 武道精神の礼法及び今社会で求められている武道の心について [内容] 武道の礼法を小笠原流礼法で考え、社会で求められているマナー教育を考え、礼節を尊重しての心を磨く相撲から学ぶ。（剣道） [授業外学習の指示等]寒稽古や暑中稽古の体験と感想について聞いてみる。	⑮	[テーマ] 現職教員から学ぶ [内容]柔道を指導している現職教員を招き、自ら実践している「武道と教職」についての講話と意見交換 [授業外学習の指示等]講話の要点をまとめて提出。
⑧	[テーマ] 武道の礼法の在り方と宮本武蔵の独行道が示すものについて [内容] 礼とは、道場における4つの礼や正座と黙想について確認をする。吉川英治の作品と巷で目にする武道の心に触れる。（柔道） [授業外学習の指示等]宮本武蔵、国家の品格、自由と規律のいずれかを読む。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 所期の到達目標の達成状況を確認のために筆記試験を実施し、総合的に評価する （その他の指示） 講話の感想文の提出 [授業外学習の指示等]講義のノートの整理状況やプリントの保管を確認する。

成績評価方法（方針）

中間テスト：著しく成績の悪いものは「不可」とし、再指導を行う。再指導に従わない者は授業への出席は認めない。
テスト：論述試験を中心とし、相対評価（上位15％を優、中位60％を良、下位20％、最下位5％）により評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○			80%
授業内レポート	○			20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席		○		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

●2／3以上の出席がないと、単位認定資格を失う。
●正当な事由により欠席した場合は、休んだ分の講義ノートを作成のうえ、欠席届と併せて提出すること

関連科目			
教科書		参考書	「日本の武道」 日本武道館刊行 松前重義著「武道思想の探求」 他
連絡先			

授業科目名	教育の基礎理論 Fundamental Theory of Education (L.)				担当教員	山谷　幸司
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（全免許）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教育とは人間にとってどのような営みであるのか。本講義では、⑴教育という言葉、⑵教育の必要性、⑶能力・特性の形成と教育、⑷教育のスタイルの歴史展開、⑸教育観の諸類型の5テーマのもとに、教育の意義や役割、そのスタイルの歴史的展開等について概説する。

授業の一般目標

「教育とは何か」について、⑴教育という言葉、⑵教育の必要性、⑶能力・特性の形成と教育、⑷教育のスタイルの歴史展開、⑸教育観の諸類型の五つの観点から理解する。また、以上の理解を土台として、教育に関して客観的な根拠にもとづき、できるだけ本質的に考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	「教育とは何か」について、本授業で取り上げたテーマにそくして理解できる。また、教育に関して自分の意見を論理的に述べることができる。
■	情意的領域	「教育とは何か」という問題について関心をもち、主体的に探究することができる。
■	技能表現的領域	「教育とは何か」という問題について、他者に説明することができる。

授業計画（全体）

⑴教育という言葉、⑵教育の必要性、⑶能力・特性の形成と教育、⑷教育のスタイルの歴史展開、⑸教育観の諸類型の5テーマから、「教育とは何か」という問題について概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので各自が講義を聞き、板書を見ながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に「感想カード」を書いてもらう。授業内容に対する意見や疑問点、あるいは教師への要望を自由に書いてもらいたい。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 「教育の基礎理論」で何を学ぶか [内容] 担当教員の紹介、教育の基礎理論で学ぶ内容、授業の進め方、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか⑵ [内容] 能力・特性の形成と環境 [授業外学習]授業の復習
②	[テーマ]教育という言葉⑴ [内容] 「教」と「育」の字源 [授業外学習]	⑩	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか⑶ [内容] 遺伝と環境の相互作用 [授業外学習]テーマ3全体の復習
③	[テーマ] 教育という言葉⑵ [内容] 「教育」という言葉の日用化の謎 [授業外学習]テーマⅠ全体の復習	⑪	[テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開⑴ [内容] 人間形成の多様性と無意図的教育 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑴ [内容] 動物としての人間の特殊性と教育①－哺乳類のなかの人間－ [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開⑵ [内容] 意図的教育と学校教育の特質 [授業外学習]テーマ4全体の復習
⑤	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑵ [内容] 動物としての人間の特殊性と教育②－学ぶ動物としての人間－ [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑴ [内容] 大工型モデルの教育観 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑶ [内容] 社会的隔離児の記録が示すこと①－野生児の事例－ [授業外学習]授業の復習	⑭	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑵ [内容] 農民型モデルの教育観 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑷ [内容] 社会的隔離児の記録が示すこと②－環境剥奪児の事例－ [授業外学習]テーマ2全体の復習	⑮	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑶ [内容] 経験主義の教育観 [授業外学習]テーマ5全体の復習
⑧	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか⑴ [内容] 能力・特性の形成と遺伝 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業全体を振り返り、理解を深める [授業外学習]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する

成績評価方法（方針）

期末試験の結果に、授業内の課題提出および受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。欠席は、評価の欠格条件として扱う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		○	90%
授業内レポート	△	△	△	5%
授業外レポート				実施せず
演習・実技				実施せず
授業態度		△		5%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

教師になるということは、学ぶ立場から、それをサポートする立場に変わることを意味する。しかし、学ぶことができない者が、学びをサポートすることなど到底できない。つまり、謙虚にかつ意欲的に学ぶことができるということが、教師になるための最低条件となる。このことを十分に自覚して、授業にのぞんでほしい。

関連科目	教職論A(1年)、教職論B(1年)、教育の制度(2年)		
教科書	授業時に配布するプリントを使用する。	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	研究室 A棟3階308		

授業科目名	教育の心理 Educational Psychology				担当教員	荒井龍弥
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	中学・高校教諭（保健体育・福祉）・栄養教諭・養護教諭・社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学習援助をより効果的にするためには、教育の場にあるさまざまなものごと（学ぶ者、援助する者、教える行為など）を要因群として捉える分析的な観点が重要である。これらのうち、学ぶ側の要因として学習、発達、人格、知能等の諸概念について概説するとともに、いわゆる障害を抱えた人に対する援助例や考え方を紹介する。また、学習結果を捉える枠組みとしての教育評価についてもとりあげる。

授業の一般目標

学習・発達・人格・知能・評価等、教育心理学で取りあげられる諸概念に関し、一般に信じられている常識的言説を再認できるようになるとともに、それらの言説に対して一定の根拠をもって自分なりの見解を述べられるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般の言説を再認できるとともに、それに対する自分なりの見解を述べることができる。
■	情意的領域	学習を援助する立場からの考え方や論理を理解するとともに、自らもその視座から諸事象を検討したり考えたりすることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

教育心理学の学問領域を学習、発達、人格、評価の4領域に大きく分け、各領域の知見に関する講義を行うとともに、それに対する考え方を築くための時間も設ける。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教育心理学とはどんな学問かを説明し、その意義や必要性を考える。 [授業外学習]教育心理学の必要性について自分なりに考えてみること。	⑨	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅱ・人格Ⅰ [内容] 人格検査の例としてY－G性格検査をとりあげることを通じ、質問紙法検査の特徴について考える。 [授業外学習] 自らの人格観を捉えなおすこと。
②	[テーマ]学習過程の考え方Ⅰ 学習の定義 [内容] 教育心理学における学習の定義を紹介するとともに、自身の例に照らしてその妥当性を検討する。 [授業外学習]「学習」の定義と一般的な「学習」観との違いを検討すること。	⑩	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅲ・人格Ⅱ [内容] 投影法に属する諸検査を紹介する。なかでもP-Fスタディの概要を試行してみる。 [授業外学習] 他の投影法や作業検査法について調べてまとめること
③	[テーマ] 学習過程の考え方Ⅱ 学習のしくみとその理論 [内容] 自分自身が採用してきた学習方法を捉えなおし、古典的な2種の学習理論に照らしてその得失を検討する。 [授業外学習]任意の題材で2説双方から学習援助の方法を検討すること。	⑪	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅳ・動機や欲求 [内容] 自らが持ったり経験したりする動機や欲求について、各種理論を基に把握する。 [授業外学習] 自らの学習に対する動機づけの内容を反省すること
④	[テーマ] 学習過程の考え方Ⅲ 現代に至る諸理論と学習 [内容] 自身の学習方法を現代の諸理論に照らし、得失を検討する。 [授業外学習]任意の題材で生産的な学習と再生的な学習を検討すること。	⑫	[テーマ] 発達観の吟味Ⅰ 発達研究の変遷 [内容] 各種発達段階説を紹介しながら、自らの発達観を改めて振り返る。 [授業外学習]発達ならびに発達段階について自分の考えをまとめること。
⑤	[テーマ] 学習支援の方法Ⅰ [内容] プログラム学習と発見学習を紹介するとともに、自ら選択した題材で両者による支援計画を試作してみる。 [授業外学習]作成した計画の一部や全部について効果の見通しを持つこと。	⑬	[テーマ] 発達観の吟味Ⅱ ピアジェとヴィゴツキーの理論 [内容] 論理的思考ならびに言語発達に関する研究成果について概説し、学習と発達の関係を論じる。 [授業外学習]学習と発達の関係について自分なりに考えをまとめること。
⑥	[テーマ] 学習支援の方法Ⅱ [内容] 教科書の使用方法やその限界を考えることにより、有効な学習支援の方法について検討する。 [授業外学習] 教科書の他単元も同様に検討してみること。	⑭	[テーマ] 発達観の吟味Ⅲ 障害のある子どもの発達 [内容] 障害を抱えた子どもの発達について事例をもとに考え、自らの発達観、障害観を改めて振り返ってみる。 [授業外学習]障害の種類や発達上の特徴についてまとめておくこと。
⑦	[テーマ] 記憶のしくみとその効率 [内容] 記憶に関する無意味綴りを用いた実験を経験するとともに、結果から得られた理論の限界と日常的知識の記憶向上策を考える。 [授業外学習] 任意の題材で記憶向上策を検討すること	⑮	[テーマ] 教育評価 [内容] 教育評価の流れについて説明するとともに、本来の教育評価の目的と意義について再考する。 [授業外学習]任意の題材で教育評価のスケジュールを考えてみること。
⑧	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅰ 知能Ⅰ [内容] 知能の定義ならびに知能検査の実際について紹介するとともに、自らの知能観を検討するため、その成立経緯や社会への影響を考える。 [授業外学習]知能検査の特徴について自分なりにまとめてみること。	⑯	[テーマ] テスト [内容] これまでの学習内容について互いの評価を目的としたテストを行う。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。なお、得点状況によってはテスト後にレポートを追加して課す場合がある。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			40%
授業内レポート	◎	○		50%
授業外レポート	○	◎		10%
演習・実技				対象としない
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

マークシート等も利用するので、シャープペンシルないし鉛筆を用意のこと。他の講義同様、本講で扱う知見も、さまざまな対象・場面に適用可能なものである。自分なりの例を探して当てはめることでその妥当性を判断する作業をしてほしい。こういった作業が内容理解の定着につながり、ひいては教員採用試験などの対策にもつながる。

関連科目			
教科書		参考書	本郷・八木編 シードブック教育心理学 建帛社 宇野編 授業に学び授業を作る教育心理学第二版 中央法規
連絡先	tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	教育の制度 System of Education (L.)				担当教員	金井里弥
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(全)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

近年の教育問題と教育制度の歴史的変遷を踏まえながら、教育制度や行政のあり方について考える。

授業の一般目標

①学校教育制度の成り立ちと、現状を理解する。
②実際の教育問題との関連において、教育制度の観点から望ましい教育のあり方を考える。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本における学校教育制度の成り立ちと現状を説明できる。
■	情意的領域	現在の教育問題について、教育制度の観点から自分の意見を述べることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

教育問題を捉える上で求められる教育制度の知識を自覚したうえで、教育制度の内容に入る。後半では、海外の教育制度との比較から、日本の教育制度のあり方を捉え直す。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を知る。 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと。	⑨	[テーマ] 日本の教育制度史 [内容] 現在の教育制度がいかにして成立してきたのか、近代以降を中心に理解する。 [授業外学習]講義内容を復習。
②	[テーマ] 教育法規の基礎知識と憲法 [内容] 教育制度の基盤となる法規の種類と体系を踏まえた上で、憲法上の教育に関する条文について理解する。 [授業外学習]教育法規について復習する。	⑩	[テーマ] 教員制度 [内容] 教員の身分や服務、処分等の教員に関する制度を理解する。 [授業外学習]関連法規を確認する。
③	[テーマ] 教育基本法 [内容] 教育基本法の史的展開を踏まえた上で、その内容と現在の学校教育との関連性を理解する。 [授業外学習]教育基本法について復習する。	⑪	[テーマ] 日本における教員養成制度と教師教育制度 [内容] 日本における教員養成制度の展開を知るとともに、教師教育の仕組みを理解する。 [授業外学習]講義内容を復習。
④	[テーマ] 学校の種類と義務教育 [内容] 学校の種類とそれらの種類に応じた制度的特徴、義務教育のあり方について理解する。 [授業外学習]教育委員会について調べる。	⑫	[テーマ] 諸外国における教員養成制度と教師教育制度 [内容] 諸外国における教員養成制度および教師教育制度を知り、日本における学力政策を相対的な視点で捉えなおす。 [授業外学習]講義内容を復習する。
⑤	[テーマ] 教育行政の理解 [内容] 中央および地方における教育行政の仕組みと、その制度的展開を理解する。 [授業外学習]教育委員会について調べる。	⑬	[テーマ] 学力問題と学力政策 [内容] ゆとり教育以来叫ばれている学力低下論争と国際学力競争の問題を紐解きながら、日本の学力政策の展開と学力の在り方を考える。 [授業外学習]ゆとり教育政策や近年の学力政策について調べる。
⑥	[テーマ] 学校の設置と管理 [内容] 学校の設置主体、学校法人、学校の設置義務および基準、管理に関する法令を理解する。 [授業外学習]関連法規を確認する。	⑭	[テーマ] いじめ問題といじめ防止対策推進法 [内容] いじめ問題の動向と課題を踏まえながら、いじめ防止対策推進法をはじめとする、いじめ問題への制度的対応を理解する [授業外学習]いじめ問題について調べる。
⑦	[テーマ] 教育課程の編成と近年の改革動向 [内容] 教育課程の編成についての概要を踏まえた上で近年の改革動向について理解する。 [授業外学習]関連法規を確認する。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] 本講義の要点を確認し、全体の総括を行う。 [授業外学習]本講義の要点の確認とその復習を行う。
⑧	[テーマ] 教科書制度 [内容] 教科書の使用、検定、採択について理解する。 [授業外学習]関連法規を確認する。	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 本講義での理解度、学習到達度を確認する。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

(1) 受講態度(25%)、(2) 授業内レポート(15%)、(3) 期末試験(60%)。
なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
私語、睡眠を含む不適切な受講態度は減点対象とし、それらの程度が著しい場合は授業放棄として欠席扱いとする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	◎	○		15%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		25%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

5回以上の欠席で期末試験の受験不可とする。教員免許状取得に必須の科目であることから、教職を志す者として、学生相互の学習権を尊重し合う受講態度を求める。遅刻や講義中の私語、携帯いじり、睡眠等、学習環境を損なう行為については厳格に対処する。

関連科目	教職論、教育課程論、道徳教育の研究と理論		
教科書	『必携教職六法』	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	研究室 A棟3階 304		

授業科目名	教育課程論 Theory of Curriculum (L.)				担当教員	山谷　幸司
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	教員免許状(全免許)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学校での教育活動の全体計画である教育課程について、その意義、法令上のきまり、編成の実際等について概説する。とくに学校での教育課程編成の基準となる「学習指導要領」に関しては、その意義や変遷とともに、平成20年と21年に改訂された新「学習指導要領」の方針や内容を詳述する。

授業の一般目標

⑴教育課程の意義、⑵教育課程に関するきまり、⑶教育課程編成の実際、⑷教育課程の実施と評価について、概要を理解する。そして、このことを通して、学校教師として、教育課程を実際に編成するための基礎的な力量を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について理解できる。
■	情意的領域	学校での教育課程のあり方について関心をもち、自分の意見を論理的に述べることができる。
■	技能表現的領域	教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について他者に説明できる。

授業計画(全体)

教育課程について、⑴教育課程の意義、⑵教育課程に関するきまり、⑶教育課程編成の実際、⑷教育課程の実施と評価の4テーマから概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので講義を聞き、テキストを参照しながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に各回のテーマに関する小テストを行う。どの程度まで講義内容が理解できたかを確認してもらいたい(小テストは評価に反映させない)。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 学校教育の不思議 [内容] 担当教員の紹介、教育課程論で学ぶ内容、授業の進め方、成績評価の方法 [授業外学習]学習]シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] 学習指導要領⑵－教育課程に関するきまり⑦ [内容] 現行学習指導要領の特質 [授業外学習]授業の復習
②	[テーマ]教育課程とは何か [内容] 学校教育の性質と教育課程の意義 [授業外学習]授業の復習	⑩	[テーマ] 学習指導要領⑶－教育課程に関するきまり⑧ [内容] 新学習指導要領の特質 [授業外学習]授業の復習
③	[テーマ] 教育の目的・目標⑴－教育課程に関するきまり① [内容] 教育の目的・目標に関するきまりの体系と教育全体の目的・目標 [授業外学習]授業の復習	⑪	[テーマ] 学習指導要領⑷－教育課程に関するきまり⑨ [内容] 総合的な学習の時間の意義の内容 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 教育の目的・目標⑵－教育課程に関するきまり② [内容] 義務教育(小学校・中学校)の目的と教育目標 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 教育課程編成の実際⑴ [内容] 教育課程編成の主体、基本方針、留意事項 [授業外学習]授業の復習
⑤	[テーマ] 教育の目的・目標⑶－教育課程に関するきまり③ [内容] 高校の目的と教育目標 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 教育課程編成の実際⑵ [内容] 教育課程編成の手順 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ] 教育内容と授業時数等⑴－教育課程に関するきまり④ [内容] 教育内容・授業時数等に関するきまりの体系と義務教育(小学校・中学校)における教育内容・授業時数等 [授業外学習]授業の復習	⑭	[テーマ] 教育課程の実施と評価⑴ [内容] 指導計画と学習指導案 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ] 教育内容と授業時数等⑵－教育課程に関するきまり⑤ [内容] 高校における教育内容・授業時数 [授業外学習]授業の復習	⑮	[テーマ] 教育課程の実施と評価⑵ [内容] 教育課程の点検と評価 [授業外学習]授業の復習
⑧	[テーマ] 学習指導要領⑴－教育課程に関するきまり⑥ [内容] 学習指導要領の意義と変遷 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業全体を振り返り、理解を深める [授業外学習]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する

成績評価方法(方針)

期末試験の結果に、受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。授業終了時に実施する小テストは評価に反映させない、また、欠席は評価の欠格条件として扱う。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		△	95%
授業内レポート				反映させない
授業外レポート				実施せず
演習・実技				実施せず
授業態度		△		5%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

教育課程というと、細かなきまりが沢山あって難しいと考えるかもしれない。確かに教育課程にはきまりや約束事が多くあるが、順序良く体系的に学んでいけば、それらを理解することはそれほど難しいことではない。積み木のように、ひとつひとつの事項をていねいに積み上げながら授業を進めていくので、一回たりとも授業をおろそかにせず、各回の内容を着実に学んでほしい。

関連科目	教育の基礎理論(1年)、教育の制度(1年)、道徳教育論(2年)、特別活動論(2年)、保健体育教育論Ⅰ(2年)		
教科書	学校教育小六法、中学校・高等学校学習指導要領	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	研究室　A棟3階308		

授業科目名	保健体育科教育論Ⅰ Pedagogy of Physical Education Ⅰ(L.)				担当教員	井上雅勝
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(中高保健体育)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を具体的に説明する。

授業の一般目標

中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を具体的に理解し、その認識を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を解釈し、説明することができる。
■	情意的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を、積極的に検討することができる。
■	技能表現的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を、「指導案」などに表することができる。

講義形式で授業を進める。必要事項などを書き込めるプリントを毎回配布し、プリントの内容、パワポイントに沿って授業を展開する。講義期間中に、数回レポートを作成し、そのできばえを評価する。

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 体育科の指導計画(学習指導計画②) [内容] 体育科の指導計画について概説する(その2) [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件 [内容] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件について概説する [授業外学習]	⑩	[テーマ]体育科の指導計画を作成する① [内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 ①指導計画) [授業外学習]レポート作成に必要な資料などを準備しておく
③	[テーマ] 体育科教育の目的(現行学習指導要領の趣旨) [内容] 体育科教育の目的を現行学習指導要領の趣旨から概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく	⑪	[テーマ]体育科の指導計画を作成する② [内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 ②指導計画) [授業外学習]レポート作成に必要な資料などを準備しておく
④	[テーマ]体育科教育の目標及び内容(中学校の学習指導要領) [内容] 体育科教育の目標及び内容を中学校の学習指導要領を中心に概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく	⑫	[テーマ] 体育科の学習指導(よい体育授業の条件) [内容] よい体育授業の条件について概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
⑤	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:体つくり運動) [内容] 体育科教育の内容として、「体つくり運動」を具体的に概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく	⑬	[テーマ] 体育科の学習指導(学習形態の種類) [内容]学習形態の種類 について概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:球技) [内容] 体育科教育の内容として、「球技」を具体的に概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく	⑭	[テーマ] 体育の教材・教具 [内容] 体育の教材・教具について概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:武道) [内容] 体育科教育の内容として、「武道」を具体的に概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく	⑮	[テーマ]体育の学習・授業評価 [内容]]体育の学習・授業評価について概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 体育科の指導計画(学習指導計画①) [内容] 体育科の指導計画について概説する(その1) [授業外学習]]前回までの講義内容を整理しておく	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義期間中に作成したレポートの内容を評価する。なお、レポートは期限内にすべて提出することが評価の最低条件である。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			100%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		欠格条件
出席		○		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

「体育」の授業づくりを「教師」の立場として考えながら、本講義を受講することを望む。

関連科目	保健体育科教育論Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義) 保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅰ・Ⅱ(選択履修)		
教科書	中学校学習指導要領解説 保健体育編 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	井上研究室		

授業科目名	保健体育科教育論Ⅱ Pedagogy of Health Education Ⅱ (L.)				担当教員	入澤裕樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	教員免許状(中高保体、参考:養護、栄養)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中学校・高等学校における「保健」の学習指導についての基本的な考え方とその実際について学ぶ.

授業の一般目標

「保健」学習指導の基礎・基本について知り、児童生徒の実態を通じて保健の授業を構成・展開できるようになる。特に、保健の授業を模擬的に実施することで、実践的能力の基礎を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	「保健」学習指導の基礎・基本について説明できる。児童生徒の健康課題を考えることができる。
■	情意的領域	保健の授業を構成しようとする。
■	技能表現的領域	模擬授業を通じて展開・表現できる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いることもある。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認したり、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークによる指導案の作成や模擬授業も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 「保健教科書」教材の検討① [内容] 中学校における保健の授業 [授業外学習]授業中に指示する
②	[テーマ] 現代社会における保健科教育の役割 [内容] 生涯を通じ健康な生活を送るためにヘルスプロモーションの発想を生かし, 健康づくりを支援する環境づくりの資質や能力を学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑩	[テーマ] 「保健教科書」教材の検討② [内容] 高等学校における保健の授業 [授業外学習]授業中に指示する
③	[テーマ] わが国の保健科教育の変遷とその動向 [内容] 明治から大正、昭和(戦前から戦後),そして現在に至る保健科教育の教科内容構成について学習する。 [授業外学習]授業中に指示する	⑪	[テーマ] 保健の授業の実際① [内容] 指導案に沿った模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく
④	[テーマ] 授業が成立するということ [内容] 授業の成立条件と構成要素,および教師の信念について学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑫	[テーマ] 保健の授業の実際② [内容] 学習者を考えた模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく
⑤	[テーマ] 保健科の目的と目標 [内容] 学習指導要領を中心に戦後の保健科教育における目的・目標の変遷について学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑬	[テーマ] 保健の授業の実際③ [内容] 発問に注目する模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく
⑥	[テーマ] 保健授業の教育内容と教材づくり [内容] 教育内容、教材、教材づくりについて学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑭	[テーマ] 保健の授業の実際④ [内容] 保健科のカリキュラムを考えた模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく
⑦	[テーマ] 指導案づくりと授業展開(さまざまな方法) [内容] 多様な保健科教育の指導方法を具体的な展開事例とともに学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑮	[テーマ] 保健の授業の実際・まとめ [内容] 授業の成立条件について学習する [授業外学習]場合によっては模擬授業に替える場合もある
⑧	[テーマ] 保健の授業研究と評価 [内容] 授業研究の意義と授業記録、授業評価について学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]レポート(指導案・評価カード等の提出)に替える場合もある

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合60%)が、場合によっては模擬授業に替える場合もある。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す予定。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎		40%
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	60%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は原則携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ(2年), 保健体育科教育論Ⅲ(3年),保健体育科教育論Ⅳ(3年),保健体育授業研究Ⅰ(3年),保健体育科授業研究Ⅱ(3年)		
教科書	保健科教育法入門(大修館書店)	参考書	中・高保体教科書,中・高校学習指導要領解説・保健体育編
連絡先	研究室:A棟3階　　オフィスアワー:木曜日　12:40～14:10予定		

授業科目名	保健体育科教育論 Ⅲ Pedagogy of Education Ⅲ(L.)				担当教員	郡山 孝幸 / 山梨 雅枝
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(中・高保体)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

「保健体育科教育論 Ⅰ」での学びを踏まえ、中学校・高等学校における「体育」の実技指導場面の指導方法および指導方法について学ぶ。

授業の一般目標

中学校・高等学校における「体育」の学習指導について、教育の質を向上させる進め方を探求し、実践することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる。

授業計画(全体)

・2～9回目は、受講者を2つの教室に振り分け授業を行う。内容は、郡山が運動領域「陸上競技、水泳、球技、武道」、山梨が運動領域「体つくり運動、器械運動、ダンス」を担当する。
・模擬授業は、小グループを編成し、グループ内で体育の学習指導についての具体的な進め方を検討したり、実際に授業を組み立てて実践する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内 容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習] シラバスに目を通す。「保健体育科教育論Ⅰ」を思い出す	⑨	[テーマ] 「G. ダンス」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する
②	[テーマ] 学習指導要領改訂について [内 容] これまで授業で学んできた内容を思い出し、今後の授業計画に活かす [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑩	[テーマ] 模擬授業に関するガイダンス [内 容] 模擬授業 グループ編成＆指導領域の割り振り 各班で指導内容の検討・指導案作成 [授業外学習] グループ毎に指導案の作成。
③	[テーマ] 「A. 体つくり運動」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑪	[テーマ] 模擬授業の実践 1 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
④	[テーマ] 「B. 器械運動」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑫	[テーマ] 模擬授業の実践 2 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑤	[テーマ] 「C. 陸上競技」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑬	[テーマ] 模擬授業の実践 3 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑥	[テーマ] 「D. 水泳」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑭	[テーマ] 模擬授業の実践 4 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑦	[テーマ] 「E. 球技」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑮	[テーマ] 模擬授業の実践 5 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑧	[テーマ] 「F. 武道」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑯	[テーマ] 模擬授業の実践 6 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する

成績評価方法(方針)

・2～5回目、6～9回目は、授業担当者による授業態度・レポート内容の評価。10～15回目においては模擬授業の出来栄えと、生徒役のグループによる授業評価を照らし合わせて総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎			50%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			◎	50%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・「体育」の授業を「指導者」の立場で考えながら本講義を受講する。
・講義を一方的に受けるのではなく、積極的に参加する。
・授業をきっかけに、毎度共に過ごす学生以外の学生と交流を持ち、互いの情報交換を積極的に行う。
・数多く指導場面に足を運ぶ様、努める(指導のボランティアなど)。
・各自の専門性を活かし、互いに情報交換を行うことで互いに学びあう姿勢を持って授業に参加することを望む。

関連科目	・保健体育科教育論 Ⅰ ・各領域の実技授業		
教科書	中学校学習指導要領解説保健体育編	参考書	
連絡先	郡山研究室(LC棟204)、山梨研究室(第4体育館1F)		

授業科目名	保健体育科教育論Ⅳ Pedagogy of Health and Physical Education Ⅳ(L.)				担当教員	入澤裕樹・小浜明
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(中高保体)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

保健体育科教育論Ⅰ～Ⅲの学習を踏まえ，中学校・高等学校における「保健・体育」の学習指導を,教師の立場から実施し，その展開の仕方を学ぶ。

授業の一般目標

保健体育の単元計画，学習指導案づくり,模擬授業を通して，授業の実践的能力の基礎・基本を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	保健体育の教科内容について理解している。
■	情意的領域	保健体育の教科内容を中学校・高等学校の生徒の実態に合わせて構成しようとする。
■	技能表現的領域	保健体育の教科内容を展開・表現できる。

授業計画(全体)

保健および体育の授業づくりについて知り，小グループ(あるいは個人)で，模擬授業を実施する。場合によっては2月に4回分程度校外学習を行う予定である。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 体育の授業をつくる① [内容] マット運動(前転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
②	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)① [内容] 心身の発達と心の成長の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑩	[テーマ] 体育の授業をつくる② [内容] マット運動(開脚前転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
③	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)② [内容] 環境と健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑪	[テーマ] 体育の授業をつくる③ [内容] マット運動(後転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
④	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)③ [内容] 傷害の防止の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑫	[テーマ] 体育の授業をつくる④ [内容] マット運動(伸膝後転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑤	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)④ [内容] 健康な生活と病気の予防の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑬	[テーマ] 体育の授業をつくる⑤ [内容] マット運動(倒立)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑥	[テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)① [内容] 現代生活と健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑭	[テーマ] 体育の授業をつくる⑥ [内容] マット運動(測方倒立回転飛び)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑦	[テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)② [内容] 生涯を通じる健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑮	[テーマ] 体育の授業をつくる⑦ [内容] マット運動(前方倒立回転飛び)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑧	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校・高等学校) [内容] 全体をまとめる [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習]場合によっては指導案の提出やレポートに替える場合もある。

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合100%)。場合によっては模擬授業に替える場合もある。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。詳細はオリエンテーション時に説明するので、欠席しないこと。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	100
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
・授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ(2年)，保健体育科教育論Ⅱ(3年),保健体育科教育論Ⅳ(3年),保健体育授業研究Ⅰ(3年),保健体育科授業研究Ⅱ(3年)		
教科書	特に指定しない	参考書	中学,高校版・「授業書」方式による保健の授業(大修館書店)
連絡先	A棟3階306　　オフィスアワー:月曜日　16:00～17:00予定		

授業科目名	教育方法論 Educational Methodology(L.)				担当教員	荒井龍弥
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教育場面を改善するためには、教える側および学習者側双方のさまざまな要素を考慮に入れなくてはならない。本講では、よりよい教育場面を創造するために必要な知識・技能という観点から、学習が効果的に成立するための諸条件の操作を中心にこれまでの知見を紹介する。

授業の一般目標

学習を支援するという立場から、特定の目標を実現するための計画を案出できる。また計画を実施した際の学習者の反応や支援側の応答など、教育場面の展開を明示的に予想できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	授業のよしあしや展開を左右する諸条件を指摘し、その改善策を工夫し実施しようとすることができる。
■	情意的領域	学習を支援する側の論理や考え方を理解するとともに関心を持ち、自らもその視座に立ち考えることができる。
■	技能表現的領域	発問、説明、指示といった指導言を工夫することができる。また、その変化による生徒の反応の違いを予想することができる。

授業計画(全体)

授業を実施する側として検討すべきことに焦点を絞り、説明、演習を行う。また、実践例からどのような情報が得られるのか、さらにそれらが教育研究上どのような問題として取りあげられていくのかについても説明を加える。これらをもとに指導者の立場から指導スタイルの確立や改善向上を目指すべく援助していく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 教育実習生の実践例～授業を支える技術の側面 [内容] 授業を左右する諸要因について、実習例をもとに解説し、その重要性を知る。 [授業外学習]自分だったら同じ場面でどう動くか考えてみること。	⑨	[テーマ] 教材、学習者の反応の型分け② [内容] 多くの教科でも理解や技能のパターンがあることを紹介し、そのパターンに基づいて教育評価がなされていることを示す。 [授業外学習]身近な教材で、改めて自らの理解を検討すること。
②	[テーマ] 教師としての発言～マイクロティーチングの記録を作成してみる [内容] 教師の一挙一動が生徒の理解や授業全体を左右することについて体験的に検討する。 [授業外学習] より有効な発言について検討すること	⑩	[テーマ] 学習者の反応とアクティブ・ラーニング [内容] 学習者の反応を無視した一方的知識技能伝達による教授法の否定として提唱されているアクティブラーニングの諸事例を紹介する。 [授業外学習]身近な教材でアクティブ・ラーニングを促す発問を考えること
③	[テーマ]指導言① 発問 [内容] 発問の重要性について検討し、その違いにより生じる授業の流れの違いを考える。 [授業外学習] 発問をさらに変化させ、その経過を考えてみること。	⑪	[テーマ] 教授ストラテジー① [内容] 各種教材のもとで計画される発問系列の作成方針を教授ストラテジーと呼ぶ。各種のストラテジーを紹介する。 [授業外学習]気に入ったストラテジーを用いた発問系列を考えてみること。
④	[テーマ] 指導言② 発問作成練習 [内容] 特定の単元をとりあげ、自分だったらどんな発問を行うか考えてみる。また、どんな発問がよいかを受講者間で検討する。 [授業外学習]自分が作成した発問案をさらに修正してみること。	⑫	[テーマ] 教授ストラテジー② ル・バー修正のためのストラテジー [内容] ル・バー修正のための方略(ストラテジー)について説明するとともに、具体例から効果や限界を検討する。 [授業外学習]各種ル・バーで系列を考えてみること。
⑤	[テーマ]指導言③ 説明 [内容] 説明の種類とその学習効果、抽象度操作のためのキーワードなどについて紹介する。また特定の単元で説明を試みる。 [授業外学習]身近な例で抽象度操作をしてみること。	⑬	[テーマ] 指導言④ 指示 ／板書の方法 [内容] 指示の種類とその得失、発声、非言語的部分について説明する。また、板書の際の留意点についても検討する。 [授業外学習]空き教室などを使い、板書の練習をしてみること。
⑥	[テーマ] 教材分析方法とその練習 [内容] 説明や発問検討のための枠組みとして、ルレッグシステムについて説明をする。さらに教科書の記述を分析してみる。 [授業外学習]他の単元、テキスト等でも分析してみること。	⑭	[テーマ] 各種メディア、情報機器の活用① [内容] 教育場面で用いられる各種メディアとその位置づけを紹介し、映像教材作成上の留意点を中心に情報機器の活用について述べる。 [授業外学習]自分なりにメディア利用について検討すること。
⑦	[テーマ] 学習者理解のために ルレッグシステムの拡張 [内容] 学習者の理解もルレッグシステムで解釈することができることを述べるとともに、ル・バーの紹介をする。 [授業外学習]自分自身の理解はどうなっているか振り返ってみること。	⑮	[テーマ] 各種メディア、情報機器の活用② [内容] 教育場面で有用性が期待されるICT関連のメディアを中心にその有効性と留意点を検討する。 [授業外学習] 任意の教材で自分なりに利用可能性について検討すること。
⑧	[テーマ] 教材、学習者の反応の型分け① [内容] 特定の学習を行うにあたっては理解や技能のパターンがあることを紹介し、それに応じた教材対応を考える必要があることを述べる。 [授業外学習]様々な運動場面等での技能パターンを調べてみること。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、レポート試験、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			40%
授業内レポート	◎	○	△	60%
授業外レポート				対象としない
演習・実技				対象としない
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

マークシート等も利用するので、シャープペンシルないし鉛筆を用意のこと。教員、指導者など、学習援助者側の視座に立つことを求める。このため、講義で示したことがらについて、自分なりの例を探したり、「自分だったらこうする」など、自分の身に引き寄せて考察する作業をしてほしい。

関連科目	教育の心理		
教科書		参考書	宇野編 授業に学び授業を作る教育心理学第二版 中央法規
連絡先	tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	教育相談 School Educational Counseling(L.)				担当教員	志賀野 博・青沼 一民
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(全)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教育相談は生徒指導・学習指導と同様に重要な機能概念である。本授業は学校教育相談学をベースに、その理論と内容・方法・指導体制・心理査定・関係心理学等を体系的に講義する。さらに、「学校教育相談」として取り上げられる、いじめや不登校、虐待、発達障害、非行といった教育現場で直面する問題の現状と課題を文部科学省の問題行動調査に基づいて把握し、どのような支援・対応が望ましいのかについて解説する。

授業の一般目標

学校における教育相談活動の意義や原理、目的、方法、内容、技法、背景となる心理学的基礎、指導体制、児童生徒理解や心理アセスメントを理解する。さらに、学校における不登校・いじめ・非行・虐待・発達障害・中途退学等の様々な教育相談上の現状と課題を把握・理解し、教育相談の基礎的技法を知り、教育現場での活用に繋げられるように考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校教育相談の歴史、意義、原理、目的、内容、方法、技法、関係心理学、指導体制等について理解し、説明できるようにする。また、学校教育相談上の現状と課題を把握・指摘し、より望ましい教育相談のあり方を説明できる。
■	情意的領域	児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活が送れるような教育相談的支援に寄与し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、他の教員と協働しながら学校教育相談活動に参加する意志・意欲を持つことができる。
■	技能表現的領域	実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、さらに様々な教育活動を通しながら教員としての学校教育相談の活用力を身に付けることができるようにする。さらに、教育相談上の諸問題について様々な情報網を駆使し、実践力を高めることができる。

授業計画(全体)

各授業のテーマに沿った講義が中心となる。より深い理解と実践力の向上に向け、授業外学習への自主的取組や教育ボランティア等を勧める。さらに、実践的事例の紹介や視聴覚教材の視聴を通しながら実践場面への応用を工夫する。とりわけ教育臨床への参加は授業内容の実践的力量が高められるよい機会となるので積極的な参加が望まれる。さらに、教育相談の周辺領域に係る科目(学校保健学・臨床心理学・精神保健学・心理学概論・教育心理学)等を並行受講することを勧める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、教員免許取得における位置付け、授業計画、授業の進め方、成績評価の方法、その他留意事項等について説明する [授業外学習]シラバス・教科書を準備してくる	⑨	[テーマ] 教育相談のプロセスと技法、基礎理論と心理療法(2) [内容] 教育相談を支える様々なカウンセリング理論や心理療法等について、視聴覚教材を活用しながらその手法をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、Web等で復習し、学習を深める
②	[テーマ]教育相談の歴史と理念(沿革と発展) [内容] わが国の教育相談の歩み、アメリカにおけるスクールカウンセリングの発展、日本とアメリカのカウンセラー制度について概説する [授業外学習]学習プリントで復習する	⑩	[テーマ] 学校教育相談の課題(1)-① [内容] 「いじめ」の構造・態様・変容などの理解と支援のあり方並びに現状と対策について説明する [授業外学習]学習プリントで復習する
③	[テーマ] 教育相談の意義・目的・役割・機能など(1) [内容] 教育相談の意義、目的、役割、機能等について説明する [授業外学習]教科書・学習プリントをもとに復習する	⑪	[テーマ] 学校教育相談の課題(1)-② [内容] 「いじめ」の理解と支援について、視聴覚教材を活用しながら学級担任としてのいじめ相談の取り組み方をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、新聞、Web等でいじめ問題の記事を読み考察する
④	[テーマ] 学校教育相談と生徒指導、教育相談の特質・方法・形態など(2) [内容] 学校教育相談と生徒指導との関係、教育相談の特質、方法、形態、領域等について解説する [授業外学習]教科書・学習プリントをもとに復習する	⑫	[テーマ] 学校教育相談の課題(2)-① [内容] 「不登校」の構造・態様・変容などの理解と支援のあり方並びに現状と対策について説明する [授業外学習]学習プリントで復習する
⑤	[テーマ] 校内外の教育相談体制と各教師・学級担任の役割、教育相談の基本 [内容] 学校内外における教育相談の体制づくりと学級担任をはじめとする様々な教師による教育相談のあり方と教育相談の基本を解説する [授業外学習]教科書・学習プリントで復習する	⑬	[テーマ] 学校教育相談の課題(2)-② [内容] 「不登校」の理解と支援について、視聴覚教材を活用しながら学級担任としての不登校相談の取り組み方をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、新聞、Web等で不登校問題の記事を読み考察する
⑥	[テーマ] 教育相談と児童生徒理解(心理アセスメント含)の方法 [内容] 効果的な学校教育相談を支える児童生徒理解の意義・方法・技術や心理アセスメントの考え方について解説する [授業外学習]児童生徒理解の方法を図書館学習・学習プリント中心にまとめる	⑭	[テーマ] 学校教育相談の課題(3)-① [内容] 「発達障害」「虐待」「少年非行」「暴力行為」の理解と支援のあり方並びに現状と対策について説明する [授業外学習]学習プリントで復習する
⑦	[テーマ] 教育相談を支える関係心理学の基礎的知見 [内容] 教育相談を支える児童青年期の心理と発達、欲求と行動や葛藤並びに適応(防衛)機制の特徴等について説明する [授業外学習]図書館・関連授業等での復習で心理学的知見をさらに深める	⑮	[テーマ] 学校教育相談の課題(3)-② [内容] 「発達障害」の理解と支援について、視聴覚教材を活用しながら学級担任としての特別支援相談の取組をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、新聞、Web等で発達障害関連の記事を読み考察する
⑧	[テーマ] 教育相談のプロセスと技法、基礎理論と心理療法(1) [内容] 教育相談の進め方や教育相談を深めるカウンセリング理論や心理療法等を概説する [授業外学習]図書館、関連授業、Web等で復習し、学習を深める	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト(ペーパーテスト)を行う [授業外学習]これまでの学習の復習をしっかり行い対策を図る

成績評価方法(方針)

定期の筆記試験の結果(40%)に、出席状況を含む授業内受講態度や授業内レポート・意欲(60%)を加味して評価する。なお、「理由の認められない欠席(自己に責めを帰す理由)」を総授業回数のうち6回以上の者は評価対象外(放棄:定期試験の受験資格が無いものと取り扱う)とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		△	40%
授業内レポート	○	◎	○	授業態度に含む
授業外レポート				実施せず
演習・実技				評価対象外
授業態度	△	◎	△	減点(欠席)あり
出席		◎		60%欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

①教師になろうという強い意欲のある学生の受講が基本②私語、遅刻、飲食、睡眠、携帯操作等の行為は厳禁であり、授業態度の悪い者とし減点もしくは退出扱いとする。また20分以上の遅刻は欠席とする③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席となる④授業は座席指定制とし、初回授業時決定するので必ず出席のこと。初回授業の無断欠席者それ以降の受講は認めないので欠席する場合は事前相談を必ず行う⑤授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る

関連科目	生徒指導論、教育心理学、臨床心理学、精神保健学、その他教職関係科目		
教科書	生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版)	参考書	学習指導要領(含解説)
連絡先	志賀野研究室A311 TEL55-1290(直通) 青沼研究室A313 TEL55-1374(直通)		

授業科目名	生涯学習概論A Introduction to Lifelong Learning A (L.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、生涯学習の理念を確認したうえでわが国における社会教育についての基本的事項を概説する。近代の社会教育の特性と対比させながら、現代の社会教育の基本的性格ならびに社会教育活動を支える施設や職員に関する基本的事項について説明し、さらに生涯学習と社会教育をめぐる諸問題についての説明を行なう。

授業の一般目標

生涯学習と社会教育の関係を理解するとともに、わが国の社会教育の歴史をふまえて生涯学習社会における社会教育に関わる施設、職員の役割について理解する。また、その理解をもとに現代社会における社会教育に関心を持ち、その問題点について主体的に考えることができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	1. 生涯学習、社会教育とは何か、さらに社会教育の歴史についての説明ができる。 2. 生涯学習社会における社会教育の課題を説明できる。
■	情意的領域	生涯学習社会および社会教育について関心と問題意識を持ち主体的に考えることができる。また自ら生涯をみすえての学習をすることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本授業は社会教育主事任用資格取得のための導入的な授業である。下記の関連科目を履修するうえでどうしても理解しておくべき基本的事項を扱うので、その理解という点を重視して授業を行なう（よって、上記の認知的領域に重点を置く）。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 社会教育主事任用資格の概要を説明したのち、本授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する（30分）。	⑨	[テーマ] 生涯学習関連行政の仕組み [内容] 生涯学習振興のための行政の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。
②	[テーマ] 生涯学習とは何か [内容] 生涯学習という概念の意味について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。	⑩	[テーマ] 社会教育行政の役割と組織 [内容] 社会教育行政の果たすべき役割とその組織について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。
③	[テーマ] 社会教育とは何か [内容] 生涯学習社会における社会教育という教育領域の位置づけについて説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。	⑪	[テーマ] 社会教育関係団体と社会教育行政 [内容] 社会教育関係団体の法的位置づけと実態および社会教育行政との関係について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。
④	[テーマ] 近代日本の社会教育（1） [内容] 明治期の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。	⑫	[テーマ] 生涯学習と社会教育施設 [内容] 生涯学習活動を支える社会教育施設についてその概要を説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。
⑤	[テーマ] 近代日本の社会教育（2） [内容] 大正期および昭和戦前・戦中期の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。	⑬	[テーマ] 生涯学習と社会教育職員 [内容] 生涯学習活動を支える社会教育職員についてその概要を説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。
⑥	[テーマ] 戦後日本の社会教育 [内容] 戦後日本の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。	⑭	[テーマ] 社会教育と家庭教育・学校教育 [内容] 社会教育と家庭教育および学校教育という三つの教育領域の関係について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。
⑦	[テーマ] 生涯学習政策の展開 [内容] 1980年代からのわが国の生涯学習政策の展開について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。	⑮	[テーマ] 生涯学習と社会教育をめぐる諸問題 [内容] 生涯学習と社会教育についての近年の課題について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。
⑧	[テーマ] 生涯学習の内容と方法 [内容] わが国で展開される生涯学習活動の内容と方法の具体的な状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく（90分）。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体の十分な復習をしておく（300分）。

成績評価方法（方針）

上記の授業計画の項で述べたように、本授業は生涯学習、社会教育に関する基本的事項の理解という点に重点を置くので、期末試験により認知的領域を中心として成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。試験の答案は講評とともに返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○		100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準では授業外の学修を単位認定の条件としている。成績評価はこのことを前提として行なうので、毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論B（2年）、教育社会学（2年）、社会教育計画A（3年）、社会教育演習A（3年）、社会教育計画B（4年）、社会教育演習B（4年）		
教科書	教材はプリントして配付する。	参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513		

授業科目名	生涯学習概論B Introduction to Lifelong Learning B (L.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

「生涯学習概論A」の内容をふまえて、大きく変動しつつある現代社会に生きる人間の生涯にわたる発達ということと関連づけながら、わが国の社会教育の各領域の直面する課題および関連する理論について概説する。また、各領域の社会教育活動の事例として、わが国の代表的社会教育施設である公民館における諸実践を紹介していく。

授業の一般目標

人間の発達・社会化に関する基本的事項、現代社会の特徴について理解するとともに、社会教育の各領域が直面する課題およびそれに関連する理論を理解する。また、その理解にもとづいて、社会教育の各領域の問題に関心を持ち主体的に考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	人間の発達・社会化と現代社会の特徴の理解をふまえて、社会教育各領域の課題、関連する理論を理解する。
■	情意的領域	社会教育に対する関心の幅を広げ、問題意識を高めるとともに社会教育の各領域の問題について主体的に考えることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、前半終了時と学期末にそこまでの授業内容についてのレポートを課し、授業内容の理解度を確認するとともに社会教育の各領域の問題について主体的に考察してもらう。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。	⑨	[テーマ] ジェンダーと社会教育(1) [内容] ジェンダーの問題に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
②	[テーマ] 家庭教育と社会教育(1) [内容] 家庭教育に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑩	[テーマ] ジェンダーと社会教育(2) [内容] ジェンダーの問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
③	[テーマ] 家庭教育と社会教育(2) [内容] 家庭教育をめぐる近年の問題状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑪	[テーマ] ジェンダーと社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
④	[テーマ] 家庭教育と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑫	[テーマ] 高齢化と社会教育(1) [内容] 高齢化の問題に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑤	[テーマ] 青少年問題と社会教育(1) [内容] 青少年の教育に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑬	[テーマ] 高齢化と社会教育(2) [内容] 高齢化の問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑥	[テーマ] 青少年問題と社会教育(2) [内容] 青少年の教育をめぐる近年の問題状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑭	[テーマ] 高齢化と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑦	[テーマ] 青少年問題と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑮	[テーマ] 現代社会における社会教育 [内容] これまでの単元で扱った内容を総合的に検討し、現代社会における社会教育の課題について考察する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑧	[テーマ] レポート作成(1) [内容] ここまでの授業内容に関してレポートを作成する。 [授業外学習] レポート作成に向けて準備をしておく(120分)。	⑯	[テーマ] レポート作成(2) [内容] 授業内容全般に関してレポートを作成する。 [授業外学習] レポート作成に向けて準備をしておく(180分)。

成績評価方法（方針）

前半終了時と学期末にレポートを課す（評価割合100%）。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。レポートは講評とともに返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	◎		100%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準では授業外の学修を単位認定の条件としている。成績評価はこのことを前提として行なうので、毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)		
教科書	教材はプリントして配付する。	参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513		

授業科目名	社会教育計画A Social Education Planning A(L.)				担当教員	針生　弘 / 郡山　孝幸
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

現代における社会教育計画の基本的なプロセス、並びに各種社会教育施設の基本的性格、運営の実際と課題について概説し、生涯学習体制のもとでの計画のあり方と生涯学習まちづくりの関連について紹介していく。

授業の一般目標

生涯学習のまちづくりとの関連における社会教育計画の作成ができるようになる。また、社会教育主事として各種社会教育施設の特徴を知り、計画作成、事業のあり方について思考する能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会教育計画を作成できる。
■	情意的領域	社会教育主事として住民のニーズをとらえた計画作成に取り組めるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために生涯学習施設等の見学や地域住民との交流を行う。また授業の感想と課題を何回か授業内レポートとして提出させることで、理解度、到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介　授業の目標と進め方　成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。	⑨	[テーマ] 社会教育施設計画(3) [内容] 博物館の役割について説明する。 [授業外学習] 博物館の役割について説明できるようにしておくこと。
②	[テーマ] 生涯学習社会における社会教育の役割 [内容] 生涯学習の概念および社会教育のあり方について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	⑩	[テーマ] 社会教育施設計画(4) [内容] 青少年教育施設の役割について説明する。(特に仙台市の自然の家の役割について学ぶ) [授業外学習] 青少年教育施設の役割について説明できるようにしておくこと。
③	[テーマ] 生涯学習振興と社会教育計画 [内容] 生涯学習振興と社会教育計画の関連について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	⑪	[テーマ] 社会教育施設計画(5) [内容] 青少年教育施設の事業と計画について説明する。(特に宮城県内の自然の家の役割について学ぶ) [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
④	[テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(1) [内容] 市町村の事例(特に柴田町の事例)をもとに説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	⑫	[テーマ] 社会教育施設計画(6) [内容] 女性教育施設の役割について説明する。(特に男女共同参画社会のあり方を仙台市のエルソーラ仙台の事業を例に学ぶ) [授業外学習] 女性教育施設について説明できるようにしておくこと。
⑤	[テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(2) [内容] 宮城県内の生涯学習の事例をもとに説明する。(仙台市及び県内他市町村の事例を紹介) [授業外学習] 授業の復習をし、事例について説明できるようにしておくこと。	⑬	[テーマ] 社会教育施設計画(7) [内容] 社会体育施設の役割について説明する。 [授業外学習] 社会体育施設について説明できるようにしておくこと。
⑥	[テーマ] 生涯学習時代における社会教育計画の作成 [内容] 社会教育計画作成の手順について生涯学習事業の様子を見学することにより学ぶ(移動学習) [授業外学習] 社会教育計画作成の手順について説明できるようにしておくこと。	⑭	[テーマ] 社会教育施設計画(8) [内容] 生涯学習センターの役割について説明する。(仙台市の生涯学習施設を見学しながら学ぶ) [授業外学習] 生涯学習センターについて説明できるようにしておくこと。
⑦	[テーマ] 社会教育施設計画(1) [内容] 公民館の役割について説明する。 [授業外学習] 公民館の役割について説明できるようにしておくこと。	⑮	[テーマ] 生涯学習時代における社会教育施設の役割と計画 [内容] 社会教育施設の現代的役割について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
⑧	[テーマ] 社会教育施設計画(2) [内容] 図書館の役割について説明する。 [授業外学習] 図書館の役割について説明できるようにしておくこと。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。

成績評価方法(方針)

試験は期末試験を1回実施する(評価割合50%)。また、授業内レポート(評価割合35%)と出席点(15%)を課す。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート		◎		35%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席		◎		15%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業中の私語は慎み授業に集中すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。

関連科目	「社会教育計画B」		
教科書	特に指定しない	参考書	社会教育法
連絡先			

授業科目名	社会教育計画B Social Education Planning B(L.)				担当教員	郡山　孝幸/針生　弘
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

「社会教育計画A」の内容を踏まえ、社会教育事業のあり方や、学校教育との連携をもとにした地域づくりについて具体例をもとに紹介する。

授業の一般目標

社会教育事業の企画と実践の仕方を考えることができるようになる。また、学社連携の実際について具体的に思考できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会教育事業の企画と実践について考えることができる。
■	情意的領域	社会教育事業の発展として学社連携を捉えることができるようになる。
■	技能表現的領域	社会教育事業の広報活動の意義を理解できるようになる。

授業計画（全体）

各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために現地見学や地域住民との交流を行う。またこれまで生活をしてきた柴田町の行政や地域の特色を知るために，生涯学習に関する広報紙を作成するなどの活動を通し，主体的な取り組みを促す。理解度，到達度の確認のために授業後の感想と課題を授業内レポートとして提出させることがある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介　授業の目標と進め方　成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。	⑨	[テーマ] 社会教育事業の展開(8) [内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
②	[テーマ] 社会教育事業の展開(1) [内容] 社会教育事業の企画のあり方について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑩	[テーマ] 社会教育事業の展開(9) [内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。(特に高齢者教育について学ぶ) [授業外学習] 「高齢者教育」の実際について考えておくこと。
③	[テーマ] 社会教育事業の展開(2) [内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に行政機関による事業について) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑪	[テーマ] 社会教育事業の展開(10) [内容]社会教育事業の計画を立てる。(仙台市内の生涯学習センターを見学する) [授業外学習] 「生涯学習センター」の実際について考えておくこと。
④	[テーマ] 社会教育事業の展開(3) [内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に民間による事業推進について) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑫	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(1) [内容] 学社連携・融合の事業計画をもとに具体的に説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
⑤	[テーマ] 社会教育事業の展開(4) [内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内生涯学習センター等を見学する) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑬	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(2) [内容] 学校支援地域本部、コミュニティスクールの役割等について具体的に説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
⑥	[テーマ] 社会教育事業の展開(5) [内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内各地域における生涯学習の取り組みを見学する) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。	⑭	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(3) [内容] 宮城県内の学社連携・融合の事業推進について現地で学ぶ(各小学校における学校支援地域本部を見学する) [授業外学習] 「学校支援地域本部」の実際について考えておくこと。
⑦	[テーマ] 社会教育事業の展開(6) [内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙作成のための計画を立案する) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。	⑮	[テーマ] 社会教育主事の役割 [内容] 生涯学習時代における社会教育主事の役割について説明する。 [授業外学習] 社会教育主事の役割について説明できるようにしておくこと。
⑧	[テーマ] 社会教育事業の展開(7) [内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙の編集・印刷を行う) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。

成績評価方法（方針）

試験は期末試験を1回実施する(評価割合40%)。また、授業内レポート(評価割合40%)と出席点(20%)を課す。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			40%
授業内レポート		◎		40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席		◎		20%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業中の私語は慎み授業に集中すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。

関連科目	「社会教育計画A」		
教科書	特に指定しない	参考書	社会教育法
連絡先	郡山研究室、針生研究室		

授業科目名	社会教育演習A Seminar on Social Education A(S.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて次の二つのテーマで演習を行なう。1. わが国の生涯学習、社会教育を考えるうえで比較の対象とすべきいくつかの国をとりあげて、それぞれの国の生涯学習の特質をその社会状況と関連させながら考察する。2. 諸外国との比較の視点を取り入れながら、わが国の生涯学習、社会教育のあり方について考察する。

授業の一般目標

(1)授業でとりあげるいくつかの国の生涯学習の基本的状況について理解する。
(2)上記の国々の生涯学習の基本的状況に関心を持ち、その特質について社会状況と関連させながら主体的に考えることができる。
(3)上記の国々の生涯学習の基本的状況と比較しながら、わが国の生涯学習、社会教育について主体的に考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	授業でとりあげるいくつかの国の生涯学習の基本的状況について説明できる。
■	情意的領域	授業でとりあげるいくつかの国およびわが国の生涯学習や社会教育に関心を持ち、その問題について主体的に考えることができる。
■	技能表現的領域	上記の考察の結果を論理的に発表原稿にまとめ発表することができる。

授業計画(全体)

オリエンテーションのあと、演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。その内容の理解をふまえて教材となる論文を読み、受講生が発表、コメントをするかたちで演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、さらに学期末には試験の代わりとして授業全体のまとめのレポートを提出してもらう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。	⑨	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(1) [内容] 外国人居住者の問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
②	[テーマ] 基本的事項の講義(1) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「ユネスコと生涯教育」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑩	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(2) [内容] 非識字問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
③	[テーマ] 基本的事項の講義(2) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「OECDのリカレント教育」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑪	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(3) [内容] 青少年問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
④	[テーマ] 基本的事項の講義(3) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「ユネスコの学習権宣言」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑫	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(4) [内容] ジェンダーの問題(特に女性の問題)を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑤	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(1) [内容] 発展途上国(アフリカ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑬	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(5) [内容] ジェンダーの問題(特に男性の問題)を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑥	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(2) [内容] 発展途上国(アジア)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑭	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(6) [内容] 高齢者問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑦	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(3) [内容] 先進国(ヨーロッパ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑮	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(7) [内容] 社会教育施設に関する問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑧	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(4) [内容] 先進国(アメリカ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑯	[テーマ] レポート作成 [内容] 授業全体のまとめとして期末のレポートを書く。 [授業外学習] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく(90分)。

成績評価方法(方針)

演習形式で行なう授業においては毎回発表者とコメンテーターを割り当てるが、その発表の内容、コメントの内容(以上評価割合40%)、毎回全員が書く小レポートの内容(評価割合40%)および期末のまとめのレポートの内容(評価割合20%)により評価する。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。発表・コメントについては授業中に講評し、まとめのレポートについては講評とともに返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎	◎	◎	40%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・演習であるので毎回の授業に向けての自主学習がきわめて重要である。毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)		
教科書	教材はプリントして配付する。	参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513		

授業科目名	社会教育演習B Seminar on Social Education B(S.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて次の二つのテーマで演習を行なう。
1.「地域社会と教育」をテーマとする論文の講読をとおして、この問題について具体的に考察する。
2.「学社融合」をテーマとする論文の講読をとおして、この問題について具体的に考察する。

授業の一般目標

(1)「地域社会と教育」に関する基本的事項について説明できる。
(2)「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。
(3)上記の分野に関連する論文の講読をとおして、こうした問題について主体的に考察できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	「地域社会と教育」、「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。
■	情意的領域	上記の分野に関連する論文の講読をとおして、こうした問題について主体的に考察できる。
■	技能表現的領域	上記の考察の結果を論理的に発表原稿にまとめ発表することができる。

授業計画(全体)

演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。その内容の理解をふまえて教材となる論文を読み、受講生が発表、コメントをするかたちで演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、さらに学期末には試験の代わりとして授業全体のまとめのレポートを提出してもらう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。	⑨	[テーマ] 基本的事項の講義(3) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社連携と学社融合」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
②	[テーマ] 基本的事項の講義(1) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会の社会学」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑩	[テーマ] 基本的事項の講義(4) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社融合と社会教育施設」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
③	[テーマ] 基本的事項の講義(2) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会と教育」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑪	[テーマ] 「学社融合」をテーマとする論文講読(1) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
④	[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(1) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑫	[テーマ] 「学社融合」をテーマとする論文講読(2) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑤	[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(2) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑬	[テーマ] 「学社融合」をテーマとする論文講読(3) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑥	[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(3) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑭	[テーマ] 「学社融合」をテーマとする論文講読(4) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑦	[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(4) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑮	[テーマ] 「学社融合」をテーマとする論文講読(5) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑧	[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(5) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑯	[テーマ] レポート作成 [内容] 授業全体のまとめとして期末のレポートを書く。 [授業外学習] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく(90分)。

成績評価方法(方針)

演習形式で行なう授業においては毎回発表者とコメンテーターを割り当てるが、その発表の内容、コメントの内容(以上評価割合40%)、毎回全員が書く小レポートの内容(評価割合40%)および期末のまとめのレポートの内容(評価割合20%)により評価する。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。発表・コメントについては授業中に講評し、まとめのレポートについては講評とともに返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価委対象外
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎	◎	◎	40%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・演習であるので毎回の授業に向けての自主学習がきわめて重要である。毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)		
教科書	教材はプリントして配付する。	参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513		

授業科目名	教育社会学 Sociology of Education (L.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題について教育社会学の理論の紹介を交えながら概説する。また、各領域の教育活動の事例として特に社会教育施設における諸実践を紹介して、現代社会における社会教育の課題について説明する。

授業の一般目標

(1)現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題について理解するとともに、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。
(2)上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題を理解するとともに、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。
■	情意的領域	上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心である。各単元ごとに基本的事項の解説、近年の具体的状況の説明をし、それをふまえて社会教育施設における実践活動について紹介・検討することで社会教育の各領域の問題についての受講生の主体的考察につなげる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。	⑨	[テーマ] 平和・人権問題と教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
②	[テーマ] グローバリゼーションと教育(1) [内容] グローバリゼーションと教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑩	[テーマ] 環境・開発問題と教育(1) [内容] 環境・開発問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
③	[テーマ] グローバリゼーションと教育(2) [内容] グローバリゼーションと教育の関係に関する基本的事項について説明する(承前)。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑪	[テーマ] 環境・開発問題と教育(2) [内容] 環境・開発問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する(承前。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
④	[テーマ] グローバリゼーションと教育(3) [内容] グローバリゼーションと教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑫	[テーマ] 環境・開発問題と教育(3) [内容] 環境・開発問題と教育の関係に関する近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑤	[テーマ] グローバリゼーションと教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑬	[テーマ] 環境・開発問題と教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑥	[テーマ] 平和・人権問題と教育(1) [内容] 平和・人権問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑭	[テーマ] 現代社会における社会教育(1) [内容] ここまで扱った現代社会の諸相と社会教育の関係を総合的に説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑦	[テーマ] 平和・人権問題と教育(2) [内容] 平和・人権問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する(承前)。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑮	[テーマ] 現代社会における社会教育(2) [内容] さまざまな問題を抱える現代社会における社会教育の役割について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑧	[テーマ] 平和・人権問題と教育(3) [内容] 平和・人権問題と教育の関係に関する近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。 [授業外学習] テストに備え授業内容全体の十分な復習をしておく(300分)。

成績評価方法(方針)

学期末に授業内容全体の理解度を確かめるためのテストを実施し、その結果で成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。試験の答案は講評とともに返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準では授業外の学修を単位認定の条件としている。成績評価はこのことを前提として行なうので、毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)		
教科書	教材はプリントして配付する。	参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513		

授業科目名	ボランティア活動実践A Voluntary Activity Practice A				担当教員	高崎　義輝
開講内容	学年・学期	1・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画（全体）

ボランティア活動を実践するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通したボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。

授業計画（各回のテーマ等）

【ボランティア活動の意義と実践】
1，ボランティア活動を実践するための手続きについて
①ボランティア登録（ボランティアセンターに申し込む）
②ボランティア保険への加入
③ボランティア講座の受講
（「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。）

2，ボランティア活動実践
①学内における障害を持つ学生の支援
②地域における高齢者、障害児・者支援
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
④海外への物的支援等への参加

3，活動中、活動後のルールについて

4，単位認定と報告（活動後のまとめとレポート）

＊＊＊注意事項＊＊＊
このボランティア活動実践Aは、第1学年に在籍する学生のみを対象とする。A～Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。

成績評価方法(方針)

この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数（時間）の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	◎	50%
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度				
出席	◎	◎	◎	

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険（￥300/年）の加入、講座の受講は必須事項である。
・対象学年以外の実習登録は認めない。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	高崎研究室		

授業科目名	ボランティア活動実践B Voluntary Activity Practice B				担当教員	高崎 義輝
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画（全体）

ボランティア活動を実践するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通したボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。

授業計画（各回のテーマ等）

【ボランティア活動の意義と実践】
1，ボランティア活動を実践するための手続きについて
①ボランティア登録（ボランティアセンターに申し込む）
②ボランティア保険への加入
③ボランティア講座の受講
（「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。）

2，ボランティア活動実践
①学内における障害を持つ学生の支援
②地域における高齢者、障害児・者支援
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
④海外への物的支援等への参加

3，活動中、活動後のルールについて

4，単位認定と報告（活動後のまとめとレポート）

＊＊＊注意事項＊＊＊
このボランティア活動実践Bは、第2学年に在籍する学生のみを対象とする。A～Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。

成績評価方法（方針）

この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数（時間）の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	◎	50%
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度				
出席	◎	◎	◎	

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険（￥300/年）の加入、講座の受講は必須事項である。
・対象学年以外の実習登録は認めない。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	高崎研究室		

授業科目名	ボランティア活動実践C Voluntary Activity Practice C				担当教員	高崎 義輝
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画（全体）

ボランティア活動を実践するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通したボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。

授業計画（各回のテーマ等）

【ボランティア活動の意義と実践】
1，ボランティア活動を実践するための手続きについて
①ボランティア登録（ボランティアセンターに申し込む）
②ボランティア保険への加入
③ボランティア講座の受講
（「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。）

2，ボランティア活動実践
①学内における障害を持つ学生の支援
②地域における高齢者、障害児・者支援
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
④海外への物的支援等への参加

3，活動中、活動後のルールについて

4，単位認定と報告（活動後のまとめとレポート）

＊＊＊注意事項＊＊＊
このボランティア活動実践Cは、第3学年に在籍する学生のみを対象とする。A～Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。

成績評価方法（方針）

この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数（時間）の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	◎	50%
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度				
出席	◎	◎	◎	

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険（￥300/年）の加入、講座の受講は必須事項である。
・対象学年以外の実習登録は認めない。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	高崎研究室		

授業科目名	ボランティア活動実践D Voluntary Activity Practice D				担当教員	高崎　義輝
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画（全体）

ボランティア活動を実践するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通したボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。

授業計画（各回のテーマ等）

【ボランティア活動の意義と実践】
1，ボランティア活動を実践するための手続きについて
①ボランティア登録（ボランティアセンターに申し込む）
②ボランティア保険への加入
③ボランティア講座の受講
（「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。）

2，ボランティア活動実践
①学内における障害を持つ学生の支援
②地域における高齢者、障害児・者支援
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
④海外への物的支援等への参加

3，活動中、活動後のルールについて

4，単位認定と報告（活動後のまとめとレポート）

＊＊＊注意事項＊＊＊
このボランティア活動実践Dは、第4学年に在籍する学生のみを対象とする。A～Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。

成績評価方法（方針）

この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数（時間）の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	◎	50%
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度				
出席	◎	◎	◎	

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険（￥300/年）の加入、講座の受講は必須事項である。
・対象学年以外の実習登録は認めない。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	高崎研究室		

授業科目名	北米のプロスポーツ事情 Pro Sports in North America				担当教員	マーティ・キーナート/ Marty Kuehnert
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

世界の何処をみわたしても、北米のスポーツカルチャーのような文化は存在しない。スポーツはもはや北米の多くの人々にとっては“病みつき”といっていいほどのものである。スポーツビジネスを勉強する際、北米の事情を知らなければ始まらないのも事実である。さまざまな事が日本のスポーツ産業界にとっても学べる事は多い、と同時に学生はその異常なまでの極端さも考えて欲しい。最新の北米スポーツ事情とスポーツを検証し考える。

授業の一般目標

学生は、北米における主なメジャースポーツの現在の事情を検証し、理解し、そしてその課題点について考える。最大のスポーツビジネス王国である北米においてそのビジネスの仕組み、現状と問題点を学ぶ。期末レポートでは、各自選択したテーマにおいて、自分で調査・研究した内容と共に自分の視点を述べる。

授業の到達目標

■	認知的領域	北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。
■	情意的領域	北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料、視聴覚教材を基に、北米のプロスポーツ業界の歴史、構造、現状、問題点を解説する。期末には、学生各自が選んだ課題のレポートを提出、各自が研究した内容と共に自分の視点を述べる事により、各スポーツの現状と課題点を考え、まとめる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容、目的と進め方、北米のプロ・スポーツの巨大さとその内容の紹介 [授業外学習] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。	⑨	[テーマ] NHL（ナショナルアイスホッケーリーグ）について [内容] 1918年からのプロ・ホッケーリーグとしての歴史、、組織・収益構造等　レポートB:期末レポートアウトライン提出 [授業外学習]
②	[テーマ] MLB（メジャー・リーグ・ベースボール）について　Ⅰ [内容] 1869年からのプロ・ベースボールとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。	⑩	[テーマ] MLS（メジャーリーグ・サッカー）について [内容] 1967年からのプロ・サッカーリーグとしての歴史、変遷,各国の事情 [授業外学習]次回内容のTV放送について、調査してくる事
③	[テーマ] MLB（メジャー・リーグ・ベースボール）について　Ⅱ [内容]現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習]期末レポートの題目次週提出の準備	⑪	[テーマ] TV放映と放映権について [内容] プロスポーツの重要な収入源であるTV放映権の仕組みと内容 [授業外学習]次回内容のスタジアムについて、調査してくる事。
④	[テーマ] マイナーリーグ　プロベースボールについて [内容] MLBの強みは1901年に始まるマイナーリーグの組織構造、実情と役割等レポートA:期末レポート課題題目提出 [授業外学習]期末レポートの題目次週提出の準備	⑫	[テーマ] スタジアムについて [内容] 成功するスポーツフランチャイズの条件としてスタジアムその実例と条件 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑤	[テーマ] NFL（ナショナルアメリカンフットボールリーグ）について　Ⅰ [内容] 1922年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習]	⑬	[テーマ]アマチュアスポーツについて [内容] 北米におけるカレッジスポーツはすでにプロ化している。その現状と問題点。 [授業外学習]次回内容のエージェントについて、調査してくる事
⑥	[テーマ] NFL（ナショナルアメリカンフットボールリーグ）について　Ⅱ [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習]次回内容のNBAについて、調査してくる事。	⑭	[テーマ]エージェント [内容]エージェントの役割と仕組み、北米と日本スポーツの現状と事情 [授業外学習]　レポートC:期末レポート提出　／質疑応答とまとめ
⑦	[テーマ] NBA（ナショナルバスケットボールリーグ）について　Ⅰ [内容] 1947年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習]	⑮	[テーマ]ドラッグ [内容]　プロスポーツ界全体、そしてオリンピックにおけるドラッグの現状、問題点。 [授業外学習]　質疑応答の内容を考えてくる事
⑧	[テーマ] NBA（ナショナルバスケットボールリーグ）について　Ⅱ [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習]期末レポートのアウトラインを、次週提出の準備	⑯	[テーマ]　質疑応答／期末アンケート [内容]　質疑応答、レポートおよび授業についてのディズカッション

成績評価方法（方針）

出席率30%、小テスト授業内レポートで20%、期末レポート50%

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎	◎		50%
授業外レポート	◎	◎		20%
演習・実技				
授業態度	○	○		
出席	○			30%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・講義受講人数は80人に限定。
　それ以上の受講希望者がいた場合は、抽選にて選考。
・16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、
　単位修得不可。
・20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠りお喋り携帯使用厳禁　3回目以上注意者は退室。
・自分でリサーチし自分の視点を述べた期末レポートを重視します。
・期末レポート不提出は、単位修得不可。
・講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。

関連科目			
教科書	教科書は使用しない。その都度プリント配布。	参考書	特になし。授業内で指示
連絡先	mpk@gol.com		

授業科目名	海外短期研修A Brief Seminar Abroad A				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　福祉・リハビリ・異文化交流留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修B・C・D		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	海外短期研修B Brief Seminar Abroad B				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　福祉・リハビリ・異文化交流留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修A・C・D		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	海外短期研修C Brief Seminar Abroad C				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　福祉・リハビリ・異文化交流留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修A・B・D		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	海外短期研修D Brief Seminar Abroad D				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　福祉・リハビリ・異文化交流留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修A・B・C		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

5. 教職に関する科目

授業科目名	教職論A Introduction to Teaching Profession A				担当教員	大内悦夫・青沼一民・井上雅勝・菊地博・末永精悦
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（保体、養教、栄養教諭、特別支援、高校福祉）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教員の意識、教員の役割、職務内容等に関する理解を深め、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適正を考慮し、教職への意欲や一体感を養う。同時に、教職の希望実現に向けた学習計画の立案ができるようにする。

授業の一般目標

次の四つの視点から学ぶ。①教職とはどんなものか、教職に就くための学習など教職に関する基盤になることを理解する。②教員養成、教員免許制度、教員採用、研修制度などについて理解を深める。③教職の服務規程、教育基本法を中心に知識を習得する。④教員としての資質・力量、理想の教師像など実際に教員になった場合に必要な人間のあり方について学習し、自分の教員に関する考え方を豊かにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解する。
■	情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学習に意欲的に取り組む。
■	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。

授業計画（全体）

教員免許状取得のための教育課程についての学習、教職に就くために基盤となる教職の全体像や学習計画の立て方などについての学習、教職にかかる様々な制度などの関する学習、関係法規に関する学習、教員としての資質・力量などについて、それぞれの担当者が、教科書と配布資料（プリント）等で講義する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 教員の身分と関係法規 [内容] 教員の身分の法的位置づけ [授業外学習]授業の復習	⑨	[テーマ] 教員の採用と研修 [内容]優れた人材確保と教員研修。 [授業外学習]授業の復習
②	[テーマ]学習指導要領と教員 [内容] 学習指導要領とその変遷。学習指導要領と法的拘束力。 [授業外学習]授業の復習	⑩	[テーマ] 教科指導と教員 [内容] 教科指導の意義、指導計画と学習指導案、教材研究と授業、教科指導の評価。 [授業外学習]授業の復習
③	[テーマ] 特別支援教育 [内容]特別支援教育のあり方。通常の学級における特別支援教育のあり方。 [授業外学習]授業の復習	⑪	[テーマ] 教科外指導と教員 [内容]教科外指導の特質、教科外指導の課題、これからの教科外指導。 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 教職と関係法規Ⅰ [内容]日本国憲法と教育基本法、学校教育法。 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 学級経営、校務分掌と教員 [内容] 望ましい学級経営、校務分掌のあり方と教員。 [授業外学習]授業の復習
⑤	[テーマ]教職と関係法規Ⅱ [内容] 学校教育法。 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 教員の服務規程Ⅰ [内容] 教員の服務規定について。 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ]教職と関係法規Ⅲ [内容] 学校教育法施行規則、学校保健安全法。 [授業外学習]授業の復習	⑭	[テーマ]教員の服務規程Ⅱ [内容] 教員の身分保障と分限・懲戒規定。 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ]これからの教員に求められる資質・能力 [内容]望ましい教師像を求めて、いつの時代にも求められる教師像と今後求められる教師像についての概説。 [授業外学習]授業の復習	⑮	[テーマ] 学校における防災教育 [内容] 防災教育のあり方について。 [授業外学習]授業の復習
⑧	[テーマ] 教員養成と教員免許制度 [内容]教員養成制度と教員免許法。本学における履修のあり方。 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ]筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

筆記試験の結果（100%）に授業態度を勘案して評価する。また、授業時数の2/3以上の出席を必要とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	95%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		5%
出席				欠格事項

履修上の注意（受講学生に望むこと）

教師を目指すものとして、常に課題意識を持ち、真摯に受講することを望む。

関連科目	他の教職関連科目		
教科書	「必携教職六法」（協同出版）	参考書	「学習指導要領」
連絡先	・大内研究室 A303 ・青沼研究室 A313 ・井上研究室		

授業科目名	道徳教育論 Theory of Moral Education （L）				担当教員	久能和夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中保体・養護・特別支援・栄養）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

小・中・高等学校の道徳教育を通じ，人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い，自立し，健全な自尊感情を持ち，主体的・自律的に生きる力を育成するために，道徳性を養う。

授業の一般目標

基本的な生活習慣，規範意識，人間関係を築く力，社会参画への意欲や態度，伝統や文化を尊重する態度などを育成するにはどう指導するかを理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	道徳教育に関する歴史的歩みについて学び，現在の学習指導要領について学ぶ。
■	情意的領域	「生きる力」「生命の尊重」について，どう意欲的に取り組むか理解する。
■	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習方法を身に付ける。

授業計画（全体）

授業は，基本的にはプリントを用意し，それを基に講義中心に行うが，多くの機会にレポートを提出，常に道徳教育についての課題意識を持つようにする。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 道徳教育とは何か [内容] 今，求められている規範意識について学び，規範の根拠としての人間尊重の精神について考える [授業外学習]慣習，法律，倫理と道徳の関係についての書籍を読む	⑨	[テーマ]道徳授業と評価 [内容]特別の教科　道徳科（学習指導要領）に示されている「評価」について考える [授業外学習]「特別の教科　道徳」（仮称）に関連する各種報道を調べる
②	[テーマ]戦後の教育改革と道徳教育 [内容]戦後の教育改革で，一番の課題は道徳教育であったことを学ぶ [授業外学習]道徳教育に関わる学習指導要領の変遷について調べる	⑩	[テーマ]道徳授業と体験学習 [内容]体験活動の教育的意義，「道徳の時間」と体験活動のかかわりについて考える [授業外学習]学習指導要領を読む
③	[テーマ] 学習指導要領と道徳的価値 [内容]教育基本法と道徳教育，学習指導要領と道徳的価値の関連について学ぶ [授業外学習]学習指導要領の内容項目について調べる	⑪	[テーマ]個性の尊重 [内容]「個性」に対する日本と欧米の違い（価値観の相違）を分析し，学校教育における「個性」の伸長について考える [授業外学習]学習指導要領における「個性」の取り上げ方の変遷を調べる
④	[テーマ] 道徳授業の現状とその改善方法 [内容]特別の教科「道徳科」をめぐる現状と課題，そして本質的問いとして「徳」は教えられるのかを考える [授業外学習]道徳の授業で大切にしなければならないことについて考える	⑫	[テーマ]道徳授業のアプローチ① [内容]道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学1年の教材を用いて，学習指導案を作成する [授業外学習]
⑤	[テーマ] 道徳教育と家庭・地域社会の協力 [内容] 家庭・地域社会における道徳教育の現状と課題を分析し，学校と家庭・地域社会の連携・協力につて考える [授業外学習]新聞の関連ニュースを読む	⑬	[テーマ]道徳授業のアプローチ② [内容]道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学2年の教材を用いて，学習指導案を作成する [授業外学習]学習指導案の作成
⑥	[テーマ] 道徳授業の充実と教師の生き方 [内容]「道徳教育における教師の役割」について述べている論文を読み，レポートを書く [授業外学習]「教師論」に関係する書籍を読む	⑭	[テーマ]道徳授業のアプローチ③ [内容]道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学3年の教材を用いて，学習指導案を作成する [授業外学習]学習指導案の作成
⑦	[テーマ] 学生の価値意識と「道徳教育の研究」 [内容]道徳性の発達（コールバーグ理論）と相対主義を踏まえ，若者と規範意識について考える [授業外学習]「道徳性の発達」に関する書籍を読む	⑮	[テーマ]国際化社会における愛国心教育と国旗・国歌 [内容]戦後日本の「愛国心」論の類型を知り，教育基本法・学習指導要領における「愛国心」教育の進め方について理解する [授業外学習]関連する書籍を読む
⑧	[テーマ] 高校における道徳教育の位置づけ [内容]学習指導要領において「道徳教育の全体計画」の作成が義務づけられた高等学校における「道徳教育」の進め方について考える [授業外学習]高等学校学習指導要領を読む	⑯	[テーマ]テスト [内容]道徳教育論を学習してのまとめを行う [授業外学習]

成績評価方法（方針）

筆記試験（レポートを含む）の結果に，受講態度（出席状況含む）等を加味して評価する。なお，欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。出席及びレポートを中心に評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート			◎	20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		
出席		○		

履修上の注意（受講学生に望むこと）

講義を中心に進めるが，自分が学習した道徳教育を振り返りながら，教師を目指す者として，常に課題意識を持って学んで欲しい。

関連科目			
教科書	中学校学習指導要領解説「道徳編」。毎時，資料プリント配付	参考書	
連絡先	久能研究室 （A棟3F　307） 0224-55-1165(直通)		

授業科目名	生徒指導論A Theory of student guidance A(L.)				担当教員	志賀野 博／大内悦夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(小、中高保体、高福祉)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

生徒指導は学習指導と並び重要な機能概念である。本授業は、生徒指導学をベースに、生徒指導並びに進路指導(含キャリア教育)について、体系的に講義を行う。また、文部科学省が行う全国の問題行動調査から学校現場における生徒指導上の現状と課題を把握し、適切な対応について説明する。さらに、文部科学省等の関係各省から発出された答申・通知・法令等についても理解を深め実践力・即戦力を目指した講義とする。

授業の一般目標

生徒指導の意義・原理・目的・内容・方法等や自らの生き方・在り方である進路指導の理論・内容・実践等を理解する。また、学校内外における生徒指導体制・教育相談・発達障害等を知る。加えて、学校現場における様々な生徒指導上の現状と課題を理解し、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよい発達と学校生活が有意義で、興味深く、充実したものになる教育活動に繋げられるように考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	生徒指導と進路指導の意義や原理、目的、内容、方法、歴史、理論等について説明できるようにする。また、生徒指導上の現状と課題を把握し、より望ましい生徒指導のあり方を説明できるとともに指摘できる。
■	情意的領域	児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活が送れるような支援に寄与し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、他の教員と協働しながら生徒指導に参加する意志・意欲を持つことができる。
■	技能表現的領域	実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、さらに様々な活動を通しながら教員としての生徒指導の活用力を身に付けることができるようにする。さらに、日頃から生徒指導上の諸問題について様々な情報網を駆使し、実践力を高めることができる。

授業計画(全体)

各授業のテーマに沿った講義が中心となる。より深い理解と実践力の向上に向け、授業外学習への自主的取組や教育ボランティア等を勧める。とりわけ教育臨床への参加は授業内容の実践的力量が高められるよい機会となるので積極的な参加が望まれる。さらに、様々なマスメディアを駆使し国や地方における生徒指導上の教育行政の動向や生徒指導に係る司法判断を把握することは、当事者意識を基盤とする思考・判断・態度とも繋がり、実践力の向上が望まれるよい起点となる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、教員免許状における授業の位置づけ、授業の目標と進め方、シラバス・成績評価等について説明する [授業外学習]教科書で生徒指導の意義等について予習する	⑨	[テーマ]進路指導の歴史と理念及び基礎理論 [内容]進路指導のねらい(定義)と意義、歴史、基礎理論について概説し、生徒指導との関連について解説する [授業外学習]配付資料等に基づきながら復習する
②	[テーマ]生徒指導の意義と原理・方法(1) [内容]生徒指導の意義・目標・原理・方法・内容と生徒指導上の留意点等について、生徒指導提要及び学習指導要領に基づき解説する [授業外学習]教科書で意義・目標・自己指導能力等について復習・予習する	⑩	[テーマ]進路指導の実践的展開とキャリア教育 [内容]キャリア教育の意義と内容を解説し、具体的な進路指導(キャリア教育)の計画・展開、実践例を概説する [授業外学習]配付資料に基づき、進路指導とキャリア教育について復習する
③	[テーマ] 生徒指導の意義と原理・方法(2) [内容]生徒指導における自己指導能力、集団指導と個別指導及び課題解決的・予防的・開発的生徒指導等について概説する [授業外学習]教科書等をもとに復習する	⑪	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(1) [内容] 少年非行等・暴力行為の現状と課題並びに対応、非行少年の処遇について解説する [授業外学習]暴力行為の現状等についてWebを活用し文科省資料等に当たる
④	[テーマ] 児童生徒理解の意義と方法 [内容] 生徒指導と生徒理解の関係、児童生徒理解の方法・対象並びに技術の概要、また、教師の認知評定上の留意事項について解説する [授業外学習]教科書・配布学習プリントをもとに復習する	⑫	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(2) [内容]いじめの現状と課題並びに対応について、また、いじめに関する関係法令・各種通知等について解説する [授業外学習]いじめの現状等について、Webを活用し文科省資料等に当たる
⑤	[テーマ] 特別支援教育・教育相談と生徒指導との関係 [内容] 特別支援教育における発達障害の概要並びに教育相談の概要・方法・対象・形態・傾聴の技術について解説する [授業外学習]図書館を活用し、特別支援教育の理解をさらに深く理解する	⑬	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(3) [内容]不登校問題の歴史、及び昨今の不登校の現状と課題並びに対応について、また、各種通知等について解説する [授業外学習]不登校の現状等にについてWebを活用し文科省資料等に当たる
⑥	[テーマ] 学校における生徒指導体制のあり方 [内容] 学校における生徒指導体制(含、組織・生徒指導主事)の効果的なあり方について解説する [授業外学習]教科書をもとに生徒指導体制について復習する	⑭	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(4) [内容] その他の生徒指導上における課題(虐待・高校中途退学・自殺等)の現状と課題並びに対応と各種通知について解説する [授業外学習]その他の課題についても、Webで文科省資料等に当たる
⑦	[テーマ]学校における生徒指導と危機管理について [内容]学校における生徒指導と危機管理体制の基本的な考え方及びその対応、並びに出席停止について解説する [授業外学習]教科書をもとに危機管理について復習する	⑮	[テーマ]生徒指導に関する法制度等 [内容]懲戒と体罰等について、また、関連法令や各種通知等について解説する [授業外学習]懲戒・体罰・出席停止等もWebを活用し文科省資料等に当たる
⑧	[テーマ]生徒指導と教育課程 [内容]生徒指導と教育課程(教科・道徳教育等)との関連について解説する [授業外学習]教科書をもとに生徒指導と教育課程の関連について予習する	⑯	[テーマ]テスト [内容]授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト(筆答試験)を行う [授業外学習]

成績評価方法(方針)

定期の筆記試験の結果(70%)に、出席状況を含む受講態度や授業レポート(30%)を加味して評価する。なお、「理由の認められない欠席(自己に責めを帰す理由)」をそれぞれの担当教員の授業回数のうち規程回数以上の欠席者(担当:大内2回以上、担当:志賀野4回以上)は、定期試験の受験を認めない(定期試験の受験資格が無いものと取り扱う)。さらに、総欠席数が6回以上のものは評価対象外(放棄)の評定とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		△	70%
授業内レポート	○	◎	○	授業態度に含む
授業外レポート				実施せず
演習・実技				評価対象外
授業態度	△	◎	△	減点(欠席)あり
出席		◎		30%欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

①教師になろうという強い意欲のある学生の受講が基本②私語、遅刻、飲食、睡眠、携帯操作等の行為は厳禁であり、授業態度の悪い者とし減点もしくは退出扱いとする。また20分以上の遅刻は欠席とする③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席となる④授業は座席指定制とし、初回授業時決定するので必ず出席のこと。初回授業の無断欠席者それ以降の受講は認めないので欠席の場合は事前相談を必ず行う⑤授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る

関連科目	教育心理、教育相談、その他教職関連科目等		
教科書	生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版)	参考書	学習指導要領(含解説)・教育小六法
連絡先	志賀野研究室(A311)TEL 55-1290 大内研究室(A303)TEL 55-1327		

授業科目名	特別活動論 Theory of Extracurricular Activities (L.)				担当教員	金井・末永・針生
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(全)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学校における特別活動の制度的枠組みとその内容を踏まえたうえで、実際に、学級活動をデザインし、実践する。

授業の一般目標

①特別活動の目標と内容について理解する。
②特別活動の指導計画を踏まえて、学級活動を計画する方法を身につける。
③学級活動を実践することにより、特別活動の目標と内容に対する理解を体験的に深めるとともに、学級活動において求められる指導力を知る。

授業の到達目標

■	認知的領域	特別活動の意義や原理、目的、内容、方法、歴史、理論等について理解できるようにする。
■	情意的領域	児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活がおくれるような支援について、具体的に考えられるようにする。
■	技能表現的領域	学級活動をデザインし、実施することにより、実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、教師として活用できるようにする。

授業計画(全体)

特別活動の意義、原理、目的、内容、方法、歴史、理論等を最初の4コマで扱い、5コマ目以降は、グループワークによる学級活動のデザインと模擬授業を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、特別活動の内容と目標 [内容] 授業の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を理解する。その後、特別活動の内容と目標を理解する。 [授業外学習] 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』を読んでおく。	⑨	[テーマ] 学級活動の実践 進路指導編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
②	[テーマ] 特別活動の史的変遷 [内容] 日本における特別活動がいかなる史的変遷のもとで展開し、成立してきたのかを理解する。 [授業外学習]日本史を復習する。	⑩	[テーマ] 学級活動の実践 進路指導編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
③	[テーマ] 学級・ホームルーム活動 [内容] 学級・ホームルーム活動の内容と目標、その意義、そしてその指導計画の手順について理解する。 [授業外学習]学習指導要領解説の特別活動編を読む。	⑪	[テーマ] 学級活動の実践 運動会編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
④	[テーマ] 学校行事 [内容] 学校行事の内容と目標、その指導計画の手順について理解する。 [授業外学習]学習指導要領解説の特別活動編を読む。	⑫	[テーマ] 学級活動の実践 運動会編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑤	[テーマ] 学級活動の目標の理解と授業設計 [内容] グループごとに、与えられたテーマにおける学級活動の目標を理解し、それを達成するための授業をデザインする。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	⑬	[テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑥	[テーマ] 学活の教材および学習指導案の作成 [内容] グループごとに、模擬授業において使用する教材および学習指導案を作成する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	⑭	[テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑦	[テーマ] 学級活動の実践 学校生活編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] 本授業の全体を振り返り、総括する。 [授業外学習] 本授業の全体を復習する。
⑧	[テーマ] 学級活動の実践 学校生活編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

(1) 受講態度・グループワーク(40%)、(2) 授業内レポート・小テスト(40%)、(3) 模擬授業(20%)。
なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
私語、睡眠を含む不適切な受講態度は減点対象とし、場合によっては欠席扱いとする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	○	○	40%
授業外レポート				
演習・実技	◎	○	◎	20%
授業態度	○	◎	○	40%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

○講義中の私語、携帯いじり、睡眠等、学習環境を損なう行為については厳格に対処する。
○欠席は最多4回までとし、5回以上の者は評価対象外とする。(欠格条件)
○実習、試合等の正当な理由に基づく欠席のみ、出席代替措置の課題を提出することで出席扱いが可能となる。

関連科目			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』	参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	研究室 A棟3階 304		

授業科目名	教職総合演習 Seminar of Teaching Profession				担当教員	山谷・大内・渡邊・青沼・久能・志賀野・荒井・入澤・金井・井上・針生・郡山・菊地博・末永・江口
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状(全免許)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本演習では、学校教師として身につけることが必要な学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的知識と技能について実践的に養う。なお、後者においては、東日本大震災での教訓を踏まえ、児童生徒が身体の安全をおびやかされるような緊急事態に遭遇した場合でも安全に行動できるようにするために必要な指導のあり方も教授する。

授業の一般目標

学習指導に関しては、学校教師として授業を構想し、準備し実践するために必要な知識・技能を理解し、実践できる。生徒指導(集団行動)に関しては、児童生徒が集団としての行動を秩序正しく、かつ安全で能率的に行うことができるよう指導するために必要な知識・技能を理解し、かつ実践できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な知識について理解する。
■	情意的領域	内容を確実に理解するために授業に積極的に参加し、他の受講者と協力して学習を進めることができる。
■	技能表現的領域	学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な技能を身につけ、実践できる。

授業計画(全体)

(1)演習は20名程度の班ごとに実施する。(2)学習指導に関しては授業の構想(5回)と授業の実践(5回)に分け、授業の構想では教材研究、授業デザイン、学習指導案作成などの要点と技法を概説し、学習指導案を作成する。授業の実践では、作成した学習指導案にもとづき模擬授業を実施する。(3)生徒指導(集団行動)に関しては、集団行動の基本的な行動様式と指導上の留意点について概説し、学生が相互に指導を実践する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 全体オリエンテーション [内容] 担当者の紹介、演習の内容・進め方、評価の方法、班編成 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ]授業の実践(3) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り
②	[テーマ]授業の構想(1)-授業構想のプロセス- [内容] 授業構想のプロセスと各段階での必要事項を理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑩	[テーマ]授業の実践(4) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り
③	[テーマ]授業の構想(2)-教材研究- [内容] 教育内容と教材の違い、教材理解(解釈)と教材づくりについて理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑪	[テーマ]授業の実践(5) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り
④	[テーマ]授業の構想(3)-授業のデザイン- [内容] 授業のデザインとは何か、授業のデザインの必要事項、手順などについて理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 集団行動の指導(1)-集団行動の基本的な行動様式- [内容] 集団行動の基本的な行動様式について理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑤	[テーマ]授業の構想(4)-学習指導案の作成- [内容] 学習指導案とは何か、学習指導案の構成要素、作成手順と留意点について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 集団行動の指導(2)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点1- [内容] 基本的な行動様式(姿勢・方向転換・集合・整頓)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ]授業の構想(5)-学習指導案の作成- [内容] 前回の授業を踏まえ、学習指導案を実際に作成する。 [授業外学習]学習指導案の完成	⑭	[テーマ] 集団行動の指導(3)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点2- [内容] 基本的な行動様式(列の作り方)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ]授業の実践(1) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り	⑮	[テーマ] 集団行動の指導(4)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点3- [内容] 基本的な行動様式(開列、行進、足踏み、礼)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑧	[テーマ]授業の実践(2) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

学習指導および生徒指導(集団行動)の担当者が、受講者の課題への取り組み状況、積極性、課題の達成度について協議し、総合的に成績を評価する。欠席に関してはやむを得ない理由がある場合を除き、原則として認めない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート				実施しない
授業外レポート				実施しない
演習・実技	◎	◎	◎	80%
授業態度	○	○	○	20%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

本演習で取り上げる内容は、学校教師として必ず身につけておかなければならいものであるので、各時間ともに真剣に受講して欲しい。また、受講者の主体的な授業参加が演習の充実度を左右するので、一人ひとりが演習を運営するという自覚をもって望んでもらいたい。

関連科目	既習の教職関連科目		
教科書	学習指導要領、同解説(保健体育)、中高保健体育教科書	参考書	授業時に紹介する
連絡先	代表担当者 山谷(研究室A308)		

授業科目名	教職総合実技 Exercise of teaching profession(P.A.)				担当教員	入澤裕樹　他
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は，将来教職に就くことを強く希望している学生を対象とし，学校体育の現場における体育授業に関わる基本的な技術・技能の習得を目指すものである．開講されている12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】の中から，学生自身に各授業回に受講する種目を選択させ授業を展開していく．

授業の一般目標

保健体育の教員として，授業に関わる各実技種目の基本的な技術・技能を修得する．また，各実技種目において，履修計画の中で選択的に不得手なものを受講していき，その克服していく過程において，運動が苦手な生徒に対する実技指導に必要な要点を学習する．

授業の到達目標

■	認知的領域	各実技種目の要点を理解する．
■	情意的領域	「できる」喜びを身を以て知る．
■	技能表現的領域	体育授業に関わる基本的な技術・技能を身につける．

授業計画（全体）

種目は，体操（含体つくり運動）、陸上，器械運動，水泳（以上A群），バレーボール，バスケットボール，サッカー，ハンドボール，ラグビー（以上B群）柔道，剣道，ダンス（以上C群）とし，A，B群からは2つC群からはそれぞれ1つずつ選択する．その際，選択できる種目は1・2年次の実技種目の単位を修得した種目に限定される．5つの種目をそれぞれ3回ずつ受講し，それぞれの担当教員の受講認定印を所定の出席票に記録していく形で進める．

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員等の紹介．履修計画の作成． ＊3年前期までの成績表を必ず持参すること．	⑨	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
②	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑩	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
③	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑪	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
④	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑫	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
⑤	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑬	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
⑥	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑭	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
⑦	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑮	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
⑧	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑯	[テーマ] まとめ [内容] 授業全体を通じた実技の要点を整理する．

成績評価方法（方針）

成績評価は，履修した各実技種目における到達レベルを総合的に判断する（評価割合80％）と共に，各種目の要点を整理したレポートを提出する（評価割合20％）．授業中における態度は成績評価の減点対象となる．出席は欠格条件とする．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（％）
定期試験	◎			20%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	○	◎	◎	80%
授業態度		◎		減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

本授業の対象者は，4年次に教員採用試験を必ず受験する強い意志を持っている者で，通常1年次あるいは2年次に開講されている各実技種目の単位を，少なくともA,B群からは2つ以上，C群からはそれぞれ1つ以上は修得しており，且つ，3年次開講の教職キャリア演習を履修している者に限る．
保健体育教員の候補者として優れた人材の育成をねらいとしているので，目標が不明確のままでの受講は，他の学生の迷惑となるので厳に慎むこと．
最初のオリエンテーションに欠席した場合、履修できない場合がある．
なお，各種目において受講生の数が著しく偏るようであれば人数調整を行う場合がある．

関連科目	体操（含体つくり運動），陸上，器械運動，水泳，バレーボール，バスケットボール，ハンドボール，サッカー，ラグビー，柔道，剣道，ダンスⅠ，教職キャリア演習Ⅰ，教職キャリア演習Ⅱ		
教科書		参考書	
連絡先	入澤裕樹:A棟302　オフィスアワー　木曜日12:40～14:10		

授業科目名	教職実践演習(教諭) Seminar for Teaching Profession				担当教員	大内・井上・山谷・針生・郡山・渡邉・青沼・志賀野・入澤・荒井・金井・菊地・末永
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

次の4テーマについて演習を行う。①教師としての使命感、責任感、教育的愛情②社会性、対人関係能力③生徒理解、学級経営④教科の指導力。授業は、各テーマに関する簡単な講義ののち、教育実践自己評価シート作成および教育実習の振り返りを行う。その後、高等学校2校を訪問し実際の学校現場の実践を観察する。この参観を元に、自分の教育実習との比較、各学校の対応等を発表する。

授業の一般目標

教職課程の履修を通じてこれまでに学んだ知識技能と教育実習、また、学校現場の実践の観察から得られた教科指導、生徒指導に関する知見を有機的に統合することによって、使命感や教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質能力の最終的な形成を図ると共に、あわせてその確認を行う。

授業の到達目標

■	認知的領域	教職の実践的指導力について理解する。
■	情意的領域	教職に実践的指導力についての理解と指導力形成に向けて、各学校の実践を意欲的に観察する。
■	技能表現的領域	教職の実践的指導力について基礎的・基本的技能を習得する。

授業計画(全体)

(1)演習は20名程度の班毎に実施する。(2)教育実習のレポート作成、その発表を行う。(3)各学校に訪問する場合の観察観点や留意事項を作成する。(4)各学校を訪問し、その実践を観察する。(5)(3)で作成した目標と(4)の観察等を比較し、また、自分の教育実習での経験を踏まえ、レポートの作成、その発表を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の説明 [授業外学習]シラバスを熟読する。	⑨	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。
②	[テーマ]本演習の取り組み [内容] 本演習に対する基本的な取り組みの意識について説明する。訪問校の調査をする。 [授業外学習]自身の教育実習の内容をまとめる。	⑩	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。
③	[テーマ] 教育実践自己評価シートの作成 [内容] 教育実習の振り返り。教育実践自己評価シートを作成し、訪問校における観察の観点や留意事項を作成する。 [授業外学習]自分、班員の教育実習で気づいたことをまとめておく。	⑪	[テーマ] 学校参観の振り返り。 [内容] 学校参観の振り返りをし、レポートを作成する。 [授業外学習]各学校での観察をまとめる。
④	[テーマ] 訪問校の概要と留意点の説明。 [内容] 訪問校の概要の説明並びに各校毎の留意事項の確認をする。 [授業外学習]訪問する学校の概要を事前に調査しておく。	⑫	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。
⑤	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑬	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。
⑥	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑭	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。
⑦	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑮	[テーマ] 良き教師になるための課題の再確認 [内容] 本授業の目標をテーマにしたグループ討議。良い教師になるための今後の課題等を再確認する。 [授業外学習]発表レポートをまとめる。
⑧	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑯	[テーマ] まとめ [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

課題への取り組み状況、各学校の実践を観察する姿勢など、総合的に評価する。欠席は原則として認めない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート	◎		◎	30%
授業外レポート		○		10%
演習・実技	◎	◎	◎	30%
授業態度	○	◎	○	30%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

本演習は、教員を目指す学生が中心となるはずなので、各講義とも真剣に受講すること。特に各高等学校での公開授業の参観をするので、「教師になる」という高い意識を持ち行動すること。

関連科目			
教科書	使用しない	参考書	授業時に紹介する
連絡先	大内研究室 A303		

授業科目名	教職キャリア演習Ⅰ Special Seminar for Teacher Ⅰ				担当教員	山谷幸司、荒井龍弥、金井里弥、菊地博、末永精悦
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状(中高／保健体育)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

授業を実践するために必要な力とは何か。本演習では、授業について多角的に考えることができる力と基礎的な授業実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある学校を訪問し、先生方の授業実践を参観するとともに、学生自身が授業実践を体験する。この体験をとおして授業、あるいは学校や教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。中高保健体育免許希望者限定。

授業の一般目標

学校教師の職務や授業実践に必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、授業実践に必要となる基礎的な知識・技能を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校教師の食目や授業実践に必要な力について理解する。また、授業実践に必要な基礎的な知識を理解する。
■	情意的領域	学校教師としてのものの見方、考え方に関心をもつとともに、学校教師になるための各自の課題を主体的に考えることができる。
■	技能表現的領域	授業実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。

授業計画(全体)

学校での2回の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに第二回目以降の学校訪問時に体験する「生徒への指導実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと。	⑨	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの2時間目) [内容] 学校を訪問し、授業を参観するとともに、中学校の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり
②	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう① [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑩	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション② [内容] 第二回学校におけるスケジュール、留意事項等を理解する。 [授業外学習]
③	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう② [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑪	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践① [授業外学習]体験のふりかえり
④	[テーマ] 学習指導要領・指導法の理解① [内容] 学習指導要領における連携授業単元の規定内容を理解する。 [授業外学習]学習指導要領の該当部分を熟読する。	⑫	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践② [授業外学習]体験のふりかえり
⑤	[テーマ] 学習指導要領・指導法の理解② [内容] 参考資料にもとづき連携授業単元の指導内容や指導方法を調べる。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑬	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの3時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践③ [授業外学習]体験のふりかえり
⑥	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション① [内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの4時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践④ [授業外学習]体験のふりかえり
⑦	[テーマ] 授業の見方 [内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑮	[テーマ] 学校訪問体験のふりかえり [内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。 [授業外学習]体験レポートの作成
⑧	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の中学校を訪問し、授業を参観するとともに、中学校の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除き、原則みとめない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施せず
授業内レポート				実施せず
授業外レポート	○			25%
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度		○		25%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

真に教職に就くことを希望する学生のみに受講してほしい。

関連科目	教職論A・B、教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度		
教科書	小学校・中学校学習指導要領	参考書	中学校体育実技(学研)
連絡先	山谷(A棟308)、荒井(A棟309)、金井(A棟304)、菊地(A棟515)、末永(A棟310)		

授業科目名	教職キャリア演習Ⅱ Special Seminar for Teacher Ⅱ				担当教員	渡邊康男・江口千恵
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状(養護教諭、栄養教諭)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何か。本演習では、養護教諭・栄養教諭の職務について多角的に考えることができる力とその基礎的な実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある小学校を訪問し、先生方の実践を参観するとともに、学生自身が実践を体験する。この体験をとおして教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。養護教諭・栄養教諭免許希望者限定。

授業の一般目標

養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、養護教諭・栄養教諭として必要となる基礎的な知識・技能を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	養護教諭・栄養教諭に必要な力について理解する。また、養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な基礎的な知識を理解する。
■	情意的領域	養護教諭・栄養教諭としてのものの見方、考え方に関心をもつとともに、養護教諭・栄養教諭になるための各自の課題を主体的に考えることができる。
■	技能表現的領域	養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。

授業計画(全体)

小学校での2回の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに第二回目以降の学校訪問時に体験する「職務実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと。	⑨	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり
②	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう① [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑩	[テーマ] 年間保健室経営計画・年間給食指導計画等の理解 [内容] 保健室経営計画、給食指導計画等を通して、連携先の小学校における養護教諭・栄養教諭の職務に係わる学校経営計画を理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり
③	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう② [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑪	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション② [内容] 第二回学校訪問のスケジュール、留意事項等を理解する。 [授業外学習]
④	[テーマ] 養護教諭・栄養教養の職務の理解① [内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑫	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践① [授業外学習]体験のふりかえり
⑤	[テーマ] 養護教諭・栄養教養の職務の理解② [内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑬	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践② [授業外学習]体験のふりかえり
⑥	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション① [内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの3時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践③ [授業外学習]体験のふりかえり
⑦	[テーマ] 授業の見方 [内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する(担当:学外講師)。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑮	[テーマ] 学校訪問体験のふりかえり [内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。 [授業外学習]体験レポートの作成
⑧	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除き、原則みとめない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施せず
授業内レポート				実施せず
授業外レポート	○			25%
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度		○		25%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

真に教職に就くことを希望する学生のみに受講してほしい。

関連科目	教職論A・B、教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度		
教科書	使用しない	参考書	授業時に紹介する
連絡先	渡邊康男(A棟3階)		

授業科目名	保健体育科授業研究Ⅰ Physical Education Ⅰ				担当教員	入澤裕樹・小浜　明
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる

授業の一般目標

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる、といった体験を通して実践的指導力を養う

授業の到達目標

■	認知的領域	保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる

授業計画（全体）

保健・体育の授業を実際に見学したり、ビデオを視聴して、授業分析を行う。この分析をベースとして、保健体育の学習指導のポイント、課題等を取り上げ、議論をおこなったり、実際に授業（模擬授業）をおこなう

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 球技の授業をおこなう（模擬授業） [内容]球技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育授業を分析する－球技 [内容] 球技領域の授業を分析する [授業外学習]	⑩	[テーマ] 器械運動の授業をおこなう（模擬授業） [内容]器械運動領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
③	[テーマ] 体育授業を分析する－器械運動 [内容] 器械運動領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑪	[テーマ] 陸上競技の授業をおこなう（模擬授業） [内容]陸上競技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
④	[テーマ] 体育授業を分析する－陸上競技 [内容] 陸上競技領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑫	[テーマ] 武道領域の授業をおこなう（模擬授業） [内容]武道領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑤	[テーマ] 体育授業を分析する－武道 [内容] 武道領域の授業を分析する [授業外学習]	⑬	[テーマ] 心身の機能の発達と心の健康の授業をおこなう（模擬授業） [内容]心身の機能の発達と心の健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 保健授業を分析する－心身の機能の発達と心の健康 [内容] 心身の機能の発達と心の健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑭	[テーマ] 健康と環境の授業をおこなう（模擬授業） [内容]健康と環境領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 保健授業を分析する－健康と環境 [内容] 健康と環境領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑮	[テーマ] 傷害の防止の授業をおこなう（模擬授業） [内容]傷害の防止領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 保健授業を分析する－傷害の防止 [内容] 傷害の防止領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○			30%
授業外レポート				
演習・実技	◎		◎	70%
授業態度		○		欠格条件
出席		○		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

保健体育教師になることを強く希望する学生のみを受講対象とする

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（免許取得に必要な講義）　保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅱ（選択履修）		
教科書	特に指定しない	参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	A棟3階　302		

授業科目名	保健体育科授業研究Ⅱ Physical Education Ⅱ				担当教員	入澤 裕樹・小浜 明
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる

授業の一般目標

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる、といった体験を通して実践的指導力を養う

授業の到達目標

■	認知的領域	保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる

授業計画（全体）

保健・体育の授業を実際に見学したり、ビデオを視聴して、授業分析を行う。この分析をベースとして、保健体育の学習指導のポイント、課題等を取り上げ、議論をおこなったり、実際に授業（模擬授業）をおこなう

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 体操（体つくり運動）の授業をおこなう（模擬授業） [内容]体操（体つくり運動）領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育授業を分析する－体操（体つくり運動） [内容] 体操（体つくり運動）領域の授業を分析する [授業外学習]	⑩	[テーマ] ダンスの授業をおこなう（模擬授業） [内容]ダンス領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
③	[テーマ] 体育授業を分析する－ダンス [内容] ダンス領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑪	[テーマ] 水泳の授業をおこなう（模擬授業） [内容]水泳領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
④	[テーマ] 体育授業を分析する－水泳 [内容] 水泳領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑫	[テーマ] 健康な生活と疾病の予防の授業をおこなう（模擬授業） [内容]健康な生活と疾病の予防領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑤	[テーマ] 保健授業を分析する－健康な生活と疾病の予防 [内容] 健康な生活と疾病の予防領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑬	[テーマ] 現代社会と健康の授業をおこなう（模擬授業） [内容]現代社会と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 保健授業を分析する－現代社会と健康 [内容] 現代社会と健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑭	[テーマ] 生涯を通じる健康の授業をおこなう（模擬授業） [内容]生涯を通じる健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 保健授業を分析する－生涯を通じる健康 [内容]生涯を通じる健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑮	[テーマ] 社会生活と健康の授業をおこなう（模擬授業） [内容]社会生活と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 保健授業を分析する－社会生活と健康 [内容] 社会生活と健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○			30%
授業外レポート				
演習・実技	◎		◎	70
授業態度		○		欠格条件
出席		○		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

保健体育教師になることを強く希望する学生のみを受講対象とする

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（免許取得に必要な講義） 保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅰ（選択履修）		
教科書	特に指定しない	参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	A棟3階 302		

授業科目名	教育実習Ⅰ Student－Teacher Training Ⅰ (F. E.)				担当教員	山谷・大内・久能・郡山・末永・渡邊・入澤・金井
開講内容	学年・学期	3-4・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(中高保体・高福祉)
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

4年次で実施される教育実習(Ⅲ・Ⅳ)の事前指導(実習現場の理解、授業設計の基礎、教育実習へのこころ構え等)及び事後指導を行う。教育実習に参加する者は、この科目を受講しなければ、実習に参加することはできない。

授業の一般目標

教育実習に参加する基礎的基本的な知識・技能を習得し、併せて教育実習に臨む心構え、態度等を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に必要な基礎的基本的な知識を習得する。
■	情意的領域	教育実習に参加する意欲をもつ。
■	技能表現的領域	教育実習の基礎的基本的技能を習得する。

授業計画(全体)

教育実習の意義、教育実習現場の理解(中学校・高校)、教育実習の心構え、教育実習の方法・流れ、学習指導案の作成等

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(3年) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス理解、成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと。	⑨	[テーマ] 教育実習の反省と総括 [内容]教育実習の反省と総括を行い、必要書類を期日までに提出する。 [授業外学習]
②	[テーマ]教育実習の意義と内容 [内容] 教育実習の意義と内容を理解する。 [授業外学習]授業内容の復習	⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ]実習現場の理解 [内容] 中学校・高校の教育現場の現状を理解する。 [授業外学習]授業内容の復習	⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 授業設計と指導技術の基礎(保健) [内容] 保健指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 授業設計と指導技術の基礎(体育) [内容] 体育指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] オリエンテーション(4年) [内容] 必要書類・教育実習日誌等のの書き方、教育実習巡回指導などについて理解する。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ] 教育実習の心構え(1) [内容] 教育実習の流れ・方法、教育実習をめぐる学校現場の「声」について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 教育実習の心構え(2) [内容] 教育実習に臨むにあたっての心構え、留意事項について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席及び実習報告書を中心に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート				実施しない
授業外レポート		△		15%
演習・実技				実施しない
授業態度	○	○	○	5%
出席	◎	◎	◎	80%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

(1)3年次後期から4年次にわたって開講する。
(2)開講は不定期であるため指示に従って受講すること。

関連科目	3年次までに開講する教職関連科目すべて		
教科書	仙台大学編『教育実習の手引き』、『学習指導要領』	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	教職支援センター B棟2階		

授業科目名	教育実習Ⅲ Student－Teacher Training Ⅲ (F. E.)				担当教員	山谷・他
開講内容	学年・学期	4・集中	授業方法	実習	関連資格	教員免許状(高福祉)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。

授業の一般目標

・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。
・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。

授業の到達目標

■	認知的領域	教師として必要な資質や能力を確認する。
■	情意的領域	教師としての適性を確認するととみに、学校教員になるために必要な自己の課題を確認する。
■	技能表現的領域	教師として必要な基礎的技能を身につける。

授業計画(全体)

高校における実習体験

授業テーマとその内容

高校(福祉)の教員免許状取得希望者を対象に2週間の現場実習を実施する。
実習校においては、①教科の授業、②学級担任の業務、の二つを中心に実習するが、保健体育科の実習の場合は、③部活動の指導も重要である。
教育実習は、基本的に、実習校の計画によって実施されるが、一般的には、「観察」 ⇒ 「参加」 ⇒ 「実習」という流れで進み、実習終了前には公開の「研究授業」がある。
実習期間中は、実習生にとっては「実習」であるが、生徒の側から見れば、一人の教師である。生徒一人ひとりの人格を尊重し、万事、責任を持って対処しなければならない。
同時に、実習校は、実習生のために多大の支障を省みず、御好意で受け入れていただいていることを忘れてはならない。

成績評価方法(方針)

実習校における成績評価を基礎に、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート			○	10%
演習・実技	◎	◎	◎	90%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

高校の保健体育・福祉免許取得希望者を対象とする。

関連科目			
教科書	学習指導要領	参考書	特になし
連絡先	教職支援センター(B棟2階)		

授業科目名	教育実習Ⅳ Student－Teacher Training Ⅳ (F. E.)				担当教員	山谷・他
開講内容	学年・学期	4・集中	授業方法	実習	関連資格	教員免許状(中高保体)
	履修の方法	選択	単位数	4		

授業の概要

学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。

授業の一般目標

・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。
・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。

授業の到達目標

■	認知的領域	教師として必要な資質や能力を確認する。
■	情意的領域	教師としての適性を確認するととみに、学校教員になるために必要な自己の課題を確認する。
■	技能表現的領域	教師として必要な基礎的技能を身につける。

授業計画(全体)

中学・高校における保健体育科の教育実習体験。

授業テーマとその内容

中学、高校において3週間の現場実習を行う。
実習校においては、①教科の授業、②学級担任の業務、の二つを中心に実習するが、保健体育科の実習では、③課外活動(部活動)の指導も重要である。
教育実習は、基本的に、実習校の計画によって実施されるが、一般的には、「観察」 ⇒ 「参加」 ⇒ 「実習」という流れで進み、実習終了前には公開の「研究授業」がある。
実習期間中は、実習生にとっては「実習」だが、生徒の側から見れば、一人の教師である。生徒一人ひとりの人格を尊重し、万事、責任を持って対処しなければならない。同時に、実習校は、実習生のために多大の支障を省みず、御好意で受け入れていただいていることを忘れてはならない。

成績評価方法(方針)

実習校における成績評価を基礎とし、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート			○	10%
演習・実技	◎	◎	◎	90%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

中学、高校の保健体育免許取得希望者を対象とする。

関連科目			
教科書	学習指導要領	参考書	特になし
連絡先	教職支援センター(B棟2階)		

6.　自由科目

授業科目名	データ分析・活用演習Ⅱ Seminar of Data Processing and Analysis Ⅱ				担当教員	藤本　晋也／粟木　一博
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

データの一義的な解釈に留まらず、その潜在的な構造に言及する方法について解説する。推測統計学の基礎および多変量解析手法についても言及する。スポーツに関する様々なデータを素材として、その高度な分析手法について解説する。

授業の一般目標

データの応用的な分析手法について理解する。推測統計学、多変量解析の考え方について理解する。データを分析するためのツールとして、表計算ソフトウェアの高度な使用方法、多変量解析のためのソフトウェアの操作方法を理解する。データを提示するための有効な方法として、グラフや表の作成方法、さらにプレゼンテーションの方法について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	推測統計学の初歩、多変量解析について理解する。
■	情意的領域	与えられた生データを自分なりに考えて処理することができるようになる。
■	技能表現的領域	データ処理のためのコンピュータソフトウェアの操作ができる。処理したデータを用いて効果的なプレゼンテーションができる。

授業計画（全体）

各テーマに沿った実際のデータを用い、それを処理する形式で授業が進められる。各授業ごとにレポートという形式で成果物を提出したり、プレゼンテーションを行なう。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ]　多変量解析の方法2 [内容]　重回帰分析、因子分析の基礎について解説する。さらにそれらを解釈する方法について解説する。 [授業外学習]　相関係数について復習しておく。
②	[テーマ]　表計算ソフトウェアの操作方法 [内容]　データ分析・活用法演習Ⅰで学んだ操作方法について確認する。さらに、高度な応用方法について解説する。 [授業外学習]　データ分析・活用演習Ⅰの復習をしておく。	⑩	[テーマ]　オープンソースインテリジェンス1 [内容] インターネット等、開示されているデータの収集方法、その加工方法について解説する。 [授業外学習]　インターネットのブラウジングを学習しておく。
③	[テーマ]　確率分布 [内容]　二項分布を用いて、推測統計学の基礎となる確率分布の考え方について解説する。 [授業外学習]　確率の基礎について学習しておく。	⑪	[テーマ]　オープンソースインテリジェンス2 [内容] あらかじめ開示されているデータから競技力向上に関するデータを抽出し、それをまとめる手法を解説する。 [授業外学習]ネットブラウジング、データの加工方法について学習しておく。
④	[テーマ]　大数の法則、中心極限定理 [内容]　表計算ソフトウェアの乱数機能を用いて、シミュレーションを行い、大数の法則、中心極限定理について解説する。 [授業外学習]　確率の基礎について学習しておく	⑫	[テーマ]　オープンソースインテリジェンス3 [内容]　あらかじめ開示されているデータから数値として提示されているデータを抽出し、それをまとめる手法を解説する。 [授業外学習]ネットブラウジング、データの加工方法について学習しておく。
⑤	[テーマ]　母集団と標本 [内容]　データのサンプリングに関して解説する。 [授業外学習]　身の回りにある標本調査の例について調べておく。	⑬	[テーマ]　ヒューマンソースインテリジェンス [内容]　インタビューなど人から得た情報を分析する手法について解説する。語彙による分析等についても言及する。 [授業外学習]　インタビュー記事やその方法について説明できるようにする。
⑥	[テーマ]　推測統計学の基礎1 [内容]　t検定を用い、平均値の差の検定について解説する。 [授業外学習]　平均値、標準偏差について復習しておく。	⑭	[テーマ]　レポートの方法1 [内容] これまで学んだ方法を駆使して、データをレポートにまとめる手法について解説する。 [授業外学習]　表やグラフを作成する方法について学習しておく。
⑦	[テーマ]　推測統計学の基礎2 [内容]　分散分析の方法について解説する。 [授業外学習]平均値、標準偏差、分散等記述統計量の算出を復習しておく	⑮	[テーマ]　レポートの方法2 [内容] これまでに学んだ方法を駆使し、「スポーツ科学情報」、「タレント発掘育成情報」などとしてレポートをまとめる方法について解説 [授業外学習]表やグラフ、文書の作成方法について学習しておく。
⑧	[テーマ]　多変量解析の方法1 [内容]　多変量データの取り扱いについて説明し、どのように分析するか、基本事項について解説する。重回帰分析、因子分析の基礎解説 [授業外学習]相関係数について復習しておく。	⑯	[テーマ]　分析レポート作成 [内容] これまでの理解度、授業目標の到達度を確認するために分析レポートを作成する。 [授業外学習]　テストの準備をしておくこと。

成績評価方法（方針）

評価は、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価、1）レポート（50％）、2）最終課題分析レポート（30％）、で行なう。さらに実際に行われた活動に対する評価、3）プレゼンテーション（20％）を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○	○	○	50%
授業外レポート	○	○	○	30%
演習・実技	○	○	○	20%
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない場合は期末試験を欠席したと同様の扱いをする(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席と同等の扱いをする。
・授業計画は授業の進度により若干前後することがある。
・作成したデータが保存できるよう、USB、ポータブルハードディスク等を準備する。
・大学メールアドレス等、連絡可能なメールアドレスを使用できるように準備する。

関連科目	データ分析・活用演習Ⅰ（2年）スポーツ情報戦略論実習Ⅰ（2年）・Ⅱ（3年）		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	藤本研究室F棟2階（内線：358）　mail: sn-fujimoto@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	音楽・器楽演奏 Instrumental music performance				担当教員	荒井　富雄
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本学は体育系大学として、各専門スポーツで培ったチームワークのよさを、音楽実技を通してコミュニケーション能力を高め、他を思いやる心の育成を計る。

授業の一般目標

音楽のもつ多様なコミュニケーション能力を用いて、人間関係を円滑で豊かにする資質を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	音楽の三要素の一つであるリズムは、体育活動においても重要な要素であることを認識できるようになる。
■	情意的領域	音楽活動を通して音楽の一体化を図れるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

1.キーボードを使って各自のレベルに応じた曲を弾く
2.二部合唱練習
3.有名作曲家の物語りを通して作品や時代背景等の学習（ビデオやDVDの鑑賞）

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	⑨	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習
②	[テーマ] 音楽の三要素 [内容] ①音楽の三要素　②これからの合唱における各パート決め	⑩	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習
③	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習	⑪	[テーマ] 合唱発表 [内容] ①合唱発表　②発表結果を互いに比較検討する
④	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習	⑫	[テーマ]　器楽演奏発表 [内容]　器楽演奏発表
⑤	[テーマ] 合唱発表 [内容] ①合唱発表　②発表結果を互いに比較検討する	⑬	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞
⑥	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞	⑭	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞　（鑑賞結果のディスカッション）
⑦	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞　（鑑賞結果のディスカッション）	⑮	[テーマ] まとめ(レポート) [内容] まとめ(レポート)
⑧	[テーマ] 音楽心理学 [内容] ①音楽心理学　②ボディパーカッション(リズムアンサンブル)	⑯	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト

成績評価方法（方針）

試験は期末試験を一回とする。　毎時間の授業態度(興味・関心・意欲・態度)など50点、実技試験30点、レポート20点の配分で総合的に評価する。
出席率が2/3以上充ない者は、原則として評価の対象外とする。（各時間毎に、準備した評価カードに学生の自己評価を記入させる。）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎			20%
演習・実技			◎	30%
授業態度	◎			50%
出席				減点あり

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	なし		
教科書	特に指定しない	参考書	なし
連絡先			

授業科目名	スポーツターフ管理概論　Ⅰ Introduction to Sport Turf Management Ⅰ				担当教員	小島　文雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	芝草管理技術者資格3級,　スポーツターフ管理士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

受講生は80名以内(実習送迎バスの定員)とし、希望者多数の時はオリエンテーション時に行なう小テスト(一般常識と授業に取り組む抱負)の総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理について体系的に講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生化に関して、知識や技術を身につけ授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業や一般企業を目指す学生も同様である。

授業の一般目標

(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を習得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来る様になる。(2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付ける様になる。
(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、商業スポーツターフ施設の「経営理念」、「社是」、「社訓」を考察する事が出来る様になる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べることが出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を習得できる。
■	情意的領域	スポーツターフ施設の経営管理について感心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う心がけが身に付ける様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。
■	技能表現的領域	課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。

授業計画(全体)

授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アメフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度、・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来る様になる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　オリエンテーション。二つの資格について 解説する [内容]　担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する [授業外学習]　シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する	⑨	[テーマ]　芝生に関する療法的知識、学外講師による講義 [内容]　芝生の生理的、心理的効果をストレス緩和や療法的効果に活かす手法について説明する [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
②	[テーマ]　構内芝生における実習その1 [内容]　芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のポットに芝草の種をまき成長を観察する [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑩	[テーマ]　芝生管理機械、芝草学会講師による講義 [内容]　1. 草刈り機の種類と機能、2. 管理機械の種類と機能、3. 今後の管理機械について [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する
③	[テーマ]　芝草入門　Ⅰ、芝草学会講師による講義 [内容]　芝生概説、芝生概論について説明する。芝生の持つ機能について、芝生の一般的な特性について [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑪	[テーマ]　芝生の雑草管理、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 雑草防除の基礎、2. 芝草雑草の特徴、3. 除草剤の作用特性、4. 芝地における雑草 [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
④	[テーマ]　構内芝生における実習その2 [内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑫	[テーマ]　構内芝生における実習その4、 [内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。小テストの実施と解説 [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する
⑤	[テーマ]　芝草入門　Ⅱ、芝草学会講師による講義 [内容]　暖地型芝草の種類と特性、寒地型芝草の種類と特性について [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑬	[テーマ]　商業スポーツターフ施設の経営理念(課題発表会)、第2回小テスト [内容]　課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画)　D(実施)　C(点検)　A(改善)サイクルで改善する [授業外学習]　授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する
⑥	[テーマ]　芝生の一般管理、芝草学会講師による講義 [内容]　1. 芝生の管理とは、2. 芝生の刈り込み、3. 芝生の施肥、4. 芝生の灌水について説明する [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑭	[テーマ]　定期期末試験 [内容]　授業の理解度・到達度を確かめるために期末試験を実施する [授業外学習]　定期期末試験に備えて復習する
⑦	[テーマ]　構内芝生における実習その3 [内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑮	[テーマ]　学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容]　表蔵王国際ゴルフクラブを見学して、芝生の維持管理について説明。各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。 [授業外学習]　芝生管理の機械類にはどの様な物があるか説明出来る様にする。
⑧	[テーマ]　商業スポーツターフ施設の経営理念　その1, 第1回小テスト [内容]　経営理念・社是・社訓はどのように考えられ、実施されているかを説明。企業経営の目的や経営方針書について説明する [授業外学習]　自ら経営する商業施設を仮想し、顧客満足度の高揚を考察する	⑯	[テーマ]　学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容]　土曜日2コマ分の所要時間で20人位づつの参加人数に組み分けして⑮と⑯を連続で実施する。3回実施の中から都合の良い時に参加する。 [授業外学習]　上記と同じ

成績評価方法(方針)

期末試験を1回実施，実技テストおよび授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。なるべくメールで提出する(メール操作は評価に加えない)。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は欠格条件となる。大会や実習で欠席するときは欠席届を提出する(0.4ポイント扱い)。更に自習成果表を提出する(0.4から0.6ポイント扱い)。授業外実習(約60分)は0．7ポイントとして加味する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	◎	◎		20%
授業外レポート	◎	◎	◎	30%
演習・実技		○	◎	減点あり
授業態度		○		減点あり
出席		◎		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・同名Ⅱを先に受講する事が出来る
・60%以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない
・授業中の私語厳禁(対策として指定席制も実施予定)
・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない
・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり
・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。認定校申請準備中
・出席率70%以上の学生を認定研修会の受講と認定試験の受験に推薦する

関連科目	スポーツターフ管理概論Ⅱ(3年)、スポーツ施設管理概論Ⅰ(3年)、スポーツ施設管理概論Ⅱ(3年)　スポーツ施設の経営管理(3年)		
教科書	各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布)	参考書	＊体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方 ＊屋外体育施設の建設指針 ＊ほか
連絡先	事務室:A棟1階営繕管理室内　オフィスアワー:火曜日10:20～11:50、Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579		

授業科目名	スポーツターフ管理概論 Ⅱ Introduction to Sport Turf Management Ⅱ				担当教員	小島 文雄
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	芝草管理技術者資格3級, スポーツターフ管理士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

受講生は80名以内(実習送迎バスの定員)とし、希望者多数の時はオリエンテーション時に行なう小テスト(一般常識と授業に取り組む抱負)の総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理について体系的に講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生化に関して、知識や技術を身につけ授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業や一般企業を目指す学生も同様である。

授業の一般目標

(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を習得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来る様になる。(2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付ける様になる。
(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、スポーツターフ施設の管理の実際を考察する事が出来る様になる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べることが出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を習得できる。
■	情意的領域	スポーツターフ施設の経営管理について感心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う心がけが身に付ける様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。
■	技能表現的領域	課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。

授業計画(全体)

授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アメフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度、・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来る様になる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、二つの資格について 解説する [内容] 担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する [授業外学習] シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する	⑨	[テーマ] 構内芝生における実習その4 [内容] 春季、夏季の除草剤、防虫剤、殺菌剤などの散布や散水を観察したり実習する。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
②	[テーマ] 芝生の土壌・肥料、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 土壌の種類と組成、2. 物理性、3. 化学性、4. 微生物性、5. 芝生の土壌改良,6. 肥料の有効成分、7. 芝地の施肥法 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑩	[テーマ] 構内芝生における実習その5 [内容] 春季における芝生の成長を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する 。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
③	[テーマ] 構内芝生における実習その1,課題の取り組み [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のポットに芝草の種をまき成長を観察する [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑪	[テーマ] 農業気象学、課題提出期限, 第1回小テスト [内容] 1. 農業気象の基礎、2. 主な農業気象災害、3. 異常気象と地球環境 [授業外学習] 常日頃、身の回りに起きている異常気象に関心を持つ様にする
④	[テーマ] 芝生の病害防除、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 植物病理学概論、2. 芝草病害概論、3. 芝草病害防除の基本、4. 今後の問題点 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑫	[テーマ] 農薬概論と関係法令 、学外講師による講義 [内容] 1.農薬の定義、2. 農薬の作用特性、3. 農薬のリスクと安全確保、4. 農薬に関わる法令、5. 農薬取締り法の概説 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する
⑤	[テーマ] 芝生の虫害防除、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 害虫とは、2. 芝草害虫の種類、3. 重要害虫の種類、発生消長及び防除法、4.芝草管理と害虫 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑬	[テーマ] 課題(維持管理機械の操作マニュアル)の発表会, 第2回小テスト [内容] 課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画) D(実施) C(点検) A(改善)サイクルで改善する [授業外学習] 授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する
⑥	[テーマ] 測量理論の解説, 芝生の造成 [内容] 芝生造成地の高低測量学について説明する。利用水準と管理手法について解説し、現場の状況から考察する。 [授業外学習] 利用者の要求と管理者の維持管理水準を比較する様心掛ける	⑭	[テーマ] 定期期末試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末試験を実施する [授業外学習] 試験に備えて復習する
⑦	[テーマ] 構内芝生における実習その2 (芝生に関する工学的知識) [内容] 芝生造成地の高低測量学について説明し、オートレベルを使用して操作方法を学習し、実際に数箇所のポイントの高さを測量する。 [授業外学習] スポーツターフ施設の表面勾配を観察する	⑮	[テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容] ﾕｱﾃｯｸｽﾀｼﾞｱﾑを見学して、芝生の維持管理について説明する。 各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。 [授業外学習] 芝生管理の機械類にはどの様な物があるか説明出来る様にす
⑧	[テーマ] 構内芝生における実習その3、 [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。 春季、夏季の土壌改良(エアレーション)などを実践する。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑯	[テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容] 土曜日2コマ分の所要時間で20人位づつの参加人数に組み分けして⑮と⑯を連続で実施する。2回実施の中から都合の良い時に参加する。 [授業外学習] 上記と同じ

成績評価方法(方針)

期末試験を1回実施する。実技テストまたは授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。なるべくメールで提出する(メール操作は評価に加えない)。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は欠格条件となる。大会や実習で欠席するときは欠席届を提出する(0.4ポイント扱い)。更に自習成果表を提出する(0.4から0.6ポイント扱い)。授業外実習(約60分)は0. 7ポイントとして加味する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	◎	◎		20%
授業外レポート	◎	◎	◎	30%
演習・実技		○	◎	減点あり
授業態度		○		減点あり
出席		◎		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・同名Ⅰを後で受講する事が出来る
・60%以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない
・授業中の私語厳禁(対策として指定席制も実施予定)
・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない
・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり
・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。認定校申請準備中
・出席率70%以上の学生を認定研修会の受講と認定試験の受験に推薦する

関連科目	スポーツターフ管理概論Ⅰ(2年)、スポーツ施設管理概論Ⅰ(3年)、スポーツ施設管理概論Ⅱ(3年)、スポーツ施設の経営管理(3年)		
教科書	各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布)	参考書	*ｶﾗｰﾍﾞﾝﾄｸﾞﾗｽ*芝生の校庭*園芸療法とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ *目で見るゴルフ場の芝草病害*ほか
連絡先	事務室:A棟1階営繕管理室内 オフィスアワー:火曜日10:20～11:50、Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579		